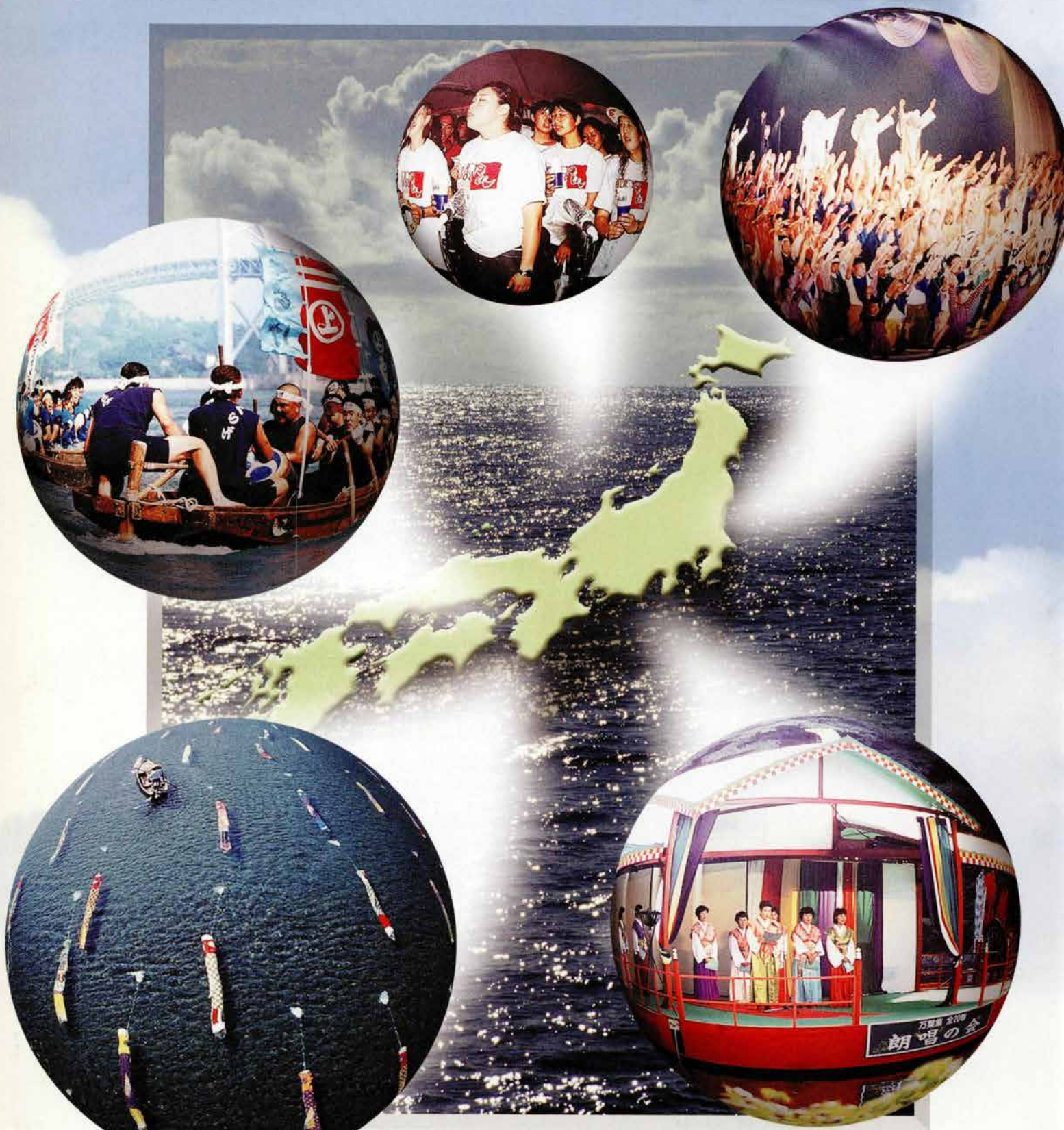
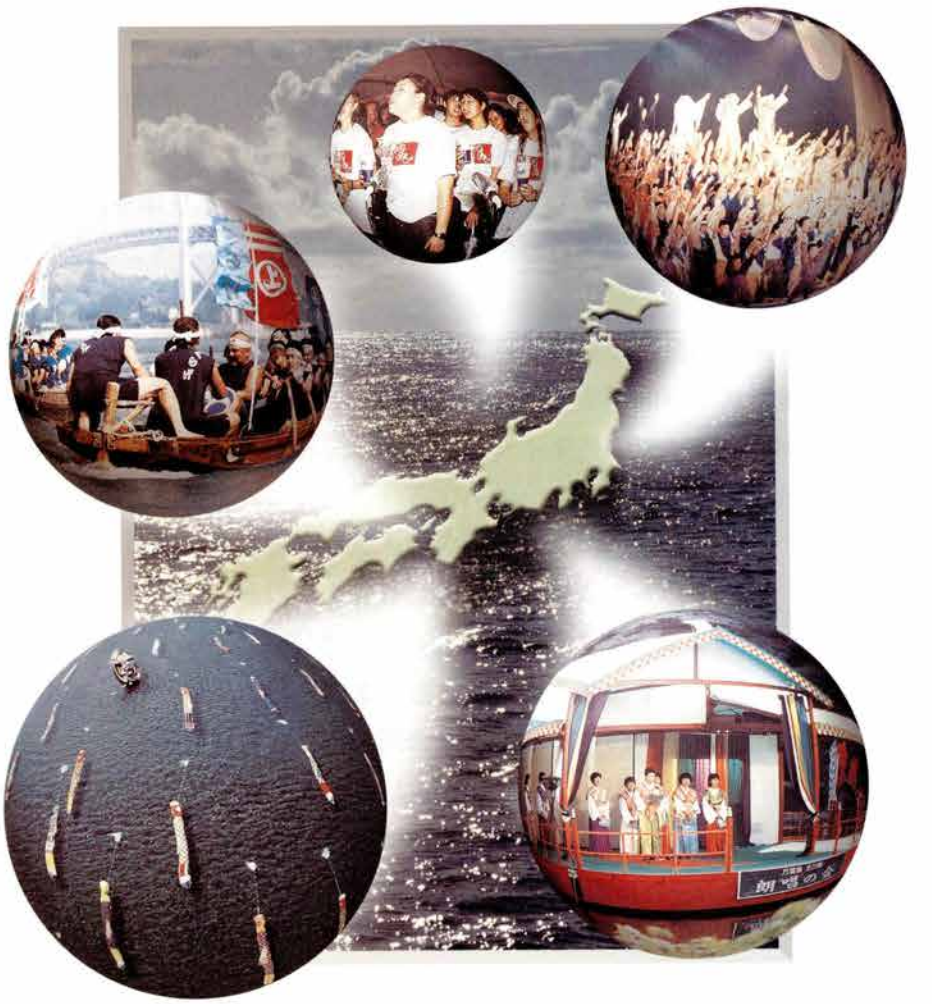
# ふるさとイベント大賞
# 優良イベント事例集




財団法人 地域活性化センター

# ふるさとイベント大賞
# 優良イベント事例集



# はじめに

現在、日本各地で地域の個性を活かしたユニークなイベントが数多く開催され、それぞれの地域の魅力を高め、活力を生み出すことにつながっています。財団法人　地域活性化センターと全国の新聞社は、これらのイベントのうち特に優れたものを表彰し、全国に紹介することによって、地域のイベントがさらに充実したものとなり、個性豊かな地域社会を実現する大きな力となることを目指して、平成８年度より「ふるさとイベント大賞」を実施しております。

「ふるさとイベント大賞」には、全国から数多くのイベントの応募がありましたが、受賞したイベントのみならず、惜しくも選にもれたイベントの中にも、地域の発展に大きく貢献する素晴らしいものが数多くありました。そこで、第１回から第５回までに都道府県及び新聞社より推薦のあった延べ817イベントの中から、特に優れたイベント119の事例を取り上げ、本事例集を作成いたしました。これらの優れた地域イベントを紹介することにより、地域イベントの更なる発展に寄与したいと考えております。

地域イベントを担当する多くの方が、新たなイベントの企画立案やイベントのマンネリ化を解消するための方策に頭を悩まされていると仄聞しております。このような方々が本事例集を活用され、解決のためのヒントを得ていただければ、幸いに存じます。また、掲載されたイベントに携わる方々が、イベントに関わる苦労と成功がこのような形で紹介されることを少しでも励みに感じていただき、次回への力としていただくことができれば、これ以上の喜びはございません。

最後になりましたが、「ふるさとイベント大賞」を支えてくださっている、全国の新聞社の方々、第１回から第５回まで選考委員長を務めていただきました泉眞也先生をはじめとする選考委員の方々、毎回の応募イベントの取りまとめから今回の原稿執筆にいたるまで諸々ご協力いただきました自治体の皆様に厚く御礼を申し上げます。今後も、「ふるさとイベント大賞」の発展と個性あふれる地域社会の発展にお力をお貸しくださるよう、お願い申し上げます。

平成14年３月

財団法人　地域活性化センター
理事長　松　本　英　昭

# ふるさとイベント大賞の５年間

泉　眞也

## １．際立つ特長

「ふるさとイベント大賞」は、数多くある表彰制度の中でも、際立った特長をもった制度である。

表彰制度の良否は、選考制度と選考委員に左右されると思われがちだが、それ以上に大切なのが推薦の仕組みである。

本賞は二つの自立した推薦母体から生まれる。一つが県・市などの地方自治体を母体とするもの。もう一つが全国58（第５回実施時）の新聞社の協同作業による推薦である。

日頃、激烈な商戦を繰り広げている新聞社が、いわゆる全国紙から地方紙の雄まで、北海道から沖縄まで、各紙の協同という仕事は、私の知る限り、この事業が唯一である。

応募書等に記載された、冷静な自治体のコメントもいいものだが、新聞に掲載されたときに見られる、ジャーナリズムで鍛えられた時代感覚と情熱的なコメントには、毎回、心打たれる。

## ２．５年間の旅

表彰されたイベントは、どれも素晴らしい。

ここでは、お許しをいただいて、極めて私的な思い出を含めて語ってみたい。

最も印象に残るのは、第１回の大賞「万葉集全20巻朗唱の会（第７回）」である。

奇想天外、考えた方も凄いが、やり遂げた地域の人びとはもっと凄い。「なんということを」と、委員長という立場を忘れて、思わず口走ったことを憶えている。奇想天外、これこそイベントの本質であろう。「ふるさとイベント大賞」の方向を決定した名作である。

「神戸ルミナリエ（第１回）」も忘れ難い選考だった。鎮魂から再生へというコンセプトも素晴らしい。このイベントのその後の成果が、選定の正しさを物語っている。

第２回の優秀賞「柳川ソーラーボート大会（第２回）」も、水郷柳川と環境問題をつなぐ、ステキなイベントだった。

第３回は、部門賞「とうもろこし３万坪迷路（第11回）」だろう。これは各種のメディアに紹介され、全国版に成長した。

第４回は自治体・新聞社の推薦の流れ、部門の区分等の整理が行われ、本表彰制度が明解になった記念すべき回だと思っている。この第４回の大賞「仁淀川紙のこいのぼり（第５回）」も忘れ難い名作である。その幻想的な風景を支えているのが、地域の人びとによる技術開発、環境問題に対する取り組みなどの真摯な努力にあることに敬意を表する。

部門賞の「ドイチェス・フェストinなると（第６回）」は国際交流の歴史と、古き良き日本人の優しさを感じさせる、しみじみとしたイベントだった。

選考委員特別賞「『鉄炮組百人隊』出陣（第20回）」は、この受賞が一つのきっかけとなって「新宿区無形民俗文化財」に登録された。

## 3．花開いた第５回

この５年間の蓄積が、一挙に花開いたのが第５回である。

この５年間に選ばれた総てのイベントからベスト・イベントを選ぶとすれば、第５回の総てのイベントが、その候補になるのではないかと思う。

大賞の「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ2000（第１回）」は国際性、広域的地域連携のスケールの大きさ、行政の積極的な支援など、注目に値するものだった。

審査員の人気を集めたのが、優秀賞の「第７回ゲタリンピック2000」。地域の名産を生かしたユーモラスなネーミングの面白さにふさわしい多彩な内容。住民、学生、福祉関係者などが一体となったボランティア活動も優れていた。

同じ優秀賞の「長崎ランタンフェスティバル（第７回）」。中国本土におけるランタンフェスティバルの人気を知る私にとっては、特に好ましいものである。

部門賞は、いずれも良かったが、私には、特に２つの選考委員特別賞が印象深いものであった。

「たんのカレーライスマラソン（第15回）」では、あらゆる意味で、地域特性を生かした企画を実行。レース型ではないピクニック型のイベントの良さにあふれていた。

「西暦2000年世界民族芸能祭“ワッショイ！2000”（第１回）」は、国際交流都市「堺」の特長を生かした大スケールのイベントで、世界の70に及ぶ国と地域から3,500名余りの演者が集まったもの。21世紀に最も必要な「国際交流型イベント」の典型である。ユネスコの公認事業として実現した関係者の努力とアイデアが素晴らしい。

## 4．地域相互の学び合い

これまで見てきたように、総ての関係者の努力によって、「ふるさとイベント大賞」は、一つの姿をつくりあげることができたと思う。各種のメディアで紹介されたこともあって、全国の人びとが、異なった地域のさまざまなイベントを知り、興味をもつようになった。

その結果、「地域が相互に学び合う」という賞本来の目的を達成しつつある。こうした本来の目的を達成するためのポイントは、結局のところ「素晴らしいイベントの創造」の一点に集約される。

そのためには三つの要素が必要だ。

一つは地域の文化と歴史を深く考えること。

二つ目は地域の人と心についての、優しく、鋭い眼差し。

三つ目は奇想天外。「えっ！まさかそんなことが！」。実は、これがイベントの本質ではないのか。奇想天外を大切にしよう。

この５年間の成果を見つめていると、データや図表では見えない、生きている日本の姿、形が見えてくる。

地方自治法施行50周年を記念して生まれた本賞は、健やかな若木に育った。公私、官民を問わず、関係された総ての皆様に対して、深い敬意と感謝の念を捧げると同時に、この若木が見事な大木に育つよう、いっそうの御支援をお願いしたい。

# ふるさとイベント大賞
## 優良イベント事例集●目次


はじめに 3
泉眞也氏挨拶 4
優良イベント事例集目次 6
都道府県別目次 8
ふるさとイベント大賞概要 10
応募イベント一覧 15

**受賞イベント事例紹介** 21

**祭り**

青森県　五所川原市
立佞武多の運行 22
東京都　新宿区
「鉄炮組百人隊」出陣 24
富山県　小矢部市
源平火牛祭り 26
石川県　白峰村
雪だるまウィーク 28
静岡県　静岡市
大道芸ワールドカップ イン 静岡 30
広島県　因島市
因島水軍まつり 32
長崎県　長崎市
長崎ランタンフェスティバル 34
鹿児島県　加世田市
吹上浜砂の祭典 36
沖縄県　那覇市
一万人のエイサー踊り隊 38

**スポーツ**

北海道　和寒町
全日本玉入れ選手権 40
北海道　端野町
たんのカレーライスマラソン 42
北海道　壮瞥町
昭和新山国際雪合戦 44
北海道　本別町
とうもろこし3万坪迷路 46
広島県　福山市
ゲタリンピック 48
福岡県　柳川市
柳川ソーラーボート大会 50
佐賀県　佐賀市
佐賀インターナショナルバルーンフェスタ 52

**文化・交流**

宮城県　歌津町
小学生創作ミュージカル発表会 54
群馬県　赤城村
上三原田の歌舞伎舞台公演 56
東京都　青梅市
青梅宿アートFes「招き猫たちの青梅宿」 58
新潟県　十日町市他
大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ 60
富山県　高岡市
万葉集全20巻朗唱の会 62
石川県　小松市
全国子供歌舞伎フェスティバルin小松 64
長野県　栄村
栄むらじゅう絵手紙展（小ちゃなしあわせ絵手紙展） 66
大阪府　堺市
西暦2000年世界民族芸能祭“ワッショイ！2000” 68
兵庫県　神戸市
神戸ルミナリエ 70
兵庫県　佐用町
星の都絵本大賞 72
徳島県　鳴門市
ドイチェス・フェストinなると 74
愛媛県　城川町
全国「かまぼこ板の絵」展覧会 76
高知県　伊野町
仁淀川紙のこいのぼり 78
福岡県　浮羽町
棚田inうきは彼岸花めぐり 80
鹿児島県　東町
あづま造形美術展 82

**産業・観光**

岩手県　大船渡市
大船渡・かがり火まつり 84
大分県　臼杵市
うすき竹宵（たけよひ） 86
宮崎県　南郷村
師走祭り「迎え火」 88

**ミレニアム**

熊本県　南関町
GET21なんかん　音と光のカウントダウン2001 90

**優良イベント事例紹介** 93

**祭り**

北海道　函館市
はこだてクリスマスファンタジー 94
秋田県　大曲市
新作花火コレクション 95
福島県　檜枝岐村
真夏の雪まつり 96
千葉県　佐倉市
佐倉・時代まつり 97
神奈川県　平塚市
湘南ひらつか囲碁まつり 98
富山県　富山市
全日本チンドンコンクール 99
石川県　七尾市
七尾・祭りの國フェスティバル（能登キリコフェスティバル） 100
石川県　川北町
川北まつり（手取の火まつり） 101
石川県　内灘町
世界の凧の祭典 102
福井県　福井市
福井コスモスまつり 103
静岡県　長泉町
長泉わくわく祭り 104
愛知県　西春町
平盆まつり 105
和歌山県　すさみ町
イノブタダービー（イノブータン王国建国祭） 106
徳島県　勝浦町
ビッグひな祭り 107
愛媛県　新居浜市
全国お手玉遊び大会 108
高知県　高知市
よさこい全国大会 109
大分県　緒方町
小松明（こだい）火祭り～真夏の夜の感動物語～ 110
沖縄県　那覇市
那覇大綱挽 111

**スポーツ**

北海道　東藻琴村
ノンキーランドふるさとまつり 114

茨城県　土浦市他
かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会 115
群馬県　安中市、松井田町
安政遠足侍マラソン 116
福井県　美浜町
美浜町民レガッタ 117
長野県　小海町
氷上トライアスロン小海大会 118
滋賀県　愛東町
全日本あいとう4時間耐久三輪車レース 119
和歌山県　新宮市
二県交流綱引き大会 120
島根県　美保関町
エビスカップ全日本海上綱引き選手権大会 121
佐賀県　中原町
全日本うちわ選手権大会 ウインドブルドンin中原 122
佐賀県　七山村
国際渓流滝登りinななやま 123
鹿児島県　瀬戸内町
奄美シーカヤックマラソンIN加計呂麻大会 124
沖縄県　伊平屋村
伊平屋ムーンライトマラソン 125

## 文化・交流

北海道　夕張市
ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 128
青森県　鶴田町
「わいは！どんぱぢ丸出し！！」外国青年による津軽弁大会 129
岩手県　陸前高田市
全国太鼓フェスティバル 130
岩手県　湯田町
平和街道高齢者障害者演劇ネットワーク事業 131
岩手県　藤沢町
藤沢野焼祭 132
宮城県　大河原町
おだづもっこ文化祭・NPOフォーラム　《NPOいずいッ。》 133
山形県　三川町
全国方言大会 134
福島県　いわき市
まぼろしの浜街道「新田坂」をゆく 135
茨城県　取手市
頑固者賞 136
栃木県　岩舟町
岩船山クリフステージ野外コンサート 137
群馬県　草津町
草津夏期国際音楽アカデミー＆フェスティバル 138
埼玉県　川越市
開館！まちかどミュージアム 139
埼玉県　南河原村
お絵かきスリッパ展 140
新潟県　新発田市
ページェント2000「この豊かなる大地の賛歌」Part3 141
新潟県　相川町
金の道佐渡から江戸へ 142
富山県　大門町
越中だいもん凧まつり 143
富山県　井波町
いなみ国際木彫刻キャンプ 144
石川県
第14回JAPAN TENT－世界留学生交流・いしかわ2001－ 145
石川県　輪島市
1999地球環境米・米フォーラムin輪島 146
福井県　大野市
越前大野感性はがき展 147
福井県　大野市
平成大野屋まつり 148
福井県　丸岡町
一筆啓上賞 149
長野県　松本市
ネイチャリングフェスタ「自然と遊ぼうin松本」 150
静岡県　静岡市
ストリートフェスティバル・イン・シズオカ 151
愛知県　平和町
HEIWAの手づくり絵ハガキコンテスト 152
京都府　宇治市
源氏ろまん　宇治大田楽まつり 153
兵庫県　加美町
「孝行まつり」とちょっと照れくさい孝行のメッセージ 154
岡山県　建部町
岡山弁はええもんじゃ～ことばの祭り・建部～ 155
香川県　丸亀市
月見の宴 156
愛媛県　双海町
夕焼けプラットホームコンサート 157
愛媛県　瀬戸町
「結婚宣言」エッセイ全国コンテスト 158
福岡県　吉井町
筑後吉井のおひなさまめぐり 159
長崎県　平戸市
12Xおらんだ 160
熊本県　波野村
神楽フェスティバル 161
大分県　九重町
九重氷の祭典 162

## 産業・観光

北海道　小樽市
小樽雪あかりの路 164
宮城県　三本木町
ひまわりまつり 165
茨城県　関城町
関城の祭典「どすこいペア」 166
群馬県　前橋市
遊びの庭　－楽市・楽座－ 167
山梨県　甲府市
甲府ウィーク 168
岐阜県　多治見市他
美濃焼窯場めぐり 169
岐阜県　上之保村
円空さんに挑戦 170
愛知県　東栄町
日本チェンソーアート競技大会 171
滋賀県　八日市市
二五八祭 172
京都府　舞鶴市
旧軍港四市グルメ市民交流会 173
兵庫県　温泉町
全日本かくれんぼ大会 174
奈良県　奈良市
なら燈花会 175
奈良県　大和郡山市
全国金魚すくい選手権大会 176
佐賀県　嬉野町
うれしのほほん着物園遊会「和」大茶会 177
長崎県　佐世保市
きらきらフェスティバル 178

## ミレニアム

茨城県　ひたちなか市
世界一大きな「でっけ絵年賀状」 180
千葉県　銚子市
世紀越えイベントin銚子 181
徳島県
とくしま夢あかり 182
長崎県
ながさき阿蘭陀年「21世紀へのカウントダウン」 183

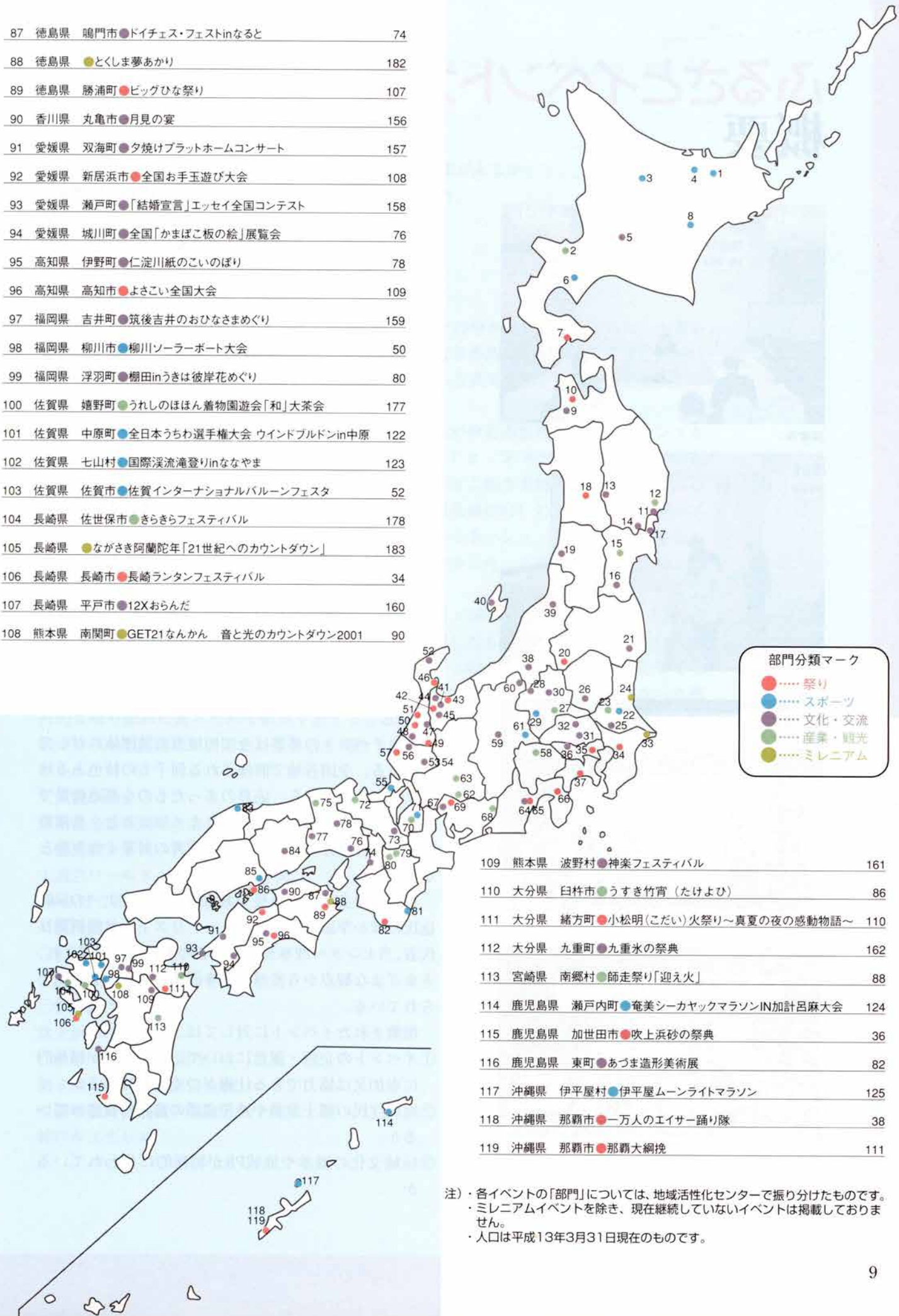
優良イベント事例データ編 185

注）・各イベントの掲載「部門」については、地域活性化センターで振り分けたものです。
・ミレニアムイベントを除き、現在継続していないイベントは掲載しておりません。
・人口は平成13年3月31日現在のものです。

# ふるさとイベント大賞 優良イベント事例集　都道府県別目次


1 北海道 東藻琴村●ノンキーランドふるさとまつり 114
2 北海道 小樽市●小樽雪あかりの路 164
3 北海道 和寒町●全日本玉入れ選手権 40
4 北海道 端野町●たんのカレーライスマラソン 42
5 北海道 夕張市●ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 128
6 北海道 壮瞥町●昭和新山国際雪合戦 44
7 北海道 函館市●はこだてクリスマスファンタジー 94
8 北海道 本別町●とうもろこし3万坪迷路 46
9 青森県 鶴田町●「わいは!どんぱぢ丸出し!!」外国青年による津軽弁大会 129
10 青森県 五所川原市●立佞武多の運行 22
11 岩手県 陸前高田市●全国太鼓フェスティバル 130
12 岩手県 大船渡市●大船渡・かがり火まつり 84
13 岩手県 湯田町●平和街道高齢者障害者演劇ネットワーク事業 131
14 岩手県 藤沢町●藤沢野焼祭 132
15 宮城県 三本木町●ひまわりまつり 165
16 宮城県 大河原町●おだづもっこ文化祭・NPOフォーラム 《NPOいずいッ。》 133
17 宮城県 歌津町●小学生創作ミュージカル発表会 54
18 秋田県 大曲市●新作花火コレクション 95
19 山形県 三川町●全国方言大会 134
20 福島県 檜枝岐村●真夏の雪まつり 96
21 福島県 いわき市●まぼろしの浜街道「新田坂」をゆく 135
22 茨城県 土浦市他●かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会 115
23 茨城県 関城町●関城の祭典「どすこいベア」 166
24 茨城県 ひたちなか市●世界一大きな「でっけ絵年賀状」 180
25 茨城県 取手市●頑固者賞 136
26 栃木県 岩舟町●岩船山クリフステージ野外コンサート 137
27 群馬県 前橋市●遊びの庭 ―楽市・楽座― 167
28 群馬県 草津町●草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル 138
29 群馬県 安中市、松井田町●安政遠足侍マラソン 116
30 群馬県 赤城村●上三原田の歌舞伎舞台公演 56
31 埼玉県 川越市●開館!まちかどミュージアム 139
32 埼玉県 南河原村●お絵かきスリッパ展 140
33 千葉県 銚子市●世紀越えイベントin銚子 181
34 千葉県 佐倉市●佐倉・時代まつり 97
35 東京都 新宿区●「鉄炮組百人隊」出陣 24
36 東京都 青梅市●青梅宿アートFes「招き猫たちの青梅宿」 58
37 神奈川県 平塚市●湘南ひらつか囲碁まつり 98
38 新潟県 十日町市他●大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 60
39 新潟県 新発田市●ベージェント2000「この豊かなる大地の賛歌」Part3 141
40 新潟県 相川町●金の道佐渡から江戸へ 142
41 富山県 大門町●越中だいもん凧まつり 143
42 富山県 小矢部市●源平火牛祭り 26
43 富山県 富山市●全日本チンドンコンクール 99
44 富山県 高岡市●万葉集全20巻朗唱の会 62
45 富山県 井波町●いなみ国際木彫刻キャンプ 144
46 石川県 七尾市●七尾・祭りの國フェスティバル(能登キリコフェスティバル) 100
47 石川県 ●第14回JAPAN TENT―世界留学生交流・いしかわ2001― 145
48 石川県 小松市●全国子供歌舞伎フェスティバルin小松 64
49 石川県 白峰村●雪だるまウィーク 28
50 石川県 川北町●川北まつり(手取の火まつり) 101
51 石川県 内灘町●世界の凧の祭典 102
52 石川県 輪島市●1999地球環境米・米フォーラムin輪島 146
53 福井県 大野市●越前大野感性はがき展 147
54 福井県 大野市●平成大野屋まつり 148
55 福井県 美浜町●美浜町民レガッタ 117
56 福井県 丸岡町●一筆啓上賞 149
57 福井県 福井市●福井コスモスまつり 103
58 山梨県 甲府市●甲府ウィーク 168
59 長野県 松本市●ネイチャリングフェスタ「自然と遊ぼうin松本」 150
60 長野県 栄村●栄むらじゅう絵手紙展(小ちゃなしあわせ絵手紙展) 66
61 長野県 小海町●氷上トライアスロン小海大会 118
62 岐阜県 多治見市他●美濃焼窯場めぐり 169
63 岐阜県 上之保村●円空さんに挑戦 170
64 静岡県 静岡市●ストリートフェスティバル・イン・シズオカ 151
65 静岡県 静岡市●大道芸ワールドカップ イン 静岡 30
66 静岡県 長泉町●長泉わくわく祭り 104
67 愛知県 平和町●HEIWAの手づくり絵ハガキコンテスト 152
68 愛知県 東栄町●日本チェンソーアート競技大会 171
69 愛知県 西春町●平盆まつり 105
70 滋賀県 八日市市●二五八祭 172
71 滋賀県 愛東町●全日本あいとう4時間耐久三輪車レース 119
72 京都府 舞鶴市●旧軍港四市グルメ市民交流会 173
73 京都府 宇治市●源氏ろまん 宇治大田楽まつり 153
74 大阪府 堺市●西暦2000年世界民族芸能祭 “ワッショイ!2000” 68
75 兵庫県 温泉町●全日本かくれんぼ大会 174
76 兵庫県 神戸市●神戸ルミナリエ 70
77 兵庫県 佐用町●星の都絵本大賞 72
78 兵庫県 加美町●「孝行まつり」とちょっと照れくさい孝行のメッセージ 154
79 奈良県 奈良市●なら燈花会 175
80 奈良県 大和郡山市●全国金魚すくい選手権大会 176
81 和歌山県 新宮市●二県交流綱引き大会 120
82 和歌山県 すさみ町●イノブタダービー(イノブータン王国建国祭) 106
83 島根県 美保関町●エビスカップ全日本海上綱引き選手権大会 121
84 岡山県 建部町●岡山弁はええもんじゃ～ことばの祭り・建部～ 155
85 広島県 福山市●ゲタリンピック 48
86 広島県 因島市●因島水軍まつり 32

| | | | |
|---|---|---|---|
| 87 | 徳島県 | 鳴門市●ドイチェス・フェストinなると | 74 |
| 88 | 徳島県 | ●とくしま夢あかり | 182 |
| 89 | 徳島県 | 勝浦町●ビッグひな祭り | 107 |
| 90 | 香川県 | 丸亀市●月見の宴 | 156 |
| 91 | 愛媛県 | 双海町●夕焼けプラットホームコンサート | 157 |
| 92 | 愛媛県 | 新居浜市●全国お手玉遊び大会 | 108 |
| 93 | 愛媛県 | 瀬戸町●「結婚宣言」エッセイ全国コンテスト | 158 |
| 94 | 愛媛県 | 城川町●全国「かまぼこ板の絵」展覧会 | 76 |
| 95 | 高知県 | 伊野町●仁淀川紙のこいのぼり | 78 |
| 96 | 高知県 | 高知市●よさこい全国大会 | 109 |
| 97 | 福岡県 | 吉井町●筑後吉井のおひなさまめぐり | 159 |
| 98 | 福岡県 | 柳川市●柳川ソーラーボート大会 | 50 |
| 99 | 福岡県 | 浮羽町●棚田inうきは彼岸花めぐり | 80 |
| 100 | 佐賀県 | 嬉野町●うれしのほほん着物園遊会「和」大茶会 | 177 |
| 101 | 佐賀県 | 中原町●全日本うちわ選手権大会 ウインドブルドンin中原 | 122 |
| 102 | 佐賀県 | 七山村●国際渓流滝登りinななやま | 123 |
| 103 | 佐賀県 | 佐賀市●佐賀インターナショナルバルーンフェスタ | 52 |
| 104 | 長崎県 | 佐世保市●きらきらフェスティバル | 178 |
| 105 | 長崎県 | ●ながさき阿蘭陀年「21世紀へのカウントダウン」 | 183 |
| 106 | 長崎県 | 長崎市●長崎ランタンフェスティバル | 34 |
| 107 | 長崎県 | 平戸市●12Xおらんだ | 160 |
| 108 | 熊本県 | 南関町●GET21なんかん　音と光のカウントダウン2001 | 90 |



部門分類マーク
- ●…… 祭り
- ●…… スポーツ
- ●…… 文化・交流
- ●…… 産業・観光
- ●…… ミレニアム

| | | | |
|---|---|---|---|
| 109 | 熊本県 | 波野村●神楽フェスティバル | 161 |
| 110 | 大分県 | 臼杵市●うすき竹宵（たけよひ） | 86 |
| 111 | 大分県 | 緒方町●小松明（こだい）火祭り～真夏の夜の感動物語～ | 110 |
| 112 | 大分県 | 九重町●九重氷の祭典 | 162 |
| 113 | 宮崎県 | 南郷村●師走祭り「迎え火」 | 88 |
| 114 | 鹿児島県 | 瀬戸内町●奄美シーカヤックマラソンIN加計呂麻大会 | 124 |
| 115 | 鹿児島県 | 加世田市●吹上浜砂の祭典 | 36 |
| 116 | 鹿児島県 | 東町●あづま造形美術展 | 82 |
| 117 | 沖縄県 | 伊平屋村●伊平屋ムーンライトマラソン | 125 |
| 118 | 沖縄県 | 那覇市●一万人のエイサー踊り隊 | 38 |
| 119 | 沖縄県 | 那覇市●那覇大綱挽 | 111 |

注）・各イベントの「部門」については、地域活性化センターで振り分けたものです。
・ミレニアムイベントを除き、現在継続していないイベントは掲載しておりません。
・人口は平成13年3月31日現在のものです。

# ふるさとイベント大賞
# 概要



選考会



選考会



表彰式



表彰式

財団法人地域活性化センターでは、地方公共団体等が地域活性化のために実施するイベントに対して、情報・ノウハウの提供等必要な支援を行っている。その一環として、地域の活性化に大いに貢献のあったイベントを表彰し、広く公表することにより、地方公共団体や地域づくりに取り組む人びとへの啓発と、地域や地域活動に対する国民の理解と関心を高めることを目的として、平成８年度より「ふるさとイベント大賞」を実施している。

第１回は、平成９年が地方自治法施行50周年にあたることから、その記念事業としての実施となった。また、全国52新聞社（第１回当時）が主催する「ふるさとシンポジウム」との共同開催とし、表彰式を同シンポジウムの第１部として開催することになったが、これは、これら２つの事業がともに個性豊かな活力あふれる地域社会の実現という21世紀の日本にとって重要な課題を取り上げるものであり、これら２つの事業の、より一層の実りある成果が期待できることから共同開催が実現したものである。全国の新聞社との連携は、ふるさとイベント大賞にとって非常に大きな力となっている。

対象イベントの募集は全ての地方公共団体に対して行われる。全国各地で開催される何千もの特色ある地域イベントの中から、応募のあったものを都道府県で審査し、都道府県から推薦されたイベントと、共催新聞社から推薦されたイベントが選考の対象イベントとなる。

選考委員会は、委員長である環境デザイナーの泉眞也氏のほか学識経験者、ジャーナリスト、共催新聞社代表、当センター理事長など６名の委員から構成され、さまざまな観点からイベントを評価できる体制が整えられている。

推薦されたイベントに対しては、

①イベントの企画・運営において、地域住民が積極的に参加又は協力できる仕組がつくられているか

②地域住民の郷土意識や連帯意識の高揚に役立っているか

③伝統文化の継承や地域PRが積極的に行われているか

④地域資源や地域特性を積極的に活用しているか
⑤テーマや運営方法に独創性があるか
⑥今日的な社会問題への取組が見られるか
⑦地域内外を問わず交流や連携が行われているか
⑧地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果があるか
を基本的な考え方として、第５回までの選考が行われた。

## 第1回　ふるさとイベント大賞

平成８年度に実施された第１回は、応募170イベントの中から選考が行われた。大賞を受賞したのは、万葉風の衣装をまとった2,100人を超える参加者が、連続３昼夜、約60時間に渡って、万葉集全20巻・4,516首のすべてをリレー方式で朗唱する、富山県高岡市の「万葉集全20巻朗唱の会」であった。

優秀賞には、海外14カ国21組、国内38組の大道芸人が中心市街地でパフォーマンスを繰り広げ、まちを大道芸一色に染める「大道芸ワールドカップ イン 静岡」（静岡県静岡市）と、かまぼこ板という身近な廃材を活用し、かまぼこ板を素材としたアート作品のコンテストを行う「『かまぼこ板の絵』展覧会」（愛媛県城川町）の２イベントが選定された。また、選考委員特別賞として、約15万個のイルミネーションにより光の構造物を構築し、阪神・淡路大震災からの復興を全国にアピールした、兵庫県神戸市の「神戸ルミナリエ」が選定された。

選考後、選考委員会から、「ふるさとイベント大賞」の第１回目であるということと、当賞に触発・影響されて地域のイベントがさらに充実したものになって欲しいという観点から各賞を決定した。今回表彰できなかったイベントの中にも地域の「顔」としてすでに定着している優れたイベントが数多くあったが、これらの、地域が一体となった継続的な取り組みにあらためて敬意を表するとともに、創意と工夫を発揮した積極的な地域づくりが全国各地で展開されることを期待する、とのコメントが出された。

**＜大賞＞**

| | |
|---|---|
| 万葉集全20巻朗唱の会 | 富山県高岡市 |

**＜優秀賞＞**

| | |
|---|---|
| 大道芸ワールドカップ イン　静岡 | 静岡県静岡市 |
| 「かまぼこ板の絵」展覧会 | 愛媛県城川町 |

**＜部門賞＞**

| | |
|---|---|
| ○展示・博覧会部門 | |
| 全国「小ちゃなしあわせ絵手紙展」 | 長野県栄村 |
| ○祭り部門 | |
| 吹上浜砂の祭典 | 鹿児島県加世田市 |
| ○スポーツ・文化部門 | |
| 第８回昭和新山国際雪合戦 | 北海道壮瞥町 |

**＜選考委員特別賞＞**

| | |
|---|---|
| 神戸ルミナリエ | 兵庫県神戸市 |

## 第2回　ふるさとイベント大賞

平成９年度の第２回では、共催新聞社が53社となり、応募149イベントの中から選考が行われた。大賞を受賞したのは、地域の歴史と先人の苦労を題材にした創作ミュージカルを町内に２校ある小学校の児童453名すべてが出演して上演した、宮城県歌津町の「小学生創作ミュージカル発表会」であった。

優秀賞には、新人作家の登竜門と親子の思い出作りというコンセプトで、全国から675点の応募を集めて開催された絵本のコンテストである「星の都絵本大賞」（兵庫県佐用町）と、地域の資産である「柳川の掘割」を活用し、環境に優しい太陽エネルギーを動力とする「手作りソーラーボート」の全国大会を開催した「柳川ソーラーボート大会」（福岡県柳川市）の２イベントが選定された。

選考委員会から、低年齢化・凶悪化する少年犯罪が増加しているが、学校での教育だけでなく地域社会における教育の力が求められている。そうした中で、地域イベントに真剣に取り組む大人たちの姿が子どもたちの心の教育にもなると思う、とのコメントが出された。

**＜大賞＞**

| | |
|---|---|
| 小学生創作ミュージカル発表会 | 宮城県歌津町 |

**＜優秀賞＞**

| | |
|---|---|
| 星の都絵本大賞 | 兵庫県佐用町 |
| 柳川ソーラーボート大会 | 福岡県柳川市 |

**＜部門賞＞**

| | |
|---|---|
| ○展示・博覧会部門 | |
| あづま造形美術展 | 鹿児島県東町 |
| ○祭り部門 | |
| 祭in大町・北安曇野'97炎 | 長野県大町市 |
| ○スポーツ・文化部門 | |
| 上三原田の歌舞伎舞台公演 | 群馬県赤城村 |

**＜選考委員特別賞＞**

| | |
|---|---|
| 1997佐賀熱気球世界選手権 | 佐賀県佐賀市 |

## 第3回　ふるさとイベント大賞

共催新聞社が55社に増えた平成10年度の第３回では、163イベントの応募があった。大賞を受賞したのは、「感動」「参加」「伝承」をキーワードに、往時の村上水軍に材を採って開催された広島県因島市の「因島水軍まつり」であった。

優秀賞は、地域の文化資産である石組みの棚田と、そのあぜ道に咲く30万本の彼岸花の景観を守ることに取り組む、地域住民と都市住民との交流イベントである「棚田inうきは彼岸花めぐり」（福岡県浮羽町）と、地元有志の手により、高さ22ｍ、重さ16ｔの「立佞武多」を約90年ぶりに中心市街地に復活させた「立佞武多の運行」（青森県五所川原市）の２イベントが選定された。

選考委員会から、日本経済が厳しい状況にあり、予算削減、事業の見直しなど苦労している地域イベント担当者も多いと思うが、そのような中で、地域性に富んだ個性豊かなイベントが数多く実施されていることは実に頼もしい、とのコメントが出された。

**＜大賞＞**

因島水軍まつり　広島県因島市

**＜優秀賞＞**

棚田inうきは彼岸花めぐり　福岡県浮羽町

立佞武多の運行　青森県五所川原市

**＜部門賞＞**

○展示・博覧会部門

青梅宿アートFes.「招き猫たちの青梅宿」　東京都青梅市

○祭り部門

一万人のエイサー踊り隊　沖縄県那覇市

○スポーツ・文化部門

とうもろこし３万坪迷路　北海道本別町

**＜選考委員特別賞＞**

雪だるまウィーク'98　石川県白峰村

## 第4回　ふるさとイベント大賞

共催新聞社が56社となり、全152イベントで競われた。大賞を受賞したのは、地域特産の水に強く破れにくい「不織布（ふしょくふ）」という紙でこいのぼりを作り、これを清流仁淀川に「泳がせる」という逆転の発想をした高知県伊野町の「仁淀川紙のこいのぼり」であった。

優秀賞は、かつての城下町の伝統が育てた工芸文化と現在の先端技術を融合した新しい生活文化を創造していこうという意図で開催された、からくり技術のおもしろさや芸術性、創造性に触れる「からくりデザインフェスティバル'99」（愛知県名古屋市）と、百済王族親子神の対面の儀を行う奇祭「師走祭り」の中で、追討軍を撃退するために野に火を放つという火祭りの行事を、創造性を持たせつつ復活させた「師走祭り『迎え火』」（宮崎県南郷村）の２イベントが選定された。

選考委員会から、費用対効果の大きいイベントは、いずれもボランティアの活躍が目立っているが、今回のイベント大賞を機に各地のグループ相互のネットワーク的展開が生まれ、育つことを期待する、とのコメントが出された。

なお、第４回から部門が「文化・交流」「祭り・スポーツ」「地域経済振興」に変更された。

**＜大賞＞**

仁淀川紙のこいのぼり　高知県伊野町

**＜優秀賞＞**

からくりデザインフェスティバル'99　愛知県名古屋市

師走祭り「迎え火」　宮崎県南郷村

**＜部門賞＞**

○文化・交流部門

ドイチェス・フェストinなると　徳島県鳴門市

○祭り・スポーツ部門

第４回全日本玉入れ選手権　北海道和寒町

○地域経済振興部門
竹光芸まつり　大分県臼杵市
**＜選考委員特別賞＞**
「鉄炮組百人隊」出陣　東京都新宿区

## 第5回　ふるさとイベント大賞

21世紀初のふるさとイベント大賞として、全国58新聞社の共催を得た平成12年度（2000年度）の第５回は、部門賞として［ミレニアム・世紀越え部門］を新設し、計４部門となった。これに伴って応募も増加し、過去最多の183イベントからの選考となった。

大賞を受賞したのは、豪雪地帯でもある越後妻有地域の762㎢に及ぶ広大な山村を舞台に、32カ国142組のトップアーチストが、地域住民とも協働しながら、地域の自然と風景を活かした作品の野外展示を行うアートイベントである、新潟県・十日町地域の6市町村が協働して開催した「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ2000」であった。

優秀賞は、伝統的特産品である「下駄」をテーマに、同じく特産品である「備後畳表」「塩」もうまく競技に取り込みながら、徹底的に下駄にこだわったユーモラスな競技を中心とした「第７回ゲタリンピック2000」（広島県福山市）と、昔から多くの華僑が住み海外交流の拠点として栄えてきたという地域性を活かし、中国の旧正月を祝う春節祭にちなみ、約１万２千個のランタン（中国提灯）を点灯して中国色豊かな各種イベントを実施した「長崎ランタンフェスティバル」（長崎県長崎市）の２イベントが選定された。

選考委員会から、各地で開催されている地域イベント全体のレベルがあがり、差別化を図ることが難しくなっているように思えるが、このような状況を打破するには、１つはあくまでも独創性にこだわること、もう１つは各要素を組み合わせ総合することである、とのコメントが出された。

**＜大賞＞**
大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ2000 新潟県十日町地域広域事務組合
**＜優秀賞＞**
第７回ゲタリンピック2000　広島県福山市
長崎ランタンフェスティバル　長崎県長崎市
**＜部門賞＞**
○文化・交流部門
全国子供歌舞伎フェスティバルin小松　石川県小松市
○祭り・スポーツ部門
源平火牛祭り　富山県小矢部市
○地域経済振興部門
大船渡・かがり火まつり　岩手県大船渡市
**＜ミレニアム・世紀越え部門＞**
GET21なんかん　音と光のカウントダウン2001　熊本県南関町
**＜選考委員特別賞＞**
たんのカレーライスマラソン　北海道端野町
西暦2000年世界民族芸能祭“ワッショイ！2000”　大阪府堺市

# 「第1回 ふるさとイベント大賞」応募イベント一覧

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 北海道 | 夕張市 | ゆうばり国際冒険・ファンタスティック映画祭'96 | 北海道新聞社 |
| 2 | 北海道 | 留萌市他 | 第10回日本海オロロンラインウトライアスロン国際大会 | 北海道 |
| 3 | 北海道 | 壮瞥町 | 第8回昭和新山国際雪合戦 | 北海道 |
| 4 | 北海道 | 本別町 | とうもろこし3万坪迷路 | 北海道 |
| 5 | 青森県 | 車力村 | '96チェスボローCUP水泳駅伝 | 青森県 |
| 6 | 青森県 | 風間浦村 | 烏賊様レース | 東奥日報社 |
| 7 | 青森県 | 南郷村 | 南郷サマージャズフェスティバル | 青森県 |
| 8 | 岩手県 | 陸前高田市 | 平成8年度全国太鼓フェスティバル | 岩手県 |
| 9 | 岩手県 | 大迫町 | 全国神楽大会ハヤチネ'96 | 岩手県 |
| 10 | 岩手県 | 藤沢町 | 第21回岩手・藤沢野焼祭「全国縄文野焼祭 in Fujisawa」 | 岩手日報社 |
| 11 | 岩手県 | 野田村 | のだ砂まつり | 岩手県 |
| 12 | 宮城県 | 七ヶ宿町 | わらじで歩こう七ヶ宿 | 宮城県 |
| 13 | 宮城県 | 七ヶ宿町 | 七ヶ宿国際村インターナショナル・ウィークIIIベトナム自由自在 | 宮城県 |
| 14 | 宮城県 | 歌津町 | 第2回たつがねMTB大会 | 宮城県 |
| 15 | 秋田県 | 大曲市 | '96新作花火コレクション | 秋田魁新報社 |
| 16 | 秋田県 | 森吉町 | 森吉山麓たなばた火まつり | 秋田県 |
| 17 | 秋田県 | 神岡町 | 第18回全県500歳野球大会 | 秋田県 |
| 18 | 山形県 | 山形市 | 日本一の芋煮会フェスティバル | 山形新聞社 |
| 19 | 山形県 | 小国町 | 第2回小国国際文化フェスティバル | 山形県 |
| 20 | 山形県 | 三川町 | 第10回全国方言大会 | 山形県 |
| 21 | 福島県 | いわき市 | 国際交流事業フードフェスティバル世界屋台村 | 福島県 |
| 22 | 福島県 | 川俣町 | コスキン・エン・ハポン | 福島県 |
| 23 | 福島県 | 只見町 | 只見ふるさとの雪まつり | 福島民友新聞社 |
| 24 | 福島県 | 山都町 | やまと新そばまつり | 福島民報社 |
| 25 | 福島県 | 東村 | サンライズひがしフェスティバル'96 | 福島県 |
| 26 | 茨城県 | 日立市 | ひたち国際大道芸フェスティバル | 茨城県 |
| 27 | 茨城県 | 岩井市 | 市民劇「平将門」の上演 | 茨城県 |
| 28 | 茨城県 | つくば市 | 第12回つくば国際音楽祭 | 茨城県 |
| 29 | 栃木県 | 大田原市 | 大田原市民健康のつどい | 栃木県 |
| 30 | 栃木県 | 栃木市 | 紫陽花市 | 栃木県 |
| 31 | 栃木県 | 岩舟町 | ひなまつりバロックコンサート | 栃木県 |
| 32 | 群馬県 | 藤岡市 | 上杉管領まつり | 群馬県 |
| 33 | 群馬県 | 安中市他 | 第22回安政遠足侍マラソン | 中日新聞社 |
| 34 | 群馬県 | 吉井町 | 第8回全国吉井サミット・郷土芸能発表会 | 群馬県 |
| 35 | 群馬県 | 中里村 | モンゴル恐竜化石特別展 | 群馬県 |
| 36 | 群馬県 | 草津町 | 第17回草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティヴァル | 上毛新聞社 |
| 37 | 埼玉県 | 行田市 | さきたま火祭り | 埼玉県 |
| 38 | 埼玉県 | 秩父市 | インターナショナル・チャレンジ・サイクリング『ツール・ド・秩父』 | 埼玉県 |
| 39 | 埼玉県 | 入間市 | ティーフェスタ'96 in 入間 | 埼玉県 |
| 40 | 千葉県 | 千葉県 | 第10回九十九里はだしで歩こう大会 | 千葉県 |
| 41 | 千葉県 | 鴨川市 | ふるさといきいきSea Festa '96 in Kamogawa | 千葉県 |
| 42 | 千葉県 | 栗源町 | 栗源のふるさといも祭 | 千葉県 |
| 43 | 東京都 | 東京都 | 東京ドーム・ふるさとフェア'97～全国観光と物産展 | 読売新聞社 |
| 44 | 東京都 | 文京区他 | 第8回文京・台東下町まつり | 毎日新聞社 |
| 45 | 東京都 | 大田区 | 第1回マシンツールフェアOTA'96 | 日刊工業新聞社 |
| 46 | 東京都 | 北区 | 第2回北とぴあ国際音楽祭 | 東京都 |
| 47 | 東京都 | 青梅市 | きっとみつかるあの日の匂い『思い出さがしの青梅宿』 | 東京都 |
| 48 | 東京都 | 府中市 | 郷土芸能と縁日の森 | 東京都 |
| 49 | 神奈川県 | 厚木市 | 第50回あつぎ鮎まつり | 神奈川県 |
| 50 | 神奈川県 | 開成町 | '96開成あじさい祭 | 神奈川県 |
| 51 | 神奈川県 | 清川村 | 宮ヶ瀬クリスマスみんなのつどい | 神奈川県 |
| 52 | 新潟県 | 上越市他 | えちごくびき野100kmマラソン | 新潟県 |
| 53 | 新潟県 | 紫雲寺町 | 紫雲寺潟干拓史劇「風雪のみずうみ」 | 新潟県 |
| 54 | 新潟県 | 津川町 | つがわ狐の嫁入り行列 | 新潟日報社 |
| 55 | 新潟県 | 高柳町 | 狐の夜祭り | 新潟県 |
| 56 | 富山県 | 富山市 | 全日本チンドンコンクール | 富山県 |
| 57 | 富山県 | 高岡市 | 万葉集全20巻朗唱の会 | 富山県 |
| 58 | 富山県 | 山田村 | 新しい世界をのぞいてみませんか！ーやまだMIRAI'96ー | 北日本新聞社 |
| 59 | 富山県 | 利賀村 | 利賀そば祭り'96 | 富山県 |
| 60 | 石川県 | 石川県 | アスペン音楽祭'96イン石川 | 石川県 |
| 61 | 石川県 | 金沢市 | 第45回百万石まつり | 石川県 |
| 62 | 石川県 | 石川県 | 第9回JAPAN TENTー世界留学生交流・いしかわ'96ー | 北國新聞社 |
| 63 | 石川県 | 内灘町 | '96世界の凧の祭典 | 石川県 |
| 64 | 福井県 | 武生市 | 紫式部越前武生来遊千年記念事業 | 福井県・日刊県民福井・福井新聞社 |
| 65 | 福井県 | 勝山市 | '96かつやまーアスペン音楽祭コンサート | 福井県 |
| 66 | 福井県 | 越廼村 | '96世界水仙会議・越廼 | 福井県 |
| 67 | 山梨県 | 大和村 | ふるさと武田勝頼公祭り | 山梨県 |
| 68 | 山梨県 | 上九一色村 | '96上九一色村オータムフェスティバルー21世紀に向かって自然と歩もうー | 山梨日日新聞社 |
| 69 | 山梨県 | 明野村 | 第11回浅尾ダイコンまつり | 山梨県 |
| 70 | 山梨県 | 河口湖町 | '96河口湖ハーブフェスティバル | 山梨県 |
| 71 | 長野県 | 小海町 | 氷上トライアスロン小海大会 | 長野県 |
| 72 | 長野県 | 南信濃村 | 峠の国盗り綱引き合戦 | 長野県 |
| 73 | 長野県 | 南木曽町 | 文化文政風俗絵巻之行列 | 信濃毎日新聞社 |
| 74 | 長野県 | 栄村 | 全国「小ちゃなしあわせ絵手紙展」 | 長野県 |
| 75 | 岐阜県 | 岐阜市 | 世界イベント村ぎふ秋まつり'96遊学祭 | 岐阜県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 76 | 岐阜県 | 大垣市他 | スインク96西濃 | 岐阜県 |
| 77 | 岐阜県 | 神戸町他 | '96夜叉ヶ池伝説マラニック | 岐阜新聞社 |
| 78 | 岐阜県 | 明宝村 | 第7回めいほう高原音楽祭 | 岐阜県 |
| 79 | 静岡県 | 静岡市 | 大道芸ワールドカップ イン 静岡 | 静岡県 |
| 80 | 静岡県 | 沼津市 | JAPAN ART FESTIVAL IN 沼津'96（ぬまづ・松籟の宴） | 静岡県 |
| 81 | 静岡県 | 水窪町 | フォレストピア北遠　信州・秋葉夢街道 | 静岡県 |
| 82 | 静岡県 | 引佐町 | 第8回いなさ人形劇まつり | 静岡新聞社 |
| 83 | 愛知県 | 岡崎市 | 岡崎市制80周年記念事業 OKAZAKI"メディアアドベンチャー" | 愛知県 |
| 84 | 愛知県 | 西尾市 | みかわ・みらい・21 | 愛知県 |
| 85 | 愛知県 | 蒲郡市 | 創作ミュージカル「太古猫は忙しかった」 | 愛知県 |
| 86 | 三重県 | 安濃町 | 住民参加創作オペラ「八百比丘尼」～幾十万の夜と昼の小夜～ | 三重県 |
| 87 | 三重県 | 嬉野町 | 宇気郷まつり | 三重県 |
| 88 | 三重県 | 飯高町 | わが心の師大賞（小津安二郎・青春のまち飯高へ） | 三重県 |
| 89 | 滋賀県 | 彦根市他 | アイアンマン・ジャパン'96 in びわ湖大会 | 滋賀県 |
| 90 | 滋賀県 | 長浜市 | 北近江秀吉博覧会 | 滋賀県 |
| 91 | 滋賀県 | 愛東町 | 第10回全日本あいとう4時間耐久三輪車レース | 滋賀県 |
| 92 | 京都府 | 京都市 | 京都まつり'96 | 京都府 |
| 93 | 京都府 | 舞鶴市 | 舞鶴赤れんがイベント | 京都新聞社 |
| 94 | 京都府 | 精華町他 | けいはんな学研都市'96　オータムフェスタ | 京都府 |
| 95 | 京都府 | 大江町 | 第15回大江山酒呑童子祭り | 京都府 |
| 96 | 大阪市 | 高槻市 | こいのぼりフェスタ1000 | 大阪府 |
| 97 | 大阪府 | 大東市 | ウォール・ペインティング事業 | 大阪府 |
| 98 | 大阪府 | 熊取町 | 第6回くまとりロードレース | 大阪府 |
| 99 | 兵庫県 | 神戸市 | 神戸ルミナリエ | 兵庫県・神戸新聞社 |
| 100 | 兵庫県 | 尼崎市 | 尼崎発！演劇列車フォーラム～まくあけ演劇街道～ | 兵庫県 |
| 101 | 兵庫県 | 中町 | 加藤登紀子　日本酒の日コンサート | 兵庫県 |
| 102 | 奈良県 | 大和郡山市 | 第2回全国金魚すくい選手権大会 | 奈良県 |
| 103 | 奈良県 | 王寺町 | 夢おこし　王寺ベルフェスタ'96 | 奈良県 |
| 104 | 奈良県 | 大塔村他 | 第2回奥吉野温泉サミット | 奈良新聞社 |
| 105 | 奈良県 | 吉野町 | 第5回吉野歴史街道～伊勢街道・夢街道～ | 奈良県 |
| 106 | 和歌山県 | 海南市 | 紀州漆器まつり | 和歌山県 |
| 107 | 和歌山県 | 印南町 | '96食の祭典・食べてみやんせ「印南の味」 | 和歌山県 |
| 108 | 和歌山県 | 太地町 | 鯨の全国伝統芸能大会 | 和歌山県 |
| 109 | 鳥取県 | 境港市 | 第1回世界妖怪会議 | 鳥取県 |
| 110 | 鳥取県 | 若桜町 | 第22回若桜氷ノ山中高令者全国マラソン大会 | 鳥取県 |
| 111 | 鳥取県 | 大栄町 | 第9回大栄町すいか・ながいも健康マラソン大会 | 鳥取県 |
| 112 | 島根県 | 三刀屋町 | 第6回永井隆平和賞 | 島根県 |
| 113 | 島根県 | 浜田市 | 第6回BB大鍋フェスティバル | 島根県 |
| 114 | 島根県 | 吉田村 | 第3回生きている鉄　～歴史が生み出し　育てる鉄～ | 島根県 |
| 115 | 島根県 | 斐川町 | 斐川ふれあい音楽祭'96 | 山陰中央新報社 |
| 116 | 岡山県 | 岡山市他 | 時代絵巻「宇喜多直家国とり物語」 | 岡山県 |
| 117 | 岡山県 | 新見市 | 一備中国新見庄ロマンの里づくり事業ー男女の愛の手紙　新見庄愛の書状募集 | 山陽新聞社 |
| 118 | 岡山県 | 有漢町 | 風と星空のファンタジア'96 in うかん～うみ（太平洋）からうみ（日本海）へ～ | 岡山県 |
| 119 | 岡山県 | 湯原町 | 6・26「露天風呂の日」 | 岡山県 |
| 120 | 広島県 | 因島市 | 因島水軍まつり | 広島県 |
| 121 | 広島県 | 熊野町 | 第62回筆まつり | 広島県 |
| 122 | 広島県 | 豊平町 | そばまつりとよひら'96 | 中国新聞社 |
| 123 | 広島県 | 豊町 | みかんの島で弓祭 | 広島県 |
| 124 | 山口県 | 山口市 | アートふる山口　一の坂大路小路をあそぶ | 山口県 |
| 125 | 山口県 | 小野田市 | 小野田ドリームフェスタ'96 | 山口県 |
| 126 | 山口県 | 菊川町 | ドライブ・イン・シアター　シネマ・ファンタジア・きくかわ96 | 山口県 |
| 127 | 徳島県 | 鳴門市 | なるとの第九 | 徳島新聞社 |
| 128 | 徳島県 | 勝浦町 | ビックひな祭り | 徳島県 |
| 129 | 徳島県 | 脇町 | 第12回うだつの城下まつり | 徳島県 |
| 130 | 香川県 | 坂出市 | さかいで大橋まつり　太鼓台競演 | 香川県 |
| 131 | 香川県 | 大内町他 | 東かがわ手づくりカヌーレース | 香川県 |
| 132 | 香川県 | 池田町 | 小豆島オリーブ杯ゲートボール大会 | 香川県 |
| 133 | 香川県 | 琴平町 | 第12回「四国こんぴら歌舞伎大芝居」 | 四國新聞社 |
| 134 | 愛媛県 | 川之江市 | 四国かわのえ紙まつり | 愛媛県 |
| 135 | 愛媛県 | 伯方町他 | 第4回水軍レース | 愛媛県 |
| 136 | 愛媛県 | 城川町 | 「かまぼこ板の絵」展覧会 | 愛媛県・愛媛新聞社 |
| 137 | 高知県 | 室戸市 | 土佐室戸鯨舟競漕大会 | 高知県 |
| 138 | 高知県 | 中村市他 | 第3回四万十川100kmマラソン大会 | 高知新聞社 |
| 139 | 高知県 | 赤岡町 | 絵金祭り | 高知県 |
| 140 | 高知県 | 本川村 | 氷室まつり | 高知県 |
| 141 | 福岡県 | 福岡県 | 福岡県美しいまちづくりシンポジウム | 福岡県 |
| 142 | 福岡県 | 福岡県 | フクオカ・サイエンスマンス | 福岡県 |
| 143 | 福岡県 | 桂川町 | 古代の謎フェスティバル'96 | 西日本新聞社 |
| 144 | 福岡県 | 吉井町 | 筑後吉井の小さな美術館めぐり | 福岡県 |
| 145 | 佐賀県 | 佐賀市 | 1996佐賀インターナショナルバルーンフェスタ | 佐賀県・佐賀新聞社 |
| 146 | 佐賀県 | 呼子町 | '96小川島「島おこしフェスティバル」 | 佐賀県 |
| 147 | 長崎県 | 長崎市 | '96長崎ランタンフェスティバル | 長崎県 |
| 148 | 長崎県 | 島原市他 | がまだす祭り in 島原'96 | 長崎県・長崎新聞社 |
| 149 | 長崎県 | 厳原町 | '96厳原港まつり「対馬アリラン祭り」 | 長崎県 |
| 150 | 熊本県 | 熊本県 | '96くまもと漱石博 | 熊本日日新聞社 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 151 | 熊本県 | 荒尾市 | 第３回「八郎列車」 | 熊本県 |
| 152 | 熊本県 | 大津町 | からいもフェスティバルin おおづ | 熊本県 |
| 153 | 熊本県 | 波野村 | 神楽フェスティバル | 熊本県 |
| 154 | 大分県 | 国見町 | 国見～姫島　ロマンチック海道横断国際竹いかだレース | 大分県 |
| 155 | 大分県 | 日出町 | 城下かれい祭り | 大分県 |
| 156 | 大分県 | 九重町 | 九重氷の祭典 | 大分合同新聞社 |
| 157 | 大分県 | 上津江村 | 九州スポーツフェスタin 上津江'96 | 大分県 |
| 158 | 宮崎県 | 宮崎県 | 第１回宮崎国際室内楽音楽祭 | 宮崎県・宮崎日日新聞社 |
| 159 | 宮崎県 | 小林市 | 第13回ふれあいコスモスin 霧島 | 宮崎県 |
| 160 | 宮崎県 | 串間市 | 幸運発信イベント888 | 宮崎県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 161 | 鹿児島県 | 鹿児島市 | 第45回おはら祭 | 鹿児島新報社 |
| 162 | 鹿児島県 | 鹿児島県 | 鹿児島アイランドフェスタ | 鹿児島県 |
| 163 | 鹿児島県 | 加世田市 | 吹上浜砂の祭典 | 鹿児島県 |
| 164 | 鹿児島県 | 三島村 | 三島村歌舞伎「俊寛」公演事業 | 鹿児島県 |
| 165 | 鹿児島県 | 吉松町 | スカイフェスタよしまつ | 南日本新聞社 |
| 166 | 沖縄県 | 沖縄県 | 離島フェア'96 | 沖縄県 |
| 167 | 沖縄県 | 那覇市 | 那覇大綱挽 | 沖縄県 |
| 168 | 沖縄県 | 平良市他 | 第12回全日本トライアスロン宮古島大会 | 琉球新報社 |
| 169 | 沖縄県 | 沖縄市 | 沖縄全島エイサーまつり | 沖縄県 |
| 170 | 沖縄県 | 伊江村 | 伊江島一周マラソン大会 | 沖縄タイムス社 |

# 「第2回 ふるさとイベント大賞」応募イベント一覧

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 北海道 | 増毛町他 | 日本海オロロンラインウトライアスロン国際大会 | 北海道 |
| 2 | 北海道 | 本別町 | とうもろこし３万坪迷路 | 北海道 |
| 3 | 北海道 | 沼田町 | ほたる祭り | 北海道 |
| 4 | 北海道 | 札幌市 | さっぽろ旭山音楽祭 | 北海道新聞社 |
| 5 | 青森県 | 鶴田町 | 「わいは！どんばち丸出し！！」外国人青年による津軽弁大会 | 青森県 |
| 6 | 青森県 | 南郷村 | 南郷サマージャズフェスティバル | 青森県 |
| 7 | 青森県 | 弘前市 | 全日本リンゴ追分けコンクール | 青森県 |
| 8 | 青森県 | 岩木町 | 津軽三味線フェスティバルIWAKI | 東奥日報社 |
| 9 | 岩手県 | 盛岡市 | みちのく国際ミステリー映画祭'97 in 盛岡 | 岩手県 |
| 10 | 岩手県 | 大船渡市 | 大船渡・かがり火まつり | 岩手県 |
| 11 | 岩手県 | 花巻市 | わんこそば全日本大会東京場所 | 岩手県 |
| 12 | 宮城県 | 東和町 | 全日本草リンピック | 宮城県 |
| 13 | 宮城県 | 歌津町 | 小学生創作ミュージカル発表会 | 宮城県 |
| 14 | 宮城県 | 松島町 | 手づくりいかだ川のぼり大会 | 宮城県 |
| 15 | 秋田県 | 大曲市 | 大曲新人音楽コンクール | 秋田県 |
| 16 | 秋田県 | 横手市他 | おものがわ流域「ふれあい道中スタンプラリー」 | 秋田県 |
| 17 | 秋田県 | 中仙町 | ドンパンまつり | 秋田県 |
| 18 | 山形県 | 酒田市 | おらほのまち・むら自慢「タウン・トレール」 | 山形県 |
| 19 | 山形県 | 白鷹町 | アジア国際音楽祭inしらたか'97 | 山形県 |
| 20 | 福島県 | 猪苗代町 | おシンさんの嫁入り | 福島県 |
| 21 | 福島県 | 会津若松市 | のきさきギャラリー | 福島県 |
| 22 | 福島県 | 須賀川市 | 松明あかし | 福島県 |
| 23 | 福島県 | 広野町他 | '97ふたばワールド | 福島民報社 |
| 24 | 福島県 | 昭和村 | 田舎暮らしを楽しむ全国研究大会（全国過疎村活性化研究大会） | 福島民友新聞社 |
| 25 | 茨城県 | 結城市 | 紬のふる里　結城まつり | 茨城県 |
| 26 | 栃木県 | 栃木市 | 栃木「蔵の街」音楽祭 | 栃木県 |
| 27 | 栃木県 | 足利市 | 「原太」足利・八木節［風に舞う望郷ラプソディ］ | 栃木県 |
| 28 | 栃木県 | 日光市 | 日光けっこうフェスティバル'97 | 栃木県 |
| 29 | 栃木県 | 葛生町 | くずう原人まつり | 下野新聞社 |
| 30 | 群馬県 | 赤城村 | 上三原田（かみみはらだ）の歌舞伎舞台公演 | 群馬県 |
| 31 | 群馬県 | 前橋市 | 「詩のまち前橋若い芽のポエム」・「野外朗読会」 | 群馬県 |
| 32 | 群馬県 | 安中市他 | 安政遠足（あんせいとおあし）侍マラソン | 上毛新聞社 |
| 33 | 埼玉県 | 大利根町 | 彩の国童謡のふる里コンサートinおおとね'97 | 埼玉県 |
| 34 | 埼玉県 | 秩父市他 | インターナショナル・チャレンジ・サイクリング「ツール・ド・秩父」 | 埼玉県 |
| 35 | 埼玉県 | 久喜市 | 提燈祭り「天王様」 | 埼玉県 |
| 36 | 千葉県 | 千葉県 | ちば文化祭'97 | 千葉県 |
| 37 | 千葉県 | 関宿町 | 関宿カヌートライアスロン | 千葉県 |
| 38 | 千葉県 | 大原町 | 大原ちょうちん時代祭り | 千葉県 |
| 39 | 東京都 | 青梅市 | 青梅宿アートFes'97「花嫁御寮の青梅宿」 | 東京都 |
| 40 | 東京都 | 台東区 | 隅田川　今昔紀行 | 東京都 |
| 41 | 神奈川県 | 横須賀市 | ザ・よこすかみやげコンテスト | 神奈川県 |
| 42 | 神奈川県 | 津久井町 | 〈合唱の里〉津久井「遥かな友に」道志川合唱祭 | 神奈川県 |
| 43 | 新潟県 | 豊栄市 | 「潟まつり」集まれ！7,000人 | 新潟県 |
| 44 | 新潟県 | 大潟町 | 創作民話劇　人魚塚　浜の物語 | 新潟県 |
| 45 | 新潟県 | 相川町 | 姫津いかイカまつり | 新潟県 |
| 46 | 新潟県 | 長岡市 | しなの川音楽祭 | 新潟日報社 |
| 47 | 新潟県 | 新潟県 | HOT WAVE NIIGATA'97ニューにいがたの祭典 | 読売新聞社 |
| 48 | 富山県 | 氷見市 | 氷見キトキト魚大学 | 富山県 |
| 49 | 富山県 | 福岡町 | 冬のふれいあい市 | 富山県 |
| 50 | 富山県 | 小矢部市 | メルヘン'97 | 富山県 |
| 51 | 石川県 | 金沢市他 | '97いしかわサマーミュージックフェスティバル | 石川県 |
| 52 | 石川県 | 柳田村 | ござれまつり | 石川県 |
| 53 | 石川県 | 松任市 | 松任国際太鼓エクスタジア'97 | 石川県 |
| 54 | 石川県 | 金沢市他 | 第10回記念大会JAPAN TENT－世界留学生交流いしかわ'97 | 北國新聞社 |
| 55 | 福井県 | 丸岡町 | 一筆啓上賞　日本一短い「父」への手紙 | 福井県 |
| 56 | 福井県 | 今庄町 | 今庄そばまつり | 福井県 |
| 57 | 福井県 | 金津町 | ダンボートレース | 福井県 |
| 58 | 福井県 | 丸岡町 | 一筆啓上賞　日本一短い「父」への手紙 | 福井新聞社 |
| 59 | 福井県 | 福井市 | 福井コスモスまつり | 日刊県民福井 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 60 | 山梨県 | 櫛形町他 | 峡西フルーツロードinクラシック山梨（クラシックカーフェスティバル） | 山梨県 |
| 61 | 山梨県 | 甲府市 | まちなかの音楽祭 | 山梨県 |
| 62 | 山梨県 | 八代町 | 長崎かかし祭り | 山梨県 |
| 63 | 長野県 | 東部町 | アジアマイムフェスティバルIN とうぶまち | 長野県 |
| 64 | 長野県 | 大町市 | 祭 in 大町・北安曇'97炎（ほのお） | 長野県 |
| 65 | 長野県 | 飯田市他 | 三遠南信伝統芸能フェスティバル'97 | 信濃毎日新聞 |
| 66 | 長野県 | 飯山市 | 学生オープンスキーチャレンジ“THE NIPPON” | 産経新聞社 |
| 67 | 岐阜県 | 岐阜市 | WEC秋まつり（世界イベント村ぎふ秋まつり'97） | 岐阜県 |
| 68 | 岐阜県 | 板取村 | 1997世界選手権バイクトライアル最終戦日本大会・板取 | 岐阜県 |
| 69 | 岐阜県 | 岐阜市 | 岐阜県農業フェスティバル | 岐阜県 |
| 70 | 岐阜県 | 揖斐川町他 | '97いびがわマラソン | 中日新聞 |
| 71 | 静岡県 | 菊川町 | 大仮装大会＆お茶壺道中 | 静岡県 |
| 72 | 静岡県 | 土肥町 | 菜の花舞台 | 静岡県 |
| 73 | 愛知県 | 西春町 | 平盆まつり | 愛知県 |
| 74 | 愛知県 | 足助町 | あすけウォーク'97 | 愛知県 |
| 75 | 三重県 | 三重県 | 笑顔にふれてみませんか“みえ”の青空市ふれあいリレー | 三重県 |
| 76 | 三重県 | 嬉野町 | 嬉野町歴史文化フェスタ | 三重県 |
| 77 | 三重県 | 大王町 | 「絵かきの町・大王」イベント事業 | 三重県 |
| 78 | 滋賀県 | 近江八幡市 | 八幡掘たそがれコンサート | 滋賀県 |
| 79 | 滋賀県 | 長浜市 | 長浜出世まつり | 滋賀県 |
| 80 | 滋賀県 | 八日市市 | 八日市大凧まつり | 滋賀県 |
| 81 | 京都府 | 京都市 | 地下鉄東西線開業記念イベント | 京都府 |
| 82 | 京都府 | 宮津市 | 天橋立寒中てんころ船競争 | 京都府 |
| 83 | 京都府 | 舞鶴市 | 赤レンガフェスタ in 舞鶴'97 | 京都府 |
| 84 | 京都府 | 丹後町 | TANGO・タコばかしサミット | 京都新聞社 |
| 85 | 大阪府 | 河内長野市 | 河内長野市海外芸術家交流事業　滝畑アート・ウォーキング | 大阪府 |
| 86 | 大阪府 | 東大阪市 | 東大阪市ラグビージュニア国際交流大会 | 大阪府 |
| 87 | 大阪府 | 田尻町 | つばさのまちフェスタ'97 | 大阪府 |
| 88 | 兵庫県 | 兵庫県 | 播磨科学公園都市まちびらきフェスティバル | 兵庫県 |
| 89 | 兵庫県 | 柏原町他 | 丹波の森国際音楽祭―シューベルティアーデたんば'97 | 兵庫県 |
| 90 | 兵庫県 | 豊岡市 | 大石りくまつり | 兵庫県 |
| 91 | 兵庫県 | 佐用町 | 星の都絵本大賞 | 神戸新聞社 |
| 92 | 奈良県 | 王寺町 | 夢おこし王寺　ベルフェスタ'97 | 奈良県 |
| 93 | 奈良県 | 大和郡山市 | 全国金魚すくい選手権大会 | 奈良県 |
| 94 | 奈良県 | 奈良県 | 過疎ニューライフ推進事業「宇陀探訪フェスタ～街道ツーリズム」 | 奈良県 |
| 95 | 和歌山県 | すさみ町 | イノブタダービー（イノブータン王国建国際） | 和歌山県 |
| 96 | 和歌山県 | 橋本市 | 歴史街道ふれあいロマン“いいところだね橋本” | 和歌山県 |
| 97 | 和歌山県 | 打田町 | 百合山ウォークラリー＆おもしろ大会 | 和歌山県 |
| 98 | 鳥取県 | 鳥取県 | ジャパンエキスポ鳥取'97山陰夢みなと博覧会 | 鳥取県 |
| 99 | 鳥取県 | 鳥取県 | 温泉フェスティバル IN とっとり | 鳥取県 |
| 100 | 鳥取県 | 鳥取市他 | 麒麟獅子フェスタ'97 | 鳥取県 |
| 101 | 鳥取県 | 鳥取県他 | 地酒列車「北前船号」 | 新日本海新聞 |
| 102 | 島根県 | 島根県 | 古代出雲文化展～神々の国 悠久の遺産～ | 島根県 |
| 103 | 島根県 | 広瀬町 | 尼子一族全国大集会及び戦国尼子フェスティバル | 島根県 |
| 104 | 岡山県 | 岡山市 | ジュニアオーケストラ フェスティバル'97in okayama | 岡山県 |
| 105 | 岡山県 | 玉野市 | たまの・港フェスティバル | 岡山県 |
| 106 | 岡山県 | 有漢町 | 風ぐるまフェスタ'97 in うかん | 岡山県 |
| 107 | 岡山県 | 倉敷市 | 倉敷音楽祭 | 山陽新聞社 |
| 108 | 広島県 | 因島市 | 因島水軍まつり | 広島県 |
| 109 | 広島県 | 福山市 | よみがえる朝鮮通信使 | 広島県 |
| 110 | 広島県 | 甲山町 | '97全日本手づくりゼロハンカーレース | 広島県 |
| 111 | 広島県 | 吉田町 | 毛利元就生誕500年事業 | 中国新聞社 |
| 112 | 山口県 | 宇部市 | 真締川まつり | 山口県 |
| 113 | 山口県 | 下松市 | 笠戸島マリンイカダレース | 山口県 |
| 114 | 山口県 | 美和町 | 美和サンチャロウまつり | 山口県 |
| 115 | 徳島県 | 穴吹町 | 穴吹川筏下り大会 | 徳島県 |
| 116 | 徳島県 | 勝浦町 | ビックひな祭り | 徳島県 |
| 117 | 徳島県 | 徳島市 | '97吉野川フェスティバル | 徳島県 |
| 118 | 徳島県 | 穴吹町 | 穴吹川筏下り大会 | 徳島新聞社 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 119 | 香川県 | 塩江町 | 塩江温泉アドベンチャーマラソン全国大会 | 香川県 |
| 120 | 愛媛県 | 新居浜市 | 全国お手玉遊び大会 | 愛媛県 |
| 121 | 愛媛県 | 瀬戸町 | 「結婚宣言」エッセイ全国コンテスト | 愛媛県 |
| 122 | 愛媛県 | 河辺村 | わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道 | 愛媛県 |
| 123 | 福岡県 | 浮羽町 | 棚田 in うきは彼岸花めぐり | 福岡県 |
| 124 | 福岡県 | 吉井町 | 筑後吉井のおひなさまめぐり | 福岡県 |
| 125 | 福岡県 | 柳川市 | 柳川ソーラーボート大会 | 福岡県 |
| 126 | 福岡県 | 庄内町 | '97飯塚国際車いすテニス大会 | 西日本新聞社 |
| 127 | 佐賀県 | 佐賀市 | 1997　佐賀熱気球世界選手権 | 佐賀県 |
| 128 | 佐賀県 | 伊万里市 | 鍋島藩窯秋祭り | 佐賀県 |
| 129 | 佐賀県 | 東脊振村 | 竹ものがたり | 佐賀県 |
| 130 | 佐賀県 | 七山村 | '97国際渓流滝登りinななやま | 佐賀新聞社 |
| 131 | 長崎県 | 佐世保市 | きらきらフェスティバル | 長崎県 |
| 132 | 長崎県 | 野母崎町 | のもざき水仙まつり | 長崎県 |
| 133 | 長崎県 | 厳原町 | '97厳原港まつり「対馬アリラン祭り」 | 長崎県 |
| 134 | 長崎県 | 生月町 | 演劇「あっちゃんの炭鉱（やま）」 | 長崎新聞社 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 135 | 熊本県 | 波野村 | 神楽フェスティバル | 熊本県 |
| 136 | 熊本県 | 清和村 | 文楽の里まつり | 熊本日日新聞社 |
| 137 | 大分県 | 上津江村 | 九州スポーツフェスタin上津江'97 | 大分県 |
| 138 | 大分県 | 大山町 | 「わが家の梅酒コンクール」 | 大分県 |
| 139 | 大分県 | 日出町 | 城下かれい祭り | 大分県 |
| 140 | 大分県 | 大山町 | ふれあいブレス・移動大分合同新聞大山町会場 | 大分合同新聞社 |
| 141 | 宮崎県 | 都城市 | ウエルカム交流会「楽市・楽座」 | 宮崎県 |
| 142 | 宮崎県 | 延岡市 | 延岡城址薪能 | 宮崎県 |
| 143 | 宮崎県 | 西都市 | 西都古墳まつり | 宮崎県 |
| 144 | 鹿児島県 | 鹿児島市 | かごしま世界帆船まつり | 鹿児島県 |
| 145 | 鹿児島県 | 東町 | あづま造形美術展 | 鹿児島県 |
| 146 | 鹿児島県 | 吉松町 | 夜空に輝く100m巨大ツリー | 鹿児島県 |
| 147 | 沖縄県 | 名護市他 | ツール・ド・おきなわ | 沖縄県 |
| 148 | 沖縄県 | 南風原町 | 「國民学校卒業式」と町民手作り平和創造劇「卒業證書」 | 沖縄県 |
| 149 | 沖縄県 | 沖縄県 | 沖縄県立武道館落成記念　沖縄空手・古武道世界大会 | 沖縄県 |

# 「第3回 ふるさとイベント大賞」応募イベント一覧

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 北海道 | 函館市 | はこだてクリスマスファンタジー | 北海道 |
| 2 | 北海道 | 函館市 | 第８回函館市民オペラの会 | 北海道新聞社 |
| 3 | 北海道 | 本別町 | とうもろこし３万坪迷路 | 北海道 |
| 4 | 北海道 | 沼田町 | ほたる祭り | 北海道 |
| 5 | 青森県 | 階上町 | つつじ＆ジンギスカンLoveフェスタ | 青森県 |
| 6 | 青森県 | むつ市 | '98民俗芸能フェスティバル「ザ・カブキ」 | 青森県 |
| 7 | 青森県 | 十和田市 | 大晦日に108発の花火大会 | 青森県 |
| 8 | 青森県 | 五所川原市 | 立佞武多の運行 | 青森県 |
| 9 | 青森県 | 下田町 | '98ハートピア下田・音楽の夕べ | 青森県 |
| 10 | 青森県 | 蟹田町 | 風のまち川柳大賞 | 東奥日報社 |
| 11 | 岩手県 | 陸前高田市 | 平成10年度全国太鼓フェスティバル10周年国際大会 | 岩手県 |
| 12 | 岩手県 | 安代町 | あっぴリレーマラソン | 岩手県 |
| 13 | 岩手県 | 盛岡市 | アーツルネッサンスもりおか「ここからはじまる物語」 | 岩手県 |
| 14 | 岩手県 | 雫石町 | しずくいしアルペンまつり | 岩手県日報社 |
| 15 | 宮城県 | 川崎町 | 川崎町支倉常長夏祭り | 宮城県 |
| 16 | 宮城県 | 石巻市 | 石巻ストリートフェスティバル'98 | 宮城県 |
| 17 | 宮城県 | 塩竈市 | 塩竈みなと祭 | 宮城県 |
| 18 | 宮城県 | 北上町 | 竹内敏信先生の写真セミナー＆講演会 | 宮城県 |
| 19 | 宮城県 | 利府町 | 「十符の里一利府」フェスティバル | 宮城県 |
| 20 | 宮城県 | 七ヶ宿町 | 第13回わらじで歩こう七ヶ宿 | 河北新報社 |
| 21 | 秋田県 | 湯沢市 | 七夕ちょうちん行列 | 秋田県 |
| 22 | 秋田県 | 秋田市 | 東海林太郎生誕100年祭 | 秋田県 |
| 23 | 秋田県 | 大曲市 | 大曲新人音楽祭コンクール | 秋田県 |
| 24 | 山形県 | 村山市 | 伝承館まつり　日本一の長板そば50間堂 | 山形県 |
| 25 | 山形県 | 飯豊町 | SNOWえっぐフェスティバル | 山形県 |
| 26 | 山形県 | 新庄市 | 最上環境芸術祭　ランドスケープアート展 | 山形県 |
| 27 | 福島県 | 山都町 | そばの里冬紀行 | 福島県 |
| 28 | 福島県 | 檜枝岐村 | 真夏の雪まつり | 福島県 |
| 29 | 福島県 | いわき市 | まぼろしの浜街道「新田坂」をゆく | 福島県 |
| 30 | 福島県 | 須賀川市 | 松明あかし | 福島民友新聞社 |
| 31 | 福島県 | 広野町 | 第５回ひろの童謡（うた）まつり | 福島民報社 |
| 32 | 茨城県 | 日立市 | ひたち国際大道芸 | 茨城県 |
| 33 | 茨城県 | 鹿嶋市 | 鹿嶋まつり | 茨城県 |
| 34 | 茨城県 | 水戸市 | アートタワーみとスターライトファンタジー | 茨城新聞社 |
| 35 | 栃木県 | 茂木町 | ゆずの里　ゆずの木オーナー制度 | 下野新聞社 |
| 36 | 栃木県 | 栃木市 | とちぎ「蔵の街」音楽祭 | 栃木県 |
| 37 | 栃木県 | 益子町 | ましこの炎まつり | 栃木県 |
| 38 | 群馬県 | 板倉町 | 板倉ハートフルマラソン大会 | 群馬県 |
| 39 | 群馬県 | 境町 | 利根川フォーラム・境町島村渡船フェスタ | 群馬県 |
| 40 | 群馬県 | 伊香保町 | 石段ひなまつり | 群馬県 |
| 41 | 埼玉県 | 蕨市 | 中山道武州蕨宿宿場まつり | 埼玉県 |
| 42 | 埼玉県 | 川越市 | 「開館！まちかどミュージアム」 | 埼玉県 |
| 43 | 埼玉県 | 入間市 | 入間万燈まつり | 埼玉県 |
| 44 | 千葉県 | 佐倉市 | サクラコレクション | 千葉県 |
| 45 | 千葉県 | 佐原市 | 小江戸サミット佐原大会 | 千葉県 |
| 46 | 東京都 | 青梅市 | 青梅宿アートFes.「招き猫たちの青梅宿」 | 東京都 |
| 47 | 東京都 | 新宿区 | 内藤新宿開設300年記念事業 | 東京都 |
| 48 | 神奈川県 | 横須賀市 | よこすかカウントダウン'98 | 神奈川県 |
| 49 | 神奈川県 | 大井町 | おおいひょうたんまつり | 神奈川県 |
| 50 | 神奈川県 | 山北町 | やまなみ交流の里文化祭「水源の森をつくろう」 | 神奈川県 |
| 51 | 神奈川県 | 藤沢市 | FOVA SERIES'98 | 朝日新聞社 |
| 52 | 新潟県 | 西山町 | 「天明義民伝」公演 | 新潟県 |
| 53 | 新潟県 | 相川町 | 金の道佐渡から江戸へ | 新潟県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 54 | 新潟県 | 上越市 | 謙信の里えちご・くびき野100kmマラソン | 新潟県 |
| 55 | 富山県 | 滑川市 | なめりかわ龍宮まつり | 富山県 |
| 56 | 富山県 | 上市町 | モールルネサンス「市姫さんど」 | 富山県 |
| 57 | 富山県 | 大門町 | 越中だいもん凧まつり | 富山県 |
| 58 | 富山県 | 利賀村 | 利賀村姉妹都市芸術文化フェスティバル | 富山県 |
| 59 | 石川県 | 金沢市 | 夜の兼六園（幽玄空間創造事業） | 石川県 |
| 60 | 石川県 | 白峰村 | 雪だるまウィーク'98 | 石川県 |
| 61 | 石川県 | 川北町 | 川北まつり（手取の火まつり） | 石川県・北國新聞社 |
| 62 | 石川県 | 能登半島 | ツール・ド・のと400 | 北國新聞社 |
| 63 | 福井県 | 大野市 | 越前大野感性はがき展 | 福井県 |
| 64 | 福井県 | 今立町 | 第九回記念IMADATE第九演奏会 | 福井県 |
| 65 | 福井県 | 和泉村 | 九頭竜紅葉まつり | 福井県・福井新聞社 |
| 66 | 福井県 | 美浜町 | 美浜町民レガッタ | 福井県 |
| 67 | 福井県 | 福井市 | グルメッセふくい'98 | 日刊県民福井 |
| 68 | 福井県 | 美浜町 | 美浜・五木ひろしマラソン | 福井県 |
| 69 | 山梨県 | 甲府市 | 甲府ウィーク・甲府大好きまつり | 山梨県 |
| 70 | 山梨県 | 大泉村 | 大泉高原サラダ王国祭り | 山梨県 |
| 71 | 山梨県 | 中富町 | 第12回中富町ふるさと富士川まつり | 山梨県 |
| 72 | 長野県 | 芽野市 | 小津安二郎記念・蓼科高原映画祭 | 長野県 |
| 73 | 長野県 | 山ノ内町 | 集まれふくろう！森の感謝祭コカリナフェスティバル | 長野県 |
| 74 | 長野県 | 上山田町 | 千曲川いかだ下りコンテスト | 長野県 |
| 75 | 長野県 | 小布施町 | 第３回国際北斎会議・北斎フェスティバル | 長野県 |
| 76 | 岐阜県 | 岐阜市 | 第12回岐阜県農業フェスティバル | 岐阜県 |
| 77 | 岐阜県 | 大垣市 | 奥の細道結びの地「船下り芭蕉祭」 | 岐阜県 |
| 78 | 岐阜県 | 多治見市 | 本町オリベイベント | 岐阜県 |
| 79 | 岐阜県 | 明宝村 | めいほう高原音楽祭 summer jazz in MEIHO'98 | 岐阜県 |
| 80 | 岐阜県 | 岐阜市 | 遊ぼう！絵本・えほんカーニバル | 岐阜新聞社 |
| 81 | 静岡県 | 御殿場市 | アピール・ナウ御殿場 | 静岡県 |
| 82 | 静岡県 | 長泉町 | 長泉わくわく祭り | 静岡県 |
| 83 | 静岡県 | 沼津市 | 海人祭 | 静岡新聞社 |
| 84 | 愛知県 | 常滑市 | シンポジウム夏・1998・常滑 | 愛知県 |
| 85 | 愛知県 | 名古屋市 | なごや文化コンテスト | 愛知県 |
| 86 | 愛知県 | 新城市 | 世界新城サミット | 愛知県 |
| 87 | 愛知県 | 常滑市 | やきもの散歩道フェスティバル'98 | 愛知県 |
| 88 | 三重県 | 三重県 | みえ歴史街道フェスタ | 三重県・伊勢新聞社 |
| 89 | 三重県 | 名張市 | ベルフラワーフォーラム'98創作劇「蓮ーREN一」 | 三重県 |
| 90 | 三重県 | 津市 | 安濃津物語事業 | 三重県 |
| 91 | 滋賀県 | 湖北町 | 戦国ロマンルネサンス　小谷城ふるさと祭り | 滋賀県 |
| 92 | 滋賀県 | 山東町 | 山東町ホタル祭り | 滋賀県 |
| 93 | 滋賀県 | 五個荘町 | ぶらりまちかど美術館・博物館＆新近江商人塾 | 滋賀県 |
| 94 | 京都府 | 福知山市 | いきいきフェスタinみたけ | 京都府 |
| 95 | 京都府 | 宇治市 | 源氏ろまん'98ふれあい歴史絵巻「宇治田楽復活祭」 | 京都府 |
| 96 | 京都府 | 久美浜町 | '98久美浜ドラゴンカヌー選手権大会 | 京都府 |
| 97 | 京都府 | 舞鶴市 | 肉じゃが発祥の地・舞鶴PRイベント | 京都新聞社 |
| 98 | 兵庫県 | 兵庫県 | あわじ・花と公園のフェスタバル | 兵庫県 |
| 99 | 兵庫県 | 姫路市 | 「ひめじウェルカム21」オープニングイベント | 兵庫県 |
| 100 | 兵庫県 | 篠山町 | デカンショ節100年記念事業 | 兵庫県 |
| 101 | 兵庫県 | 加美町 | 平成９年度・ちょっと照れくさい孝行のメッセージ | 神戸新聞社 |
| 102 | 奈良県 | 大和郡山市 | 第４回全国金魚すくい選手権大会 | 奈良県 |
| 103 | 奈良県 | 橿原町他 | 桜井宇陀健康フェスティバル | 奈良県 |
| 104 | 奈良県 | 五條市 | かげろう座'98 | 奈良県 |
| 105 | 和歌山県 | 桃山町 | 桃山まつり | 和歌山県 |
| 106 | 和歌山県 | 橋本市他 | 北紀高野曼陀羅宣言祭・マンダラウオーク | 和歌山県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 107 | 和歌山県 | 高野町 | ヴェトロモンターニャ高野山1998 | 和歌山県 |
| 108 | 鳥取県 | 境港市 | 境港クリスタルファンタジア | 鳥取県 |
| 109 | 鳥取県 | 米子市 | しょうじき村まつり | 鳥取県 |
| 110 | 島根県 | 湖陵町 | こりょうエコ・リンク98 | 島根県 |
| 111 | 島根県 | 浜田市 | はまだBB大鍋フェスティバル | 島根県 |
| 112 | 岡山県 | 西粟倉村 | 第1回あわくら女流アートの祭典98 | 岡山県 |
| 113 | 岡山県 | 加茂川町 | 夢の空中大橋108つの打ち上げ花火 | 岡山県 |
| 114 | 岡山県 | 玉野市 | たまの・港フェスティバル | 岡山県 |
| 115 | 岡山県 | 津山市 | '98西日本地ビール＆大道芸フェスタin津山 | 山陽新聞社 |
| 116 | 広島県 | 福山市 | 第5回町おこし！松永まつり21ゲタリンピック'98 | 広島県 |
| 117 | 広島県 | 豊松村 | 全日本荷車引きレース | 広島県 |
| 118 | 広島県 | 因島市 | 因島水軍まつり | 広島県 |
| 119 | 山口県 | 長門市 | 近松祭in長門'98 | 山口県 |
| 120 | 山口県 | 豊北町 | 夕やけマラソン1／10inほうほく大会 | 山口県 |
| 121 | 山口県 | 防府市 | 第6回愛情防府フリーマーケット | 山口県 |
| 122 | 山口県 | 日置町 | 汗汗フェスタイン日置 | 山口県 |
| 123 | 徳島県 | 徳島県 | 徳島ミュージカル「駆けろ！駆けろ！YATOOSEY」 | 徳島県 |
| 124 | 徳島県 | 穴吹町 | 穴吹川筏下り大会 | 徳島県 |
| 125 | 徳島県 | 徳島市 | とくしま写楽祭 | 徳島新聞社 |
| 126 | 香川県 | 牟礼町 | こーりゃんせ'98 | 香川県 |
| 127 | 香川県 | 綾上町 | 主基斉田お田植えまつり | 香川県 |
| 128 | 香川県 | 塩江町 | 第3回しおのえ国際青年芸術祭'98 | 香川県 |
| 129 | 香川県 | 香川県 | 瀬戸大橋開通10周年記念事業 | 香川県 |
| 130 | 愛媛県 | 今治市 | 今治市民のまつり「おんまく」 | 愛媛県 |
| 131 | 愛媛県 | 河辺村 | わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道 | 愛媛県 |
| 132 | 愛媛県 | 城辺町 | 城辺かつお＆さつきフェア | 愛媛県 |
| 133 | 高知県 | 安芸市 | 手づくり登り窯フェスタ'98 | 高知県 |
| 134 | 高知県 | 香我美町 | 香我美町山北みかん健康マラソン大会 | 高知県 |
| 135 | 高知県 | 野市町 | のいち佐古まつり | 高知県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 136 | 福岡県 | 浮羽町 | 棚田inうきは彼岸花めぐり | 福岡県 |
| 137 | 福岡県 | 上陽町 | 全日本きんま選手権大会 | 福岡県 |
| 138 | 福岡県 | 吉井町 | 筑後吉井のおひなさまめぐり | 福岡県 |
| 139 | 福岡県 | 福岡市 | ファッションムーブメントFUKUOKA'98 | 西日本新聞社 |
| 140 | 佐賀県 | 伊万里市 | 鍋島藩窯秋祭り | 佐賀県 |
| 141 | 佐賀県 | 嬉野町 | うれしのほほん着物園遊会「和」大茶会 | 佐賀県 |
| 142 | 佐賀県 | 有明町 | ぺったんこ祭シャトル・ぺったんこ | 佐賀県 |
| 143 | 佐賀県 | 富士町 | わたしの昆虫記ファーブル大賞 | 佐賀新聞社 |
| 144 | 長崎県 | 長崎市 | 長崎郷土芸能大会 | 長崎県 |
| 145 | 長崎県 | 大村市 | 歴史シンポジウム　異文化の情報路「長崎街道」 | 長崎県 |
| 146 | 長崎県 | 大島町 | 長崎大島トライアスロン大会 | 長崎県 |
| 147 | 長崎県 | 島原市 | 雲仙普賢岳観光トロッコ列車 | 長崎新聞社 |
| 148 | 熊本県 | 栖本町 | 第6回九州河童サミット in 栖本 | 熊本県 |
| 149 | 熊本県 | 矢部町 | 八朔祭 | 熊本県 |
| 150 | 熊本県 | 御所浦町 | モンゴル恐竜化石特別展 in 御所浦 | 熊本日日新聞社 |
| 151 | 大分県 | 九重町 | 98九州ウインターフェスティバル九重氷の祭典 | 大分県 |
| 152 | 大分県 | 国東町 | 仏の里くにさき・とみくじマラソン大会 | 大分県 |
| 153 | 大分県 | 三光村 | 泥田バレーボール大会 | 大分県 |
| 154 | 宮崎県 | 高岡町 | 第1回日本音魂祭 in 高岡 | 宮崎県 |
| 155 | 宮崎県 | 都城市 | 都城スカイブロッサム'98 | 宮崎県 |
| 156 | 宮崎県 | 延岡市 | '98かがり火ファンタジー in のべおか | 宮崎県 |
| 157 | 鹿児島県 | 鹿児島県 | 薩摩焼発祥400周年事業 | 鹿児島県 |
| 158 | 鹿児島県 | 西之表市 | からいも伝来300周年記念事業 | 鹿児島県 |
| 159 | 鹿児島県 | 東市来町 | 東市来町薩摩焼400年祭 | 鹿児島県 |
| 160 | 沖縄県 | 那覇市 | 一万人のエイサー踊り隊 | 沖縄県 |
| 161 | 沖縄県 | 伊良部町 | 伊良部架橋早期実現爬龍舟大レース | 沖縄県 |
| 162 | 沖縄県 | 本部町 | 本部八重岳桜花見まつり | 沖縄県 |
| 163 | 沖縄県 | 宜野湾市 | 第10回ぎのわん車いすマラソン大会 | 琉球新報社 |

## 「第4回 ふるさとイベント大賞」応募イベント一覧

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 北海道 | 東藻琴村 | ノンキーランドふるさとまつり | 都道府県 |
| 2 | 北海道 | 熊石町 | 熊石あわびの里フェスティバル | 都道府県 |
| 3 | 北海道 | 和寒町 | 第4回全日本玉入れ選手権 | 都道府県 |
| 4 | 青森県 | 南郷村 | 南郷サマージャズフェスティバル'99 | 都道府県 |
| 5 | 青森県 | 鶴田町 | 外国青年による津軽弁大会 | 都道府県 |
| 6 | 岩手県 | 二戸広域5市町村 | 劇団カシオペア座第7回公演 in 九戸「捕まったオドデさま」 | 岩手日報社 |
| 7 | 岩手県 | 陸前高田市 | 平成11年度全国太鼓フェスティバル | 都道府県 |
| 8 | 岩手県 | 北上市 | 平和街道高齢者障害者演劇ネットワーク事業 | 都道府県 |
| 9 | 岩手県 | 北上市 | 平成10年度鬼っこわんぱく講座〜集まれ鬼っこわんぱく隊〜 | 都道府県 |
| 10 | 宮城県 | 仙台市 | 杜のいきいきフェスター出あい・ふれあい・助けあい一 | 河北新報社 |
| 11 | 宮城県 | 宮崎町 | 食の文化祭（宮崎町秋まつり） | 都道府県 |
| 12 | 宮城県 | 三本木町 | ひまわりまつり | 都道府県 |
| 13 | 宮城県 | 石巻市 | 第6回サン・ファン祭り | 都道府県 |
| 14 | 秋田県 | 八竜町 | サンドクラフト'99in八竜 | 都道府県 |
| 15 | 秋田県 | 雄和町 | 雄物川流域文化の祭典、全国ハイヤサミットinゆうわ、第15回大正寺おけさまつり | 都道府県 |
| 16 | 秋田県 | 平鹿町 | 槻の木ファンタジー | 都道府県 |
| 17 | 山形県 | 三川町 | '99全国方言大会 | 山形新聞社 |
| 18 | 山形県 | 山形市 | あじさい祭り | 都道府県 |
| 19 | 山形県 | 長井市 | 第10回ながい黒獅子まつり | 都道府県 |
| 20 | 山形県 | 高畠町 | かっぱのむかさり | 都道府県 |
| 21 | 山形県 | 飯豊町 | SNOWえっぐフェスティバル | 山形新聞社 |
| 22 | 山形県 | 村山市 | 日本一の長板そば33間堂 | 山形新聞社 |
| 23 | 山形県 | 小国町 | 小国国際文化フェスティバル | 山形新聞社 |
| 24 | 福島県 | 都路村 | 親子水いらず探検隊 | 福島民報社 |
| 25 | 福島県 | 桑折町 | 献上桃の郷まつり | 都道府県 |
| 26 | 福島県 | 須賀川市 | 松明あかし | 都道府県 |
| 27 | 福島県 | 郡山市 | 磐梯熱海温泉つるりんこ祭 | 都道府県 |
| 28 | 福島県 | 富岡町 | '99合宿の里フェスティバルin富岡 東京六大学応援合戦＆チアリーディング・ステージ | 都道府県 |
| 29 | 茨城県 | 協和町 | 小栗判官まつり | 都道府県 |
| 30 | 茨城県 | 関城町 | 関城の祭典「どすこいベア」 | 都道府県 |
| 31 | 茨城県 | 土浦市 | 99霞ヶ浦バスフィッシングトーナメント イン 土浦 | 都道府県 |
| 32 | 茨城県 | 明野町 | 明野ひまわりフェスティバル | 都道府県 |
| 33 | 茨城県 | 日立市 | 平成11年度ひたち国際大道芸 | 都道府県 |
| 34 | 栃木県 | 鹿沼市 | Do!! おもしろかぬまフェスタ おどんべかぬま | 都道府県 |
| 35 | 群馬県 | 太田市 | 太田市産業フェスティバル | 都道府県 |
| 36 | 群馬県 | 下仁田町 | 平成11年度妙義山さくら祭 | 都道府県 |
| 37 | 群馬県 | 片品村 | 第1回かたしな国際ネイチャースポーツ王選手権大会 | 都道府県 |
| 38 | 埼玉県 | 南河原村 | お絵かきスリッパ展 | 都道府県 |
| 39 | 埼玉県 | 熊谷市 | 光の歩廊 | 都道府県 |
| 40 | 埼玉県 | 加須市 | 加須市民平和祭（ジャンボこいのぼり遊泳） | 都道府県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 41 | 千葉県 | 福祉村・栄町・酒々井 | 手賀沼エコマラソン | 都道府県 |
| 42 | 千葉県 | 八日市場市 | 第21回よかっぺ祭り | 都道府県 |
| 43 | 千葉県 | 館山市 | 南総里見まつり | 都道府県 |
| 44 | 東京都 | 墨田区 | 22万人の平和メッセージ | 毎日新聞社 |
| 45 | 東京都 | 国分寺市 | 武蔵国分寺薪能 | 都道府県 |
| 46 | 東京都 | 新宿区 | 「鉄炮組百人隊」出陣 | 都道府県 |
| 47 | 東京都 | 板橋区 | へそ踊り | 都道府県 |
| 48 | 神奈川県 | 横須賀市 | よこすか海軍カレーフェスティバル | 都道府県 |
| 49 | 神奈川県 | 小田原市 | 城下町おだわらツーデーマーチ | 都道府県 |
| 50 | 神奈川県 | 開成町 | '99開成あじさい祭 | 都道府県 |
| 51 | 新潟県 | 三島町 | 地域いきいき再発見！みしま物語1999 | 都道府県 |
| 52 | 新潟県 | 鹿瀬町 | 花嫁列車 | 都道府県 |
| 53 | 新潟県 | 赤泊村 | 全国民話の郷サミット in 佐渡 | 都道府県 |
| 54 | 富山県 | 井波町 | いなみ国際木彫刻キャンプ'99 | 都道府県・北日本新聞社 |
| 55 | 富山県 | 小矢部市 | メルヘン99 | 都道府県 |
| 56 | 富山県 | 上市町 | 剣岳雪のフェスティバル | 都道府県 |
| 57 | 石川県 | 七尾市 | 西湊・山の寺まつり | 都道府県 |
| 58 | 石川県 | 輪島市 | 1999地球環境米・米フォーラムin輪島 | 都道府県 |
| 59 | 石川県 | 鳥越村 | 鳥越村一向一揆まつり | 都道府県 |
| 60 | 福井県 | 敦賀市 | つるが・きらめきみなと博21 | 福井新聞社 |
| 61 | 福井県 | 大野市 | 平成大野屋まつり1999 | 都道府県 |
| 62 | 福井県 | 池田町 | 越前池田の「技」だ!99農林ピック 越前池田の「味」だ！そばフェスタ99 | 都道府県 |
| 63 | 福井県 | 織田町 | O・TA・I・KO響'99 | 都道府県 |
| 64 | 山梨県 | 甲府市 | 甲府ウィーク | 都道府県 |
| 65 | 山梨県 | 市川大門町 | 99いちかわだいもんふるさと夏祭り | 都道府県 |
| 66 | 山梨県 | 河口湖町 | 冬花火・湖上の舞 | 都道府県 |
| 67 | 長野県 | 岡谷市 | 世界マリンバフェスティバル「岡谷」 | 信濃毎日新聞社 |
| 68 | 長野県 | 上山田町 | 信州更科の里そばまつり | 都道府県 |
| 69 | 長野県 | 南箕輪村 | 大芝高原まつり | 都道府県 |
| 70 | 岐阜県 | 神戸町 | 夜叉ヶ池伝説マラニック大会 | 岐阜新聞社 |
| 71 | 岐阜県 | 坂内村 | 坂内村生涯学習村づくり事業 創作音楽舞踏劇「夜叉ヶ池」 | 都道府県 |
| 72 | 岐阜県 | 穂積町 | 町民ミュージカル 水辺歌合戦「歌え！へーえもん」 | 都道府県 |
| 73 | 岐阜県 | 上宝村 | 東海雪合戦大会 | 都道府県 |
| 74 | 静岡県 | 藤枝市 | 第7回全国PK選手権大会inFUJIEDA | 都道府県 |
| 75 | 静岡県 | 熱海市 | 湯めまちをどり「華の舞」 | 都道府県 |
| 76 | 愛知県 | 名古屋市 | からくりデザインフェスティバル'99 | 都道府県 |
| 77 | 愛知県 | 春日井市 | 第7回春日井シンポジウム 継体サミット&継体シンポジウム | 都道府県 |
| 78 | 愛知県 | 平和町 | HEIWAの手づくり絵はがきコンテスト | 都道府県 |
| 79 | 愛知県 | 一色町 | 弁天海港・佐久島第2回アートフェスティバル | 都道府県 |
| 80 | 三重県 | 三重県 | 東紀州体験フェスタ | 都道府県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 81 | 三重県 | 明和町 | 斎王まつり | 都道府県 |
| 82 | 三重県 | 関町 | 東海道関宿街道まつり | 都道府県 |
| 83 | 三重県 | 阿児町 | 伊勢志摩真珠フェア'99 | 都道府県 |
| 84 | 滋賀県 | 八日市市 | 八日市大凧まつり | 都道府県 |
| 85 | 滋賀県 | 愛東町 | 第13回全日本あいとう４時間耐久三輪車レース | 都道府県 |
| 86 | 滋賀県 | 朽木村 | 鯖街道ふれ味道中 | 都道府県 |
| 87 | 滋賀県 | 伊吹町 | 雪合戦奥伊吹バトル＆かまくら祭1999 | 都道府県 |
| 88 | 京都府 | 京都市 | 堀川桜祭り～都市生活と水環境～ | 京都新聞社 |
| 89 | 京都府 | 京都府 | '99丹波公園まつり | 都道府県 |
| 90 | 京都府 | 舞鶴市 | 旧軍港四市グルメ市民交流大会 | 都道府県 |
| 91 | 京都府 | 園部町 | そのべ収穫祭 | 都道府県 |
| 92 | 京都府 | 久美浜町 | ドラゴンカヌー町民大会・久美浜ドラゴンカヌー選手権大会 | 都道府県 |
| 93 | 大阪府 | 豊中市 | 「まちづくり展示館」を使った地域に根ざした文化活動の発掘・育成と紹介の取組 | 都道府県 |
| 94 | 大阪府 | 堺市 | 堺大魚夜市 | 都道府県 |
| 95 | 大阪府 | 高槻市 | こいのぼりフェスタ1000 | 都道府県 |
| 96 | 大阪府 | 泉南市・阪南市・田尻町 | つばさのまちフェスタ'99 | 都道府県 |
| 97 | 兵庫県 | 柏原町 | 丹波の森国際音楽祭ーシューベルティアーデたんば'99 | 都道府県 |
| 98 | 兵庫県 | 豊岡市 | 但馬空港フェスティバル | 都道府県 |
| 99 | 兵庫県 | 加美町 | 千ヶ峰気絶寸前登頂マラソン全国大会 | 都道府県 |
| 100 | 奈良県 | 奈良市 | なら燈花会（とうかえ） | 都道府県 |
| 101 | 奈良県 | 奈良県 | 吉野サマー・トンネルパーク物語（吉野魅感体験フェスティバル感動発見1999） | 都道府県 |
| 102 | 奈良県 | 大和郡山市 | 全国金魚すくい選手権大会 | 都道府県 |
| 103 | 奈良県 | 上北山村 | 水のよろこび・上北山村清流祭り | 都道府県 |
| 104 | 和歌山県 | 那賀町 | 華岡青洲フェスティバル'99inNAGA | 都道府県 |
| 105 | 和歌山県 | 日高町 | クエ・フェア | 都道府県 |
| 106 | 和歌山県 | 橋本市 | 第50回紀の川祭 | 都道府県 |
| 107 | 鳥取県 | 境港市 | さかいみなと妖怪オブジェ作品コンクール | 都道府県 |
| 108 | 島根県 | 出雲市 | 出雲「花と緑」総合フェスティバル | 都道府県 |
| 109 | 島根県 | 平田市 | 唐川新茶まつり | 都道府県 |
| 110 | 島根県 | 美保関町 | エビスカップ全日本海上綱引き選手権大会 | 都道府県 |
| 111 | 島根県 | 多伎町 | スイムランin多伎 | 都道府県 |
| 112 | 岡山県 | 倉敷市・玉野市他２町５社 | 海の市・山の市・蒜山フェスタ'99 | 都道府県・山陽新聞社 |
| 113 | 岡山県 | 加茂川町 | 新春夢花火 | 都道府県 |
| 114 | 岡山県 | 玉野市 | たまの・港フェスティバル | 都道府県 |
| 115 | 広島県 | 広島県 | 瀬戸内海大橋完成記念イベント「しまなみ'99」 | 都道府県 |
| 116 | 広島県 | 広島市 | 広島ゆかた祭り | 都道府県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 117 | 広島県 | 東城町 | お通り | 都道府県 |
| 118 | 山口県 | 宇部市 | 宇部まつり | 都道府県 |
| 119 | 徳島県 | 東祖谷山村 | 祖谷平家まつり | 都道府県・徳島新聞社 |
| 120 | 徳島県 | 一宇村他３町村 | とくしま剣山一気登りマラソン大会 | 都道府県・徳島新聞社 |
| 121 | 徳島県 | 鳴門市 | ドイチェス・フェストinなると | 都道府県 |
| 122 | 香川県 | 丸亀市 | 月見の宴 | 都道府県 |
| 123 | 香川県 | 牟礼町 | はらハラ腹相撲 | 都道府県 |
| 124 | 香川県 | 牟礼町 | こ～りゃんせ'99 | 都道府県 |
| 125 | 愛媛県 | 新居浜市 | 全国お手玉遊び大会 | 愛媛新聞社 |
| 126 | 愛媛県 | 双海町 | 夕焼けプラットホームコンサート | 都道府県 |
| 127 | 愛媛県 | 大洲市 | おおず浪漫祭'99 | 都道府県 |
| 128 | 愛媛県 | 宇和町 | たんぽプロジェクト2000 | 都道府県 |
| 129 | 高知県 | 伊野町 | 仁淀川紙のこいのぼり | 都道府県 |
| 130 | 高知県 | 中村市・十和村・西土佐村 | 第６回四万十川ウルトラマラソン | 都道府県 |
| 131 | 高知県 | 高知市 | 1999よさこい全国大会 | 都道府県 |
| 132 | 福岡県 | 大牟田市 | 県境大綱引き大会 | 都道府県 |
| 133 | 福岡県 | 福岡市 | ラブアース・クリーンアップ'99 | 都道府県 |
| 134 | 福岡県 | 直方市 | '99のおがたチューリップフェア | 都道府県 |
| 135 | 佐賀県 | 牛津町 | 牛津町産業まつり～西の浪花の復活祭～ | 都道府県 |
| 136 | 佐賀県 | 山内町 | 黒髪の浪曼まつり | 都道府県 |
| 137 | 佐賀県 | 三田川町 | 吉野ヶ里炎祭り | 都道府県 |
| 138 | 長崎県 | 佐世保市 | きらきらフェスティバル | 長崎新聞社 |
| 139 | 熊本県 | 熊本市 | 九州・沖縄ドライブ博'99 | 熊本日日新聞社 |
| 140 | 熊本県 | 波野村 | 第８回神楽フェスティバル | 都道府県 |
| 141 | 熊本県 | 熊本市 | くまもとお城まつり | 都道府県 |
| 142 | 熊本県 | 湯前町 | ゆのまえマンガフェスタ | 都道府県 |
| 143 | 大分県 | 臼杵市 | 竹光芸まつり | 都道府県 |
| 144 | 大分県 | 緒方町 | 小松明（こだい）火祭り～真夏の夜の感動物語～ | 都道府県 |
| 145 | 大分県 | 上浦町 | 豊後二見ヶ浦しめ縄張り替え | 都道府県 |
| 146 | 宮崎県 | 南郷村 | 師走祭り“迎え火” | 都道府県 |
| 147 | 宮崎県 | 都城市 | 第３回国際弓道大会（第12回都城弓祭り全国弓道大会） | 都道府県 |
| 148 | 宮崎県 | 椎葉村 | '99椎葉平家まつり | 都道府県 |
| 149 | 鹿児島県 | 鹿児島県 | ザビエル450フェスタ～かごしま・スペイン・ポルトガル観光物産展～ | 都道府県 |
| 150 | 鹿児島県 | 川内市 | 薩摩国分寺ふれあい文化事業 | 都道府県 |
| 151 | 鹿児島県 | 瀬戸内町 | 99奄美シーカヤックマラソンIN加計呂麻 | 都道府県 |
| 152 | 沖縄県 | 伊平屋村 | 第５回伊平屋ムーンライトマラソン | 琉球新報社 |

# 「第5回 ふるさとイベント大賞」応募イベント一覧

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 北海道 | 函館市 | はこだてクリスマスファンタジー | 北海道 |
| 2 | 北海道 | 小樽市 | 小樽雪あかりの路 | 北海道 |
| 3 | 北海道 | 端野町 | たんのカレーライスマラソン | 北海道 |
| 4 | 北海道 | 阿寒町 | 日蘭交流400周年記念阿寒国際スケートマラソン大会 | 北海道 |
| 5 | 北海道 | 札幌市 | MIX2000（MUSIC & INTERACTIVE INDEX） | 北海道新聞社 |
| 6 | 青森県 | 青森市 | 「版画の街・あおもり」青森版画展2000 | 青森県 |
| 7 | 青森県 | 八戸市 | 湊ふるさとフェスティバル | 青森県 |
| 8 | 青森県 | むつ市 | 津軽海峡文化交流子ども歌舞伎フェスティバル | 青森県 |
| 9 | 青森県 | 尾上町 | 旧家・庭園・生け垣・植木問屋めぐり | 青森県 |
| 10 | 岩手県 | 遠野市 | カッパの里帰り事業 | 岩手県 |
| 11 | 岩手県 | 大船渡市 | 大船渡・かがり火まつり | 岩手県 |
| 12 | 岩手県 | 東和町 | とうわ子ども落語塾〔発表会〕 | 岩手県 |
| 13 | 岩手県 | 水沢市 | 水沢イルミネーション事業「光のルネッサンス」 | 岩手県 |
| 14 | 岩手県 | 大野村 | 24時間眠らない村 | 岩手日報社 |
| 15 | 宮城県 | 大和町 | 第４回大和ゆめまつり | 宮城県 |
| 16 | 宮城県 | 岩出山町 | 岩出山バルーンフェスティバル | 宮城県 |
| 17 | 宮城県 | 唐桑町 | リアス牡蠣まつり唐桑 | 宮城県 |
| 18 | 宮城県 | 大河原町 | おたづもっこ文化祭・NPOフォーラム《NPOいずいッ》 | 宮城県 |
| 19 | 秋田県 | 八竜町 | サンドクラフト2000 in 八竜 | 秋田県 |
| 20 | 秋田県 | 山内村 | いものこまつり in 鶴ヶ池 | 秋田県 |
| 21 | 秋田県 | 仙北町 | まつり彩夏SENBOKU | 秋田県 |
| 22 | 山形県 | 東根市 | Look for伝承文化 | 山形県 |
| 23 | 山形県 | 山形市 | 新世紀やまがた創造イベント | 山形県 |
| 24 | 山形県 | 米沢市他 | おきたまフラワーフェスティバル　花YEAR2000 | 山形県 |
| 25 | 福島県 | 須賀川市 | 松明あかし | 福島県 |
| 26 | 福島県 | 白河市 | しらかわ市（いち） | 福島県 |
| 27 | 福島県 | 只見町 | 只見ふるさとの雪まつり | 福島県 |
| 28 | 茨城県 | 土浦市他 | 第10回市制施行60周年記念　かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会 | 茨城県 |
| 29 | 茨城県 | ひたちなか市 | でっけ絵年賀状2001inひたちなか | 茨城県 |
| 30 | 茨城県 | 取手市 | 頑固者賞 | 茨城県 |
| 31 | 茨城県 | 取手市 | 取手アートプロジェクト2000 | 茨城県 |
| 32 | 栃木県 | 小山市 | 新世紀カウントダウンIN OYAMA | 栃木県 |
| 33 | 栃木県 | 岩舟町 | 岩船山クリフステージ野外コンサート | 栃木県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 34 | 栃木県 | 足尾町 | 第１回足尾グリーンフォーラム　“よみがえれ！足尾の緑” | 栃木県 |
| 35 | 栃木県 | 湯津上村 | どろんこレースチャンピオンシップ | 栃木県 |
| 36 | 群馬県 | 前橋市 | 遊びの庭　一楽市・楽座一 | 群馬県 |
| 37 | 群馬県 | 桐生市 | 桐生ファッションウィーク | 群馬県 |
| 38 | 群馬県 | 甘楽町 | 城下町小幡さくら祭り武者行列 | 群馬県 |
| 39 | 群馬県 | 高崎市 | 大獅子舞大会 | 群馬県 |
| 40 | 群馬県 | 草津市 | 草津町制施行100周年記念事業「草津御湯御用」 | 群馬県 |
| 41 | 埼玉県 | 埼玉県 | さいたま新都心街びらき記念フェスティバル | 埼玉県 |
| 42 | 埼玉県 | 所沢市 | 全国だんごまつりin所沢 | 埼玉県 |
| 43 | 千葉県 | 銚子市 | 世紀越えイベントin銚子 | 千葉県 |
| 44 | 千葉県 | 岬町他 | 東農地区青少年健全育成24時間チャリティーソフトボール大会　おいもこ（OIMOKO）24 | 千葉県 |
| 45 | 千葉県 | 佐倉市 | 佐倉・時代まつり | 千葉県 |
| 46 | 東京都 | 三鷹市 | 新川丸池公園開園式 | 東京都 |
| 47 | 東京都 | 目黒区 | 第24回目黒区民まつり | 東京都 |
| 48 | 東京都 | 板橋区 | いたばし産業見本市2000 | 東京都 |
| 49 | 東京都 | 北区 | 健康づくりモデル地区事業　健康ふれあいまつり | 東京都 |
| 50 | 東京都 | 荒川区 | あらかわカウントダウンページェント～音楽で迎える21世紀～ | 東京都 |
| 51 | 東京都 | 江東区 | 水彩フェスティバル | 東京都 |
| 52 | 神奈川県 | 小田原市 | 全国童謡フェスティバル～白秋IN小田原～ | 神奈川県 |
| 53 | 神奈川県 | 平塚市 | 2000湘南ひらつか囲碁まつり | 神奈川県 |
| 54 | 新潟県 | 十日町市他 | 大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ2000 | 新潟県 |
| 55 | 新潟県 | 村上市 | 城下町村上　町屋の人形さま巡り | 新潟県 |
| 56 | 新潟県 | 新発田市 | ページェント2000「この豊かなる大地の賛歌」PART3 | 新潟県 |
| 57 | 新潟県 | 川口町 | 雪洞火ぼたる祭 | 新潟県 |
| 58 | 富山県 | 黒部市 | オランダまるごとフェア | 富山県、北日本新聞社 |
| 59 | 富山県 | 小矢部市 | 源平火牛祭り | 富山県 |
| 60 | 富山県 | 上市町 | ふるさと観光上市まつり | 富山県 |
| 61 | 石川県 | 七尾市 | 七尾・祭りの國フェスティバル（能登キリコフェスティバル） | 石川県 |
| 62 | 石川県 | 小松市 | 全国子供歌舞伎フェスティバルin小松 | 石川県 |
| 63 | 石川県 | 押水町 | 押水漁火モーゼフェスタ　YOSAKOIソーランのとまつり | 石川県 |
| 64 | 石川県 | 金沢市 | 第13回二俣紙すきの里まつり | 北國新聞社 |
| 65 | 石川県 | 金沢市 | 内川鎮守の森ギャラリー | 北國新聞社 |
| 66 | 福井県 | 勝山市他 | 恐竜エキスポふくい2000 | 福井県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 67 | 福井県 | 今立町 | 今立現代美術紙展　ART CAMP 2000 | 福井県 |
| 68 | 福井県 | 池田町 | 越前池田の「技」だ!2000農林ピック　越前池田の「味」だ!そばフェスタ2000 | 福井県 |
| 69 | 福井県 | 越前町 | ビッグラブ2000 | 福井県 |
| 70 | 山梨県 | 甲府市 | 甲府城築城400年記念　甲府ウィーク2000 | 山梨県 |
| 71 | 山梨県 | 山梨市 | 万葉うたまつりとホタル鑑賞会 | 山梨県 |
| 72 | 山梨県 | 一宮町 | 甲斐いちのみや大文字焼き | 山梨県 |
| 73 | 山梨県 | 高根町 | 長沢鯉のぼり祭り | 山梨県 |
| 74 | 長野県 | 茅野市 | 茅野市5000年祭―尖石縄文考古館オープニングフェスティバル | 長野県 |
| 75 | 長野県 | 上田市 | ミレニアムクリスマス&21世紀カウントダウンイベント | 長野県 |
| 76 | 長野県 | 中野市 | たべごろ信州中野フェスタ2000 | 長野県 |
| 77 | 長野県 | 松本市 | ネイチャリングフェスタ「自然と遊ぼう in 松本」 | 長野県 |
| 78 | 岐阜県 | 大垣市他 | ウエルカム21西濃メインイベント　関ヶ原合戦400年祭 | 岐阜県 |
| 79 | 岐阜県 | 上之保村 | 第7回「円空さんに挑戦」 | 岐阜県 |
| 80 | 岐阜県 | 明宝村 | めいほう高原音楽祭 | 岐阜県 |
| 81 | 岐阜県 | 多治見市他 | 飛騨美濃体験博　美濃焼窯場めぐり | 岐阜県 |
| 82 | 岐阜県 | 大垣市 | 決戦関ヶ原　大垣博 | 岐阜新聞社 |
| 83 | 静岡県 | 西伊豆町 | 夕陽を見る会 | 静岡県 |
| 84 | 静岡県 | 静岡市 | 本山茶飲快適空間創造 | 静岡県 |
| 85 | 静岡県 | 静岡市 | ストリートフェスティバル・イン・シズオカ | 静岡県 |
| 86 | 愛知県 | 足助町 | 中馬のおひなさん | 愛知県 |
| 87 | 愛知県 | 幡豆町 | はずストーンカップチャレンジレース | 愛知県 |
| 88 | 愛知県 | 東栄町 | 東栄町2000年記念イベント　TOEI Welcome21　木と遊ぼ!! | 愛知県 |
| 89 | 愛知県 | 常滑市 | やきもの散歩道フェスティバル | 愛知県 |
| 90 | 滋賀県 | 八日市市 | 二五八祭 | 滋賀県 |
| 91 | 滋賀県 | 草津市 | 宿場400年祭関連イベント「第33回草津宿場まつり」 | 滋賀県 |
| 92 | 滋賀県 | 大津市 | 大津市主要八カ国環境大臣会合推進事業「あたたかい気持実現プラン」 | 滋賀県 |
| 93 | 滋賀県 | びわ町 | 琵琶湖ジョギングコンサート | 滋賀県 |
| 94 | 京都府 | 京都市 | 21世紀京都幕開け記念事業・京都21 | 京都府 |
| 95 | 京都府 | 福知山市 | ふくちのお宝展2000 | 京都府 |
| 96 | 京都府 | 笠置町 | 石・彩なす笠置　かたち | 京都府 |
| 97 | 京都府 | 八木町 | 氷（ロック）フェスティバル2000in氷室 | 京都府 |
| 98 | 大阪府 | 堺市 | 西暦2000年世界民族芸能祭“ワッショイ!2000” | 大阪府 |
| 99 | 大阪府 | 池田市 | 池田五月山大一文字点灯・大文字献灯、がんがら火祭り | 大阪府 |
| 100 | 大阪府 | 高槻市 | こいのぼりフェスタ1000 | 大阪府 |
| 101 | 大阪府 | 和泉市 | ミレニアム・フェスタ池上曽根「いずみの国弥生まつり2000」 | 大阪府 |
| 102 | 兵庫県 | 温泉町 | 第1回全日本かくれんぼ大会 | 兵庫県 |
| 103 | 兵庫県 | 加美町 | 杉原紙の里から100万円のお年玉 | 兵庫県 |
| 104 | 兵庫県 | 村岡町 | 村岡ダブルフル・ウルトラランニング | 兵庫県 |
| 105 | 兵庫県 | 豊岡市 | 但馬まるごと感動市 | 兵庫県 |
| 106 | 奈良県 | 奈良市 | なら燈花会 | 奈良県 |
| 107 | 奈良県 | 斑鳩町 | 斑鳩の里ふるさと秋祭り | 奈良県 |
| 108 | 奈良県 | 下市町 | かぶと虫の森 | 奈良県 |
| 109 | 奈良県 | 王寺町 | 夢おこし王寺　ベルフェスタ2000 | 奈良県 |
| 110 | 奈良県 | 大和郡山市 | 第6回全国金魚すくい選手権大会 | 奈良新聞社 |
| 111 | 和歌山県 | 海南市 | 紀州漆器まつり | 和歌山県 |
| 112 | 和歌山県 | 吉備町 | きびどんどん! | 和歌山県 |
| 113 | 和歌山県 | 白浜町 | 砂まつり大会 | 和歌山県 |
| 114 | 和歌山県 | 和歌山市 | 21世紀へのカウントダウン　=紀淡海峡大橋を実現させよう!= | 和歌山県 |
| 115 | 和歌山県 | 新宮市 | 二県交流綱引き大会 | 和歌山県 |
| 116 | 鳥取県 | 鳥取市他 | 鳥取砂丘新発見伝 | 鳥取県 |
| 117 | 鳥取県 | 岩美町 | 田後港大漁感謝祭／鳥取かにフェスタ2000 | 鳥取県 |
| 118 | 鳥取県 | 智頭町 | 田んぼの学校 in 新田 | 鳥取県 |
| 119 | 鳥取県 | 国府町 | 万葉カウントダウンinこくふ　~Flap in the new century~ | 新日本海新聞社 |
| 120 | 島根県 | 平田市 | 新日本泥田バレーボール大会 | 島根県 |
| 121 | 島根県 | 益田市 | 現代版地芝居「君をこの胸に抱くための永いながい旅」 | 島根県 |
| 122 | 島根県 | 出雲市 | カウントダウン・ウエルカム21@出雲ドーム | 島根県 |
| 123 | 島根県 | 邑智町 | カヌーの里おおち　カヌーツーリング駅伝大会 | 島根県 |
| 124 | 岡山県 | 井原町 | 21世紀カウントダウン | 岡山県 |
| 125 | 岡山県 | 建部町 | 岡山弁はええもんじゃ | 岡山県 |

| NO. | 都道府県 | 市区町村等 | イベント名 | 推薦者 |
|---|---|---|---|---|
| 126 | 岡山県 | 中央町 | ミレニアム事業「新時代誕生」 | 岡山県 |
| 127 | 岡山県 | 新庄村 | 第17回がいせん桜祭り | 岡山県 |
| 128 | 広島県 | 福山市 | 第7回ゲタリンピック2000 | 広島県 |
| 129 | 山口県 | 下関市 | 第3回長州音維新　音の奇兵隊ランドゥーガ大演奏 | 山口県 |
| 130 | 山口県 | 宇部市 | 2000年を迎えるつどい | 山口県 |
| 131 | 山口県 | 萩市 | SHOWINウォーク | 山口県 |
| 132 | 山口県 | 萩市 | 萩時代まつり | 山口県 |
| 133 | 山口県 | 光市 | 光市民ミュージカル「きばのないおおかみ」公演 | 山口県 |
| 134 | 徳島県 | 鴨島町 | 空海をたどるいやしの道ウォーク | 徳島県・徳島新聞社 |
| 135 | 徳島県 | 日和佐町 | 迎春イベント | 徳島県 |
| 136 | 徳島県 | 神山町 | 神山アーティスト・イン・レジデンス | 徳島県・徳島新聞社 |
| 137 | 徳島県 | 徳島市 | 冬まつり「とくしま夢あかり21」 | 徳島県・徳島新聞社 |
| 138 | 香川県 | 琴平町 | こんぴら温泉まつり | 香川県 |
| 139 | 香川県 | 牟礼町 | はらハラ腹相撲 | 香川県 |
| 140 | 香川県 | 牟礼町 | こ〜りゃんせ2000 | 香川県 |
| 141 | 愛媛県 | 新居浜市 | 第9回全国お手玉遊び大会 | 愛媛県・愛媛新聞社 |
| 142 | 愛媛県 | 松山市 | 「だから、ことば」大募集から始まる松山21世紀イベント | 愛媛県 |
| 143 | 愛媛県 | 大洲市 | おおず浪漫祭2000 | 愛媛県 |
| 144 | 愛媛県 | 吉海町 | よしうみバラ祭り2000―秋― | 愛媛県 |
| 145 | 高知県 | 野市町 | のいち佐古まつり | 高知県 |
| 146 | 高知県 | 窪川町 | 谷干城まつり | 高知県 |
| 147 | 福岡県 | 大牟田市 | 清掃週間記念イベント | 福岡県 |
| 148 | 福岡県 | 大川市 | 大川木工まつり | 福岡県 |
| 149 | 福岡県 | 大川市 | 古賀政男記念「大川音楽祭」 | 福岡県 |
| 150 | 福岡県 | 三輪町 | 朗読公演2000 | 福岡県 |
| 151 | 佐賀県 | 佐賀県 | 環境フェア「エコライフ21」 | 佐賀県 |
| 152 | 佐賀県 | 鹿島市 | 鹿島伝承芸能フェスティバル | 佐賀県 |
| 153 | 佐賀県 | 嬉野町 | うれしのほほん着物園遊会「和」大茶会 | 佐賀県 |
| 154 | 佐賀県 | 佐賀県 | 2000年元気まつり | 佐賀県 |
| 155 | 佐賀県 | 中原町 | 第1回全日本うちわ選手権ウインドブルドン in 中原 | 佐賀県 |
| 156 | 長崎県 | 長崎市他 | 日蘭交流400周年記念事業　西暦2000年「ながさき阿蘭陀年」 | 長崎県 |
| 157 | 長崎県 | 長崎市 | ながさき阿蘭陀年「21世紀へのカウントダウン」 | 長崎県 |
| 158 | 長崎県 | 平戸市 | 12Xおらんだ | 長崎県 |
| 159 | 長崎県 | 千々石町 | 観桜火宴 | 長崎県 |
| 160 | 長崎県 | 有家町 | じゅっ田んぼありえ | 長崎県 |
| 161 | 長崎県 | 玉之浦町 | 20世紀最後の夕陽鑑賞会 | 長崎県 |
| 162 | 長崎県 | 美津島町 | 対馬ちんぐ音楽祭 | 長崎県 |
| 163 | 長崎県 | 長崎市 | 長崎ランタンフェスティバル | 長崎新聞社 |
| 164 | 熊本県 | 大矢野町 | 天草パールラインマラソン大会 in 大矢野2000 | 熊本県 |
| 165 | 熊本県 | 南関町 | GET21なんかん　音と光のカウントダウン2001 | 熊本県 |
| 166 | 熊本県 | 菊池市 | 菊池一族ふるさと祭り「菊人形菊まつり展」 | 熊本県 |
| 167 | 熊本県 | 湯前町 | ゆのまえ漫画フェスタ2000 | 熊本県 |
| 168 | 熊本県 | 益城町 | 健やかあそび博2000 | 熊本日日新聞 |
| 169 | 大分県 | 緒方町 | おがた井路まつり | 大分県 |
| 170 | 大分県 | 庄内町 | 庄内神楽祭り | 大分県 |
| 171 | 大分県 | 上浦町 | 豊後二見ヶ浦しめ縄張り替え | 大分県 |
| 172 | 大分県 | 安心院町 | 第2回全国藁こずみ大会 | 大分合同新聞社 |
| 173 | 宮崎県 | 宮崎市 | 宮崎城400年祭 | 宮崎県 |
| 174 | 宮崎県 | 延岡市 | 「第九」メドフォード公演 | 宮崎県 |
| 175 | 宮崎県 | 日向市 | 日向はまぐり碁石まつり | 宮崎県 |
| 176 | 宮崎県 | 串間市 | 都井岬火まつり | 宮崎県 |
| 177 | 鹿児島県 | 鹿児島県 | 世界自然遺産会議 | 鹿児島県 |
| 178 | 鹿児島県 | 伊集院町 | 関ヶ原合戦400年祭INかごしま・伊集院 | 鹿児島県・南日本新聞社 |
| 179 | 鹿児島県 | 松山町 | 大隈の國やっちく松山藩　秋の陣まつり | 鹿児島県 |
| 180 | 鹿児島県 | 鹿児島市 | 第1回かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会 | 鹿児島県 |
| 181 | 沖縄県 | 名護市他 | ツール・ド・おきなわ2000 | 沖縄県 |
| 182 | 沖縄県 | 具志川市 | 具志川市サミット記念　第15回全島婦子舞フェスティバル　アジア婦子舞フェスティバル | 沖縄県 |
| 183 | 沖縄県 | 与那国町 | 与那国〈沖縄〉~花蓮〈台湾〉友好親善ヨットレース2000 | 沖縄県 |

# 受賞イベント事例

祭り……P22
スポーツ……P40
文化・交流……P54
産業・観光……P84
ミレニアム……P90

# 立佞武多の運行

～優秀賞（第3回）～

## 青森県五所川原市

人口：50,385人

主催　　五所川原立佞武多運営委員会
メイン会場　五所川原市内

## 内　容

地元の夏まつりとして８月３日～８日に開催されている「五所川原立佞武多」では、花火大会とねぷた運行が行われる。３日には岩木川河川敷にて、約５千発の花火が打ち上げられ、観客も約20万人と津軽地方で最大の規模で開催される。

４日～８日には、夕方になると各町内・団体のねぷたが、出発地となるJR五所川原駅前に集合し、高さ約22m・重さ約16tの「立佞武多」3台とともに市内約1.5kmを運行する。

夕闇の中、「立佞武多」に灯が入ると、天をつくように夜空に浮かび上がる様は圧巻である。

立佞武多は、地域のボランティアとともに製作と運行が行われており、ねぷたには皆のさまざまな願いや思いが込められている。

立佞武多の運行は、約30名の引き手による人力で行われ、ビル７階相当もある立佞武多が近づいてくる様子は、見る者を圧倒する迫力と勇壮さを持ち、その魅力はどんなメディアを駆使しても伝えきれないものがある。

山車としての立佞武多のすごさとともに、夏まつりの運行のために、各町内・団体では囃子や踊りの練習等を懸命に重ねており、そのエネルギーに満ちた運行をぜひ一度は見てほしい。





## 開催への契機・経緯

当市では、明治から大正時代初期にかけて、高さ10間（18m）もの巨大なねぷたが数百人の若者によって担がれ、町内を練り歩き、その勇壮な姿は、当市から約12kmも離れた隣の町からも見えたと伝えられている。

しかし、大正２年に電気が普及したことにより町に電線が張り巡らされ、巨大なねぷたはその姿を消し、小型化されてしまった。

地域の祭り好きな仲間の間では、この巨大なねぷたをぜひ一度はみてみたいものだと話になっていた。平成８年になり、自分たちの手で、巨大なねぷたを作ろうと、その有志たちが結集し、一枚の昔の写真をもとに巨大なねぷたを復元させた。

このことが後に大きな反響を呼び、行政が支援を行い、平成10年、約１世紀ぶりに「立佞武多の運行」が復活したのである。

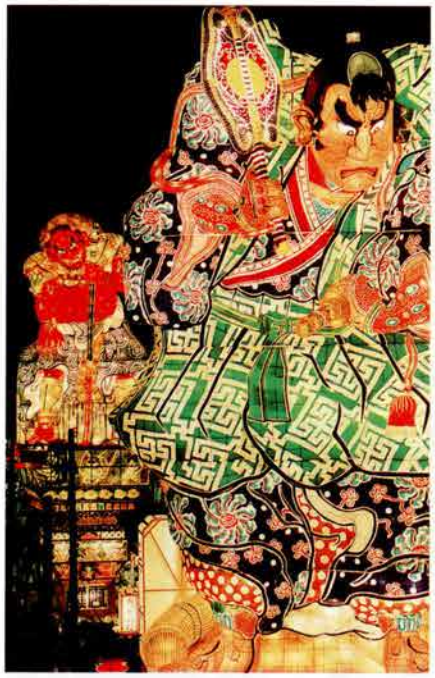
## 目的・基本方針

「五所川原立佞武多」は、地域の有志が結集し復活させたことがきっかけとなって始まり、平成10年からは地域の活性化を図るための起爆剤として活用することとなった。そのため、市が中心となって製作されるのだが、地域のボランティアとともに進められており、その製作作業は紙貼り・色付けなどの簡単な作業が多く、地域の小学生や親子連れも参加している。

また観光客も製作所を見学に訪れた際にはボランティアとして、作業に携わることができる体制になっている。

## 開催にあたって考慮している点

立佞武多はその復活した経緯が地域の有志によるものであり、平成10年から市が活性化に活用するために取り組んでいる。立佞武多の製作・運行とともに地域住民と一体になって運営することが今後の発展のために不可欠である。



夏まつりは、地元の商工会議所が中心となって開催されているが、立佞武多を運行させるためには、コース上に横断する電線等の障害を取り除く必要があり、行政がこれを行っている。また、立佞武多の運行には人手が必要で、地元の観光協会が主体となって運行要員を確保しており、製作・運行ともに地域一丸となって立佞武多の運営が行われている。

イベント時には観光客が多数訪れており、近隣市町村と連携しながら各地域が持つ特色や観光資源を活用し、地域一体となって受け入れており、立佞武多を地域の観光の柱と位置付け、全体の発展につなげるように努めている。

## 波及効果

当市では、立佞武多が出現するまで、全国に誇れる特産物や観光資源のない地域であった。しかし、立佞武多が全国のテレビ・新聞をはじめとするメディアで広く紹介されたことにより、津軽五所川原の知名度が向上し、当市のシンボルとして定着している。

夏まつりの観客数は、従来50～60万人であったものが、100万人を超えるようになり、一時的ではあるものの津軽地域の活性化が図られるようになった。来客数の多さから地域の旅館や商店では、立佞武多を積極的に取り入れるようになり、意識の改革が始まっている。また、近隣町村へ観光に訪れる客数も増加しており、互いに協力しあうことにより、広域的な活性化も図られた。

## 課題・今後の展望

祭りの際には、観光客が殺到してにぎわっているが、キャパシティの無さから受け入れ態勢が整っていない。そのため、広域的な取り組みにより対応することが不可欠であり、今後は地域住民全体で考えていかなければならない。

また、その賑わいも一過性のイベントにとどまっており、通年で立佞武多を活用してゆくことが必要で、そのために平成16年度から運営予定となっている立佞武多展示施設をどのように活用し、維持していくのかを熟考しなければならない。

この施設をどのように津軽地域の通年観光の活性化に役立てるのかが課題となっている。



| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月3日～8月8日　6日間（第4回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 一般 |
| 入場者数／目標入場者数 | 120万人／100万人 |
| 共催・後援等 | ●共催／㈳五所川原市観光協会、五所川原商工会議所　●後援／五所川原市 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：37,000千円　財源内訳／スポンサー収入：20,000千円　賛助金：1,500千円　補助金：9,600千円<br>雑収入：2,300千円　一般：3,600千円 |

問い合わせ先　㈳五所川原市観光協会　TEL：0173-38-1515　http://www.tachi-neputa.com/

# 「鉄炮組百人隊」出陣 ～選考委員特別賞（第4回）～

## 東京都新宿区

人口：263,624人

主催　　鉄炮隊百人隊保存会
メイン会場　新宿区百人町周辺９ヶ所にて火縄銃による試射演武





## 内　容

地方の守護神「皆中稲荷神社」の秋季例大祭奉納を目的とするため、皆中稲荷神社を出発し、町内９ヵ所を巡行し、約220の甲冑武者（内36名の鉄炮同心）が、それぞれの役職の装束にて行列し、約７kmを歩き、最後に西戸山野球場にて、模擬合戦演武を行い、出発点である皆中稲荷神社へ帰着する約４時間半に及ぶ行列である。

## 開催への契機・経緯

昭和36年、皆中稲荷神社氏子会の発案にて、地名の由来ともなっている「鉄炮百人組」を復活し、まちおこしの一環とすることが最初である。

「鉄炮百人組」は、徳川将軍家の警護を主目的として創設され（1601年）、江戸４組（伊賀組、甲賀組、根来組、25騎組）の内の大久保百人町の組は伊賀組になる。江戸時代の鉄炮百人組は幕末の文久12年に廃止になった。

## 目的・基本方針

地域の埋もれた歴史的民族文化を、後世に保存、継承することと地域を愛する心を養うこと、又、豊かな心を養い、芸術、文化をたしなむ心を養う、青少年の健全育成を目指すこと。







## 開催にあたって考慮している点

火薬使用（危険物）につき、諸官庁と連絡を密にし、毎回事故防止に万全を期している。

## 波及効果

創立以来、40年を経過しており、ようやく地方の文化として定着し、地方の人びとの深い理解を得、開催にあたっては、関係諸団体の積極的な協力も得られている。

## 課題・今後の展望

備品（甲冑・火縄銃等）をより多く買い揃えること、補修、整備を確実に行い、いつでも使用可能な状態にすること。保存会会員及び協賛会員（新宿区内全域）を増強し、財政的に余裕ができるようにすること。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 9月23日　1日間（第21回）／隔年開催 |
| 主な対象 | 一般周辺住民　及び　都内近県在住所 |
| 入場者数／目標入場者数 | 220人／10,000人 |
| 共催・後援等 | 後援／江戸幕府鉄炮組百人隊保存会 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：2,300千円　財源内訳／一般、寄付金：2,400千円 |

問い合わせ先　鉄炮組百人隊保存会　会長　大浦正夫宅　TEL：03-3369-3334

# 源平火牛祭り

～部門賞【祭り・スポーツ部門】(第5回)～

富山県小矢部市

人口：34,933人

主催　おやべ祭り実行委員会
メイン会場　石動駅前商店街・越前町商店街
サブ会場　埴生護国八幡宮、埴生町内、津沢地内






## 内　容

スタッフが制作したワラ製の牛（重さ約530kg）を引っ張りながら、４人１組で往復250～300mのコースを、杉林を通り抜けたり米俵を持つなどの障害を突き進む、パワーとスピードに溢れるレースである。予選レース、決勝レースと競技が進むにつれて、火牛の角に灯された松明の火も一層際立ち、勇壮な和太鼓の音が響き、祭りが盛り上がり、観客が一体となった熱気が、会場を熱くする。

仮装などのパフォーマンスを競う「パフォーマンス賞」もあり、浴衣を着た者や鐘を鳴らしながら走る消防団員の衣装で走る者も登場する。

レースの合間には市民が武者衣装に扮して、松明を手に行進する「松明パレード」をはじめ、ステージでは和太鼓の演奏、郷土芸能の民舞を行っている。エンディングでは牛肉などの牛に関する賞品を用意した大抽選会を行い、最後に武者姿の義仲や巴御前、葵御前らが餅まきを行う。

また会場には屋台村をつくり、市内外からの観客に夏の夜の憩いを過ごしてもらう場所として、盛りだくさんのメニューを取りそろえ飲食等を楽しんでもらえるようにしている。

平成13年度は約２万５千人の観客動員があり、商店街の方も驚くほどの賑わいとなり、市内でも最高のイベントとなった。

## 開催への契機・経緯

当市は富山県と石川県の県境に位置し、その県境に倶利伽羅峠という峠がある。平安時代末期の、源氏と平氏の戦いにおいて、源義仲が率いる源氏軍が、夜が更けるのを待ち、その暗闇を利用して牛の角に松明を付け平氏の陣営に奇襲攻撃をかけた。平家軍はその松明を見て大群が攻めてきたと思い、混乱し、崖に落ち、敗退した。これが源平倶利伽羅合戦で名高き「火牛の計」である。

平成10年までの「源平火牛まつり」は武者パレードが中心だったが、11年の企画段階で、マンネリ化していた本イベントを今一度熱くなれるイベントにできないか、市のメインイベントにすることができないか、若者が参加したくなるイベントにでき

ないかという意見が出てきた。この源平合戦をもっと追求して、倶利伽羅峠での火牛の計を再現してみようというアイデアが提案され、平成11年度から実施されている。

## 目的・基本方針

さまざまな団体が集まり、イベントを開催して関わることによって、市民間のネットワークづくりを促進し、そのネットワークをもとに行動し、市民が主体となる街づくりを実行すること。

## 開催にあたって考慮している点

どのイベントでも同じだと思うが、回を重ねるに連れて、運営メンバーも毎回同じ顔ぶれになり、企画がマンネリ化する。マンネリ化すると、新しいアイデアを出す必要が無いため、スタッフがイベントに携わることにおもしろみを感じなくなり、元々の主旨である街づくりに必要な独自性が育たなくなるのではないだろうか。同時にそれを見に来ている観客もその雰囲気を感じ取り、毎回毎回同じ内容が繰り返されるイベントには足を運ばなくなる。

企画内容を毎回ガラッと変えてしまうとイベント自体が定着しなくなるが、マンネリ化しないようにするためには、イベントの芯となる部分を残しながら、何か新しい企画を考えていく必要があるのではないだろうか。そうすることによって、スタッフも観客も常に新鮮な気持ちで関わることができ、その中から将来、街づくりに関係してくる者が育ってくると思っている。

## 波及効果

もともと地域ごとの祭りやイベントの多い市であることに加えて、それぞれがマンネリ化していたため、市内のイベントに対する関心が薄れ、自分たちの住んでいる街に対しての意識も損なわれていた感がある。そこで市内の各団体が集結して、当市民の誰もが知っている源平合戦をモチーフにした火牛の計レースを大々的に開催、継続することにより、「源平合戦」や「火牛」に根ざした小矢部市民としてのアイデンティティや誇りを再確認できたのではないかと思っている。

また市外へのPRを重ねたことによって、今までに当市に関わったことのない方にも、少しでも当市について知ってもらう機会を与えることができたと思っている。

## 課題・今後の展望

今後は本イベントのある当市のイメージをもっとPRし、市内外からより多くの観客に来てもらえる祭りにするのはもちろんのことだが、この祭りに携わっていく参加者、スタッフが誇りを持てるような祭りにしたいと考えている。また、固定的なスタッフではなく、今まで関わっていなかった一般の人たちが新しくスタッフとして参加し、同じような夢を持ってほしいと思っている。






| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 7月27日～7月28日　2日間（第12回）／毎年開催 |
| 主な対象 | メインターゲットは市内及び周辺市町村の20～30代の若者だが、平成13年度にはミニ火牛を制作し、「火牛の計レース子供部門」を設置したり、屋台村や和太鼓の演奏を行うことにより、幅広い年代の参加者、観客の招致に取り組んでいる。 |
| 入場者数／目標入場者数 | 観客：25,000人／30,000人　レース参加者：175人／220人 |
| 共催・後援等 | 北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞社、北陸中日新聞社 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：8,200千円　財源内訳／補助金：4,700千円　広告協賛：3,500千円 |

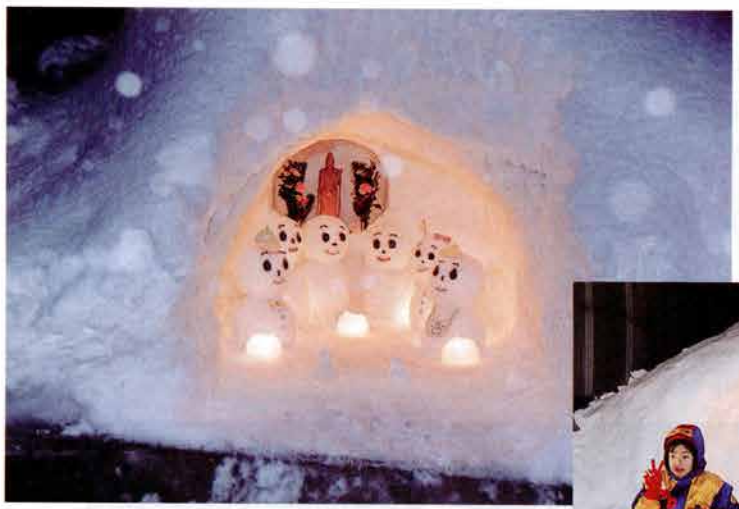
問い合わせ先　おやべ祭り実行委員会事務局　TEL：0766-67-1760　http://www.city.oyabe.toyama.jp

# 雪だるまウィーク ～選考委員特別賞（第3回）～

## 石川県白峰村

人口：1,222人

主催　　雪だるまウィーク実行委員会
メイン会場　村内全域





## 内　容

住民１人につき１個の雪だるまを作り、その雪だるまにロウソクの明かりを灯し、村全域に幻想的な雰囲気を作り上げることを目標としている。イベント全体としては６日間の期間であるが、前半の３日間は桑島地区、後半の３日間は白峰地区で開催している。各々１日目と２日目に雪だるまを作り始め、３日目には仕上げを行い、その日の午後５時にロウソクを灯すことになっている。このロウソクを灯す日がクライマックスであり、桑島雪だるままつり、白峰雪だるままつりと称し、来訪客をもてなす日としている。

各家庭ごとの雪だるま作りが基本であるが、事業所単位で雪だるまを作成するケースも多く見られる。大きさや形はさまざまであり、30cmほどのミニサイズから５mを超えるビッグサイズまで、形もごく標準的な昔ながらの雪だるまや時代を象徴した雪像など、多くの傑作が作られる。村の人口が約1,250人のところ、毎年、約2,500個の雪だるまが誕生し、目標の住民１人につき１個の雪だるまの目標は達せられる。

また、雪だるままつりの当日は、村内各所に住民主体の出店が数多く設置され、栃餅・堅豆腐・こんまき・岩魚・にしん漬け・かっちりなど、当村の特産品や生活食を中心としたメニューを楽しむことができる。両地区内とも通常は徒歩30分から40分程度で巡回することができるが、雪だるまを見ながらおいしい特産品を食べ、ちょうど１時間30分から２時間程度のコースとなっている。

## 開催への契機・経緯

活性化の一手段としての観光イベントは、年間を通して開催されてはいるものの、住民の手による住民のためのソフト事業が欠如している。例えば、お盆、秋祭り、演芸会など、長く住民の楽しみとされてきた「村のまつり」が消滅してきたという現状があった。さらに、こうした事業を運営・企画する人材も育成されておらず、村づくりの中で欠けている部分を補うために、住民総参加型の本イベントを実施したのである。

特に村役場などの公共的機関からではなく、住民有志からイベント開催の声があがり、住民自らが活動を行うという、これまでにない自立的な状況が生まれたことは画期的であったように思われる。

また、当地は全国でも有数の豪雪地帯であるが、たくさんの地域資源がある中から、「克雪・利雪・親雪」と社会情勢が大きく変化しているものの、住民がまだまだ重荷に感じている「冬」と「雪」をターゲットとした。昭和46年度に白峰高原スキー場（現在は白山白峰温泉スキー場）が開設され、48年度からは流雪溝の整備が始まり、60年度からは克雪住宅の調査研究を開始するなど、当村としては雪国で質の高い生活を送るためのさまざまな事業を展開してきたが、今回のイベントはその流れに沿った雪対策という側面もあり、CI（コミュニティ・アイデンティティ）の醸成には効果的であったように思われる。

## 目的・基本方針

イベントの基本方針を「地域の心を売り込むイベント」ということに徹している。つまり「他人のためではなく自分たちのためにする。自分たちが感動し酔わなければならない」ということである。イベントを地域イベントと観光イベントという区分で分ければ、地域イベントの本来の狙いは、地域に住む人びとが自らの地域を見つめ直すことであり、イベントを通してコミュニティを確立することにほかならない。そうした行



動が人びとに感動を与え、誘客効果にもつながってくる。観光イベントは地域PRの大きな手段としてクローズアップされてはいるが、本来、観光客誘致という目的だけのイベントは成り立たない。その目的のために地元住民は奉仕活動を強いられ、イベントは他人のために行う労働と化し、不満だけが残っていく。本イベントが目指したものは、住民のための住民の手による「まつり」の復活、純粋なる地域イベントの実践である。

## 開催にあたって考慮している点

- 住民が誰でも参加できるように、内容を単純にすること。本イベントの最大の目的は住民総参加である。
- 伝統的な良き村民性を生かし、住民の力を結集しながら、協同性を保つこと。
- 石川県下で最高の豪雪地帯であるという地域性をプラスとして前面に出すこと。本イベントを通して、雪国・白峰村を広く外部に情報発信する。
- 派手さから素朴なものに、という時代背景に対応すること。特に山村で求められているものは素朴な雰囲気であり、決して華美なものとしない。よって、テーマを「明日忘れる豪華さよりも永遠に心に残る素朴さ」としている。
- イベントのプロセスの中で、人材育成を重要視し、役割分担を明確にすること。
- 住民主導型のイベント運営とし、役場や観光協会などは支援に回る実行委員会を組織すること。
- 財源を公的資金に頼らず、自分たちの足で集めること。現実的な作業としては最も苦労を伴うものである。



## 波及効果

当村ばかりでなく石川県の冬の風物詩に位置付けられ、毎年、多くの人びとが全国各地から訪れるようになった。期間を通して、来訪客数は約１万５千人、宿泊客数は約1,500人と地域経済の活性化に大きく貢献しているとともに、地域イメージの向上、特産品の振興・普及、他観光関連施設への影響、消費拡大などの効果は絶大である。また、期間中のマスコミの反響は誠に大きく、全国放送が何本も組まれ、新聞記事として取り上げられるなど、その波及効果は計り知れない。さらに間接的な効果として、住民の人心の結束などのコミュニティの充実、若い人材の大きな自信、ふるさと出身者の帰省促進などが挙げられる。

## 課題・今後の展望

観光客が多く訪れるようになったとはいえ、住民に対して、村民のまつりという趣旨の徹底を図ることと、本イベントを通して、人材を育成していくことが最も重要である。また、都市住民との交流の促進など、イベントを目的性のある誘客対策として位置付けることも課題として挙げられる。しかしながら、結果的に増え続ける観光客対策も現実的には検討する必要があり、安全を保ちながらイベントを楽しめる環境作りを進めていかなくてはならない。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | １月23日と１月26日　２日間（第13回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 家族、友人グループ |
| 入場者数／目標入場者数 | 一人／10,000人 |
| 共催・後援等 | 白峰村 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：3,400千円　財源内訳／寄付金：2,800千円　村補助金：600千円 |

問い合わせ先　白峰村役場　産業振興課　TEL：07619-8-2011　http://www.vill.shiramine.ishikawa.jp

# 大道芸ワールドカップイン静岡

～優秀賞（第1回）～

## 静岡県静岡市

人口：469,735人

主催　　大道芸ワールドカップ実行委員会
メイン会場　駿府公園及び市街地




## 内　容

毎年11月の初旬に世界中、日本全国から集まったパフォーマーがジャンルを越えて、コンペティションを行っている。カテゴリーは、ワールドカップ、ジャパンカップ、フリーの３つがあり、ワールドカップは海外招聘パフォーマーに前年のジャパンカップチャンピオンを含めた約15組、ジャパンカップは日本人パフォーマー約15組によって、それぞれのチャンピオンを決定する。

審査に当たるのは、一般公募の市民約50名によって行われる。本イベントの企画・運営にあたっては、ボランティア約800名によってなされている。



## 開催への契機・経緯

当市は、平成３年から始まる第７次総合計画において、「人の集まる街づくり」をテーマにさまざまな角度から事業展開を模索してきた。全国各地では街づくりのためのソフト事業が数多く行われ、当市としての特色をもたせることが課題であった。

大道芸は芸風が違っても世界中どの国にも存在する文化であり、人びとにとって親しみやすく、楽しんでもらえるものと判断した。大道芸の世界的なコンペティションはどの都市でも行われていないことも大きな魅力であった。






## 目的・基本方針

- 全国から人が集まることで街の活性化を図り、経済波及効果をもたらす。
- 世界に通用する街のイメージを構築する。
- 異文化交流による市民意識改革。
- 静岡発の独自の文化を構築する。

## 波及効果

平成４年に第１回を開催したが、６年大会において経済波及効果を調査した結果、109万５千名の来場者に対し、18億2300万円の経済波及効果が報告されている。平成12年大会では、166万名の来場者であるので、25億円以上の経済波及効果が予想される。

ボランティアの数も第１回大会では数えるほどであったが、12年の大会では878名、４日間大会の延べでは、３千名以上のボランティアによって大会は支えられている。

## 課題・今後の展望

今後は、大道芸ワールドカップを核とし、音楽、ダンス、デザイン等あらゆるジャンルのアートを取り込み、街を一つのキャンバスとして、アートフェスティバルへと進化させていきたい。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月１日～11月４日　４日間（第10回）／毎年開催 |
| 主な対象 | |
| 入場者数／目標入場者数 | 166万人／一人 |
| 共催・後援等 | ●共催／静岡市　●後援／静岡県 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：150,000千円　財源内訳／静岡市補助金：100,000千円　協賛金：30,000千円　出店料：10,000千円<br>雑収入：10,000千円 |

問い合わせ先　大道芸ワールドカップ実行委員会　TEL：054-205-9840　http://www.daidogei.com

# 因島水軍まつり

～大賞（第3回）～

## 広島県因島市

人口：29,125人

主催　　因島水軍まつり実行委員会
メイン会場　因島アメニティ公園

## 内　容

室町時代から戦国時代にかけて、瀬戸内海を中心に活躍をした村上水軍の根拠地因島市。その水軍のふるさと「いんのしま」にふさわしいまつりとして、毎年８月の最終土・日曜日に開催されるのが「因島水軍まつり」である。平成13年で11回目を数える本イベントは、感動・参加・伝承をキーワードとして、「島まつり」「火まつり」「海まつり」の３つのまつりで構成されている。

水軍まつりのオープニングとして行われる島まつりでは、村上水軍の菩提寺「金蓮寺」を舞台に、水軍まつりの安全と成功を祈念して出陣式や安全祈願祭が行われる。

土曜日に行われる火まつりは、見て感動するまつりとして、村上水軍の勇姿を再現した水軍武者による松明武者の入陣や、村上水軍陣太鼓の演奏、花火大会など火を使った勇壮で幻想的な祭りである。中でも「水軍跳楽舞（すいぐんちょうらくまい）」のコンテストは必見である。水軍跳楽舞とは、村上水軍が戦いに勝利し、因島に凱旋する際、島に残る人びとが水軍の無事を喜び、勝利を祝って踊った踊りとされ、水軍凱旋の太鼓「トントコ・トントコ・トントントン」というリズムに合わせて手拍子を打ち、自由に跳んで、跳ねて、体を動かし喜びを表現するものである。





日曜日に行われる海まつりは、汗を流して競い合うまつりとして、村上水軍の時代に伝令船として活躍した木造船「小早（こはや）」を使った小早レースが開催される。水夫、太鼓、船頭の16名が乗船し、村上水軍の兵法書「一品流水学集」に記されている「トン・トン・トトン」という太鼓のリズムに合わせて船を進める。市内はもとより、遠くは木津川の戦いで村上水軍と戦った九鬼水軍ゆかりの地、三重県鳥羽市から参加のチームもあり、年々盛り上がりを見せている。

どのまつりも水軍の歴史から学び、住民に根付いた誰でも参加できるまつりとして実施している。

## 開催への契機・経緯

本イベントが行われるようになった背景として、まず第１に当市が村上水軍の本拠地であったことが挙げられる。古くから村上水軍にまつわる史跡が数多く残り、水軍とは切っても切り離せない地域であった。このことから、水軍のふるさとを活かした、水軍のふるさとにふさわしい地域づくりの一環として、本イベントがスタートした。

第２に、本イベントが行われる前段として、「ちびっこ水軍まつり」というイベントが実施されていたことである。このイベントは、因島に子どもたちが１日楽しく遊ぶことのできるまつりがあればという思いを込

めて、市内の団体が集まりスタートしたイベントである。このイベントをベースに、より多くの市民が参加し、広域的に拡大させ、ひいては瀬戸内海を代表するまつりになることを目指して本イベントが開催された。

## 目的・基本方針

本イベントを通して、市民の自立と連帯を育成するとともに、市民総参加によるまつりの社会的・文化的意識を高揚し、「水軍のふるさと」にふさわしい個性的で、魅力的な地域づくり、併せて地域リーダーの育成を図り、以って当市の発展に寄与することを目的として実施している。

また、水軍の歴史から学び感動するまつり、住民に根付いた誰でも参加できる楽しいまつり、個性を持ち伝承・発展するまつりとして「感動」「参加」「伝承」を基本方針として実施している。

## 開催にあたって考慮している点

本イベントが始まった経緯を踏まえ、基本方針である「水軍のふるさと」にふさわしい個性的で魅力的なイベントになるように考慮している。例えば、有名なタレントを呼んで、一時的にたくさんの観客を集客できたとしても、個性のある地域に根付いたイベントには発展しない。そのような一過性のイベントにならないように、「感動」「参加」「伝承」のキーワードに基づき、住民に根付いた誰でも参加でき、個性のある「水軍のふるさと」ならではのまつりになるように、またひいてはこのまつりが地域の発展・地域リーダーの育成につながるまつりになるようにと考えている。

## 波及効果

直接的な効果としては地域経済の活性化、あるいは「水軍のふるさといんのしま」の対外的なPRという目に見える効果はもちろんだが、間接的にもさまざまな効果があると考えられる。例えば本イベントを実施した当初は、行政主導のイベントとしてスタートしたが、年を重ねるごとに市民の参加意識が芽生え、市民の手作りによるまつりへと変化してきている。そのような市民のまつりへの参加意識が、住民によるまちづくりの第1歩となり、地域リーダーの育成へと発展していく。

また、このまつりを行うことにより、村上水軍の歴史に誇りを持ち、因島に関心を持つことにより、おもてなしの心（ホスピタリテイ）の育成にもつながっていくのではないかと思う。

## 課題・今後の展望

水軍のふるさとにふさわしい地域づくりを目的として、行政主導で立ち上げたイベントであるため、立ち上げ当初は、各種団体や企業を中心に参加してもらっていた。

そのため、住民のまつりへの参加意識も薄かった。しかし、本イベントも回を重ねる度に市民が喜びながら参加する市民のまつりとして定着し、市民の参加意識も年々高まってきた。

この経過を踏まえ、より市民に根付いた市民のまつりとして、個性的な住民主導のまつりとして伝承・発展させていくことが、今後の大きな課題である。





| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月19日、8月25日～8月26日　3日間（第11回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 県内 |
| 入場者数／目標入場者数 | 80,500人／100,000人 |
| 共催・後援等 | 広島県観光連盟、NHK広島放送局、中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、エフエムふくやま、中国新聞社 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：13,200千円　財源内訳／補助金：6,500千円　協賛広告料：6,500千円　協賛金：130千円<br>雑収入：70千円 |
| 問い合わせ先 | 因島市しまおこし課　TEL：08452-2-1311 |

# 長崎ランタンフェスティバル

～優秀賞（第5回）～

## 長崎県長崎市

人口：421,106人

主催　長崎ランタンフェスティバル実行委員会
会場　湊公園、新地中華街、浜市・観光通りアーケード、旧唐人屋敷跡他市内中心部

## 内　容

新地中華街、湊公園をはじめとした市内中心部に、本イベント期間中１万２千個のランタン（中国風提灯）が飾られるほか、龍や獅子などを型どった大型オブジェが所狭しと設置され、幻想的な中国独特の灯りで街はまさに中国一色へと変貌する。

毎年、干支に因んだオブジェがメインオブジェとして設置され、平成13年度（第９回）は高さ９mの飛馬（ふぇいま）の予定である。中国風の天馬が空に羽ばたこうとする様子をイメージしており、躍動感あふれるその様子は、現代社会が抱えるさまざまな問題を払拭するかのようである。

また、第９回で初めて子ども向けにランタン動物園と銘打って、動物のランタンを１ヶ所に集めて装飾するほか、強度を高めた馬やパンダのオブジェを設置し、乗ったり座ったり出来るようにする予定である。

イベントは中国に関係のある内容に特化しており、中国獅子舞、龍踊り、中国雑技など他では見られない中国色豊かなイベントが多彩に催される。中でも、清王朝の皇帝が皇后を連れて町中に出かけ、民衆と一緒に正月を祝ったという設定で実施している、豪華な中国衣装を身にまとった「皇帝パレード」や、江戸時代に唐船が長崎に入港した際、航海の神様である媽祖を唐寺に安置するという、実際に行なわれていた荘厳な行列を再現した「媽祖行列」は、イベントをより一層盛り上げる。

本イベントは、まさに中国との交流が深い長崎ならではのイベントである。

## 開催への契機・経緯

長崎は、開港以来中国との交流が盛んで、唐人屋敷、崇福寺、眼鏡橋などの史跡をはじめ、生活様式や食生活の中にもいろいろな形で中国文化が今でも身近に息づいている街で、今も多くの華僑の人びとが生活している。

しかし、華僑の人びとも結婚や帰化などにより日本国籍を取得したり、３世４世となり、ほとんど日本人同様に暮らすようになって、中国の習慣を知らない、中国語を話せないという状況になっている。

そこで、新地中華街の華僑の人びとが、中国の文化を継承し、より結束を強めようと、旧正月を祝う「春節祭」を始めた。

その後平成６年から、当市や商工会議所、その他の団体などで「長崎ランタンフェスティバル実行委員会」を組織し、冬季の観光オフシーズン対策の目玉として開催するようになり、今では長崎の冬を彩る一大風物持となっている。

## 目的・基本方針

冬季観光オフシーズン対策と滞在型観光都市を目指した夜の観光魅力の充実を図るため、「長崎に息づく異国CHINA再発見」をコンセプトとして、新地中華街で行なわれてきた「春節祭」をベースにしたナイトイベント「長崎ランタンフェスティ



バル」を灯・中国色をキーワードとして実施し、地域経済活性化に寄与することを目的としている。

## 開催にあたって考慮している点

今や長崎の冬の一大風物持として定着して、多くの観客に楽しんでもらっているところであるが、会場が手狭になってきており、会場を分散して対応している。観客が１ヶ所に集中しないよう、如何に各会場を回遊してもらうかを考えている。

また、長崎は地形上平地が少ないので、市内中心部へ一極集中する交通渋滞が起きやすい状況である。そのため中心部へ極力車を入れないよう交通対策にも力を注いでいる。

## 波及効果

平成12年度は、64万人の誘客実績があり、経済波及効果は69億円（長崎経済研究所推計）。

冬季観光オフシーズンにもかかわらず、開催期間中は宿泊施設の稼働率が上がっているほか、JRの利用者数も増えている。また、商店街の売上についてもほとんどの商店街が増加したとのアンケート結果を得ており、個人消費が低迷している経済状況を考慮すると、フェスティバルの影響は大きかったと推測される。

## 課題・今後の展望

九州内での本イベントの認知度は高まっているが、関東、東海、関西においての認知度はまだまだ低いと思われる。県人会や県の事務所の協力を得て、効果的なPRをする必要がある。また、旅行代理店へ積極的に商品造成を働きかける必要がある。

今後は高速道路が当市内まで延伸されるので、まだまだ集客を期待できるイベントであると思われる。








| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ２月12日～２月26日　15日間（第９回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 一般観光客、市民 |
| 入場者数／目標入場者数 | 64万人／70万人 |
| 共催・後援等 | ●後援／長崎県、長崎県観光連盟、長崎新聞社、NHK長崎放送局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ、FM長崎 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：94,300千円　財源内訳／共催費負担金：55,000千円　補助金：5,300千円　協賛金：29,000千円<br>その他：5,000千円 |
| 問い合わせ先 | 観光部　観光宣伝課　TEL：095-829-1314<br>http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/ajisai　http://www.nagasaki-lantern.com/ |

# 吹上浜砂の祭典 ～部門賞［祭り部門］（第1回）～

## 鹿児島県加世田市

人口：24,023人

主催　　吹上浜砂の祭典実行委員会・南日本放送・南日本新聞社・加世田市
メイン会場　吹上浜（鹿児島県加世田新川海岸）

### 内　容

サンドクラフト（砂の彫刻）を中心としたイベントであり、砂像制作団体によるメイン砂像群及びサンドクラフト大会（全国大会、学生大会、ファミリー大会）の砂像群、高さ2m級から10m級の約50基が砂浜に出現し、砂丘と海と空とタイアップして、見る者の心に「夢と感動」を与えるイベントである。祭典期間中は、連日数多くの催しが行われ、子どもからお年寄りまで楽しむことができる。ステージでのコンサート、子供まつり、太鼓まつり、そして花火大会にはたくさんの人が訪れる。

また、自然環境をテーマに、幅広い内容の展示物や体験コーナーを設けた「砂のおもしろ館」や日本の砂防事業をクイズや実験装置などを使って楽しく紹介する「吹上浜さぼうランド」も多くの見物客の人気を集めている。興味あるイベントたくさんの砂の祭典である。

### 開催への契機・経緯

昭和62年4月に加世田青年会議所・加世田商工会議所・当市などが協議して、吹上浜の自然から恩恵を受けている「砂」という資源をもとに、「砂」によるサンドクラフトのイベントが開催できるかどうか、米国からゲリー・カーク氏を招待して、高さ6mの砂像を試作し、「'87吹上浜砂の祭典」を8月に開催した。併せて、当市及び南さつま地域の観光振興、海岸愛護思想、自然意識の向上を図ることを目的として、これまで市民総ぐるみの手作りの運営で開館している。

祭典テーマは「砂でつくる　夢と感動」であり、砂の芸術を通しての人と人とのつながりを深め、郷土愛を育てながら、人づくりや地域づくりを行う旨の要素を含むものである。

### 目的・基本方針

日本三大砂丘のひとつ「吹上浜」の広大な砂丘をスペースに、サンドクラフトを中心にしたイベントを開催することにより、砂丘と海と空の自然を生かした海浜性リゾートゾーンとして全国に紹介し、当市及び南さつま地域の活性化と観光振興に資する。また、かけがえのない美しい自然を次の世代に引継ぐとともに、地球の環境保全もアピールする。



### 開催にあたって考慮している点

人づくり、地域づくり、地域の活性化を第一の目標におき、官民一体となったイベントづくりができるように、企業及び各団体等に日常的に祭典の趣旨をPRするとともに、協力と支援を依頼している。また、イベント内容がマンネリ化しないように、実行委員会の組織である企画委員会、各部会、役員会などで、年間を通して協議し開催にあたっている。

特に、本イベントを開催するにあたっては、多額の経費が必要なため、広告・寄付などの協賛社に対する協力と支援の依頼については、十分な配慮を行うよう努めている。また、自主財源である会場整理券販売については、市内外の各種団体等の協力が得られるように、販売網の拡大と確立を図るよう努めている。

### 波及効果

15回開催し、サンドクラフトを全国に紹介することで、大きく新聞及びテレビなどのマスメディアにより、当市及び南さつま地域の知名度が高まり、観光振興が図られた。祭







典の開催前に、会場周辺の海岸及び一般道路などの美化運動、期間中の環境保全コーナー・体験コーナー等のイベントにより、海岸愛護思想と自然意識の向上が図られた。

また、官民一体となった運動を展開することにより、地域住民の意識改革がなされ、人づくり、仲間づくり、地域の活性化が図られた。県内外からの来場者及び祭典開催に向けた諸経費の支出などにより、経済波及効果が図られた。

## 課題・今後の展望

会場の縮小化に伴い、祭典内容の変革が問われるが、実行委員会の組織である関係機関で今後の祭典のあり方について協議を行う必要がある。

また、会場だけのサンドクラフトを制作するのではなく、年間を通したサンドクラフトを展示及び体験学習ができる施設の建設を行い、年間を通して県内外に「砂の文化」を発信する構想が現実になるように、新たな関係組織を発足させ、実現に向かって取り組む必要がある。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 7月26日～7月31日　5日間（第15回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 国内外を含む不特定多数の観光客及び砂像制作団体等 |
| 入場者数／目標入場者数 | 91,000人／120,000人 |
| 共催・後援等 | 国土交通省、鹿児島県、鹿児島県観光連盟、大浦町、笠沙町、金峰町、吹上町、日吉町 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：65,000千円　財源内訳／負担金：18,300千円　広告協賛金：19,353千円<br>会場整理券売上げ収入：21,978千円　その他：5,369千円 |

問い合わせ先　加世田市川畑2648　吹上浜砂の祭典実行委員会　新澤康文　TEL：0993-53-2111（内線132）

# 一万人のエイサー踊り隊 ～部門賞【祭り部門】（第3回）～

## 沖縄県那覇市

人口：301,254人

主催　　夏祭り実行委員会
メイン会場　県道39号線（国際通り）

## 内　容

沖縄の伝統芸能、エイサー。エイサーWeekのフィナーレを飾る「一万人のエイサー踊り隊」パレードは、各地青年会及び創作エイサー団体による総勢６千人のエイサー演舞が３部構成で行われる。

まず、パレード前半は創作エイサー団体によるエイサー演舞で幕が上がる。中盤は、各地青年会による、伝統エイサー演舞。伝統的なエイサーは、何代にもわたって伝統を継承してきた歴史の重みを感じる。

パレードの最後を飾るのは、一般公募１千人による“エイサーページェント”。この一般公募者１千人は、琉球國祭り太鼓の指導の下、約２ヵ月間（６月～７月）にわたり練習を行っている。

“奇跡の１マイル”と呼ばれた国際通り（総延長距離1.6km）すべてを埋め尽くし、全員が同じ振り付けでエイサーを演舞する様は、まるで国際通りに“エイサーの華”が咲き乱れるかのようである。









## 開催への契機・経緯

近年の郊外型大型店の進出から地盤沈下が懸念され、そのことに危機感を抱いた商店街は、若手経営者を集めて「個店及び商店街の活性化」をテーマに、KBS（国際通りビジネスセミナー）の定例勉強会を平成５年３月から開催してきた。そこでの議論の中から生まれたのが、７年７月に実施された第１回国際通り夏祭り「一万人のエイサー踊り隊」である。

## 目的・基本方針

当市のメインストリート国際通りをステージに、これらの民俗伝統と文化的創造活動にスポットをあて、夏場の沖縄県を代表するイベントを創出することで観光客総数の拡大に貢献し、沖縄県経済の発展に寄与するとともに、県都那覇市の活性化を目的として、当市国際通り活性化事業として位置付ける。

## 課題・今後の展望

沖縄の国際化と観光振興に向けて、国際通りを舞台としたアジアの地域諸島の伝承芸能や祭りなども包括して紹介する国際イベントの実現を目指し、若手の育成と4商店街の結束力を強化することが重要である。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ７月29日～８月５日　６日間（第７回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 県民（地元）、県外（観光客）、外国人 |
| 入場者数／目標入場者数 | 30万人（イベント週間）／13万人（当日パレード） |
| 共催・後援等 | ●主管／那覇市国際通り商店街振興組合連合会　●後援／沖縄県、那覇市、㈶沖縄観光コンベンションビューロー、那覇市観光協会、㈶沖縄県産業振興公社、那覇商工会議所、沖縄県中小企業団体中央会 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：15,773千円（平成12年度） |

問い合わせ先　那覇市国際通り商店街振興組合連合会　TEL：098-863-2755　http://www.2.dango.ne.jp/naha-kcs/

# 全日本玉入れ選手権 ～部門賞【祭り・スポーツ部門】（第4回）～

## 北海道和寒町

人口：4,686人

主催　　全日本玉入れ協会
メイン会場　和寒町総合体育館

## 内　容

全日本玉入れ協会（AJTA）の主催する「全日本玉入れ選手権」は、昔から運動会の定番種目として誰でも一度は経験のある玉入れを、協会独自にアレンジ、ルール化し生まれ変わったニュースポーツイベントである。

本ルールの玉入れは、６人１組で100個の玉（99個の玉とアンカーボール）を投げ入れるまでのタイムを競うタイムトライアル競技で、１／100秒を争うスピード感あふれる華やかで楽しい、そして誰でも気軽に参加できるユニークなビッグイベントである。特に必ず最後に入れる（途中で入れると失格）アンカーボールが競技をさらに面白くし、さまざまな逆転ドラマを生み出す。６チームによる決勝は、その迫力とスピードで見るものを圧倒し必見である（６回大会までのベストタイムは13秒92）。

かごの高さは４m12cmとかなり高く、これは当町が過去記録した最低気温－41.2度に因み、かごの直径と深さは和寒が北緯44度に位置していることから44cmとした、あくまで地域にこだわった全日本規格である。

本選手権の目玉は、なんと言ってもこの種のイベントでは破格の優勝賞金100万円（賞金総額200万円）である。毎年９月の第１日曜日に実施される大会には、「100万円ゲット」を合言葉に先着150チームが参加し、２千人が集う道内屈指の地域イベントとして注目され、民間発想の民活イベントとして高い評価を受けている。






## 開催への契機・経緯

全日本玉入れ協会は、平成７年に商工及び農業青年を中心として町民有志により設立された。その背景には平成元年、町の新しい祭り「ふれあい祭り」が生まれた時にさかのぼる。ふれあい祭りのメインイベントを商工青年たちが提案することとなり、あまりハードではなく、誰でも参加しやすい競技として玉入れに着眼した。先に触れたルールの原型も決められ、祭りの中心イベントとして平成元年に「第１回ふれあい祭り・全日本玉入れ選手権」として大好評を得て誕生した。

その後ふれ合い祭りも回を重ね、玉入れも毎年50チームほどの参加で継続されていたが、一部青年たちがこの玉入れの素質なことを惜しみ、「地域の一イベントとして埋もれさすのはもったいない、磨けば大化けするイベントとして大きなまちおこしになる」との確信のもと有志を募り、平成７年「全日本玉入れ協会」が設立された。翌８年“玉入れで100万円”とマスコミが注目する中、鳴り物入りで、「第１回全日本玉入れ選手権」が開催され、華々しいデビューを飾った。

## 目的・基本方針

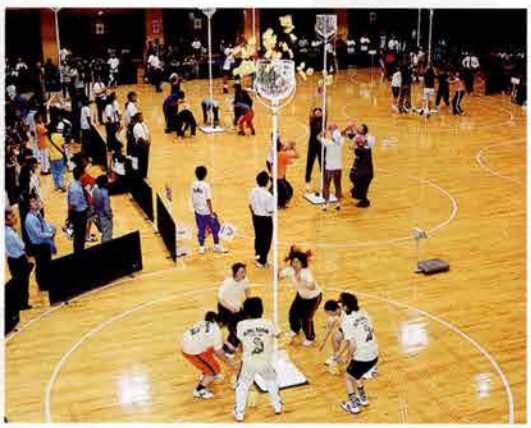
全日本玉入れ協会は、和寒発祥の玉入れを全道全国への普及を目指すとともに、和寒の名を広くアピールしたい、自らがもっと光り輝きたい、という思いのもと青年有志で結成された“まちおこし協会”である。また、過疎化・少子高齢化の進む道北の小さな町の人びとが「全日本玉入れ選手権」で大きな誇りと自信を取り戻す“人おこし事業”でもある。

さらには地域住民を巻き込んだ住民参加による地域活性化の一翼を担うものでもある。

## 開催にあたって考慮している点

本イベントは、「全日本玉入れ協会」主催による「全日本玉入れ選手権」と銘打つ全日本を標榜するビッグイベントである。当初より、それは全日本にふさわしい権威とステータスを持った大会とし、厳格な協会ルールのもとその運営がなされており、参加者の高い評価を得ている。





以下、運営上の考慮事項を挙げる。

- 本選手権はもちろん厳正厳格な競技であるが、あくまでイベントスポーツと位置付けており、競技性ばかりを前面に出すとこのイベントに楽しんで参加する多くのチームのリピートが得られないことから、競技性とイベント性の両輪の大会であること。
- 見て、参加して、楽しめるイベントとして、毎回趣向を凝らした抽選会、アトラクションを実施すること。
- 大会のマンネリ化防止策として、2年前よりレディース部門を設け大好評のため、今後これを強化する。
- 常に前回と変化させた華やかで楽しめる会場造りをする。
- 地元中学生と高齢者へのイベントサポーター依頼による、幅広い住民の参加意識の高揚。
- 多くの大会スタッフの指導強化。
- 参加チームの大会運営に対するアンケート調査の実施。

## 波及効果

当協会が設立されて6年、「全日本玉入れ選手権」も6回目を終え、まだ決して歴史のあるイベントとはいえないが、この年月は小さい町に大きな足跡を残してきた。

- 「まちおこし・人おこし」を目指すイベントとして、多くの住民参加のもと、それぞれが今まで抱いたことのない誇りと自信が確実に培われた。
- 「和寒の玉入れ」「玉入れの和寒」として、今や全道にその名が知られ、町としての宣伝効果は計り知れない。
- およそ2千人が集う大きなイベントであり、その経済効果も絶大なものがあり、交流人口の増加も大きな効果をもたらしている。
- この玉入れが各地でイベントとして行われてきており、道内外の問合せが引きもきらず、着実に「和寒玉入れ」が普及している。
- マスコミ効果により、大阪府貝塚市に支部としての関西協会、宮崎県諸塚村に九州協会が設立され、それぞれ大会が開催され、全国組織に向けて歩みだした。
- 関西、九州両支部と当協会との相互交流が行われ、観光振興としても大きく寄与している。

## 課題・今後の展望

現在まで、地元行政と道からの補助金に多くを依存し、本イベントを始め、当協会のさまざまな事業が実施されているが、今後補助金の減額は避けられず、自主財源の確保が最重要課題である。玉入れの普及と共に、協会としてさまざまな対応とそのフォローが求められ、協会の事務局体制を含めた組織強化が急務である。また、中長期の目標・展望を明確にした協会運営が必要になってくる。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 9月2日　1日間（第6回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 高校生以上（高校生のみのチーム編成は不可）であれば性別・年齢等は問わない<br>レディース選手権もある |
| 入場者数／目標入場者数 | 1,200人（1チーム8人　選手6人　補欠2人×150チーム）／一人 |
| 共催・後援等 | 上川支庁、和寒町、和寒町観光協会、和寒町商工会、JA和寒町、和寒ライオンズクラブ、JR北海道 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費／5,367千円　町補助金／1,500千円　長寿社会づくりソフト事業交付金（財団法人　地域社会振興財団）／1,000千円<br>協賛金／1,292千円　自己資金／1,575千円 |

問い合わせ先　和寒町観光協会内　全日本玉入れ協会　TEL：0165-32-2341

# たんのカレーライスマラソン ～選考委員特別賞（第5回）～

## 北海道端野町

人口：5,482人

主催　　たんのカレーライスマラソン実行委員会
メイン会場　端野町営球場




## 内　容

青空の下、家族や友だちが共に汗を流し、太陽と大地の恵みに感謝しながら地元産の獲れたての食材を味わい楽しむ、地域の特性を活かしたスポーツである。4人1チームになり、それぞれ距離の異なるカレールーコース（5km）、肉コース（4km）、たまねぎ・にんじんコース（3km）、いもコース（2km）に分かれて、地元産の食材を取りに走る。ただし、いもコースは走ることが禁止の歩き専門のコースである。食材を取ってきた後は、それを使いみんなでカレーを作り、楽しく食べる。決して、タイムや順位を競うレースではない。

アトラクションとして、カレー大食いコンテストや仮装コンテストなど、競技のほかにも楽しい企画が目白押しである。

## 開催への契機・経緯

町の体育協会が体育の日に合わせて何か行事をと企画、開催したことが始まりである。そこで、何をしようかと考えたときに、マラソンと料理の材料を集めて作るという競技をレクレーションの種類を載せた資料で見つけた。そのなかでは、1人のランナーが材料を集めてくる、となっていたところをチームの親睦を図れるよう4人1チームにアレンジした。また、カレーライスであればキャンプなどアウトドアで食べる機会が多く、違和感なく受入れられると考えた。




当初は、町民のみを対象として、スポーツとカレーを作ることを通じて家族や友人同士が楽しくお互いの絆を深めていけるような事業として、体育協会が単独で主催する小さなイベントだった。しかし、カレーの主な材料である、いも、たまねぎ、にんじん、肉は地元ですべて揃うこともあって、地場産品の普及PRの場として利用することを目的のひとつとして加えることになったことから、対象を町外者にまで広げて、イベントの規模を拡大していった。目的、規模が拡大されたことに伴い、関係各団体による実行委員会が組織され、現在の形ができた。

## 目的・基本方針

明るく健康で豊かな日常生活を送るために、青空の下、家族や友だちが共に汗を流し、同時に太陽と大地の恵みに感謝しながら穫れたての食材を味わい楽しむ、地域の特性を活かしたスポーツの育成を目的としている。

## 開催にあたって考慮している点

イベント運営にあたっては民間活

力を最大限活用して、各種団体から人材を募って実行委員会を組織している。

地場産品をカレーの材料や参加賞として提供することで、その活用とPRをしている。

歩くコースを設けることで、高齢者や子どもが参加しやすいようにしている。また、障害者が参加しやすいように、調理をする場所などに配慮した結果、昨年の３チームから今年は８チームに参加チームが増加し、効果を上げている。



## 波及効果

ユニークなイベントを開催しているということで、各マスメディアに取上げられ、町の知名度が上がった。そのことが、地場産品のPRにつながっている。また、参加者がインターネットのホームページ上で自分が参加したときの様子などを公開することによって、草の根的な情報の広がりを広範囲で展開するという、新しい動きも出てきている。

回を重ねるごとにイベントに対する協力体制が強化されている。今年は特に肉以外のいも、たまねぎ、にんじんコースでは、コース途中の農家に協力してもらい、参加者が畑から直接収穫できるようにした。

## 課題・今後の展望

回を重ねるごとにイベントの規模が拡大してきていて、もう少し拡大していくと参加者が調理して食事をするスペースに余裕がなくなってくる。また、規模の拡大に伴うスタッフの増員、育成の問題、新しい備品の整備などの問題がある。

平成13年で16回を数えるが、町外の参加者が増えて活気があることとは裏腹に、町民の参加者が減少してきていることが懸念されている。基本的に内容が変化しないので、毎年開催される安心感があり、今年は参加しなくてもというようなことがあるのかもしれない。町民による手作りのイベントとして開催しているからには、ひとりでも多くの町民が参加できるよう工夫していくことが、今後のイベントの充実につながっていくと考える。イベントを開催してきた回数や現況などを考えると、ちょうど転換期を迎えているのかもしれない。本イベントが第５回ふるさとイベント大賞選考委員特別賞を受賞したことは、喜びとともに今後の展開を考えていくいい機会となった。



| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ９月23日　１日間（第16回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 町民及び主旨に賛同していただける方 |
| 入場者数／目標入場者数 | 680人／680人（募集170チーム、参加者４人１チームでの試算。実際はそれ以上の人数が会場内にいたと思われる。） |
| 共催・後援等 | ●共催／端野町体育協会、端野町農業協同組合、端野町商工会、端野町観光物産協会、端野町青年団体協議会、端野町婦人団体連絡協議会、端野町子ども会育成会連絡協議会、端野町スポーツ少年団本部　●後援／端野町、端野町教育委員会　●協賛／ハウス食品株式会社、ホテルメビウス、㈱東武 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：1,920千円　財源内訳／補助金：1,000千円（町　500千円、北海道市町村振興協会　500千円）<br>民間助成金：150千円　事業収入：510千円　繰越金：162千円　雑収入：98千円 |
| 問い合わせ先 | たんのカレーライスマラソン実行委員会　端野町農業者トレーニングセンター内（端野町教育委員会　生涯学習課社会体育係）　TEL：0157-56-3100<br>http://www.ohotuku26.or.jp/organization/tanno/tanno.html |

# 昭和新山国際雪合戦 ～部門賞【スポーツ・文化部門】（第1回）～

## 北海道壮瞥町

人口：3,239人

主催　全国労働者ふるさと交流会北海道大会開催委員会、北海道、壮瞥町
メイン会場　昭和新山山麓

## 内　容

北国古来の遊び「雪合戦」をルール化し、冬のスポーツとして成立させた国際色豊かな雪の祭典である。１チームは、選手７名、監督と控え選手２名の計10名で構成され、試合は３分３セットマッチで行われる。１セットに使用できる雪球は90個。相手チームに雪球をあて１人でも多くアウトにするか、フラッグを奪取すると試合終了。厚生労働大臣杯、北海道知事杯を競って、キング・オブ・スノーを決定する。

各地区予選を勝ち抜いた精鋭チームが毎年２月下旬の土・日曜日、大地の息吹、噴煙になびく「昭和新山」山麓に集い、熱戦を繰り広げる。







## 開催への契機・経緯

当町は、年間約250万人もの観光客が訪れる道内でも有数の観光地だが、その大半が春から秋に集中しており、冬期間は皆無であった。そこで昭和62年、冬期間の観光振興を目的にアイディア検討会が結成され、数々のアイディアの中から「雪合戦」をスポーツイベントとして開発し、開催することが決定し、翌年「昭和新山国際雪フェスティバル実行委員会」を設立した。その後、全国各地で大会が開催され、フィンランド、ノルウェーなど北欧においても開催されるほどに成長した。

## 目的・基本方針

当町に冬も観光客に来てもらい、地域経済を活性化するために行っている。本大会は、冬の寒く非活動的というマイナスイメージを打ち消し、昭和新山はもとより当町全体のイメージアップにつながることを目的としている。

## 開催にあたって考慮している点

平成13年で13回目を迎え、道内外の大会を勝ち抜いた約190チームが参加しているが、大会開催に向け、約400人の町民がボランティアとして、本イベントに携わっている。

また町民が雪合戦の講師となり、全国はもとより、海外へ派遣され、

講習会等の講師として活躍し、雪合戦の普及を通じて、交流を深め、幅広く活動をすることに努めている。

## 波及効果

全国各地で大会が開催され、首都圏においても多くの大会を行っている。平成12年３月の有珠山噴火災害により、第13回大会の開催が危ぶまれていたが、復興の第一歩として、元気な姿を全国に発信するため開催を決定し、約２万６千人の来場者を迎えた。

昭和新山の観光PRだけではなく、噴火を受けたマイナスイメージを取り除き、多くの人びとを迎え、当町全体のPRとなったことは地域に大きな影響を与えている。

## 課題・今後の展望

国内においては国体種目となることを目的とした「日体協」加盟、さらに全世界への普及を行い、オリンピック公式種目となって世界の仲間が友情の雪球を投げあうこと、それが町民の夢である。






| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | ２月24日～２月25日　２日間（第13回）（＊平成13年度未開催のため、平成12年度分について記述）／毎年開催 |
| 主な対象 | 国内外全ての勤労者及びその家族（中学生以上） |
| 入場者数／目標入場者数 | 1,900人／26,000人 |
| 主管 | 昭和新山国際雪合戦実行委員会 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：28,400千円　財源内訳／助成金：10,720千円　賛同金（会費）：2,200千円　事業収入：1,000千円<br>その他：14,480千円 |

問い合わせ先　壮瞥町役場　経済課　TEL：0142-66-2121
http://www.town.sobetsu.hokkaido.jp　E-mail　keizai@town.sobetsu.hokkaido.jp

# とうもろこし3万坪迷路 ～部門賞【スポーツ・文化部門】（第3回）～

## 北海道本別町

人口：9,730人

主催　　とうもろこし3万坪迷路実行委員会
メイン会場　本別町内のほ場（平成13年度は本別町上本別）

## 内　容

とうもろこし３万坪迷路は、10ha（３万坪）の緑肥用デントコーン畑に、子どもたちから公募した図案を参考にして、幅３m総延長約８kmの迷路を制作する。

会場には展望台、お祭り広場、麦束ピラミッド、特産品コーナー等を設置し、一日グリーンジャングルで楽しめるものであり、開催期間中、じゃがいも、とうもろこしの収穫祭を始め、どろんこフラッグ選手権等各種ミニイベントを開催しており、来場者と地元の人びととの交流が、大空と緑のもと自由に繰り広げられている。

本イベントのメインは、なんと言っても総延長約８kmを超す日本一の巨大迷路である。３万坪（東京ドーム２個半の大きさ）の畑にトラクターにより迷路を作り、４つのチェックポイントを回りゴールするものである。初日のタイムトライアルには、全国各地から挑戦者が来町し、日本一大きい迷路に挑戦する。長い人は、３時間も迷路の中で迷子になっている。

どろんこフラッグ選手権は畑の中に25mのどろんこのプールを作り、１本の旗を取るゲームである。選手は、大人から子どもまでどろんこになりながら真剣に１本の旗を目指し、滑り込む。

## 開催への契機・経緯

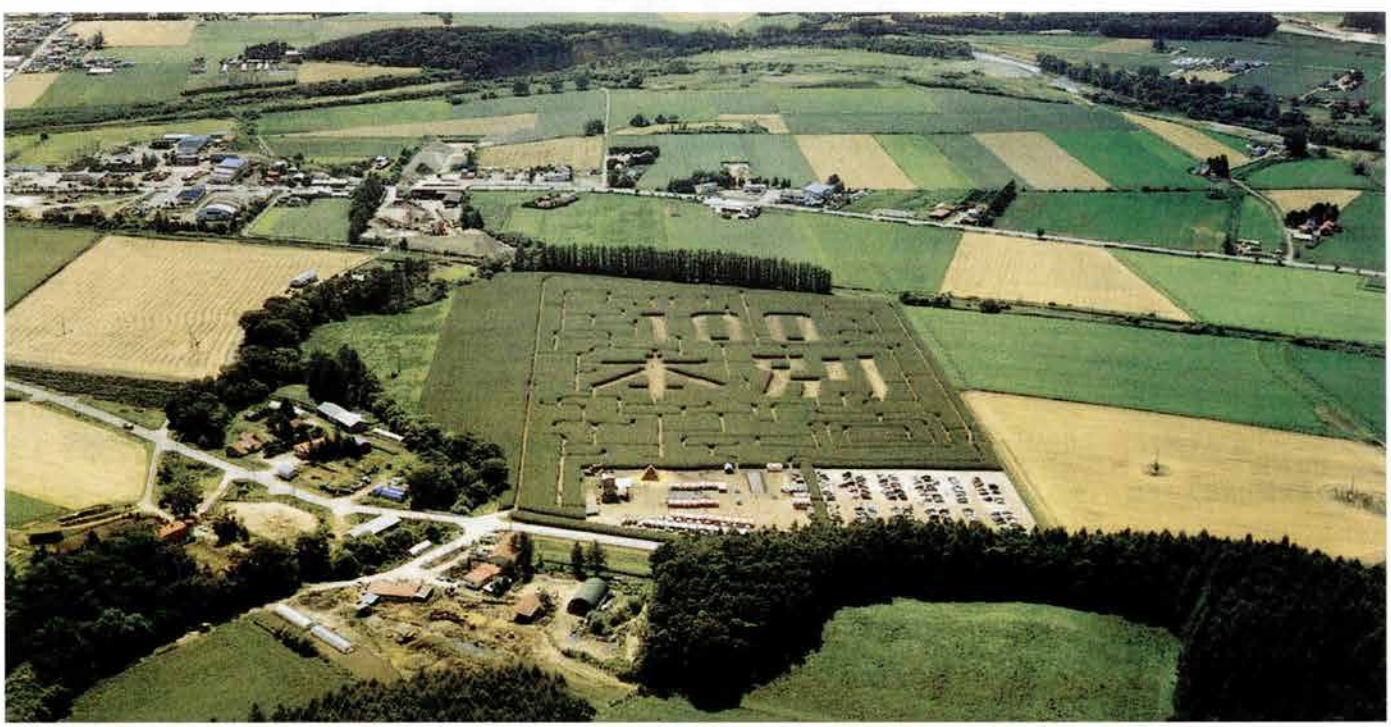
農業を基幹産業とする当町にとって、地力回復による有機農法・減農薬の実施による安全な食料生産は、ガット合意後の日本の農業にとって最も重要な課題であり、消費者に安全な食料を提供することが、日本の食糧基地十勝の農業振興に必要である。

今、クリーンな農業が全国的に叫ばれており、本当に「土づくり」を考え、人にやさしい農業を目指している当町にとって、「とうもろこし３万坪迷路」はクリーン農業のアドバルーンであり、全国へ当町の農業を発信するものである。

とうもろこし３万坪迷路は全国で初めての試みであり、日本一面積の大きい迷路といえる。

## 目的・基本方針

安全で活力のある農産品を生産するためには、畑の「土」が肥えてい









なければならない。化学肥料等に頼らず、デントコーンを畑にすき込むことにより「土づくり」を行っている。

地域住民と都市住民が実際にその ほ場に立つことにより、農業の現状を知り、理解を深めてもらう。さらに子どもたちと大人が一緒になり、土の温もりと泥んこになって遊ぶ喜びを伝えることにより、当町の基幹産業である農業の振興と観光産業の振興を図るものである。

## 開催にあたって考慮している点

本イベントの企画・運営は、町内の各種団体による実行委員会方式で行われており、町民手作りのイベントである。異業種の仲間たちが集まって始めたイベントであり、行政が主役となり開催するもののではない。あくまでも主役は住民である。町民の自主性・自発性を尊重しイベントを開催することが必要であると考える。

## 波及効果

提出されたタイムカードからみると、入場者は全国各地からあり、また北海道においても百以上の市町村からの入場があり、広くほかの地域との交流が推進され、知名度の向上、地域経済の活性化と観光産業の振興に貢献している。また、迷路の空撮を利用した、テレホンカード、文（ふみ）カード、とうもろこしのオリジナル缶詰等、各種グッズも販売している。

さらには、本イベントをきっかけに町内の異業種の青年、女性が集まり、一つの目的にともに苦労するなかで、強い連帯感を持ち、その後の町内のほかの催しに協力するなど、まちおこしの起爆剤になっており、新しい地域おこしグループも設立しており、迷路を通じて地域の活性化が図られている。

## 課題・今後の展望

イベントの担い手の確保が課題である。町民の自主的なイベントであるため、極力行政に頼るのを避け、イベントを開催している。しかしながら、農業者を始めとした担い手不足は以前より続いている。

今後の展望としては、一人でも多くの担い手を育てるため、イベントの開催だけにこだわるのではなく、１年を通しての仲間づくりを念頭に置き、人づくりを主題とした学習を重ね、仲間を増やし、本イベントを継続させていくということである。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ８月10日～８月16日　７日間（第14回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 道内観光客及び町民 |
| 入場者数／目標入場者数 | 15,745人／15,000人 |
| 共催・後援等 | 十勝支庁、帯広開発建設部、帯広土木現業所、十勝教育局、北海道観光連盟・十勝観光連盟・十勝圏複合事務組合、本別町、本別町教育委員会、JA本別町、本別町商工会、本別町観光協会、本別町建設業協会、JR北海道、北海道ちほく高原鉄道、北海道新聞本別支局、十勝毎日新聞社本別支局、㈱帯広青年会議所 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：13,000千円　財源内訳／入場券収入：5,000千円　補助金：7,000千円（本別町補助金）<br>販売収入：1,000千円 |
| 問い合わせ先 | とうもろこし３万坪迷路実行委員会　事務局次長　大橋堅次　TEL：01562-2-5111<br>http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp |

# ゲタリンピック

～優秀賞（第5回）～

## 広島県福山市

人口：380,817人

主催　　ゲタリンピック実行委員会
メイン会場　JR松永駅南口

## 内　容

特産物である「畳」「塩」「下駄」にこだわり松永地域の特色を出しながら、人と人とのふれあいや明るく健やかな子どもの育成、ボランティア精神を大切にしたイベント内容としている。

メインである競技は、日本一大きな巨大ゲタ（片方1.3t）を引っぱり、その距離を競う「巨大ゲタさばり」、特産物をテーマにした障害物競争「ゲタでゴザール」、ゲタを積み上げてタワーを作る「ゲタタワー」があり、ユニークなネーミングも特徴的である。

その他の競技に、ゲタを駒にして畳を将棋にした「ゲタ将棋大会」、第８回からの新競技である「ゲタ飛ばし」。競技以外でも学生たちが夏休みに描いた力作を駅のコンコースに展示した「ゲタリン世界の美術館ワールドカップ2001」や下駄のデザインを小学生の高学年に描いてもらう「児童ゲタ絵柄コンクール」、ゲタを使った踊り「ゲタリンばやし」や地域物産展など、地域文化の継承と地域産業の振興をテーマにした多数の催しを実施している。

また、当地域はブラジルや中国など海外からの居住者も多いため、国際交流広場を作り、各国の踊りやお茶席、手作り下駄の講習、浴衣と下駄を履いてもらうなど日本と海外の文化の交流とふれあいの場を提供した。

ステージでは、日頃の練習の成果発表の場として歌や楽器演奏などが披露された。環境問題にも配慮し「ゴミの持ち帰りキャンペーン」と題し、来場者、ブース出店者にゴミ袋を配ったり、分別作業を行いゴミの量を減らすなどの取り組みを行った。





また、普段話し合う機会のない県・市議会議員と市民との忌憚のない意見交換の場として、「まちづくり相談室」を設け、生活の現状やまちの活性化などで意見が交わされた。

その他にも地域の各施設や店舗、会場内に「ゲタリンまちづくりバンク」を設置し、来場者の寄付金とバザーの売上金で介護用器具等を購入し、福祉施設へ贈呈した。

## 開催への契機・経緯

平成５年、商店街活性化事業の一環として、松永商店連合会青年部約20名が、地域の住民や福山大学学生とのコミュニケーションを図り、商店街を活性化するために、松永駅北口商店街のメインストリート約150mを使って障害物競走を行った。翌６年は、松永商店街近代化事業の一環として、松永商店連合会青年部が下駄工場の協力により、松永駅南北商店街を会場にして第1回ゲタリンピックを開催した。

当地域の特産である「畳」「塩」「下駄」に着目し、それらをテーマとしたイベント内容を回を重ねる毎に増やした本イベントは、各方面からの協力を得ながら、当地域全体の祭りとして拡大している。

個々の組合や業界だけのイベントでは、余力がなく事業費や作業人数に限りがあるため、平成５年のイベントをきっかけにさまざまな組合や商店主、団体が中心となり、世代の枠を超えて皆がひとつになれるイベントを作りたいとの声が挙がり、企画から作業まで全て手作りで行う実行委員会を立ち上げた。

## 目的・基本方針

当地域は、福山大学をはじめ、日本はきもの博物館、日本郷土玩具博物館等の学術文化施設を有し、下駄、い草、塩など全国に誇れる特産物を

持つ。この学術文化施設と特産物を活用した祭りを継続的に実施することにより、人と人の和ができ、人とモノとの出会いを通じて、私たちのふるさとの活性化と魅力ある地域づくりを目的とする。

## 開催にあたって考慮している点

当日のイベントの成功が全てではなく、開催までの準備段階に主眼を置いている。人と人とのふれあいの中でお互いを認め合える機会を持ち、地域のあらゆる信頼関係を深めることに重点を置いているため、さまざまな意見のぶつかり合いや相違なども、良いイベントを生み出すことにつながっている。

イベントを支える協賛金もメンバーが分担して一件ずつお願いして回っている。これも一人ひとりが本イベントを支えているという意識の向上につながっている。全員が動いたら全員のイベントになるという意識を持たせることを考慮している。

また、地域社会では浮いた存在になりがちな海外からの居住者や大学生、福祉施設へ通う人たちなども地域の一員として迎え入れ、一緒に楽しんでふれ合い、全員で当日を迎える準備を行う。

当日は、メンバー、競技などの参加者、来場者も一緒に楽しめるよう考慮し、来年もメンバーとして参加したい、来年からでもメンバーとして参加したいと思う人が一人でも増えるよう努力している。





## 波及効果

生活様式の変化と安価な輸入品に押され、特産品である「畳」「下駄」の景気は降下の一途を辿っており、地元ブランドである「備後畳表」「松永下駄」が衰退しつつある。そのような状況の中で本イベントを開催したところ、競技参加者や来場者の特産物への認知が高まってきており、地場産業の衰退に歯止めをかけ復興へと導いている。

また、近所、学校、社会などでプライバシーを尊重するあまりのコミュニケーションの減少が、現代に増加する若者の引きこもりや低年齢化する青少年犯罪の要因の一つと言われており、本イベントを通じて地域住民のネットワークづくりができ、青少年の健全な成長を地域全体で見守ることができるようになった。ひいては、非行防止につながり、青少年の明るく健やかな育成が地域全体の力で可能となった。

メンバー全員がボランティアで活動しており、そのメンバーの輪が徐々に広がり、小学生から高齢者までがボランティアとして参加してもらえるようになった。

## 課題・今後の展望

回を重ねる毎に祭り全体が大きくなっているため、メンバー全員の意識統一と参加者及び来場者の安全確保、また会場の確保も課題である。

また、長引く不況で企業からの協賛金が減額され、祭りは大きくなっている反面、協賛金の確保が難しくなってきている。

新鮮な意見と発想を持つ若いメンバーも年々増加し、当日のボランティアも500名になろうとしている。各種団体企業からの協賛数も約1千社にも及び、それぞれが深い絆で結ばれ、人的ネットワークが形成されつつある。そして祭りを通じ、まちを観察し比較する。「もっと住み良いまちにするには」「もっと元気なまちになるためには」いつもそんな未来の話をするまちおこしグループへと成長し続ける。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 9月9日　1日間（第8回）／毎年開催 |
| 主な対象 | |
| 入場者数／目標入場者数 | 8万8千人／8万8千人 |
| 共催・後援等 | ●後援／福山市、福山商工会議所、㈶鞆遺芳文化財団、福山大学、福山松永ライオンズクラブ、松永ロータリークラブ、松永・沼隈地区医師会、松永地区体育館 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：7,200千円　財源内訳／補助金　福山市：500千円　福山商工会議所：1,000千円<br>一般：企業・団体等：4,500千円　事業収入：1,200千円 |
| 問い合わせ先 | ゲタリンピック実行委員会（福山商工会議所　松永支所内）　TEL：0849-33-2151<br>http://www.getalym.com |

# 柳川ソーラーボート大会

～優秀賞（第2回）～

## 福岡県柳川市

人口：42,332人

主催　　柳川ソーラーボート大会実行委員会
メイン会場　かんぽの宿柳川東隣り：パドック：有明地域観光物産公園　レースコース　柳川市内下りコース
参加艇…80艇　観客数…約２万５千人（２日間延べ）

## 内　容

手づくりのソーラーボートで参加し、スピードや操縦性、アイデアなどを競う。

参加者が船に搭載する100W以下の太陽電池と大会実行委員会から支給する蓄電池４個（搭載は最大２個まで）及び大会実行委員会が貸与する太陽光発電設備（周回レース・決勝進出チームのみ）を動力源として競技を行う。種目ごとに順位を決め、また、それぞれのレースのポイントを合計して総合順位を決定する。

参加チームは年々増加しており、平成13年の大会では過去最多の80チームの参加があり、このうち市内からの参加は８チームで、個人や企業などの仲間同士で参加している。

## 開催への契機・経緯

現在、地球規模での環境問題、とりわけ地球温暖化や酸性雨等が問題となり、石油に代わるクリーンな代替エネルギーの開発が急がれている。なかでも、太陽電池の利用は研究開発が積極的に行われており、低コスト化と実用化が推進されている。

当市には、総延長470kmにも及ぶ掘割があり、水との関わりが深く「掘割を基軸とした豊かで潤いのある水の里づくり」を基本テーマとして、「あめんぼシティ推進事業」に取り組んでいる。この事業は、水を中心に環境保全意識の向上を目的として、ハード・ソフト両面のさまざまな施策を実施している。その一環として水辺環境を活かした柳川らしいまちづくりと、太陽エネルギーの有効利用を目指して、平成８年より太陽電池で動くソーラーボートの競技会を市内の川下りコースで開催することになった。

数年前まで掘割を使った「堀ンピック」と称した、川下りで使うどんこ舟やハンギリ等を使った水上競技をしていたが、もっとインパクトがあり、地域はもとより全国にアピールでき、また参加者だけでなく観客も楽しめるようなイベントとしてソーラーボートの競技会を考えた。

## 目的・基本方針

太陽エネルギーの利用について理解し、豊かな水と太陽の恵みを再認識し、参加者に自然と親しみ、楽しんでもらう。



## 開催にあたって考慮している点

水上競技として、誰でも参加できるようなイベントを毎年考えており、平成13年は、水上綱引きを行い、小学生から大人までといった幅広い年齢層にも大変喜ばれた。

さらに、大会への市民参加だけでなく、大会に向けての一斉清掃といった形での市民参加も増えてきている。

## 波及効果

本大会を開催することにより、遠方から来た人たちに恥ずかしくない掘割にしなければならないという意識が住民の中に高まりつつあり、殺風景な堀岸に花を植えたり、掘割などの藻やゴミの清掃をするなど、住民の自主的な活動が芽生えてきている。また、行政においても掘割の環境や景観に配慮しながら整備を進めるとともに、掘割を守り育てていくための行政と住民の行動の指針となる「掘割を守り育てる条例」（愛称：水憲法）の制定も行った。さらに、市立図書館などの公共施設へソーラーパネルを取り付け、太陽エネルギー利用とその啓発も行っている。

このように、行政と住民、各種団体が一体となりイベントを開催することによって、掘割を守り後世によりよい形で引き継いでいこうとする動きがさまざまな形で生まれてきている。

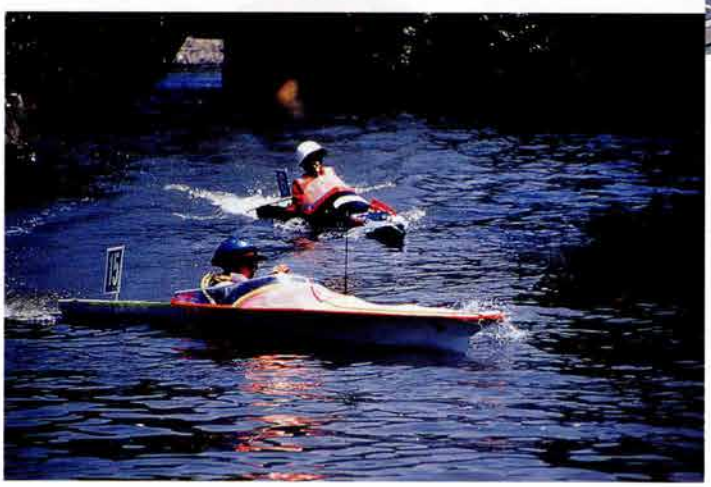
## 課題・今後の展望

参加チームは、第１回（平成８年）の53チームから始まり、第２回が59チーム、第３回が67チーム、第４回は68チーム、第５回は76チーム、そして13年の第６回は80チームと、年々増えている。船を置き、整備をするパドックとして使用している有明観光物産公園がスペース的に限界があり、これからも参加数が増え続けた場合、他の土地を見つけなければならない。

また、会場が借地であることから、仮設スタンドやテント、ステージ、乗船場、船揚げ場などの会場設営に膨大な経費がかかる。民間の団体や企業に協賛金の依頼をしているが、景気が低迷している折、思うように資金が集まらない。

今後も本大会を活かして、全国各地に当市をPRし、柳川らしい住みよい個性的なまちづくりを行っていきたいと考えている。







| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ８月４日～８月５日　２日間（第６回）／毎年開催 |
| 主な対象 | すべて |
| 入場者数／目標入場者数 | 500人／一人 |
| 共催・後援等 | 後援団体／文部科学省、経済産業省、国土交通省、総務省、環境省、福岡県、福岡県教育委員会、柳川市教育委員会他 |
| 総経費・財源内訳 | ― |

問い合わせ先　柳川ソーラーボート大会実行委員会　TEL：0944-73-8111

# 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ ～選考委員特別賞（第2回）～

## 佐賀県佐賀市

人口：164,546人

主催　1997佐賀熱気球世界選手権組織委員会
メイン会場　佐賀市嘉瀬川河川敷

## 内　容

平成13年で22回目を迎える本イベントは、世界18ヶ国から120機のバルーンが集まり、国内はもちろん国際的にも知られるイベントとなっている。晩秋の佐賀平野の大空に色とりどりのバルーンが一斉に舞い上がる様は圧巻であり、毎年約80万人の観客に大いなる夢とロマンを与えている。

競技以外にも、係留気球体験搭乗やバルーンファンタジア（キャラクターやパンダなどの変形バルーンの祭典）、ラ・モンゴルフィエ・ノクチューン（夜間係留）などの数多くのイベントを行っており、終日楽しめるタイムテーブルである。障害をかかえた方にもバルーンを身近に体験してもらえる「ハートフルデー」、子どもたちを対象とした気球教室を行う「キッズデー」もあり、未来に続く大きな交流の輪が広がっている。

また、環境にやさしい大会をめざすため、今大会から会場の駐車場を利用する人に500円の環境整備協力金をお願いしている。






## 開催への契機・経緯

本大会は、昭和53年福岡県甘木市で開かれた「バルーンフェスタin九州」という小さなバルーン・ミーティングが始まりとなっている。この後、ほとんどスケジュールを消化できる安定した気候、飛行エリアとしての佐賀平野の広さ、参加者の宿泊施設を確保できる県庁所在地である当市の大きさ、また、国際空港である福岡空港から１時間の距離に位置する交通環境の良さなどの理由から、当市で大会を開催するようになった。

昭和59年からは国際大会に発展し「佐賀インターナショナル・バルーンフェスタ」と改め、現在に至る。毎年、国際大会として内外の一流選手を集め、多くの外国選手やクルーが参加する大きなイベントとなっている。

## 目的・基本方針

会場内で観客が単に観るというだけでなく、観客の参加意識や体験志向を満足させるようなイベントを開催するとともに、アメニティ性に富む会場の施設整備を進め、観客対策の充実を図っている。

また、バルーンフェスタを一過性

のイベントとしてだけでなく、地域的な広がりや年間を通したバルーンイベントに取り組み、経済的波及効果を期待している。

## 開催にあたって考慮している点

バルーンフェスタというと、まだまだ競技中心のイメージがあるが、競技の合間にさまざまなイベントを行うことによって観客とより一体となった大会となるよう工夫している。

いかにして観客に楽しんでもらうか、リピーターをどのように確保していくか、訪れた観客に当市内でどう楽しんでもらうか検討している。そのために係留気球体験搭乗の実施、広報の充実、当市内サテライト会場でのイベントにも力を入れている。

また、ゴミの持ち帰りを呼びかける、運営スタッフ・観客とともにゴミ拾いを行う時間を設ける、駐車場利用の方に環境整備協力金をお願いする等、環境に対する取り組みを行っている。期間中はかなりの渋滞が予想されるため、交通対策や地元対策についても、イベントの運営が円滑に進むよう考慮している。

## 波及効果

- 毎年11月に行うことで「秋の佐賀」を印象づけ、イメージアップにつながる。
- バルーニストと3千人を超えるボランティアの人たちに支えられた大会であるため、交流の場が広がっている。
- 係留気球体験搭乗やハートフルデー、キッズデーの実施によってバルーンを身近に感じることができ、スカイスポーツへ興味を惹きつけている。
- 会場駐車場利用者に500円の「環境整備協力金」をお願いしたり、運営スタッフ・観客一体となったゴミ拾いタイムを設けたり、リサイクルカーの設置など、環境に対する取り組みの徹底が図られている。

## 課題・今後の展望

競技中心のイメージが強いので、観客を対象としたイベントであるとのPRをもっと行っていきたい。係留気球体験搭乗、ハートフルデー、キッズデーなどの実施、会場の整備、当市内への観光客の呼び込み等の観客対策が課題といえる。






| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月31日～11月4日　5日間（第22回目）／毎年開催 |
| 主な対象 | |
| 入場者数／目標入場者数 | 765,000人／800,000人（平成12年度実績） |
| 共催・後援等 | 佐賀市、佐賀県、国土交通省、熱気球大会佐賀運営委員会他 |
| 総経費・財源内訳 | ― |

問い合わせ先　佐賀市　観光・文化課　TEL：0952-24-3151　http://www.city.saga.saga.jp

# 小学生創作ミュージカル発表会

～大賞（第2回）～

## 宮城県歌津町

人口：5,729人

主催　　歌津町教育委員会
メイン会場　歌津町立歌津中学校

## 内　容

「雄大な自然美をバックに歌声の響く活力あるふるさとづくり」の一環として行われ、町内２つの小学校全校約450人の児童が出演する創作ミュージカル発表会である。

町に伝わる伝統、伝説、文化等を地域の言葉と歌で体いっぱいに表現。海岸地区の小学校は、海をテーマに先人たちが知恵を絞り、研究を重ねてきた「ワカメ養殖の歴史」と「環境問題」を取り上げ、山間地区の小学校は、町のシンボル霊峰田束山にまつわる伝説をテーマに、忘れかけていた「ふるさとの歴史や風土」を学ぶとともに、無数の生命の大切さを取り上げ、「人間愛」の素晴らしさを表現する構成となっている。

平成13年で第８回目を迎え、演目は同じであっても、演ずる子どもたちの学年が毎年異なり、６年間を通して全演目を体験することは、郷土の歴史、文化、産業への関心を深め、郷土を愛する心を育むとともに表現力を高め、協調性を養い、大きな達成感を地域の子どもたち及び観客（町民）に与えている。

毎年、発表会が近づく11月になると町はミュージカル一色に染まり、わずか６千人弱の町民のうち、1,500人が中学校の体育館に集まる町の名物行事になっている。

## 開催への契機・経緯

当町には、他地域に誇りえる雄大な自然があり、この恵みを受けながら第１次産業を中心に発展してきた経緯がある。現在は、若者の都心部流失による人口の減少、高齢化による後継者の不足などその第１次産業に陰りが見え始め、後継者の育成に大きな問題を抱えている。

そこで、地域の素晴らしさを次世代を担う子どもたちに伝える方策として、学校のカリキュラムのなかで、ミュージカルという子どもたちにも受け入れやすいものを通して、楽しみ、助け合い、大きな感動と共に心に刻んでもらいながら、地域に誇りをもってもらうことを目的として実施した。



## 目的・基本方針

ミュージカルをとおして、地域の子どもたちは、ふるさとの素晴らしさを認識すると共に、協調性、忍耐力を養い、その結果として大きな達成感を共有することができる。

学校行事として、教育の一環で実施するミュージカルは他に例がなく、町内全校児童の情操教育として位置付けている。

## 開催にあたって考慮している点

学校行事のため、なるべく早急に開催日時を決定し、学校のカリキュラムにその練習時間が組み込まれるようにしている。

演目が毎年同じなので、マンネリ化しないように脚本に若干でも変更を加えている。

## 波及効果

他に例を見ないイベントであるため、町内外への反響も大きく、年々来場者が増えている。地域の住民にも多くの賛同を得ており、恒例の行事として定着している。

学校における総合学習の一環として、町内の２つの小学校では、地域の産業、歴史などを取り入れるようになり、地域の１次産業後継者の方が臨時講師となって、子どもたちに地域産業の素晴らしさを伝えている。

海岸部の小学校では、演目にもある「環境問題」を総合学習に取り入れ、ゴミ処理の問題を勉強し、地域の広報を通して、その成果を発表している。

## 課題・今後の展望

毎年演目が同じであるため、マンネリ化が心配される。また、文化ホールのない当町に本格的な舞台を設置するため、多額な費用を要する。

このような問題を解決するために、

1．町内においてミュージカルを経験した児童が後継者となり、指導にあたる体制を模索する必要がある
2．舞台芸術（大舞台など）を地域における後継者が行う
3．脚本を見直す
4．イベント自体の方向性を見直す（学校としてではなく、スポーツ少年団的な活動へ移行等）
5．イベントを隔年にする

などを検討中である。



| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月24日　１日間（第８回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 全町民及び不特定多数 |
| 入場者数／目標入場者数 | 町内小学生全校児童　約450人／1,500人 |
| 共催・後援等 | 宮城県 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：9,550千円　財源内訳／一般財源：4,775千円　県補助金：4,775千円 |

問い合わせ先　教育委員会　教育総務課　TEL：0226-36-2130　http://www.utakyoui@gaea.ocn.ne.jp

# 上三原田の歌舞伎舞台公演 ～部門賞【スポーツ・文化部門】（第2回）～

## 群馬県赤城村

人口：12,789人

主催　　上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会
メイン会場　（国）重要有形民俗文化財　上三原田の歌舞伎舞台

### 内　容

第16回国民文化祭・ぐんま2001の開催にあたり、上三原田の歌舞伎舞台を会場に、市町村主催事業『農村歌舞伎inあかぎ』を開催した。

県内外から農村歌舞伎愛好者７団体を招き、世界に誇る特殊な舞台機構を駆使して華麗で優雅な歌舞伎競演が繰り広げられた。

### 開催への契機・経緯

現存する日本最古の廻り舞台で、他に例を見ない舞台装置を持つ上三原田の歌舞伎舞台は、文政２年（1819年）に地元の大工永井長治郎により建造された。

舞台公演は太平洋戦争中の中断をはさみ、戦後も数年間隔で行われてきたが、舞台操作に携る人手の不足などを理由に、昭和51年以来途絶えていた。

平成６年度に文化庁等の補助による修復をきっかけに、舞台公演の復活を求める気運が高まり、舞台操作伝承委員会を結成し舞台操作技術の伝承に努め、平成８年に復活をとげた。以降毎年舞台公演を重ね、一連の復活劇の総決算として、平成13年11月３日～４日に国民文化祭「農村歌舞伎inあかぎ」を開催した。

### 目的・基本方針

上三原田歌舞伎舞台の操作技術の伝承と、伝承活動を通して地域の連携を図り、明るく住み良い地域づくりを目的とする。





## 開催にあたって考慮している点

先人の残してくれた貴重な文化遺産を大切に保存・伝承し、いかに人びとの心の糧として活かしていくかが大きな課題である。そのためには、次代を担う子どもたちが地域の文化をどのように受け止め、理解し、新たな創造を加えて次の時代に継承していけるかを、多くの子どもたちに問いかけるイベントとした。

## 波及効果

子ども歌舞伎の結成や舞台操作伝承委員会若連会の活動をとおし、次代を担う若い世代の参加が目立つようになった。何気なく住んでいる地域の文化に関わることにより、郷土愛や地域の連帯意識を涵養することができた。また、村内の他の地域にも良い影響を及ぼし、獅子舞や人形芝居、太々神楽等の活性化にもつながっている。

## 課題・今後の展望

このイベントを一過性のもので終わらせることなく、継続していきたい。






| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月３日～11月４日　２日間（第６回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 一般 |
| 入場者数／目標入場者数 | 13,000人／一人 |
| 共催・後援等 | 主催／文化庁、群馬県、群馬県教育委員会、赤城村、赤城村教育委員会、第16回国民文化祭群馬県実行委員会、第16回国民文化祭赤城村実行委員会、上三原田自治会<br>後援／マスコミ各社 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：54,000千円　財源内訳／県補助金：25,000千円　村補助金：29,000千円 |
| 問い合わせ先 | 第16回国民文化祭赤城村実行委員会　TEL：0279-56-2214<br>http://www2.gunmanet.or.jp/akagi/new/new9.html |

# 青梅宿アートFes「招き猫たちの青梅宿」

～部門賞【展示・博覧会部門】（第3回）～

## 東京都青梅市

人口：138,587人

主催　　青梅宿アートフェスティバル実行委員会
メイン会場　JR青梅駅周辺商店街






## 内　容

青梅宿アートフェスティバルは、毎年テーマを変え、それにちなんだ数々の催しを行っているイベントで、平成12年度は、イベントを行っている商店街にはかつて映画館があり、娯楽の中心として賑わっていたことから「シネマは踊る青梅宿」と題し、映画に関係する数々のイベントを展開した。

具体的には、芝居と無声映画の上映等を行っていた「スミエ座」を復活させ、活弁映画の上映や舞踏、紙芝居、大道芸などのさまざまなステージを行い、ステーションシネマ（青梅駅での映画上映）ほか、会場の各所で映画を上映し、007シリーズやスターウォーズ、忍者映画等のコレクショングッズ・ポスター等を展示した特別映画展を中心に、恒例となっている懐古自動車パレード、ボンネットバスの運行、チンドンの演奏、映画看板の飾り付けや歌声喫茶等のレトロ調イベントのほか、各商店街独自のイベント広場（ミニSLやミニゲームなどの子ども向け広場「ポッポや遊園地」、世界の料理・郷土品が並ぶ国際色豊かな「ハイカラ広場」、骨董市や猫グッズの数々が集まる「猫市猫座」、青梅信用金庫の協力による「近代日本画秀作展」等）を行った。

【過去のテーマと主な内容】

- 第１回（平成３年）「街は緑の美術館」：一坪アート展
- 第２回（平成４年）「街にサーカス小屋がやってくる」：日本最小のサーカス
- 第３回（平成５年）「街ゆかば大正が；かほる」：竹久夢二絵画展
- 第４回（平成６年）「ふりむけば青梅宿」：荒木経惟写真展
- 第５回（平成７年）「夕焼け小焼けの青梅宿」：怪傑黒頭巾、谷内六郎、中原淳一展
- 第６回（平成８年）「想い出さがしの青梅宿」：江戸川乱歩展
- 第７回（平成９年）「花嫁御寮の青梅宿」：大正の花嫁行列再現
- 第８回（平成10年）「招き猫たちの青梅宿」：招き猫縁起展、猫街
- 第９回（平成11年）「昭和恋しや青梅宿」：昭和レトロ商品博物館、駄菓子屋横丁

## 開催への契機・経緯

青梅駅周辺の商店街は、宿場町から発展した歴史ある商店街で、かつては西多摩の中心地として大変な賑わいをみせていたが、昭和50年代後半にニーズの多様化や車社会に対応した大型店が市の東部へ相次いで進出すると、徐々に人の流れが変わっていった。

このことに危機感を抱いた商店主たちが、商店街を法人化し（現在の住江町商店街振興組合）平成元年に東京都のモデル商店街事業の指定を受けて街並みを整備（歩道の設置とそのカラー舗装化、装飾灯の整備等）、「お客さんとゆったり会話のできる商店街」を基本理念に、その完成イベントとして「街は小さな美術館」をテーマとした「一坪アート展」等を実施した。

この「アートを通じて店主と消費者のコミュニケーションを図る」という目的を原点として、平成３年に「青梅宿アートフェスティバル」は産声をあげ、以後、回数を重ねる毎に近隣の商店街の参加も増えるなど、いまや集客４万人を数える一大イベントとなっている。

## 目的・基本方針

商店街を構成する店舗の創業が大正から昭和初期に多いことから、大正ロマン・昭和モダンを中心に旧き

良き時代を彷彿させるとともに、青梅に旧来からある文化や特色をいかしたテーマによるイベントを行い、「地域文化の継承」「郷土の再認識」「コミュニティの形成」を軸に、地域に愛される商店街を目指し、その存続、活性化を図る。

## 開催にあたって考慮している点

とかく商店街では事業を企画・立案する上で、店主たち、つまり仲間内でイベント内容を創る関係上、顧客に対する姿勢より、まず内部のバランスを優先してしまう。そのため、創造性に欠けることも多くなる。また、煩雑さを避けるため、外部の企画会社にイベントをまる投げすることも多くなる。その結果、どこか似たようなイベントになるので、本イベントは意識的に企画の段階から市民サイドのメンバーを募り、異なった立場の価値観、興味感、知識、感性などを積極的に取り入れ、本イベントを「ひとつの作品」として創るようにしている。

そして、なにより大切にしていることは、イベントの佇まい、つまり、自分たちの街の歴史観や街への愛を大切にしながら、来街者には感謝を込めて「自分たちで創ったイベント」を終日楽しんでください、とメッセージできる青梅宿アートFesを考えている。

## 波及効果

年々商店街の会員以外の人（市民グループ、地元の高校・大学の学生等）の参加が増えてきており、イベントを創っていく過程で商店主と消費者の相互理解が図られ、商店街が地域文化の担い手として、その存在価値を認められるようになっているとともに、地域コミュニティの形成にも一役買っている。

また、イベントの模様が度々テレビや新聞・雑誌等で広く紹介されることで、市民の地域の再認識や来街者の増加に効果が出ている他、北海道や九州等の遠方からも商店街や自治体関係者等が訪れ、映画看板の貸し出し等を中心に交流が続いている。

そうして広がっていった交流の輪による人脈、アイデア、知名度等の財産の蓄積が「昭和レトロ商品博物館」（昭和の一般に消費してきた商品のパッケージ等が集積された博物館）、「マイショップ青梅」（地元特産品等のチャレンジショップ）等の空き店舗対策事業や、小泉八雲の「怪談；雪おんな」（この話は当市のある農民から聞いた話をもとにしていたということが分かった）という新たな地域ブランドの開発等に活かされ、商店街に活力を与えている。

## 課題・今後の展望

厳しい経済下における基盤低下と大型店との競合、後継者難等、依然として商店街には暗い影が落ちており売上の低迷が続いているが、この事業によって得た商店街の連帯感、消費者の生の声によるニーズの的確な把握等の“財産”を、イベントでの来街者を一見客から愛顧客にするような魅力ある個店・まちづくりに活かし、歴史ある地域文化の継承者としての役割を商店街が担い続けていくことが期待される。





| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月23日～11月25日　3日間（第11回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 特になし |
| 入場者数／目標入場者数 | 40,000人／40,000人 |
| 共催・後援等 | 東京都、青梅市、青梅商工会議所、青梅商業協同組合、青梅市観光協会 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費（予算ベース）：10,650千円　財源内訳／商店街負担金：3,650千円　東京都補助金：7,000千円 |

問い合わせ先　昭和レトロ商品博物館 TEL：0428-20-0234　http://www.ne.jp/asahi/retoro/showa/
青梅市市民経済部　商工観光課 TEL：0428-24-2480　http://www.city.ome.tokyo.jp/

# 大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ

～大賞（第5回）～

## 新潟県十日町地域広域事務組合

人口：78,568人

主催　越後妻有大地の芸術祭実行委員会
メイン会場　十日町地域広域行政圏域（十日町市、川西町、津南町、中里村、松代町、松之山町）762㎢

## 内　容

豊かな自然とそこで営まれてきた人びとの暮らしを背景として、『人間は自然に内包される』をテーマに掲げ、現代アートを切り口とした全く新しい地域振興のためのお祭りとして「大地の芸術祭」を53日間開催した。「トリエンナーレ」とはイタリア語で「３年ごと」の意味で、３年に１度開催される。

大地の芸術祭は、作品鑑賞と大小さまざまなイベントの展開により構成された。現代アートの作品は、世界32カ国140余人ものトップアーティストが参加し、会期中に越後妻有地域の762㎢の広大なエリアに146作品を設置し、来訪者はこれを見学する。作品制作の多くは、作家と地域住民の協働作業で行われ、それ自体を地域づくり、住民参加と位置付けた。会期中の作品鑑賞は、琵琶湖とほぼ同じ大きさの越後妻有という広い区域を巡ることにより、豊かな里山の自然や人情に触れてもらえ、好評を得た。鑑賞者は全国各地から、また海外からも含め13万2400人にのぼった。

イベントは、約40種類の催しが100回以上開催された。「地球環境セミナー」「妻有から見た世界」など地球環境と地域の在り方をテーマにしたもの、６市町村の特性を活かしたもの、作家と地域住民が場所に根ざして行ったワークショップなど多彩な分野にわたり、3万400人が参加した。

全体の大きな特性として、首都圏の学生を中心としたサポーター組織「こへび隊」約800人が主力になって事業の運営がなされ、地域内で多くの心の交流ネットワークが生まれたことが挙げられる。一方、地域においては、数千人が何らかの形で事業に携わり、地域の素晴らしさが再認識された。



©安斎重男

## 開催への契機・経緯

越後妻有アートネックレス整備事業は、平山新潟県知事が提唱し、新潟県内６広域市町村圏で推進している「ニューにいがた里創プラン」の一つである。自然・歴史・文化・産業などの地域資源を広域的にとらえた地域づくり事業であり、広域連携も視野に入れている。十日町広域地域は、新潟県の第１号として平成６年に指定を受けた。

当圏域には、遠く縄文時代以来、豪雪の山間地という厳しい風土の中で、独自の文化が育まれてきた。約4500年前の笹山遺跡から出土した火焔型土器は、先ごろ、縄文土器としては初めて国宝に指定された。中心都市の十日町市では人口３万人以上の都市としては世界一の積雪深を記録している。

自然破壊による地球規模の危機に直面している現代社会において、越後妻有の人びとが自然を敬いながら重ねてきた創意工夫をアートと捉えた。この創意工夫は越後妻有地域のためだけでなく、世界にとっても貴重な財産である。

若者人口の流出による過疎化と高齢化、地場産業や農業の衰退など、深刻な問題を抱える当地域が、縄文の頃のように時代の先端を走り出すために、世界に対して強く訴えかける構想をたて10年間にわたって取り組むこととした。その手段として現代アートを活用することとした。







## 目的・基本方針

「人間は自然に内包される」という事実を改めて確認し、世界の人びとに強く訴えかけるために、越後妻有の豊な自然に学びながら、地域の人びとが誇りを持って生活することのできる「美しい越後妻有の里づくり」を目指すことを基本理念としている。事業目的は、(1)地域に対する誇りの醸成(2)地域の魅力増進(3)交流人口・定住人口の増加(4)産業の振興、の４つである。

## 開催にあたって考慮している点

事業を進めるにあたっての基本姿勢は、(1)広域連携(2)ソフト重視・プロセス尊重(3)住民参加・他者との協働(4)自然から学ぶ･地域資源の活用、の４つである。

(1)広域連携…６つの市町村が連携することで、広域的な地域経営の視点に立ち、各市町村の資源を活用して事業を運営する。

(2)ソフト重視・プロセス尊重…さまざまな活動やその過程を大切にする。

(3)住民参加・他者との協働…計画から運営にいたるまで、地域住民や圏域外の人びとの参加を得る。

(4)自然から学ぶ・地域資源の活用…自然から学びつつ、豊かな地域資源を生かした事業展開を図る。

## 波及効果

主要目標に掲げた「交流人口の増加」「情報の発信」「地域の活性化」について大きな効果をおさめ、中山間地域において、アートを活用した新たな地域振興方策として、各方面から注目を浴びている。

(1)交流人口の増加…作品が当圏域内各地に設置されたため、地域内の回遊が進み、６市町村それぞれで交流人口の増加が図られた。来訪者から、里山の風情や棚田などの妻有の豊かな自然に対する共感と、人情味に対する賞賛が寄せられ、多くの地域ファンを獲得した。首都圏を中心として組織されたサポート組織「こへび隊」が会期前から当地域を訪れ、地域住民と積極的な交流を行った。この結果、こへび隊という800人以上の地域ファンが生まれたことは大きな財産である。

(2)住民参加と交流の活発化…多くの作品で地域住民とアーティストによる協働作業が行われ、ワークショップや多様なイベントを通して地域～来訪者～サポーター～アーティストの交流の輪が広がった。

(3)商業・観光業の活性化…新たな交流人口を当地域に迎え、地域経済活動は着実に向上した。特に旅館、飲食店、物産店、輸送業などの売上が伸びた。

(4)越後妻有の知名度アップ…アートを地域活性化の起爆剤にしようとするこの取り組みは、開催期間を通じて幅広いジャンルのメディアにおいて報じられ、特集が組まれるなど、越後妻有の知名度は向上した。参加アーティストの出身国を中心に、海外のメディアでも大きく報じられ、妻有と世界が直接つながる端緒となった。

## 課題・今後の展望

素晴らしい作品がこの地域に生まれたことを評価する人がいる一方で、絶対受け入れられないという人もいて、作品に対する好き嫌いが分かれている。今でも公費を道路建設や地域福祉に使用すべきだという声は多い。

ここに生活する私たちが、妻有の自然や人情、大地の芸術祭への外からの高い評価を自信に持ちながら、そのエネルギーを地域内からの評価に結びつける努力が必要である。

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | ７月20日～９月10日　53日間（第１回）／３年に一度開催。次回は平成15年７月20日(日)～９月７日(日)の50日間開催予定 |
| 主な対象 | 特になし |
| 入場者数／目標入場者数 | 162,800人／200,000人 |
| 共催・後援等 | 新潟県、十日町市、川西町、津南町、中里村、松代町、松之山町 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：381,400千円　＊現金収支のみ<br>財源内訳／新潟県補助金：186,000千円　市町村負担金：124,000千円　協賛金・事業収入：71,400千円 |
| 問い合わせ先 | 十日町地域広域事務組合　企画振興課　（大地の芸術祭・花の道実行委員会事務局）<br>TEL：0257-57-2637　http://www.echigo-tsumari.jp　E-mail：info@echigo-tsumari.jp |

# 万葉集全20巻朗唱の会

～大賞（第1回）～

## 富山県高岡市

人口：172,957人

主催　　高岡市万葉まつり実行委員会
メイン会場　高岡古城公園特設水上舞台

## 内　容

本イベントの会期は、例年10月の第１金曜日から日曜日までの３日間である。初日の午前９時30分からまず雰囲気を盛り上げるため、地元の舞踏研究所の振付による万葉の創作バレエの披露と、声楽家による万葉歌の独唱でオープニングが始まる。その後、故池田満寿夫夫人の佐藤陽子氏（以前は夫妻で出演）、中西進氏、辺見じゅん氏など、全国の著名人による招待者朗唱からスタートして、延々60時間にわたり朗唱が続く。フィナーレは、最終日の午後９時頃になり、最後の巻20の4,516首目の歌は、高岡市万葉歴史館の大久間喜一郎氏が朗唱し、高岡市連合婦人会の合唱団と会場に訪れた観客全員による大合唱で幕を閉じる。そのシーンは大変感動的である。

朗唱の会の特徴は、①３昼夜連続60時間にわたり、リレー方式で万葉集全20巻4,516首全てを朗唱すること②市街地にある高岡古城公園の堀に浮かぶ特設水上舞台を設置したこと③万葉衣装を着用し、万葉時代を感じることができること④誰でも参加でき、参加者の一人ひとりが主役になれること⑤朗唱の方法は全く各人自由であり、思い思いの歌い方で歌い継ぐこと⑥大勢の市民ボランティアの参加と協力により運営していること、があげられる。

１人の持ち歌は２～３首だが、参加者は詩吟調、朗読調、百人一首調、オペラ調など、思い思いの歌い方で



歌い継いでいく。中には、ギターを弾き語り、琵琶を鳴らしたりしながら歌ったり、カラオケの感覚で歌う人もいる。万葉の心にひたり・万葉人になりきって切々と歌いあげる。また、朗唱の合間に、地元の万葉にちなんだ民謡、民舞や小学生による万葉の創作バレエの披露、雅楽の演奏などが催される。

参加者は申込順に受付し、国籍・性別・年齢を問わず誰でも参加でき、無料で万葉衣装が借りられる。朗唱する歌は、応募者の希望を踏まえ、事務局が整理して割り振っている。

## 開催への契機・経緯

北陸富山県の西部に位置する当市は、古くから越中文化発祥の地として栄えていた。奈良時代には万葉集の代表的歌人である大伴家持が越中国守として５年間在任し、この地の美しい自然、風物を多くの秀歌に詠んだという、全国有数の万葉のふるさとである。

当市では万葉集に詠まれた詩情豊かな自然や風土を顕彰し、貴重な歴史的文化遺産を活かした、特色ある個性豊かなまちづくりを目指して万葉のふるさとづくりに取り組んでいる。

本イベントの実施のきっかけは、平成元年に「富山県コロンブス計画」の一環として、富山県で実施された「県民参加型イベントシナリオコンペティション」の入賞作品の中に、万葉集全20巻全ての歌を朗唱しよう、というシナリオがあったことである。

このユニークなアイデアを、「万葉のふるさとづくり」を推進する当市が富山県より勧められ、平成２年10月に第10回高岡万葉まつりの中で「万葉集全20巻朗唱の会」として実施することとなった。

## 目的・基本方針

当市では、家持が越中で220余首の歌を詠んだことに起因して、特色あるまちづくりとして、大勢の市民の参加・参画のもと「万葉のふるさとづくり」を進めている。

市民をはじめ全国の人びとが万葉集を朗唱することで、万葉集に親しむとともに、長い歴史に育まれた当市の伝統文化、芸能を併せて披露し、高岡の文化への認識を深めてもらうことを目的とする。

## 開催にあたって考慮している点

当市では、多くの市民が参加できるイベントとして継続して実施している。市内の連合婦人会、国際ソロプチミスト、観光ガイドボランティア、青年会議所などの万葉を愛する市民ボランティアで組織される「万葉集全20巻朗唱の会にいざなう会」が事業を運営している。事業の運営にあたっては、行政と市民がお互いの役割分担を認識しながら進めており、行政は会場の確保や予算・協賛金の確保等のフレームづくりを行い、市民は実質的な運営を担っている。

例えば、陸上自衛隊には、会場となる古城公園内に特設水上舞台と桟橋の設営・撤去を依頼している。また、期間中には、会場の受付、舞台の呼び出し、万葉の風情に浸る野点席での大茶会の開催、万葉衣装の製作・着付け、食堂・喫茶などの飲食施設や記念写真コーナーの運営、朗唱の合間をうめる民謡・民踊への出演、万葉故地めぐりバスツアーの実施、万葉集の歌の意味やその背景を分かりやすく説明するなど、延べ1千人にのぼる市民ボランティアにイベント運営は支えられている。これにより、市民ボランティア同志の思いも互いに大変強固なものとなり、まさに高岡市民あげての祭りとなっている。

## 波及効果

「朗唱の会」の実施効果として5つの効果が考えられる。①まちの歴史・伝統・文化の再発見につながり、まちづくりに活かしていくことができる②イベントへの参加を通して「自分たちのまちは自分たちで作る」という住民意識が強くなり、住民自治の精神が涵養される③朗唱する人、裏方で世話をする人に、日常生活では得られないような喜びや感動を味わってもらえる④万葉のふるさとづくりという当市独自のイベントを全国にPRしている⑤市民同志だけでなく、全国からの参加者との交流が深まる。

このように、本イベントを契機として参加する人ともてなす人との交流の輪が全国に広がり、市民が万葉集に一層親しんだり、万葉歌の魅力に気づき始めたり、青年時代を過ごした大伴家持が詠んだ郷土の風物を再発見したりする人が増えることになった。

## 課題・今後の展望

事業実施の財源は、行政からの補助金と文化振興に協力的な各種団体や企業の広告協賛で賄っており、昨今の厳しい経済情勢の中では、財源確保が大変難しくなっている。このため、事業の内容に創意と工夫をこらしていく一方、自主財源の確保を考えていくことが今後の課題となっている。しかし、高岡の万葉のふるさとづくりの核として実施されている本イベントは、富山県を代表する市民参加型のビックイベントの一つとして定着してきており、今後も継続して実施していくことで、これまで以上に重要な役割を担っていかなければならない。






| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月5日～10月7日　3日間（第12回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 年齢層を問わず、全国の万葉集に興味のある方 |
| 入場者数／目標入場者数 | 2,217人／一人 |
| 共催・後援等 | なし |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：29,000千円　財源内訳／富山県、高岡市等：18,500千円<br>協賛金：7,000千円　事業収入：3,000千円　雑収入：500千円 |

問い合わせ先　万葉集全20巻朗唱の会にいざなう会　高岡市役所観光物産課内　TEL：0766-20-1301

# 全国子供歌舞伎フェスティバルin小松 ～部門賞【文化・交流部門】（第5回）～

石川県小松市　　人口：109,286人

主催　　全国子供歌舞伎フェスティバルin小松実行委員会
メイン会場　小松市公会堂及び市役所前広場

## 内　容

全国各地に引継がれている子供歌舞伎が、「勧進帳のふるさと」である小松の地で一堂に会し、競演するフェスティバルをメインイベントに、関係団体の交流を目指す交流会や、地元小松で350年の伝統を有する「お旅まつり」と連携する「曳山八基曳揃え」など多彩な行事が繰り広げられる。

特に、公会堂会場で行われるフェスティバルは、地元小松市の子供役者の演ずる「勧進帳」と、子供歌舞伎の伝統を継承し、全国にその名を馳せているさまざまな地域の子供歌舞伎が競演するもので、子どもとは思えぬその質の高い演技は見る者に大きな感動を与えている。また、本イベントは毎年NHKBSにて１時間程度の放送枠で全国放映もされている。

## 開催への契機・経緯

当市には350年の伝統を誇る「お旅まつり」、そしてその祭りの中で演じられる「曳山子供歌舞伎」がある。この子供歌舞伎も230年の間引継がれてきた歴史的財産である。

また、「勧進帳」で名高い「安宅の関」も小松の地にあることから、「勧進帳のふる里」「歌舞伎のまち小松」として全国にアピールしようと各種施策を展開してきた。

そのような中で、全国各地で引継がれている子供歌舞伎の競演という形での伝統文化の継承･発展、あるいはお旅まつりの全国発信、当市の全国へのアピールも視野に入れて本イベントを企画･実施することになった。

## 目的・基本方針

イベントを通じた全国へのアピールが大きな目的ではあったが、企画を進めるうちに伝統文化の継承や、また共通の課題を抱える自治体・団体間の交流、意見交換といった部分も大きな割合を占めるようになった。

また、地域の伝統的な祭りである



お旅まつりの活性化も、もう一つの大きな目的であったが、徐々に実を結びつつあると感じている。

## 開催にあたって考慮している点

伝統ある地域行事であるお旅まつりやそれに際して行われている曳山子供歌舞伎といかに連携を取り合い、相乗効果を高めていけるのか。

また、関係自治体や団体との交流を通じた意見交換などを通じて伝統文化の継承をいかに進めていくのか。

さらに、これらの活動にいかに多くの市民をまきこんでいくことができるのか。

以上の点に特に考慮しながらイベント開催にあたっている。

## 波及効果

上演団体をはじめとして全国各地の愛好者の来場が増えてきたことはもちろんだが、全国各地とのネットワークができてきたこと、伝統文化の継承教育が充実してきて、上演に際して高校生をはじめとした今まで接点の少なかった人たちも地方などで活躍するようになってきたことなどが挙げられる。

また、地域住民が地域の伝統文化の良さを再発見する好機でもあり、既存のイベントの活性化にもつながってきている。

## 課題・今後の展望

さらなる全国へのアピールを目指すと共に、地域文化の担い手の底辺拡大・自主財源の確保・既存イベントとの連携をさらに進めていきたい。








| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 5月12日～5月13日　2日間（第3回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 全国の歌舞伎愛好者、近隣市町村の住民、小松市民 |
| 入場者数／目標入場者数 | 12,500人／15,000人 |
| 共催・後援等 | ●後援／文化庁、農林水産省、国土交通省、石川県、全国地域おこし連絡協議会、㈳全日本郷土芸能協会、㈱岩波書店、マスコミ各社<br>●特別協力／北國新聞社 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：40,000千円　財源内訳／負担金：35,000千円（市・商工会議所）<br>協賛金：2,000千円　入場料　2,500千円　その他　500千円 |

問い合わせ先　小松市　企画課　TEL：0761-24-8037　http://www.city.komatsu.ishikawa.jp

# 栄むらじゅう絵手紙展(小ちゃなしあわせ絵手紙展)

～部門賞【展示・博覧会部門】(第1回)～

## 長野県栄村

人口：2,721人

主催　　栄村・全国絵手紙展栄村実行委員会
メイン会場　栄村物産館及び森宮野原駅周辺

## 内　容

今、絵と短い文章でつづるハガキサイズの絵手紙は、インターネットなど電子情報化の中にあって、ひそかなブームとなっている。

当村では、平成８年から毎年テーマを設定し絵手紙を全国から募集し、応募された全作品を村内施設に展示・一般公開し、出品者や観覧者との交流に広げている。

出品作品には、賞は設けず一点一点を丁寧に展示するとともに、記念作品集を発行して広く紹介するなど、心をつなぐ絵手紙のぬくもりを大切にしている展覧会である。

平成12年度からは、村内41ケ所に屋外展示ボードを設置し、村中を回遊しながら見て歩く「栄むらじゅう絵手紙展」を開催し、ユニークな展示方法をとっている。

## 開催への契機・経緯

平成７年の秋、村民有志が集まり実行委員会を結成し、当村で、小さな絵手紙作家・山路智恵（当時中学２年生）絵手紙展を開催したところ、小さな村に１万２千人もの人が訪れ大反響をよんだ。この成功をステップに、全国公募の絵手紙展を計画したのである。

以来、平成10年の長野オリンピックにあわせて絵手紙世界展を開催し、世界の国や地域から友好と平和のメッセージを寄せてもらうとともに、当村から世界に向けて絵手紙による交流活動をアピールした。

テーマは年ごとに設定し、「小ちゃなしあわせ」「21世紀へのメッセージ」「ごくろうさま」など、口に出して言えないことでも、絵手紙で伝え残そうと呼びかけている。

**＜絵手紙展の開催状況＞**

平成７年　●山路智恵絵手紙展「なんなんなんと2000日」
平成８年　●全国「小ちゃなしあわせ絵手紙展」
平成９年　●山路智恵絵手紙展「夢おいかけて3000日」
平成10年　●絵手紙世界展「私の小ちゃな金メダル」
平成11年　●小ちゃなしあわせ絵手紙展
平成12年　●栄むらじゅう絵手紙展「21世紀へのメッセージ」
平成13年　●栄むらじゅう絵手紙展「ごくろうさま」
　　●絵手紙展「ポストさん、ありがとう」

## 目的・基本方針

絵手紙という手段を通じて、人と人との交流の輪を広げるとともに、絵手紙文化を大切にしながら、モノをよく見つめること、人びととの交流活動を地域に根づかせることを目的としている。

## 開催にあたって考慮している点

寄せられた一人ひとりの絵手紙を大切に扱い、出品者の気持ちに配慮した展覧会を心掛けている。原則として、応募されたすべての絵手紙を展示することとしている。

マスコミなどの協力による宣伝のほか、過去の出品者や来場者には、毎年絵手紙募集の案内を発送している。毎回、欠かさず応募してくれる村に対しての根強いファンが増えている。





絵手紙世界展は117の国・地域から
8万点を展示


展示や後片付は中学生や村民のお手伝いも




## 波及効果

小さな村からの情報発信によって、たくさんの絵手紙が寄せられたことは、「やればできる」という自信を村民が持つことができた。また、全国に「栄村」という知名度と印象度がアップしたことで、村に対する愛着心や誇りが生まれている。

絵手紙を愛好するグループも村内に結成され、自ら生活の中に取り入れて楽しむとともに、一人暮らしなどのお年寄りに定期的に絵手紙を差し出し喜ばれている。また、村内の小・中学校でも絵手紙を授業等で取り組み、絵手紙でお年寄りなどに学校行事の招待状などを送っている。

精神的、文化的な面だけでなく、経済的な面でも貢献している。絵手紙展の会期中には平日にも視察者などがあり、旅館業や飲食業、土産物屋など商工観光産業からはじまって地域産業の振興にも寄与している。

## 課題・今後の展望

毎年秋に絵手紙展を開催することで「絵手紙の村」として知られ、村内だけでなく全国的な年中行事として定着してきた。時季的な展覧会だけでなく、常設展示場の開設や絵手紙文化を地域に定着しながら村民の日常的な文化・交流活動へとつなげていくことが必要である。

そうすることで、地域情報の発信と心の交流が停滞することなく続き、人の交流や物の交流が活発化し、地域振興が図れるものと確信している。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 9月15日～10月31日　47日間／毎年開催 |
| 主な対象 | 村内外問わず絵手紙に関心のある人 |
| 入場者数／目標入場者数 | 1,000人／3,000人 |
| 共催・後援等 | 協力／日本絵手紙協会 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：1,000千円　財源内訳／一般：1,000千円 |

問い合わせ先　栄村絵手紙展企画運営委員会（栄村役場内）　TEL：0269-87-3111
http://www.janis.or.jp/users/sakae/

# 西暦2000年世界民族芸能祭"ワッショイ！2000" ～選考委員特別賞（第5回）～

## 大阪府堺市

人口：786,882人

主催　　西暦2000年世界民族芸能祭組織委員会
メイン会場　堺市大仙公園及び堺旧港周辺

## 内　容

「平和の文化国際年」「ユネスコ2000年計画」双方の公式行事として認定され実施した本イベントは、「地球事業」と「惑星事業」の２つの事業で構成され、平成12年７月28日から10日間、世界70ヶ国・地域から3,500人以上の民族芸能演者を招き、当市の大仙公園及び堺旧港周辺を主会場として開催した。

大仙公園会場では、世界70ヶ国・地域の民族芸能の披露や民族文化との出会いを演出した。堺旧港周辺会場では、エスノポップスなど若者向けのイベントを展開した。

また、ユネスコや世界観光機関など国際機関との連携事業や国際理解教育プログラム、「国際ジュニアコーラス・フェスティバル」開催、千家家元の協力による「ワッショイ！2000三千家茶会・シンポジウム」、同時期に開催された堺大魚夜市との連携などの「国際交流・連携プログラム」も行った。以上を総称して「地球事業」と称した。

一方、「惑星事業」は、府民・市民の人びとが主体となって行う民族芸能、民族文化、国際交流に関連した催しで、本イベントの開催に先立ち平成11年１月からスタートした。当市内や大阪府内はもちろん海外でも実施され、本イベントの事前PRに効果をもたらすとともに、市民参加の大きな広がりとなった。

感動と興奮が渦巻いた閉会式





国立タン・ロン水上人形劇団（ベトナム社会主義共和国）

## 開催への契機・経緯

本イベントは、世紀の橋渡しの年である西暦2000年に、民族芸能・民族文化をめぐる多彩な交流を通じて、異文化理解促進、文化の創造的な発展、さらには地域の活性化を図るとともに、ひいては平和のメッセージを世界に発信すべく世界的規模の国際文化交流イベントとして計画された。

平成８年２月に基本構想検討委員会を設置、基本構想の策定作業を開始し、同年６月には、準備委員会設立、10年７月には、大阪府、当市、（財）大阪21世紀協会をはじめ経済団体や文化団体など27団体（最終33団体）が参画して組織委員会を設立し、基本計画を決定した。11年３月には実施計画を策定し、具体化に向けての作業を開始した。

開催１年前には、前売入場券発売開始キャンペーン、プレイベント「５大陸と民族芸能との出会い」を開催した。続いて12年４月には100日前キャンペーンを、６月にはシンポジウム開催、50日前キャンペーンの実施、さらには、テレビスポットなど広報宣伝活動を活発に展開し、開催に向けての機運の盛り上げに努めた。

イーペルねこ祭り（ベルギー王国）





演者と市民が触れ合った「交流の村」

## 目的・基本方針

「この星に生まれた友たちと21世紀へ響きたい」。民族芸能は、自分や家族、地域に対する心の歴史であり、荒ぶる自然をなだめ、人を愛し、恵みへの感謝を表す、暮らしに深く根ざした芸能である。いわば民族ごと、地域ごとの人びとの生きざまそのものである。21世紀への橋渡しの年に、世界の人びとが民族芸能・民族文化を携えて、一つの場所に集うことは大きな意義があり、互いの違いを敬意をもって認め合う相互理解につながり、「地球市民」が互いの人権を尊重しながら、新たな惑星の文化を楽しみ共有することにもなる。

関西国際空港を擁する大阪は、世界の人びとに出会いと交流の場を提供する役割を担うことが期待されており、また、かつて代表的な自治都市であった堺も、新しい世紀に向けて活力をさらに増幅させ、世界の人びとが自由の息吹を求めて集い交流する「自由都市」として大きく飛躍しようとしている地である。「世界都市・大阪」「自由都市・堺」の息吹を継承し、未来に発展すべく新しい手法による交流により次代を拓く活力を生み出したいと考えている。

21世紀の地球市民の交流が華開く平和・文化都市づくりという明確な意図を持って、当市を中心に大阪府全域、そして世界を結んで本イベントを開催した。

## 開催にあたって考慮している点

相互理解と平和の重要性が多くの人びとの心に伝達され、大きな広がりとなる交流を実現するため、国内外の民族芸能団・関係者の招聘、府民・市民や各種団体の事業参画、国際機関などとの連携に際しては、基本理念に基づいた「アピール」により参加を呼びかけていくものとした。

また、本事業はユネスコから「平和の文化国際年」と「ユネスコ2000年計画」の双方の事業における公式行事として認定されていることから、世界中に平和の文化のメッセージを伝達する役割を果たすことにより、国際的な意義と枠組みを一層強化してきた。

さらに、新しい文化の創造、地域のイメージアップ、市民ネットワークの形成、産業の振興、ベイエリアの活性化など、大阪・堺において次代を拓く活力を生み出し継承することを念頭に置き、ソフト事業を具体化してきた。

## 波及効果

本イベントが、大阪経済にもたらした直接経済効果について、産業関連分析によると、大阪府内に65億1千万円の需要が発生した。この直接効果がもたらす波及効果を算出した結果、最終的に105億700万円の生産を府内各産業に誘発した。このうち34億5,800万円は、雇用所得であり、雇用者数に換算すると924人程度の雇用に相当した。

なお、本イベントは、開催に至るまでに長い準備期間を経てきたが、市民参加によるフェスティバルフレンズをはじめ、各方面の人びとの一丸となった協力・支援のもとで、外国公館等の連携協力を積極的に引き出しながら、所期の目的を達成することができた。

## 課題・今後の展望

本イベントの開催がもたらした成果を、さまざまな観点から分析評価し、今後、発展継承すべき理念や取り組むべき課題を明らかにして、大阪・堺の次代の活力を生み出す新たな展開に生かしていくべく、継承事業の開催に取り組んでいる。

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | 7月28日～8月8日　10日間（第1回）／芸能祭は、平成12年度のみの開催であるが、開催成果を生かした継承事業実施の予定 |
| 主な対象 | 一般 |
| 入場者数／目標入場者数 | 40万人／35万人（主会場のみ） |
| 共催・後援等 | ●共催／国際連合教育科学文化機関［UNESCO］、㈳日本ユネスコ協会連盟　●外務省、文化庁、運輸省（当時）、郵政省（当時）、自治省（当時）、日本ユネスコ国内委員会他　●協力／国際交流基金、日本万国博覧会記念協会、関西国際空港㈱、㈶アイヌ文化振興・研究推進機構 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：1,924,759千円　財源内訳／負担金：1,260,550千円　補助金：45,965千円　受託金：151,897千円<br>入場料収入：315,411千円　協賛金収入：130,222千円　その他の収入：20,714千円 |
| 問い合わせ先 | 堺市市長公室国際文化部　世界民族芸能祭継承事業担当　TEL：072-228-7493<br>http://www.city.sakai.osaka.jp/ |

# 神戸ルミナリエ ～選考委員特別賞（第1回）～

## 兵庫県神戸市

人口：1,470,607人

主催　　神戸ルミナリエ実行委員会
メイン会場　旧外国人居留地及び新神戸



©Valerio Festi/I&P　Inc./Kobe Luminarie.o,c

## 内　容

会　場：東遊園地及び旧外国人居留地
電球数：約24万個（平成12年度）
期　間：平成12年12月12日から25日
時　間：平　日～18：00から22：30
　　土日祝～17：30から22：30

作品紹介

ガレリア：旧外国人居留仲町通に21基のアーチ状の木造構造物を配置、光の回廊のごとく点灯。

スパッリエーラ：東遊園地に壁掛け状の木製構造物（平成12年は円形）を配置し、360度の光のパノラマを展開。

作品テーマ：「光の永遠」ひかりのインフィニティ。



©Valerio Festi/I&P　Inc./Kobe Luminarie.o,c

## 開催への契機・経緯

本イベントは阪神・淡路大震災犠牲者の鎮魂の意を込めるとともに、都市の復興・再生への夢と希望を託し、平成７年12月に初めて開催した。

以後、回を重ねるごとに来場者数も増加し、現在では、半数以上の来場者が県外から来場するなど、神戸の冬の風物詩として定着してきた。

平成11年に障害のある来場者にもゆっくりとルミナリエを鑑賞してもらうため、「ハートフルデー」を開催。

## 開催にあたって考慮している点

明石で起きた歩道橋事故のこともあり、今までにも増して、雑踏事故を含む事故に留意し、万全な警備計画の策定を心がけている。

## 波及効果

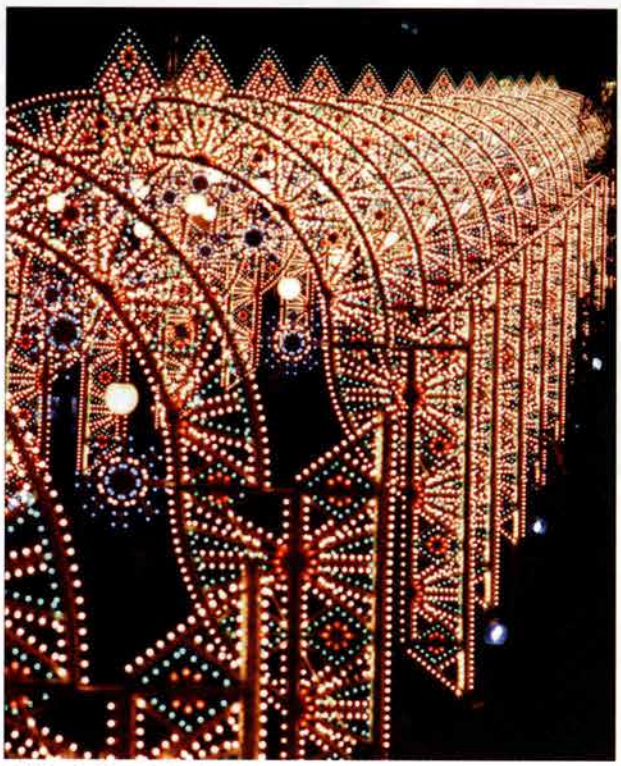
来場者の平均消費額は、開催年による異なりはあるものの、１人約７千円程度であり、来場者数を乗じると、大きな経済効果をもたらしている。

期間中の来場者数も全国でも屈指とされ、神戸の冬の一大イベントとして数えられるようになった。

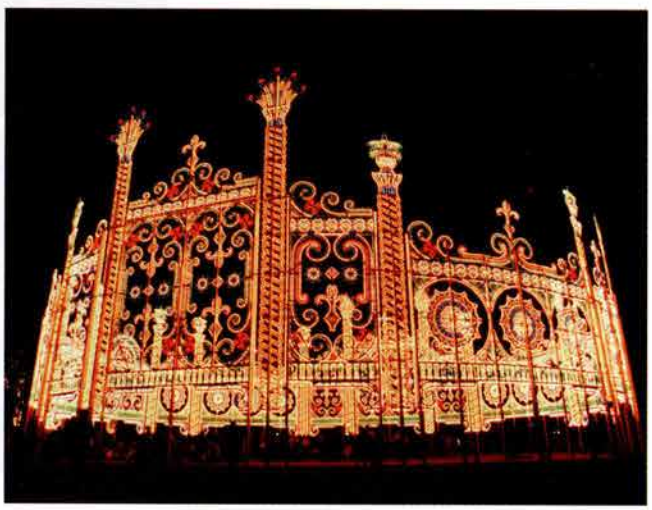
## 課題・今後の展望

長引く不況により、企業協賛金の獲得が難しく、継続開催のためには開催経費の確保が課題である。

また、会場付近における安全確保のため、年々警備費等の関連経費が膨らみ、今後もこの傾向は継続していく。



©Valerio Festi/I&P　Inc./Kobe Luminarie.o,c



©Valerio Festi/I&P　Inc./Kobe Luminarie.o,c

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 12月12日～12月25日　14日間（第７回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 神戸に観光に訪れる方 |
| 入場者数／目標入場者数 | 4,737,907人／5,000,000人 |
| 共催・後援等 | ㈳関西経済連合会、NHK神戸放送局、神戸新聞社、サンテレビジョン、ラジオ関西、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞大阪支社他 |
| 総経費・財源内訳 | ― |

問い合わせ先　神戸ルミナリエ組織委員会事務局　TEL：078-303-0038

# 星の都絵本大賞

～優秀賞（第2回）～

## 兵庫県佐用町

人口：8,809人

主催　　佐用町（企画振興室内）・星の都絵本大賞実行委員会
メイン会場　受賞式及び入賞作品展示会　スターシャワーの森音楽堂　スピカホール

## 内　容

創作絵本を１年おきに全国から公募し、作家の田辺聖子氏、児童文学者の今江祥智氏、童話作家の立原えりか氏、絵本作家の黒井健氏、永田萠氏の５名が大賞を選ぶ。大賞賞金は、全国の「星空の街」の数にちなんで108万円としている。

平成11年に実施した第５回星の都絵本大賞は、「自由創作部門」「親と子の手づくり絵本部門」「かがく絵本部門」の３部門に、全国40都道府県、海外１カ国から670編の力作が寄せられ､15編の入賞作品を決めた。

第１回大賞作品「星の工場」、第２回大賞作品「遠いクリスマス」、第４回入選作品「ひとつぶのえんどうまめ」は出版社から刊行された。

住民参加の実行委員会が組織され、告知ポスターやリーフレットの発送はもちろん、応募作品の整理や審査の準備、授賞イベントの運営、入賞作品展の開催に至るまで、実行委員会の手による運営が行われている。また、絵本製作講習会や読み聞かせの会が開かれ、手づくり絵本館「こどものやかた」がオープンするなど、地域活性化や文化振興にも貢献している。






## 開催への契機・経緯

当町は昭和63年、環境庁（当時）から「星空の街」に選ばれ、平成元年の「ふるさと創生１億円の使い道」のアイデア募集で「星空の街づくり」が採用されるとともに、県立天文台の建設が決まったことなどから、21世紀に向けた新しいまちづくりのテーマに、美しい自然環境を象徴する「星」を選び、自然と共生・調和する個性豊かな「星の都づくり」を推進することとなった。

公募により集まった住民組織「星の仲間」が発想した星の都づくりの具体的なプランづくりのなかから、「星」をテーマにした文学賞の創設に取り組むこととなった。

文学のジャンルは、星の持つロマンと夢を託すものとして「絵本」が最適と判断し、また、絵本が他の文学分野と違う特性と役割を持っていること、つまり、絵と文の融合したものであることと、人間の成長過程（幼児期）で必ずかかわるものであることから、独自の効果と展開を期待できると考えた。

そこで、自然環境の保護・保全の啓発、芸術・文化の振興を図るための事業として、絵本の創作を全国に広く呼びかけることとなった。

## 目的・基本方針

募集部門に「自由創作部門」「親と子の手づくり絵本部門」の２部門を設け、自由創作部門は、新たな絵本分野を開拓する絵本作家・画家の発掘と育成、親と子の手づくり絵本部門は、親と子が一緒になって絵本づくりを楽しんでもらうことを目的とするとともに、絵本文化の普及や地球環境保護の啓発、「星の都さよう」の活性化をめざしている。

また、第４回からは、次代を担う

子どもたちに「科学する心」を伝えていくため、感動と不思議さを感じ取り、科学を楽しむことのできる「かがく絵本部門」を設けている。

## 開催にあたって考慮している点

継続的な事業にするためにも、応募する側にとって、他のコンクールより魅力的なものにするため、審査員の人選と優秀作品のフォロー（活用方法）がポイントとなる。

児童文学に縁のない自治体にとってこれが難題であったが、作家の田辺聖子氏、児童文学者の今江祥智氏、童話作家の立原えりか氏、絵本作家の黒井健氏、永田萠氏ら５人の審査員を迎えて公募を開始することができた。5氏ともに多忙な作家だけに、審査会の日程調整が至難を極める。

また、町民と乖離しない事業にしていくため、コンクールへの応募促進の対策に苦心している。

## 波及効果

実行委員会はこれまでの成果に自信を得て、「絵本キャラバン隊」を結成。絵本の里づくりを目指して、絵本の読み聞かせ活動や手づくり絵本講習会を展開しており、絵本の特性と役割を生かした「住民の顔」の見える事業に育っている。

また、第１回大賞作品「星の工場」、第２回大賞作品「遠いクリスマス」、第４回入選作品「ひとつぶのえんどうまめ」は出版社から刊行された。「佐用発」の絵本が、全国の書店に流通する出版形態に展開したことは、地方からの文化発信という点で大きな成果を得たといえよう。

さらに、平成13年４月に開館した佐用郡内初の町立図書館では、図書館本来の機能に加え、特に絵本収集に重点を置くなど、本事業で蓄積してきた財産が活かされつつある。

## 課題・今後の展望

回を重ねるごとに質の高いコンクールとして定着しつつあるものの、住民に直接的な還元が乏しい事業であるだけに、継続して実施するための住民の理解と事業費の確保が最大の課題である。

今後の事業展開としては、コンクールをメインに据えての定着化以外に、「絵本」を素材にした新たな商品開発、数多くの応募者と当町との連携の創出など、産業化の視座が欠かせない。





| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ー |
| 主な対象 | 自由創作部門及びかがく絵本部門の応募資格は不問。親と子の手づくり絵本部門は中学生以下の子どもとその親（祖父母、兄弟も可） |
| 入場者数／目標入場者数 | 特になし |
| 共催・後援等 | ㈳日本児童文学者協会、兵庫県、神戸新聞社 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：10,000千円　財源内訳／一般財源：10,000千円 |

問い合わせ先　佐用町役場内「星の都絵本大賞」実行委員会　TEL：0790-82-0664
http://www.town.sayo.hyogo.jp

# ドイチェス・フェストinなると ～部門賞【文化・交流部門】（第4回）～

## 徳島県鳴門市

人口：65,609人

主催　　ドイチェス・フェストinなると実行委員会
メイン会場　鳴門市ドイツ館とその周辺

## 内　容

日独友好と国際交流の輪を広げようと多彩なイベントが２日間にわたって開催される。

「国際交流の集い」では、県内に住む外国人や国際交流会の人たちとのトークやダンスを楽しむことができる。また、毎回各界からの著名人による「記念講演会」や「作品展」なども開催。第７回（平成12年）には、民間ボランティア団体グローバルレインボーシップの理事として活動している俳優の藤岡弘氏が「国際ボランティアを通して日本について考える」と題し講演会があった。音楽関係のイベントも盛んで“みんなで歌おう「ふだん着の第九」”では、大正７年６月１日、我が国で初めて「第九」が演奏された地にふさわしく、誰もが飛び入り参加できる初心者大歓迎の合唱団で、ベートーベンの第九「歓喜の歌」を大合唱した。にわか編成の合唱団ながら見事なコーラスに、会場からは大きな拍手が送られた。ドイツから招いた「フライブルグ・ジャズ合唱団」も参加し、演奏を披露したほか、ドイツや日本の歌を中心に歌う徳島少年少女合唱団の歌声も会場に響き渡った。

ドイツ館前広場周辺での物産フェアーでは、ドイツ産のワイン・ビール・生チーズ・ハムなど本場の味が楽しめるほか、ドイツのおもちゃなども販売された。当市と友好交流をしている沖縄県宮古島の上野村からは地酒泡盛や黒砂塘、また鳴門の名産レンコンやサツマイモなども出品された。また、徳島の食材を使ったドイツ風のお鍋“ドイチェスなべ”約500食が無料でふるまわれた。

他にはマジックショーやぬいぐるみショー、獅子舞等が披露され、鳴門市友好コスモスまつり実行委員会による湯茶の接待も行われた。



第８回（平成13年）の“クイズ・イン・ドイチェス”は大麻町青年部の主催で、「大麻町に眠るドイツの秘宝を探せ！」とホームページで参加者を募り、多くの問い合わせがあった。

ドイツ館では毎年オリジナルバッジを製作し、開催２日間に１日先着500個の限定で入館料と引換にプレゼントしている。館内では、市内小・中学生の国際交流をテーマとする絵も展示している。

## 目的・基本方針

ドイツ兵俘虜と地域の人びととの音楽・スポーツ・学術・出版などの先駆的交流の歴史的事実を広く周知するとともに、地域の活性化をより広域的に進め、県内外の人びととの交流の強化を図ることはもとより、ドイツ兵との交流から発展した日独交流をさらに発展させ国際交流へと大きな輪を広げ、以って当市の文化の振興と地域の振興の発展に寄与することを目的とする。

## 開催にあたって考慮している点

文化の振興と交流を目的とした文化事業イベント、広域の地域活性化を目的とした広域イベントの２つの部門を中心に構成している。

誰でもが参加できるふだん着の「第九」コンサート、民族衣装に身を包んだドイツからの音楽団や、県内に住む外国人や国際交流会の会員たちと、ダンスや音楽、トークを楽しむことが出来る交流会、著名人による記念講演会など、来場者が主役となって楽しめるイベント、直接参加型のイベントを企画している。

また、出店のテナントではドイツ物産、鳴門の地元物産展示即売会や、徳島の食材を使ったドイツ風の鍋を無料でふるまう等、気軽にドイツ文化を楽しめるように考えている。

地域活性化のため地元の人たちの協力によるイベント、大谷焼絵付け教室、保存会による獅子舞、餅つき、ボランティアによるマジックショー、小・中学生の国際交流関係の絵画展等を、広く県内外に発信、大勢の人

びとに来てもらえるようなイベントにしたい。

## 開催への契機・経緯

当市には、第一次世界大戦当時のドイツ兵俘虜との交流から発展した我が国でも先駆的な国際交流が存在している。これらの歴史的事実を広く周知するとともに、ドイツ兵俘虜達によって国内で初めて演奏された「友好と愛」のシンボルであるベートーベンの交響曲「第九」を県内外の多くの人びとが合唱することで、広域的な文化の振興と交流を目指す。

当市では、昭和47年にドイツ館を建設、建物の老朽化と手狭化により、平成５年10月に現在のドイツ館が建設された。新ドイツ館の開館記念行事として本イベントを単独で開催していたが、地域の人びとの強い要望により、長期的に民活を導入して継続することになった。このことから、「第九」の合唱を中心に、国際交流関係、広域交流関係、地域交流関係の各イベントを計画・開催した。文化の振興と交流を目的とした文化事業イベントと広域の地域活性化を目的とした広域イベントの２つの部門を中心に構成している。

当市がハード面である会場設備を負担し、ソフト面であるイベント事業の企画運営を地域の人びとを中心とした「ドイチェス･フェストinなると実行委員会」が担当することになった。

## 波及効果

本イベントは、第１回開催からすでに８年目を迎え、県内を代表する文化交流イベントとして定着してきた。この結果、ドイツ館と第一次世界大戦時のドイツ兵俘虜に始まる当市の日独国際交流が、徳島県民及び近県の県民に周知されるとともに、参加してくれた市民には、ドイツを中心とした諸外国の文化が身近に感じられ、国際交流の必要性が認識されてきたと思われる。








また、本イベントが開催されるまでの県内のイベントは、観光・レジャーイベントがほとんどであったが、このイベントの成功により、文化及び国際交流がイベントのテーマとして成り立つことを証明するとともに、これらのテーマが現代社会の市民的需要に即したものであり、今後そのような需要がさらに増大していくことも予想され、県内のイベントのあり方に大きな波紋を投げかけている。

さらに、ドイツに始まる文化交流への需要は国内にも広がり、これまでにも西彼町や沖縄県上野村等からもイベントへの参加協力を得るなど、地域間交流を進めるきっかけにもなりつつある。

## 課題・今後の展望

地方自治体の財政状況の悪化により、行政サイドからの資金的援助が望めなくなっている。このため、各種文化交流助成の獲得や民間企業等のスポンサーの増加が急務となってきたが、現在の経済不況もあり、それらが非常に困難であることは否めない。

今後の展望としては、本イベントと行政・市民等が連携して、日独国際交流並びに国内での地域間交流の進展、日独経済交流を中心とした地域経済の活性化等による「特色ある地域創造」へと結びつけていきたいと考えている。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月27日～10月28日　２日間（第８回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 鳴門市民及び県内外観光客 |
| 入場者数／目標入場者数 | 約３万人／３万人 |
| 共催・後援等 | ●共催／鳴門市、鳴門市教育委員会、大麻町商工会、鳴門商工会議所、鳴門市観光協会他<br>●後援／大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事、鳴門市国際交流協会、徳島新聞社他 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費（平成12年度）：8,710千円　財源内訳／鳴門市：5,500千円　実行委員会：3,210千円 |

問い合わせ先　ドイチェス・フェストinなると実行委員会（鳴門市ドイツ館内）　TEL：088-689-0099

# 全国「かまぼこ板の絵」展覧会

～優秀賞（第1回）～

## 愛媛県城川町

人口：4,863人

主催　　城川町
メイン会場　城川町立美術館「ギャラリーしろかわ」

## 内　容

本イベントは、蒲鉾として活躍した後は捨てられる運命の「かまぼこ板」に生命を与えて、芸術品として第二の人生を活躍してもらおう…という趣旨で始まった。絵はいつでも、誰でも、何にでも描けるというコンセプトで応募資格は不問。届けられた作品はすべて展示し、応募者全員に礼状をつけて招待券を送っている。作品は、47都道府県は言うに及ばず海外からも届き、応募者は1歳から106歳までと広範囲である。

第6回(平成12年)からはザンビア（アフリカ）からもたくさんの応募があり、ザンビアの子どもたちとの交流も始まった。今、奥伊予の森の全国「かまぼこ板の絵」展覧会を通して、当町のグローバル化に拍車がかかっている。

## 開催への契機・経緯

町立美術館「ギャラリーしろかわ」のメイン展示室が「キッズギャラリー」であることに感激した、ギャラリートークの講師折笠勝之氏(洋画家)から、かまぼこ板に描いたピエロ(油彩)の絵をプレゼントされたことがこの展覧会開催のきっかけとなった。

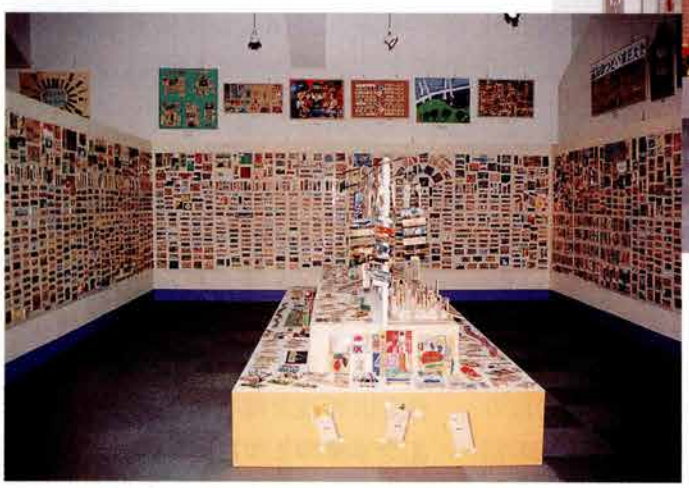
『かまぼこ』は山の幸（木）と海の幸（魚）からなる食文化の芸術品である。この企画はかまぼこを食したあと残った板の上に絵を描き、「木のぬくもり」の上に感動（心）をのせた作品を、町立美術館「ギャラリーしろかわ」に展示し、文化の交流を図るものであり、青い島四国、かまぼこの産地南予、森林浴の森の中の「木のぬくもりいっぱい」の町からの小さな文化発信である。

人口5千人・林野率82%という当町。「わがむらは美しく」運動によるまちづくりの一つとしてこれをとりあげ、自然と人とのかかわりあいの中で「木のぬくもり」にやすらぎを求めた先人のやさしさと知恵、そこから生まれた文化を見直し、改めて自然を大切にしたいという思いに全国各地から賛同が得られ、町の人口の約4倍の応募、約5倍の来館者を得ている。









## 目的・基本方針

「プロ…でなくても美術館に作品が展示できる」ことを目玉とし、応募された作品は全て展示することを主催者側のポリシーとした美術展として、全国各地の人びとと交流を続けていきたい。

また、この展覧会の今までの成果を基盤とし、今後さらに発展継続していくことが子どもたちへの大きなプレゼントになり、町づくりのテーマ「わがむらは美しく」の目的である明るい・住みよいふるさとづくりを進める糧となるよう努力推進する。

これらのことが町の産業である林業を見直すことにつながり、「木」の文化を守ることになるよう「住民総スタッフ」の企画として取り組みたい。

## 開催にあたって考慮している点

応募者及び来館者を当町の「文化夢大使」として、その人びとが運んでくれる文化の香りや、経済的相乗効果を大切にし、この企画による輪の広がりを文化的財産として大切にしている。

また、これらの人たちと緻密な交流を図ることがこの企画の継続を確かなものにし、まちおこしにもつながると考える。

特に「ふるさとの母親的な」てま・ひまをかけた、心のこもった対応を展覧会のモットーとして実行している。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 7月22日～11月23日　4ヶ月間（第7回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 地球上の人すべて |
| 入場者数／目標入場者数 | 19,730人／30,000人　平成12年度入館者　29,922人 |
| 共催・後援等 | ●後援／四国郵便局、愛媛県、愛媛県教育委員会、愛媛県町村会、愛媛県文化振興財団、愛媛新聞社、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、エフエム愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、JA愛媛中央会、愛媛県森林組合連合会、伊予銀行、愛媛銀行、愛媛信用金庫、コープえひめ、メセナ八幡浜、宇和島蒲鉾協同組合、八幡浜蒲鉾協同組合、JAひがしうわ、東宇和森林組合、城川町商工会 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：16,814千円　財源内訳／入館料：7,840千円　物品等売上／2,075千円　一般財源／6,899千円 |

問い合わせ先　城川町観光協会　TEL：0894-82-1111

# 仁淀川紙のこいのぼり

～大賞（第4回）～

## 高知県伊野町

人口：25,170人

主催　　仁淀川紙のこいのぼり実行委員会
メイン会場　国道33号仁淀川橋下

## 内　容

当町は、紙と水の町で、千年の歴史を持つ土佐和紙は、美しい仁淀川の恵みを受けてつくられてきた。

本イベントは、地域の貴重な財産である「土佐和紙」と「仁淀川」を見つめ直し、さらに身近な存在として次世代へ引き継いでいこうと、平成７年度の当町制100周年記念事業の１つに、町内ボランティアを中心とする実行委員会から町民手作りの企画として提案された。

本来、「鯉のぼり」は空を泳いでいるが、「鯉」は水の中で生きている。その「鯉のぼり」を当町の特産品、強くて破れない「不織布」で作り、清流仁淀川に泳がそう、水に帰って泳いでもらおうという発想で本イベントは生まれた。

イベントは毎年５月上旬に開催され、期間中は、紙のこいのぼりの川流しの他、船から美しい仁淀川と紙のこいのぼりを眺めることができる「遊覧」、町内の各施設を巡ってもらう「スタンプラリー」「仁淀川ふるさと市」なども行われており、仁淀川の豊かな自然を満喫できる行事として、終日多くの見物客が訪れている。

この事業によって、町内外の多くの人びとが思い思いの色を使って彩色し、工夫を重ねた紙のこいのぼりが、人と人との輪を広げ、地域の活性化につながっている。

## 開催への契機・経緯

清流仁淀川に沿い、高知市の西隣に位置する当町は、古くから紙の町として知られており、仁淀川の豊かな水の恵みを受けて、製紙業は町の主要産業として栄えてきた。

また、土佐和紙は、昭和51年に国の伝統工芸品として指定され、「伊野町紙の博物館（土佐和紙伝統産業会館）」では、土佐和紙に関する歴史や技法について紹介しており、和紙振興の拠点の一つとして発展を続けている。

本イベントは、「仁淀川」と「土佐和紙」を見つめ直し、さらに身近な存在として次世代へ引き継いでいこうと、平成７年度の当町制100周年記念事業の１つに、町内のボランティアを中心とする実行委員会から町民手作りの企画として提案された。









空で泳ぐこいのぼりを当町特産の「不織布」を使い、清流仁淀川に泳がそう、水に帰って自由に泳いでもらおうという発想が好評を得、毎年５月上旬に開催されることとなった。

## 目的・基本方針

当町のシンボルであり、町民の貴重な財産である「仁淀川」と「土佐和紙」を見つめ直し、さらに身近な存在として、不可分な水の文化と紙の文化を次の世代に引き継いでいく一つの手段として実施することにより、個性ある人づくり、まちづくりに資する。

## 開催にあたって考慮している点

事前に町広報でこいのぼりの色塗りへの参加や、イベント当日のボランティアを募集し、行事内容を告知することで、この事業に対し地域の人びとの理解と協力を得られるよう努めている。

また、イベント前の増水などによって、川に濁りが生じることがあり、こいのぼりを水辺の近くに配置するなどして、よりよい形で観客に楽しんでもらえるよう工夫している。

## 波及効果

町内外の多くの人びとが思い思いの色を使って彩色し、工夫を重ねた手作りの紙のこいのぼりが人と人との輪を広げ、地域の活性化につながっている。

また、このイベントを通じ、県外からも誘客が図られ、商店街をはじめ町内各施設にも観光客に訪れてもらうことができた。

## 課題・今後の展望

今後、仁淀川の自然保全を図りつつ、豊富な資源、当町の歴史ある地域資源を活用し、より一層の地域振興が図られるよう、新たな試みにも取り組んでいきたい。

そして本イベントを通じて、「紙」「人」「水」の文化を貴重な財産として、次世代への文化継承と、個性ある人づくり・まちづくりを進めていきたい。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ５月４日～５月６日　３日間（第７回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 特になし |
| 入場者数／目標入場者数 | 25,000人／50,000人 |
| 共催・後援等 | ●協賛／JA伊野町、伊野金融団、伊野製紙工業会、伊野町商業振興会、高知酒造㈱、国際ソロプチミスト土佐、㈱西岡寅太郎商店、仁淀川漁業協同組合、高知県手すき和紙協同組合　●後援／高知県交通㈱、㈱県交北部交通、土佐電気鉄道㈱、伊野町人権擁護委員会、マスコミ各社 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：2,734千円　財源内訳／県補助金：400千円　町補助金：2,000千円　寄付金：130千円<br>事業収入：199千円　その他：5千円 |
| 問い合わせ先 | 仁淀川紙のこいのぼり実行委員会（事務局：伊野町産業経済課）　TEL：088-893-1115 |

# 棚田inうきは彼岸花めぐり

～優秀賞（第3回）～

## 福岡県浮羽町

人口：17,321人

主催　　棚田inうきは彼岸花めぐり実行委員会
メイン会場　浮羽町新川地区周辺の棚田（日本棚田百選つづら棚田など）

### 内　容

町の文化遺産である石組みの棚田と、その周りに咲く彼岸花をテーマにした都市住民との交流イベント。期間中は、コンサートやスケッチ大会、写真コンテストなどの催し物が企画されている。

### 開催への契機・経緯

平成７年の春、設立されてまもない地元の町おこしグループ「夢酔塾」のメンバーの一人が、「棚田の畔一面に咲く彼岸花をテーマに何か地域おこしができないか」と提案した。早速メンバーたちは、棚田のある葛篭（つづら）地区へ足を運び、相談を持ちかけた。「彼岸花は稲刈りの邪魔になるだけ。何が面白いのか」。地元の人たちは、夢酔塾の提案をいぶかしげに思いつつも、地元を巻き込んだ実行委員会が設立された。

第１回目は、稲刈り後の田んぼで、農民シンガーを招きコンサートを開くことになった。ところが当日、台風が直撃、止む無く中止に追い込まれた。実行委員会のメンバーにとっては悔しい経験となったが、この「幻の第１回目」の悔しさが翌年以降の盛況の土台になった。

翌年は、コンサートやオリエンテーリングなどいろいろな行事を盛り込み、１週間の催しに変えたところ、福岡都市圏を中心に６千人が訪れ、棚田の美しさに感嘆し、絶賛する声が沸き起こった。それまで半信半疑だった地元の人たちの顔に自信と誇りが輝き始めた。入込客は３年目に１万３千人、４年目に２万人、５年目には２万５千人に達した。





## 目的・基本方針

当町の地勢は、平坦部と山間部にはっきりと分かれていて、「棚田」は山間部に200haほどある。棚田は、その生産の難しさから全国的に荒廃が進んでいるが、米を生産する機能のほかに、急激に降った雨水を貯水するダムとしての洪水調整機能などの国土保全機能や歴史的文化遺産としての価値があり、漸く最近になって注目されてきている。しかし、もともと地元棚田農家にとって棚田は「見なれた風景」であり、平坦部に生活する住民にとっては、その存在そのものがほとんど知られていなかった。

このように価値のある棚田をより多くの人たちに理解してもらうために本イベントを開催している。

## 開催にあたって考慮している点

イベント会場となる棚田付近には満足な駐車スペースはなく、次から次へと山間部に上ってくるマイカーへの対応がスタッフの頭痛の種になっている。スタッフは昼食もとれないどころか、トイレに行く余裕がないほど悪戦苦闘する。

また、ありのままの自然の中で、ゆっくりくつろいでもらうというイベントの趣旨を理解して、スタッフに協力してくれる人が大勢いる一方で、空き缶などの投げ捨て、田んぼの畔への無断立ち入り、彼岸花をごっそりちぎる、畑の作物を無断で取って帰るなど、一部のマナーの悪い人たちへの対処も課題となっている。

## 波及効果

本イベントを通して、世間の棚田に対する関心の高さが理解されたこともあり、続いて実施した、都市住民による棚田での農作業体験などをメニューとする「棚田オーナー制度」を実施したところ大きな反響があった。

また、第6回全国棚田サミットを、隣接する星野村と共同開催するための誘致活動に結びついた。さらに、葛篭棚田が日本棚田百選に認定され、彼岸花めぐりが第3回ふるさとイベント大賞優秀賞を受賞、第7回美しい日本の村景観コンテストに入賞するなど、各方面から評価を得ている。全国から年間40件ほどの視察が訪れ、マスコミにも多く取り上げられるなど予想を越えた“波及効果”が生まれている。

## 課題・今後の展望

このように現在までのところ棚田保全については、一定の成果を収めていると言えるかもしれないが、地元農家の高齢化など今後の見通しは決して明るいものばかりではない。棚田は年々保全が難しくなっており、残念ながら今後日本各地でその美しい姿は少しずつ姿を消していくことになると思われる。しかし、そのなかで稀少価値が認められて、新たな棚田応援団が生まれてくることを期待しつつ、今後とも「継続は力なり」という言葉を信じて、地元一丸となって奮闘していきたい。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 9月15日～9月20日　5日間（第7回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 福岡都市圏の都市住民 |
| 入場者数／目標入場者数 | 50,000人／30,000人 |
| 共催・後援等 | 特になし |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：500千円　財源内訳／一般：500千円 |

問い合わせ先　浮羽町役場　情報振興課　TEL：09437-7-2111　http://www.town.ukiha.fukuoka.jp/

# あづま造形美術展 ～部門賞【展示・博覧会部門】(第2回)～

## 鹿児島県東町

人口：7,630人

主催　　東町・東町教育委員会・あづま造形美術展実行委員会
メイン会場　東町太陽の里ピクニック広場

## 内　容

隔年で開催している美術展。平成11年に開催した第８回目は、「見直そうふるさと…あづまから感動の贈りもの」をテーマに、自治公民館や各学校、各種団体など82団体から83の造形物が寄せられた。回を重ねるごとにイベントに対する結束力も強まり、全町民一丸となった野外芸術展は第８回も大成功を収めた。

地元にある身近な素材を利用して制作された作品は、当町の観光スポット「レジャーランド太陽の里」周辺の２会場に展示され、メイン会場のピクニック広場には、所狭しと巨大な力作が並んだ。ススキの穂約３万６千本を使った５ｍを超える「北極グマ」や、ヒオウギ貝の貝殻6,300枚を張り付けた金魚「オランダ獅子頭」、アニメでおなじみの「トトロ」などの作品が人気を集め、台風による風倒木を使ったユニークな作品などが目を引いた。

第８回は初めての試みとして町外にも出品を呼びかけ、隣接する長島町をはじめ、熊本県の水俣市と新和町からも参加があり、県際交流を深める広域的なイベントとしても新たな一面を見せた。

関連イベントとして、児童生徒の芸術性や創造性を高めることを目的に開催した「アートペインティング大会」には、町内の小中学校から９チーム54人が参加。「見直そうふるさと」をテーマにベニヤ板２枚分ほどのキャンバスに思い思いのふるさとを描いた。題材は、橋のある当町の風景や特産品のブリやミカンなど。作品は、造形物の展示会場で披露された。



会場に所狭しと並ぶ作品

造形美術展期間中に「あづまの美フォトコンテスト」「造形美術展交流パークゴルフ大会・ゲートボール大会」「環不知火海観光物産展」を同時開催し、町内屈指のイベントに華を添えた。

第８回は直前の台風被害にもかかわらず、「こんな時こそ実施すべきだ」との町民の意見に支えられ開催することになった。

## 開催への契機・経緯

「町民総力で地域の活性化につながるイベントを」ということで、昭和60年から隔年で開催している本美術展。これまで廃物や不要物など身近な素材にこだわり、環境問題への意識啓発を図りながら、より独創的で地域性あふれるイベントとして定着してきた。

「案山子」をテーマにはじまったこのイベントも、回数を重ねるごとに町民の発想の豊かさや創造性により、趣向をこらした作品が目立つようになってきた。

これまで「ふるさと」に着目したテーマが主流を占め、町民に「郷土」について問い続け、その結果が「郷土愛を育む」成果につながってきた。８回目の今回は、「見直そうふるさと」が大筋のテーマで、21世紀を目前にして「過去と未来のわが町」を創造する作品が大半を占めた。

## 目的・基本方針

町民の創造性を育み、豊かな地域文化を確立しながら、地球規模で問題となっている環境問題への意識啓発を図る。また、近隣の市町村と広域的な交流を積極的に進め、地域全体の活性化を図るのが狙いである。

熊本県新和町の作品



最優秀賞（オランダ獅子頭）





台風の被害木を使った作品

## 開催にあたって考慮している点

町民総参加を目指し、自治公民館、学校、PTA、各種団体に幅広く参加を呼びかけはしているものの、あくまで町民主体が前提である。行政が極力関与せず、大筋のテーマだけを設定し町民の独創性、創造性に委ねている。

作品の制作にあたっては、不要物などの身近な素材を利用しながら、一部材料費を補助する形で各団体に支出している。

２週間のイベント開催期間に、人口８千人弱の当町に６万５千人を超える来場者が訪れる。町外からの来場者のために、主要道路からの道順を示す案内板等を設置し、会場までの誘導をスムーズにしている。また、これほど多くの町外者が訪れる機会を観光産業の活性化につなげるため、商店等に物産展への積極的な参加を促している。

## 波及効果

作品の制作には長い所で約２カ月間かかる。公民館では各戸からほぼ全員が参加して、作業は夜間に行われる。毎晩続く制作作業は、ただでさえ楽な仕事ではない。そんな作業の合間には、さまざまな会話が飛びかい、いつもはあまり話さない人と話せたり、作業を通じてその人の意外な特技を知ったりできる。時には、作業を終えて酌み交わす焼酎も手伝って、良いアイディアが生まれたりもする。

当町を代表する一大イベントとして定着してきた本美術展は、地区ごとの結束力とパワーを生み出し、それを作品として目で確かめることができる。そして、その作品群が会場では、「全町民の結束力」となって来場者の目に飛び込んでいるに違いない。

また、近隣の市町からの出品や、期間中に実施するその他のイベントでも広域性を持たせることによって、制作技術の情報交換やスポーツ交流を促進し、当町のみならず地域全体の活性化が図られている。

## 課題・今後の展望

町民の中には「町外からの参加を増やし、各地区からの出品を半分にしては」「２年に一度を４年に一度にしては」「作品のネタ（アイディア）が尽きた」などの声も聞かれる。一方、来場者のアンケートによれば、造形美術展の印象を96%が「たいへんよかった・よかった」と答えた。

今後は10回目を一つの節目と考え、町民主体のイベントである趣旨を変えることなく、末永く途切れることのない「あづま造形美術展」を全町民で模索していかなければならない。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月27日～11月18日（第９回）／隔年開催 |
| 主な対象 | 特定の対象はなし |
| 入場者数／目標入場者数 | 65,000人／60,000人 |
| 共催・後援等 | 後援／鹿児島県他 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：8,660千円　財源内訳／県文化振興財団補助金：1,540千円　一般単独：7,120千円 |

問い合わせ先　東町役場　企画財政課　TEL：0996-86-1111

# 大船渡・かがり火まつり

～部門賞【地域経済振興部門】（第5回）～

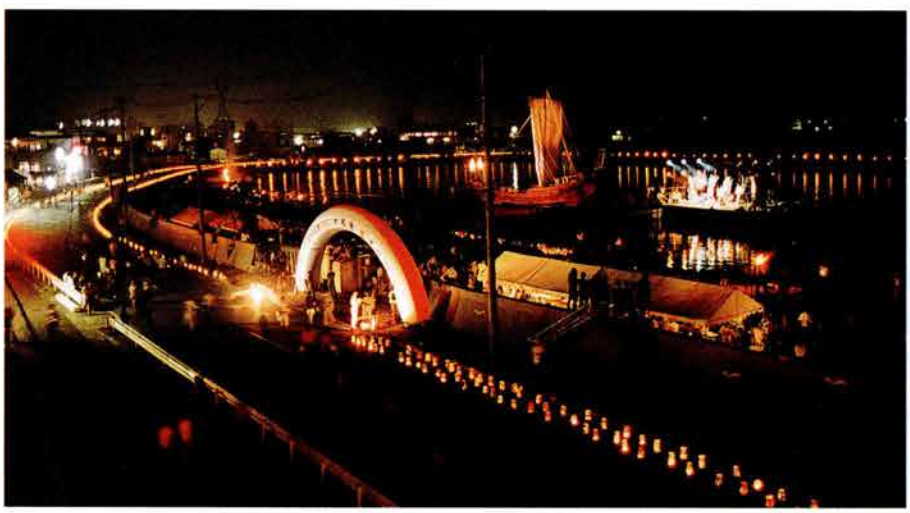
## 岩手県大船渡市

人口：36,780人

主催　　大船渡・かがり火まつり実行委員会
メイン会場　大船渡港茶屋前岸壁ほか

## 内　容

- 夢あかり：総数2,001個の市民手づくりの夢あかりがやさしく灯る頃、人びとは祭り会場へと向かう。
- 採火式：みなと公園において、火おこしの儀（採火式）が厳かに執り行われる。
- 前祝い：黄昏色に染まる湾内に、大漁旗をなびかせた小型漁船団が姿を現すと、洋上ステージにあかりがともり、「碁石ご祝い」の唄が流れる。唄い継がれる祝いの調べに誘われ人びとが集い、腰を落ち着ける頃、会場全体を包み込み、祝福するその響きは厚みを増し、やがてその海舞台を残して闇が訪れる。
- 火入れ式：祝い唄の余韻を残し、波間に聞こえる笛の音。姿を現す千石船。やがて、大きな光が輪郭を作り出し、海を青く染め上げる。まっすぐに進む松明の炎、かがり火のもとへ辿り着く１隻の和船。炎の到着を待つ若者。若者の松明に火が渡され、ステージのかがりに火がともる。火矢射手（女性）がステージ上で紹介され、松明と共に船に乗り込む。再びその松明は、大がかりの点火のため和船とともにステージを離れ、湾内中央へと揺れ進む。
  火矢による点火で、大かがり火が燃え上がると、一斉に岸壁の170基のかがり火に命が宿り炎の舞台が調う。
- 第一幕　かがり火幻想夜：静けさの支配する夜の海、シンセサイザーによるかがり火幻想曲が流れる中、表情を変える千石船。夜空に向かって走る、数々の光。揺れるかがり火の炎。幻想夜のシナリオが紹介され、夢あかりが海上に放流される。
- 第二幕　悠久の漁火：鳴り響く大太鼓の音。浮かび上がる千石船。燃え上がるかがり火の炎。海上に現れる光の帯（漁火船団）。やがてそれは全てを覆い尽くすかのように、輝き放つ。さまざまな光が集い、力強い長安寺太鼓の響きが鳴り渡る。
  やがて迎えるクライマックス。勇壮な姿を残し、その響きは止んだ。一斉にその光を落としていく漁火船団。
- 第三幕　洋上の舞：再び何かを誘うが如く、かがり火に照らされ闇に蘇る鹿たち。その伝統的な舞（笹崎鹿踊り）は、今でも大切に受け継がれ、「かがり火幻想夜」の中で披露される。
- 第四幕　波動：躍動感あふれる「よさこい」のリズム、強烈なビートで夜空を駆け巡るレーザー。マリーンスクリーンは炎に変貌。湾内を巡航する大漁旗船団を背に、若者たちによるエネルギッシュな「よさこい」の踊りが繰り広げられる。
- 第五幕　カーテンコール：希望にあふれたシンセサイザーの調べ（かがり火幻想曲）が波間に響き渡る。夜空を彩る花火が打ち上げられると、祭りを祝うかのように「七夕船団」が入港してくる。天空を駆ける無数の光、伝えられるメッセージ。輝きに包まれた湾内、すべてが夏の夜を惜しむように、彩り、集い、競い合う。
- 火納め：漁火船団の灯に照らし出され、岸壁のかがり、ステージのかがりが落ち、大かがり火だけが家路につく人びとを見送る。



## 開催への契機・経緯

三陸地方極点都市地域の中心都市である当市は、美しいリアス海岸を有し、雄大ですばらしい自然景観に恵まれている。黒潮と親潮が交わる世界三大漁場を控える漁港として、さらには、岩手県最大にして東北有数の物流港湾として“海”とともに栄えてきた。

また、太古の昔から、豊かな海と大地に恵まれた大船渡には、日本有数の縄文時代の遺跡が多く点在している。土器を焼き、ケモノを追い、まつりごとを照らし、そして日々の営みに欠かせなかった「火」。これ



らの天与の恵みを後世に伝えなければならないと考え、平成８年に「海の日」が新たに国民の祝日に制定されたことを記念し、もう一度、海・自然の大切さを認識してもらうために、「大船渡・かがり火まつり」を開催した。

海に幸を求めた縄文人の生活に思いをはせ、海と火に着目し、港町ならではの火まつりとして、幻想的な時と世界を創りあげながら、海の安全と大漁、そして市民の幸せを祈るまつりとしたものである。

## 目的・基本方針

本イベントは、市民総参加のまつりとし、市民の手で創りあげることによる地域の融和と多くの観光客の誘致、そして地域活力の創出で活力倍増を図ることを目的とし、かつ、当市の将来都市像である「活力で輝く未来　国際港湾都市　大船渡」の実現に寄与することを期待するものである。

## 開催にあたって考慮している点

本イベントは、平成13年で６回目を迎えたが、まだ完成したとは言えず、コンセプト（「太古の昔から豊



かな海と大地に恵まれた大船渡には、日本有数の縄文遺跡が数多く点在しており、海に幸を求めた縄文人の生活に思いをはせ、海と火に着目し、港町ならではの火まつりとして幻想的な世界を創りあげる。燃え盛るかがり火と漁火、そして街角を照らす夢あかりに市民の活力と未来への光明を見出す。」）に近づけるための内容の充実と、いかにしてより多くの市民の参加でまつりを創りあげるかという点を考慮している。

## 波及効果

本イベントの目的は、「市民の活力倍増による地域活性化」である。６回のまつり開催を通じて、大船渡の一大イベントとして広く認識されており、ボランティアとして、また観光客として参加する市民は年々増加傾向にある。また、県外観光客からは、「こんな素晴らしいイベントは初めて見た」という声が多く寄せられている。



## 課題・今後の展望

本イベントは、平成８年に新規イベントとしてスタートし、これまで幾多の暗中模索をしながら進んできたが、メジャーなまつりとなるポテンシャルは十二分に持っていると考えている。今後は、市民参加の促進と当市資源の活用を念頭におき、夏まつりとの一体化も視野に入れながら、東北を代表する海のイベントとなるよう、一層まつりの充実を図っていきたいと考えている。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ８月４日～８月５日　２日間（第６回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 特定の対象はなし |
| 入場者数／目標入場者数 | 26,000人／40,000人 |
| 共催・後援等 | 大船渡地方振興局、マスコミ各社 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：10,460千円　財源内訳／負担金：10,000千円　繰越金：380千円　雑入：80千円 |

問い合わせ先　大船渡・かがり火まつり実行委員会　事務局：大船渡市産業振興部　商工観光課
TEL：0192-27-3111（内線112）　http://www.nnet.ne.jp/ofunato

# うすき竹宵（たけよひ）

～部門賞【地域経済振興部門】（第4回）～

## 大分県臼杵市

人口：36,780人

主催　　うすき竹宵実行委員会、臼杵市
メイン会場　臼杵城下一帯

## 内　容

1．光と闇のイルミネーションの世界へ（2日間17:00～21:00）
①1万本の竹ぼんぼり（竹筒とロウソクの炎）を町全体に②竹オブジェ（竹の創作とロウソクの炎）を武家屋敷、寺院、神社や風情ある町並みに配置③水面に灯るぼんぼりを臼杵川に④子ども竹オブジェ（小学生）を二王座地区に配置⑤竹宵をテーマにした短歌川柳コンテストの開催⑥臼杵城大門櫓のライトアップ





2．秋の夜に城下町の風情にひたる
①般若姫を中心とした40名の行列②胡弓（中国弦楽器）演奏③弦楽器④琴演奏⑤フルート・オカリナコンサート（旧臼杵藩主稲葉家下屋敷）⑥ストリート演奏（尺八、横笛、マンドリン）

3．和を味わう
①お茶会（呈茶）②茶房③ぜんざい④清酒・焼酎「竹宵」試飲即売

4．展示
①俳句、短歌、川柳②写真展

5．特典
①着物姿抽選会（着物姿でご来場の方のみ②かぼすジュース無料配布③写真撮影講習会④竹ごま展示配付

## 開催への契機・経緯

当市には、国宝・臼杵石仏をはじめ、古い町並みなど歴史的遺産が数多く残る町である。「国民文化祭おいた98プレイベント」で竹オブジェを見た市役所の若手まちづくりグループ「未来くる会」と商工会議所青年部会は、夜の城下町（寺町）を竹と光で演出しようと考えた。さらに青年会議所など地域づくりグループに呼びかけ、平成9年9月、竹光芸まつり実行委員会が設立された。12年にイベント名称変更に伴い「うすき竹宵実行委員会」となった。

- 第1回竹光芸まつり
  竹ぼんぼり2千本を二王座地区の寺町に配置。さらに竹のオブジェを随所に設置し、古楽器のミニコンサートも取り入れる事で、光と音の空間を創る。来訪客1,500人。
- 第2回竹光芸まつり
  竹ぼんぼりを3千本に増やし、配置区域も一部拡大した。来訪客3千人。
- 第3回竹光芸まつり
  竹ぼんぼりを4千本に増やし、ふるさと産業文化祭と共催。開催日も2日間に延長。会場も中央通り商店街まで拡げた。またイベントの内容も、般若姫行列や雅楽等



を加え充実を図った。来訪客3万7千人。
- 第4回うすき竹宵（竹光芸まつり）
  竹ぼんぼりを6千本に増やし、配置区域を平清水のお寺や町八町まで拡大。イベント名称も「うすき竹宵」へ変更。来訪客5万人。
- 第5回うすき竹宵（竹光芸まつり）
  竹ぼんぼりを1万本に増やし、配置区域をJR臼杵駅まで拡大。また企業や地元区民が独自で竹オブジェや竹ぼんぼりを配置する動きが出始めた。

## 目的・基本方針

中心市街地の町八町、二王座、平清水地区は16世紀のキリシタン大名大友宗麟が築城以来、東九州の玄関口として栄えてきており、今もなお古い町並みや路地が連なり、城下町

の風情を残している。

特に、二王座地区・町八町地区は歴史環境保全地域に指定されており、石畳等の街並み整備や建築物の保存を進める中、年々各方面から注目を集めている。

この歴史的資源を活かし、観光による産業振興と地域の活性化を図ることはもとより、携わる地域住民の魅力的なまちづくりに対する意識の改革・向上に繋げていきたい。

## 開催にあたって考慮している点

- 城下町に浮かび上がる「光と闇のイルミネーション」が特徴の祭りだが、狭い通りに大勢の客が押しよせるため、回を重ねるごとに混



雑してきた。風情を取り戻すためにイベント会場の分散等考慮した。
- 中心市街地(旧市街地)は駐車場が少ないため、無料シャトルバスを運行し、市役所駐車場など郊外の駐車場を利用している。
- 開催日の3ヵ月前に事前パンフレットを作成、市内各種商店や県内外に配布しイベントの周知を図り、気運を盛り上げる。
- 臼杵市ふるさと産業文化祭を同時開催することで、地元の産業や物産を紹介するとともに商店街の空き店舗を活用する。
- 市外から芸術家や芸術を志す人たちの参加を呼びかけ、竹と光のオブジェを作ってもらい芸術の発表の場とした。
- 歴史的町並みの雰囲気に合う和楽器や胡弓などのコンサートを開催した。
- これまで竹ぼんぼりの配置・点火・撤収を実行委員会メンバーが行ってきた。高齢化が進む自治会組織単位でも可能な作業ということもあり、今年からは地元住民自らも加わった。
- 京都市の「おとくに竹あそび」の発案者である京都大学講師に毎年アドバイスを受けている。祭り開催当初は、地元区民と実行委員会との意思疎通がうまくいかないこともあった。しかし、回を重ねるごとに互いが議論するようになり、切磋琢磨し歩み寄ることができ始めた。

## 波及効果

竹を切り出すことで山林保全につながり、質のよいタケノコの生産が可能となった。また使用後の竹ぼんぼりを竹炭化し、商品として再利用。さらに、炭をパウダー化し竹林へ還すことで、さらに質の良いタケノコ生産が見込まれ、高齢化で衰退が進む1次産業を再興するきっかけづくりとなった。竹炭以外に竹製品も生まれつつあり、新たな観光産業誕生もまもなくであろう。

また、中心市街地を巻き込んだことで、商店街や出展者が「ヒトが動けばモノが売れる」ということを体験したことなどから、商店主の意識が変わりはじめた。竹宵限定メニューなども登場し始める。

さらに、大林宣彦監督の臼杵映画「なごり雪」(平成14年秋ロードショー)にも竹宵が取り上げられ、実行委員もエキストラ出演した。

市内外の異業種の人たちが竹宵に関わり議論し汗を流すことで、多種多様な交流が自然に生まれ、実行委員一人ひとりも進化している。地域づくりリーダー養成においても効果的である。

また、エージェントやマスコミからの資料提供依頼も多く、近い将来には九州を代表する秋のイベントに成長する可能性もある。

## 課題・今後の展望

国庫補助金（3／4補助）が平成13年度までである。第6回以降の予算措置をどうするかが最大の課題である。竹の切り出し～加工～竹炭化までの行程の効率化及び見直しを今年度から行っているが、来年度はさらに見直しが必要と考えられる。しかしながら4回目にして2日間で5万人もの客が来る祭りに進化したため、止めるわけにはいかない。平成14年度はさらに進化するものと思われる。実行委員会、さらには市民の英知を結集し、自由に議論しながら「うすき竹宵」は今後も続いて行くだろう。

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月3日～11月4日　2日間（第5回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 市民、観光客 |
| 入場者数／目標入場者数 | 50,000人／60,000人 |
| 共催・後援等 | NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、FM大分、OAB大分朝日放送、日本航空大分支店、キャノンカメラ販売 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：13,537千円　財源内訳／一般：3,384千円　補助金：10,153千円 |

問い合わせ先　臼杵市役所　商工観光課　TEL：0972-63-1111（内線1263）　http://www.city.usuki.oita.jp

# 師走祭り「迎え火」

～優秀賞（第4回）～

## 宮崎県南郷村

人口：2,766人

主催　　百済の里南郷温泉観光協会
メイン会場　南郷村神門小路前田（神門神社南面の水田地帯）

## 内　容

本イベントは、百済伝説の証とされる「師走祭り」の故事の１つである野焼きに変えて行われているものである。

この「師走祭り」は、当村の南東に隣接する木城町にある比木神社に祀られた王子が、約90kmを巡行して離れた父王の祀られている神門（みかど）神社を訪れ再会するというものである。

「迎え火」では、水田地帯に残る古代の道（現在は畦道）の両側に沿って、高さ約４mに作られた杉の葉櫓が、延長約300mに渡り配置される。そして、比木神社からの一行が、夕闇せまる神門神社に到着する直前に火を放ち迎えるものである。

比木神社からの一行は、畦道の両側で天をも焦がさんばかりに燃え上がる「迎え火」の中を神門神社へと進んでいく。その姿は、古代がよみがえったように神々しく、神門の山里は荘厳で幻想的な雰囲気に包まれる。

杉の葉櫓作成には、厄入り、厄あけ、同級生、中学３年生の高校合格祈願、スポーツ団体の必勝祈願、商工会、郵便局、森林組合、JA、観光協会、地元企業、村外からの希望者等各種団体が参加し、平成13年度は総数30基を作った。

参加団体では、約2ヵ月前から櫓作成の日程を決定し、そのための話合いや材料となる杉の葉収集等を重ねていき、遠方からの神様を迎える準備を行う。

この「迎え火」では、燃え方を競うコンテストや「迎え火」を題材としたフォトコンテストも併せて開催している。

「迎え火」により神様を迎えた後は、この残り火を囲み、夜が更けるまで気の合う仲間や観光客との交流が行われ、楽しい催しになっている。

## 開催への契機・経緯

師走祭りは、異国の地で離ればなれに祀られている百済王族の御霊をなぐさめる形で催されているといわれ、故事にのっとった複雑な行事が行われている。毎年旧暦の12月に催されることから師走祭りの名が付いた。この祭りは、全国的にも極めて古い形態を残しており、しかも大陸的様相を残しているとして、平成３年に文化庁より「記録すべき無形の民俗文化財」の一つに選ばれている。

それらの行事の中に、追手を撃退するために“野に火を放つ”行事があり、これの形を変えたものが「迎え火」である。



現在では、当村を代表する行事となった「師走祭り」も、ほんの十数年前は、過疎化による後継者不足や道路拡張工事等による環境の変化によって、一時は中止せざるを得ない状況までに至っていた。

しかし、昭和61年から始まった当村の「百済の里づくり」の気運が盛り上がりをみせる中、「師走祭りを昔の姿に近づけよう」「どのようにしたら皆が祭りに参加できるか」を協議し、「伝統行事の保存と活性化」を検討し実行に移したのがこの「迎え火」である。



## 目的・基本方針

「伝統行事の保存と活性化」を軸に、村民総参加によって共同で祭りを行うことにより、住民間のコミュニケーションの場づくりと連帯感の醸成、世代間の交流促進はもとより、祭りのイメージアップ、韓国との交流による新しい文化の創造を基本方針とし、「火」の持つ神秘的、神聖的魅力により観光客の誘致へつなげることを目的とする。

## 開催にあたって考慮している点

伝統行事を盛り上げ、多くの住民が参加し、かつ連帯感を高めるものであり、その結果として地域イメージを高めること。また、環境に配慮し神聖さを損なわない事等を考慮している。

## 波及効果

今回（平成13年度）で15回目を迎え、「火」のイベントとしては全国有数の規模と考えるが、特に「迎え火」の規模が大きく、絵になる材料でもあることから全国に紹介されるまでに至り、観光地としての知名度とイメージがアップし、観光客も増加している。

さらに、ふるさとイベント大賞優秀賞受賞後は、杉の葉櫓の数も増加し、一層大規模なイベントとなっている。

また、百済王伝説が交流のある韓国にも知られるようになり、「迎え火」当日には韓国からの観光客も100人程度宿泊するまでになった。

「迎え火」の杉の葉櫓作成への参加団体の増加は、地域住民の“百済の里づくり”への参加意識の高揚につながっており、当村のまとまりに一役買っている。

今や「迎え火」は当村の観光の“顔”になっている。

## 課題・今後の展望

- イベントの盛り上がりをさらに大きくし、日本一の「火のイベント」にする。
- 村外からの参加者が除々に増えつつあるため、グリーンツーリズムの推進と組み合わせて活用できないかと考えている。
- 本圏域に、県が推進する広域観光ルート「神話・伝説の道」が平成15年4月開通となり、福岡・北九州周辺地域も観光市場として望めるため、さらにこの方面へPRを行い、観光客誘致を図りたい。
- 「迎え火」の杉の葉櫓の総数100基を目指す。
- 「火の文化」のシンポジウム開催についても検討している。





| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 平成14年1月25日　（第15回）／毎年開催 |
| 主な対象 | 村民・県内外観光客、韓国からの観光客 |
| 入場者数／目標入場者数 | 1,500人／3,000人 |
| 共催・後援等 | 神門神社、比木神社（木城町）新ひむかづくり南郷村民会議、南郷村自治公民館連絡協議会、南郷村PTA連絡協議会、南郷村商工会、報道各社 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：200千円　財源内訳／一般：200千円 |

問い合わせ先　百済の里南郷温泉観光協会　南郷村企画観光課　TEL：0982-59-1501（南郷村企画開発課）
http://www.vill.higasiusuki-nango.miyazaki.jp

# GET21なんかん　音と光のカウントダウン2001

～部門賞【ミレニアム・世紀越え部門】（第5回）～

## 熊本県南関町

人口：12,151人

主催　　GETなんかん　音と光のカウントダウン実行委員会
メイン会場　熊本県玉名郡南関町大津山公園一帯



## 内　容

本イベントは、西暦2000年と2001年（21世紀）を迎えるための２年間に限り実施したものである。

内容は、大きく分けると２つに分かれ、１つ目は本事業のシンボルとなる大津山の夢のツリーであり、もう１つは新年を迎えるためのカウントダウンフェスティバルである。

まず、大津山の夢のツリーは、全体で約40haの民有林であり、すべての所有者より快く承諾をしてもらいツリー設置が可能となったが、配線の全体延長が34kmと長く重量があるために、人力作戦では山への搬入だけでも重労働であり、電球の設置にいたっては山林のほとんどが高さ20m以上もある広葉樹が対象となり、林業の専門家以外では設置不可能という状況であった。

しかし、このような困難な状況の中でも、延べ500人以上のボランティアの協力により見事に完成し、地域住民の心のよりどころとなるだけではなく、規模の大きさなど全国的な話題となったことはいうまでもない。

この結果が、現在も当町中の各家庭や近隣市町村に設置されたイルミネーションとして輝きつづけているのである。

また、カウントダウンフェスティバルについては、定期的に開催したプレイベントの総決算として当町出身者を中心とした出演者で、野外コンサートやカウントダウンセレモニーとともに神楽や古代楽等地域の歴史や文化に触れながら、音と光にこだわりを持って地元の素材を活かして実施した。

さらに、21世紀を迎えるという観点から、「20世紀思いでの写真展」や「21世紀夢の作品展」も併せて開催し、ふるさとの大切さを再確認することができた。

広報面においても、地元の人材によりロゴマーク、イメージソングCD等の制作やインターネット上にホームページを開設して全国の人に活動内容を知らせることができたことも事業の成功に繋がったように思える。

## 開催への契機・経緯

そもそもこのイベントは１人の男の大きな夢から始まった。

「ふるさとの大津山がクリスマスツリーのように輝くならば、どんなにきれいで、多くの人びとに夢と希望を与えることができるのではないだろうか。」

初代実行委員長が、広島県上下町に地域づくりの研修会に参加して山に輝いているイルミネーションを見て夢を描いたのである。

このような夢のような話に、ふるさとを愛する有志たちがその話を疑いながらも１人、また１人、そして多くの人びとが集まり組織での取り組みを行うまでに至った。

「どうせツリーを作るのなら世界一のツリーを作り、カウントダウンや野外コンサートもやろう」ということに話はエスカレートしていった。

そこで、事業全体の方向性と内容や組織について取りまとめるための準備委員会を結成し、約半年間の期間を経て実行委員会の発会となった。

## 目的・基本方針

西暦2000年、2001年（21世紀）という記念すべき時を迎える中で、当町で暮らす住民は、自分たちを育ててくれた故郷のすばらしさを再確認し、これからも故郷が輝きつづけるような取り組みを行うとともに、時代を担う人たちにもそのすばらしさを伝えていく役目を担っている。

このような中で、住民たちは故郷の大津山の自然を舞台に、世代を超





えた人びとと新しい時代の幕開けを祝い、音と光のメッセージにより勇気と希望を与えるために、本イベントを開催するものである。

## 開催にあたって考慮している点

○町と教育委員会は、町内の公共施設の利用や子どもたちの参加の問題があり後援のお願いをしたが、その他の各種団体については、すべての人が実行委員の１人として活動してもらう考え方であるため、後援から外すことにした。

○町からの補助金については、町議会の全員協議会の中でも補助金を申請したらどうかという意見があり、組織の中でもらうべきか、もらうべきでないかでかなり揺れ動いたが、今回はこれまでのイベントとは違って地域住民や当町に関わりのある人たちの支援と協力により作り上げていきたいので、補助金はあてにしないで一般の寄付と募金で頑張ろうということに決定した。

このことは、２年間で1,500万円以上の経費を必要とする中で、自分たちの気を引き締めるとともに、組織の団結を深めることに繋がってほしいとの思いからでもあった。

○延べ500人以上の人手を要した大津山の夢のツリーの設置や、ロゴマーク、イメージソングCDの制作、ホームページの開設についてもすべて実行委員と町内のボランティアの中で実現した。

○地域ごとに受け継がれている神楽や古代楽、語り継がれている昔話を再発掘するとともに、「20世紀思い出の写真展」の開催等、地域の素材に特にこだわりを持った。

また、各種プレイベントやカウントダウンフェスティバルのステージにおいても、出演者すべてが当町に関わりのある人たちで実施した。

## 波及効果

まずは、人材育成であり、実行委員として高校生から76歳までの約150名の人が参加し、自分ができることに力を出し合って自己改革をするとともに、活動に参加する中で、故郷のすばらしさを再確認することができた。

GET21は解散したが、活動に参加した人たちがいろんな方面に活動を拡大したり、新しい組織の発掘に繋がった。

また、ホームページへのアクセス件数も全国から２万件以上を超えて、当町の宣伝にも役立つことができたし、この結果が全国から約2,500人の人たちから1,400万円以上の寄付が集まるに至ったのではないだろうか。

大津山の夢のツリー設置に関連して、町内の各家庭にイルミネーションを設置してもらう「町ごとツリー大作戦」を実施したが、当初は約150世帯の設置件数だったが、現在も新たな設置者が増えており町中が賑わいを見せている。

また、最近は近隣市町にもイルミネーションの設置が目立ち始めている。

今回の完全民間主導型による事業を通じて、たくさんの地域住民の人が参加したことは大変心強く、新しい流れができたように思える。

## 課題・今後の展望

GET21は、事業完了により解散し、本事業のシンボルである大津山の夢のツリーも撤去したが、各家庭に設置されたイルミネーションは地域づくりの柱として今も輝いており、もう一度大津山の夢のツリーを再現しようという声が出始めている。

また、町内の保育園児から小中高生まで全員とたくさんの人たちの思いや作文等を入れて埋設している「GET21夢のタイムカプセル」は、25年後に開封する計画であり、次世代を担う子どもたちの活躍も楽しみである。

現在当町では、GET21の元メンバーが中心となって新しい人材を加えながら、これまで以上の組織を確立しようと動き出したばかりである。

もちろん目的は、自らが輝き、故郷を輝かせ続けるための活動を楽しみながらやることだ。

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | 平成12年12月31日～平成13年１月１日　２日間（第２回）／単発開催 |
| 主な対象 | 南関町民及び近隣市町村住民 |
| 入場者数／目標入場者数 | 3,000人／3,000人 |
| 共催・後援等 | 後援／南関町、南関町教育委員会、熊本日日新聞社、NHK熊本放送局、RKK熊本放送、TKUテレビ熊本、KKT熊本県民テレビ、KAB熊本朝日放送、FM中九州、FMたまな |
| 総経費・財源内訳 | 総経費：15,793千円（２年間分）　財源内訳／寄付金：14,400千円　事業収入：568千円　地域づくり助成金：291千円　雑収入：534千円 |

問い合わせ先　南関町役場　企画振興課　TEL：0968-53-1111　http://www.interq.or.jp/japan/GET21/

# 部門別［1］祭り

北海道函館市

人口：286,175人

# はこだてクリスマスファンタジー

主催　はこだてクリスマスファンタジー実行委員会
会場　赤レンガ倉庫群周辺ほか市内一円

## ■内　容

当市の姉妹都市、カナダハリファクス市から寄贈された大きなもみの木を約３万個のイルミネーションで飾り、函館を代表する観光スポットの一つ、赤レンガ倉庫群前海上の台船に立て、高さ約20mの巨大なクリスマスツリーとして、函館を世界一クリスマスの似合う街とするイベント。

毎日のツリー点灯式には、花火の打ち上げとともに、レーザーショーを実施するほか、開催期間中、さまざまなイベントを行う。また、函館空港や函館駅など、市内約10ヵ所にインフォメーションツリーを設置するほか、クリスマス電車を運行し、市内全体をクリスマスムードで盛り上げる。

## ■開催への契機・経緯

当市は、年間約500万人の観光客が訪れる、北海道を代表する観光地となっているが、上期（４～９月）に年間観光客数の７割が集中する。

このため、イベント開催による冬季観光振興による通年観光の実現と、市民、企業、行政が一体となった、全市的な取り組みによる地域経済の活性化、さらに姉妹都市カナダハリファクス市との一層の友好促進を目的として開催する。

## ■目的・基本方針

第１回目からのコンセプトである「冬季観光の推進」「市民・企業・行政一体型の事業」「姉妹都市カナダハリファクス市との友好促進」の３点を継承し、「市民・企業・団体等」が一体となってまちづくり意識の高揚を図ることを柱に、事業運営を行う。





## ■開催にあたって考慮している点

観光客誘致のため、全国各地の旅行代理店に対して、旅行商品造成のために早期の情報提供を心掛けている。また、ツリーの選定作業、運搬業務等の打ち合わせのため、姉妹都市カナダハリファクス市との円滑な連携も必要となる。

実行委員会が、市内のさまざまな組織、団体など、幅広い構成により組織されているため、定期的に実行委員会を開催し、連携の強化に努めている。

## ■波及効果

単なるクリスマスイベントではなく、姉妹都市からプレゼントされたもみの木によるイベントというストーリー性があることから、全国の旅行代理店が注目し、旅行商品が造成された。会場周辺は、連日、多くの市民や観光客で賑わい、飲食店をはじめ、宿泊施設や観光施設などの客数も大幅に増え、冬季観光振興に大きく貢献している。

## ■課題・今後の展望

函館の冬を代表するイベントへと成長し、第４回目を迎えた平成13年は、市をはじめ観光協会や商工会議所、青年会議所のほか、市内のまちおこし団体などの参画により、実行委員会の組織強化が図られた。今後もイベントのさらなるグレードアップに努めていきたい。

秋田県大曲市　人口：39,443人

# 新作花火コレクション

主催　新作花火コレクション実行委員会（大曲花火倶楽部）
会場　大曲ファミリースキー場

## ■内　容

全国から選抜されたアイディアに優れた新進気鋭の若手花火師が、技術的には難しいといわれる小玉（4号と5号）で、創造性の高い花火を打ち上げ、新作花火の発表会を兼ねた競技会を行う。また、特別審査員として招聘した芸術分野の著名人から、花火を含めた「美」に対する考え方等について講演してもらっている。

大会終了後、表彰式並びに来賓・参加花火師・審査員・スポンサー等が一堂に会したレセプションを開催し、交流を深めている。




## ■開催への契機・経緯

当市で毎年8月に開催されている「全国花火競技大会」は、長い伝統に培われ、大曲が全国に誇る一大イベントとして定着している。

大曲花火倶楽部は、この花火を当市のシティアイデンティティとして位置付け、「花火のまち」としてのイメージアップと地域の活性化を図ろうと、四季を通じた花火のまちづくりの一環として、花火シーズンを先取りした形で、3月にその年の新作花火を結集した競技会を開催することにした。

## ■目的・基本方針

大曲を花火の流行・情報の発信地として内外にアピールし、地域住民に花火への理解を深めてもらうとともに、次代を担う全国の若手花火師の技術の向上を図る。

## ■開催にあたって考慮している点

花火を漠然と鑑賞するばかりでなく、「色」「形」「打ち上げ方法」「種類」などさまざまな角度から見てもらうことにより、花火が「芸術」という観点から見ると、瞬間に消えてなくなるものだけに奥深さがあるということを理解してもらう。

財政的に脆弱な大会を継続していくために、大会に対する理解を深めてもらい、今後も財政的な支援を継続してもらう。

## ■波及効果

- 大曲花火倶楽部の存在を広く知ってもらった。
- 大曲は「花火のまち」であることをアピールできた。
- 花火のもつ芸術性を理解してもらった。

## ■課題・今後の展望

一民間団体が主催するにはそろそろ限界と思われるほどの観衆が集まるため、交通規制や駐車場の確保に課題が残っている。

福島県檜枝岐村　人口：646人

# 真夏の雪まつり

主催　檜枝岐村
会場　尾瀬檜枝岐温泉スキー場






## ■内　容

4月上旬にスキー場の雪を約8千㎥集め、(長さ40m幅50m高さ4m)、断熱シートや反射シートで覆い、4ヶ月間、雪が融けるのを最小限に抑える。そして、8月上旬にシートをはがし、雪を広げゲレンデを作る。

スキー・スノーボード・ソリ遊び、それぞれの専用バーンを確保し事故を未然に防ぐ。スノーボードコースにはジャンプ台を作りワンメイク大会を開催。雪上イベントでは天然のサンショウ魚のレースを行い、1着を当てる世界初のレースや子ども限定の岩魚のつかみ取り、雪上スイカ割り大会、ちびっこ相撲大会などが行われる。ステージではキャラクターショー・ハワイアンダンスショー・歌謡ショーを行い、幅広い年齢層に楽しんでもらう。飲食コーナーでは新鮮な岩魚の塩焼や普通の米で作った餅に岩魚と味噌を油で炒めたものをからめた「ばんでい餅」などの郷土料理を始め、生ビール・かき氷・焼きそば・ラーメン・牛串焼きなどがある。1日目の夜には恒例の雪上花火大会があり人気のイベントである。

## ■開催への契機・経緯

当村は、2千m級の山々に囲まれた標高約1千mの豪雪地帯である。この豊かな自然の資源「雪」を活用し、他ではできないイベントを実行しようというのが始まりである。日光国立公園「尾瀬」という知名度の高い、素晴らしい観光地を持っているが、当村は知名度が低いので珍しいイベントを開催すれば知名度も上がると思い実施したものである。

## ■目的・基本方針

当村は人口約650名の大変小さな村であり、交通の便も悪く、都市との交流が少ない。そこで、この地域に豊かに存在する資源を有効に活用し、都市との交流を通じて地域住民がこの檜枝岐で生きていくことの重要性を認識し、地域の新しいライフスタイルを育てていくことが目的である。

## ■開催にあたって考慮している点

平成13年で9回目の開催となったが、やはり重要なのは毎年継続することであり、そのためには多くの地元住民の協力が必要不可欠である。本イベントでも観光協会会員をはじめ多くの地元住民の協力を得て9回目を迎えることができた。地元住民にイベントの必要性を理解してもらい、積極的にイベントに参加協力してもらえるよう、心がけている。

## ■波及効果

約8割の人が観光関係の仕事をしており、小さな村へ与える経済効果は非常に大きく、また、都市との交流の場となり地域の活性化に役立っている。地元住民もお互い協力し、イベントを成功させることにより、さらに地元を良くしようという気持ちが強くなっている。

## ■課題・今後の展望

ステージショー・花火大会そして重機械による雪集めなど多くの経費を必要としているため、その確保及び節約が課題である。また、大掛かりなイベントでもあり、地元協力者の確保も今後の課題である。

千葉県佐倉市　人口：174,078人

# 佐倉・時代まつり

主催　佐倉・時代まつり実行委員会
会場　旧堀田邸（旧佐倉藩主邸）から旧城下町通り



## ■内　容

城下町“佐倉”の春の行事、「佐倉・時代まつり」。武者行列と大名行列による“時代行列”は、市民参加による100人の大行列が城下町を彩る。行列には、市外・県外からも多数参加し、城下町が地域交流の場にもなる。また、江戸時代、鏑木村・麻賀多神社の御神輿を新しく造るために、六崎村に譲った先代御神輿が里帰りをし、新旧の麻賀多神社御神輿が、約280年という時を超えて劇的な再会を果たした。

旧城下町の各商店では、代々伝わる家宝の展示や職人技の披露、市民創作発表などが店頭を利用して、1週間にわたる「まちかどギャラリー」を開催。その他、大砲や川越藩火縄銃鉄砲隊保存会による火縄銃の演武、千葉県鳶工業会による木遣りや梯子乗り、纏振り、路上での太鼓グループの競演、行列コースの東西2ヶ所で人力車が運行。

## ■開催への契機・経緯

往時の面影を色濃く残す旧城下町地区は、江戸時代はもとより近代に至るまで、近郷近在の中心商業地区として発展し、当市発展の土台を築いてきた。しかし、市の都市構造が大きく転換するとともに都市間競争が激しさを増し、市民の生活様式も広域化していく中で、次第にその役割が薄れ、衰退してしまった。当市の特質、それは「歴史　自然　文化」である。地方の時代、地域の時代と言われる中で、まちが持つ歴史や特色を大切にし、旧城下町というかけがえのない財産を活用しながら、地域の個性化、地域の活性化が実現できないかということで、市制施行45周年の記念の年（平成11年）に、本イベントを開催した。

名称を武者行列、大名行列等とした場合、将来にわたり内容を「江戸時代」に限定してしまうことになる。将来は、市内に歴史民俗博物館を持つメリットも最大限に活用し、各時代の装束を身に着けた、全国にも例をみない「時代まつり」を実現する可能性もある。その第一歩として現在の「時代まつり」を考え、地域経済の活性化を図るものである。

## ■目的・基本方針

人口増加が続く中で「このまちに暮らす」という意識も失われがちである。現在という時の中で、城下町という歴史を持つ当市を再発見し、ふるさと佐倉を見つめ直すとともに、多くの町家が残されている旧城下町商店街通りをアピールし、地域経済の活性化を図り、また、地域交流の場として、広く、市外・県外へ佐倉を情報発信していくものである。古くて新しいまちづくりという流れを、“時代まつり”を通じて行う。

## ■波及効果

2回目までは、市の委託事業として、地元関係団体等で組織する実行委員会が受託。これまでの地元商店街や地域の取り組み方を見ると、多くの人に「佐倉」を再発見してもらえるよう趣向を凝らし、時代まつりを盛り上げている。その点を考慮し、平成13年の3回目から地域が主体となって行う補助事業へと転換したところ、地区商店会では、小判型プレミアム付き商品券の発行や、まちかどギャラリーを開催するなど、時代行列のほかにも、来場者に堪能してもらえるよう独自の工夫をこらすなど、自らの町を自ら盛り上げようという機運が育ちつつある。

## ■課題・今後の展望

時代行列の際、交通規制が実施されるが、規制時間が短く、イベントを余裕もって行うことができない。また、イベントも一日充実した企画となるような地元の積極的な取り組みを望んでいる。

神奈川県平塚市　人口：252,578人

# 湘南ひらつか囲碁まつり

主催　平塚市、㈶平塚市文化財団、湘南ひらつか囲碁文化振興事業実行委員会
会場　中心商店街他市内会場

## ■内　容

⑴500面打ち大会…毎年、北は北海道、南は九州まで全国各地から囲碁ファンが集まり、商店街に２列に直線で約200mに並んだ碁盤に向かうこの500面打ちやトッププロの囲碁教室に参加したり、サイン会、懇親会で普段会えない棋士とのふれあいを楽しむ。和太鼓や軽音楽などの音の演出に加え、アメのつかみどりや友好都市花巻のりんごのサービス、漁師鍋の配膳もあり、囲碁を知らない多くの市民も集まり、囲碁のまち平塚のメインイベントを盛り上げる。
⑵級位認定大会…囲碁人口の拡大を狙いとした入門者級位者を対象とした囲碁大会。
⑶グループ対抗戦…市内の囲碁グループ単位の囲碁大会。
⑷トッププロ公開対局会…舞台上のトッププロの対局の大盤解説を客席で楽しむ。
⑸まちかどギャラリー「木谷實」展…まちかどの中のミニ展示。

## ■開催への契機・経緯

平塚に囲碁の木谷道場があったことから、木谷實九段と門下生の功績を讃え、記念して囲碁文化振興事業を実施、その中心行事として本イベントを開催している。

具体的には平成８年、平塚市博物館で「木谷實展」を開催、９年より囲碁文化振興事業を実施、本イベントを開催している。





本イベントの中心の500面打ち大会は、平成８年は200面、９年は250面、10年は280面と、囲碁ファンの要望に応え碁盤の数を増やし、11年より500面打ちとなった。

本イベントは、当初多面打ち大会とグループ対抗戦、トッププロ公開対局会の３本で始まったが、平成11年から級位認定大会が加わり、公開対局会の替わりにおはなしと落語を同年12月に実施し、変化を持たせている。

## ■目的・基本方針

平塚の特色ある文化として囲碁を位置付け、本イベントなどイベント事業とともに、各種囲碁入門教室を開催、囲碁人口の拡大を図り、市民の中での定着を目指す。

## ■開催にあたって考慮している点

囲碁を愛好する人は、市民の人口からすると少数であるので、囲碁を知らない人もできるだけ楽しめる行事を検討し、さらに囲碁との出会いの機会をより多くもたせて、入門教室の開催をできるだけ多く設定している。

また、幅広い層の参加を求めて実施しているが、小中学生をはじめとする子どもや女性の参加を重視し、トータル的に囲碁人口の拡大を図るようにしている。

## ■波及効果

平塚に木谷道場があった事実や、平塚の木谷道場から数多くのトッププロ棋士が誕生している事実を多くの市民が知り、それを誇りとして思うとともに、文化的な財産として後世に伝えていくべきことと認識しつつある。また、それぞれのイベントが毎回マスコミで大きく取り上げられることにより、「囲碁のまち平塚」が全国的に知られるようになり、市民の中でも「囲碁のまち平塚」が定着しつつある。

## ■課題・今後の展望

「囲碁のまち平塚」の定着とその前提となる囲碁の普及。その拠点として、木谷記念館の建設を図る。

富山県富山市　人口：321,435人

# 全日本チンドンコンクール

主催　富山市、富山商工会議所
会場　富山城址公園及びその周辺






## ■内　容

本イベントは、昭和30年の第１回から平成13年で47回を迎え、「富山の春の風物詩」として定着している。全国的にも珍しいこの行事は、全国のプロのチンドンマンが一堂に集結し、日ごろ培っている、その技とアイデアを競うコンクールである。ベテランから若手までそれぞれが趣向を凝らしたパフォーマンスを展開し、あらゆる年齢層が楽しめるアットホームな春祭りである。

金曜日夜の前夜祭で花見客に好評な「幽玄ちんどん夜桜流し」を皮切りに、桜並木をくぐる「チンドン開幕パレード」、本選の「全日本チンドンコンクール」そして富山の中心商店街を走る平和通りでの「チンドンパレード」と、桜色に溢れた富山の街をチンドンマンが笑いと感動の渦に誘う、内容盛りだくさんな３日間のイベントである。

また、寝たきり等で施設入所している高齢者などに喜んでもらえるよう、開催期間中、多くのチンドンマンに市内福祉施設へ訪問してもらっている。高齢者の昔を懐かしむ涙や、子どもたちの無邪気な笑顔が、「富山の春の風物詩」をさらに意味あるものにしている。

## ■開催への契機・経緯

当市は昭和20年８月２日の大空襲により市街地は壊滅状態となった。その後、廃墟からいち早く立ち上がり、市の復興がほぼ完成した昭和30年、当市に明るさと平和感を与えようと、「桜まつり」の目玉として富山商工会議所と当市の発案で誕生したのが、「全国チンドンコンクール」である。当初は、東京、名古屋、大阪を中心に150余名が参加し、約20万人を超す沿道の市民の熱烈歓迎を受けて笑いの渦となったと聞いている。

## ■目的・基本方針

本イベントは、「富山の春の風物詩」として歴史を重ねている。この長い歴史の中で、主役であるプロのチンドンマンの後継者育成難やテレビ、ゲーム等の普及による市民生活における余興の多様化などの流れの中で、存続が危ぶまれた時代もあったが、チンドンの業界も新しい世代が育ちつつある。今後も、ノスタルジーと共に「生」の人との触れ合いの中で生まれる新鮮な「笑い」を大切にしていきたい。

## ■波及効果

富山というと、何か「引っ込み思案な県民性」があると思われるが、この「全日本チンドンコンクール」の一イベントである「素人チンドンコンクール」への参加を目標に、「チンドンマン育成講習会」を開催したところ、市民から多数参加があり、かつ「素人チンドンコンクール」へも、富山から５チームが参加することができた。参加した市民も、講習会が始まった頃の恥ずかしさはどこへいったやら、当日は笑顔に溢れ、はしゃいでいた。「チンドン」は県民性をも変えるといったところか。

## ■課題・今後の展望

「富山の春の風物詩」として定着している現在、より県内外の観客に愛されるイベントになるよう、平成13年度は富山の美味しい味覚を敷き詰めた「ちんどんぶり入り弁当」等を販売し好評を得た。今後も「富山のチンドン」に行けばめぐり合える「人」、「味」そして「心」を提供できればと、事務局一同、次年度に向け熟考中である。

石川県七尾市　人口：47,553人

# 七尾・祭りの國フェスティバル（能登キリコフェスティバル）

主催　七尾市
会場　わくわくプラザ（石川県七尾市和倉町）

## ■内　容

⑴能登地域各地のキリコ祭りの競演
出演団体：石崎奉燈祭、祇園祭（ともに当市）、にわか祭り（能都町）、西海祭り（富来町）、珠洲市春日野キリコ（珠洲市）
⑵キリコ担ぎ体験の実施
⑶郷土芸能等のステージイベント
県指定無形民俗文化財である「七尾まだら」（当市）や「御陣乗太鼓」（輪島市）をはじめとする郷土芸能、新しいイベント「YOSA KOI」の披露
⑷観光物産展
海と山の幸の特産品の展示・販売

## ■開催への契機・経緯

観光を主要産業と位置付ける当市では、能登の自然と文化に育まれた魅力的な祭りが数多く存在しており、これらを一堂に集めたフェスティバルを開催して当市の情報発信による誘客を図るとともに、併せて市内の名所旧跡と商店街に回遊性をもたせ、海と山の幸や特産品の展示・販売をするなど地域の活性化につなげようとするものである。

## ■目的・基本方針

「渚のいで湯」の名で能登半島観光の宿泊基地として有名な和倉温泉に、七尾の伝統ある石崎奉燈祭や祇園祭と招聘した能登の祭りの競演をメインに、祭り体験コーナーや郷土芸能のステージイベントなどを行い、伝統芸能の伝承・普及と郷土愛の醸成、さらには誘客による交流人口の増加と地域活性化を図る。

## ■開催にあたって考慮している点

当市の魅力的な祭りや伝統芸能が全国認知となるよう、祭りをてことしたまちづくり・地域活性化に関する企画・立案をし、交流人口の増大を図る。併せて、能登各地の祭りや郷土芸能を一本化した事業とすることによる、全国区レベルのイベントに押し上げる効果を狙う。

## ■波及効果

渚のいで湯和倉温泉を会場に、当市の夏を代表する祭りと能登の代表的な祭りを一堂に集めた本イベントは、年々知名度が増し、２日間で３万５千人の観客が詰め掛けた。これは本イベントが新しい観光資源として定着し、マスコミや旅行エージェントによる誘客に成功したためと考えられ、交流人口の増加と地域活性化、地域文化遺産の継承につながっているものと十分な手応えを感じている。

## ■課題・今後の展望

本イベントは経済産業省より補助金の交付を受けているが、これは永年受けられるものではない。しかしながら、多大な経費と労力を要する能登各地のキリコの出演があってこそのイベントであるため、今後の予算の確保が課題となる。





石川県川北町　人口：4,962人

# 川北まつり（手取の火まつり）

主催　川北まつり実行委員会
会場　手取川簡易グランド

## ■内　容

メインイベントは音と光の祭典。夏の夜空を赤く焦がす高さ45mの「大かがり火」をバックに手取川河川敷に設けられた特設ステージにおいては、豊作の祈りを込めた町内15地区の「虫送り太鼓」の競演や先人の遺徳と御霊を慰める１千名の「送り火」、平成元年に地域おこしの一環として生まれた「手取亢龍太鼓」、そして「かがり火踊り」が次々と披露される。

さらに北陸最大規模の１万発の花火が打ち上げられる北國大花火大会がまつりのフィナーレを飾り、観衆を幻想の世界へといざなう。

この日は、全町民が一丸となってまつりに参加し、その集約されたエネルギーが県内はもとより県外からも多くの観衆を呼び、人口の50倍以上の26万人が会場及び会場周辺を埋め尽くす。現在では北陸を代表する夏の風物詩となっている。

## ■開催への契機・経緯

地域をあげてのまち独自のまつりがこれまでなかったということで、町内各種団体の有志が集まり、新たなまつりを模索し、まつり開催の機運が高まっていった。数々の議論の末、地域に古くから伝わる「虫送り」、そして、その太鼓の音色と先人の遺徳と水害の御霊を慰める「送り火」や大かがり火を主体とした本まつりが昭和61年に始まった。平成２年には、北國大花火大会が行われるようになり、年々盛大なものとなり、12年には、１万発の花火を打ち上げた。

## ■目的・基本方針

当町民の一人ひとりが、より豊かにより幸せにと願い、町民の融和と団結を図り、産業と文化の調和のとれた明るく住み良いまちづくりを目的とする。

## ■開催にあたって考慮している点

会場及び会場周辺には、26万人の観衆が集まるため、警備面及び交通渋滞対策について考慮している。警備面については、緊急時に対応するため、救急車、消防車の配置及び緊急車両の走路の確保、そして観衆を危険から回避するための係員、警備員の配置、観衆の誘導に努力している。また、交通渋滞対策として、会場周辺の交通規制の実施、警察や交通推進隊による車の誘導、駐車場の確保にも力を入れている。

さらに、まつり終了後の大量のごみへの対応にも苦慮している。平成13年度（第16回）には、ごみ箱を置かないようにし、観衆にごみ袋を配布して、ごみの持ち帰り運動に協力を求めたところ、ごみの量が例年の半分に減少した。




## ■波及効果

本まつりを開催することにより、県内、県外を問わず、当町を大々的にアピールする絶好の機会となっている。また、町民一丸となってのまつりのため、地域住民の融和や団結、地域コミュニティの活性化などに大きな成果をあげている。さらに、多くの観衆が集まるため、飲食物の販売などにより、経済的な効果も表れている。

## ■課題・今後の展望

今後も警備面や交通渋滞対策を中心とした課題に対応し、前年度の反省に立って改善を図り、後世まで続けられるように盛大にまつりを盛り上げていきたい。



石川県内灘町　人口：26,569人

# 世界の凧の祭典

主催　内灘町世界の凧の祭典実行委員会、日本の凧の会、石川テレビ放送
会場　内灘海水浴場特設会場

## ■内　容

心の豊かさが求められる今日、風と人の巧みな手さばきだけで空に舞う凧は、われわれにさわやかな感動と空に対する限りない夢とロマンを与えてくれる。

大会は、日本海を一望する白砂青松の大自然・内灘海岸を舞台に世界各国、全国各地、そして当町から多数の人びとが集い、ふれあい楽しむことを目的に開催する。





## ■開催への契機・経緯

内灘砂丘における凧揚げは、石川テレビ放送の開局20周年記念事業として平成元年５月に内灘海水浴場特設会場で、「日本海凧揚げ大会」として実施されたものをもってその端緒となす。その間、平成元年から３年まで、例年後援者としての立場をとってきた当町では、４年度から町政30周年を記念してこの大会を拡大し、石川テレビ放送や日本の凧の会とともに、主催者三者の一員として本イベントを開催するに至った。

## ■目的・基本方針

人と自然のふれあい、人と人との出会いなど、凧揚げを通して国内外の多くの人びととの交流親睦の輪を深める。

## ■開催にあたって考慮している点

大会については、各町内会、公民館の参加協力により、大会がより盛大になり、多くの町民の参加を得られている。また運営についても町内各種団体、警察等の協力により円滑に行われている。凧については地元凧の会を中心に、県外から多くの参加があり交流を深めている。

## ■波及効果

凧作り、凧揚げを通して、地域間・世代間交流並びに地域コミュニティの熟成を図ることができ、地方文化育成の一環を担うものとして大いに期待される。また、凧の祭典を行うことにより、内灘海岸の付加価値を高めることができる。

## ■課題・今後の展望

一般の人びとも凧揚げを楽しむことができるように、観るだけから参加型の大会へ移行していきたい。

福井県福井市　人口：249,756人

# 福井コスモスまつり

主催　宮ノ下花の郷づくり実行委員会
会場　宮ノ下コスモス広苑

## ■内　容

地元農家が本イベントに向け栽培してきたコスモスの数は約１億本。広いコスモス畑を貫く通路をトラクターの荷台に乗って走る花トラ車運行や、コスモスに見立てたピンクの古代米もちぜんざい販売やジャンボカボチャ目方当てクイズが催される。

## ■開催への契機・経緯

平成７年、当市江上町に市役所から、農協を通じ、コスモス栽培の話があり、協議の結果、休耕田を活用してのコスモス栽培がスタートした。

６月に種まきを行い、以後、栽培農家が一丸となり除草などの管理を徹底したところ、秋には見事にコスモスが咲き誇った。メンバーの中から、折角これほどまでになったのだから「祭り」を開いては、との意見が出て、急きょ「宮ノ下コスモスまつり」を開催、予想をはるかに越える約８千人ものが見物客が訪れ、地区民もびっくりするほどの盛況であった。以降、毎年開催するようになり、第３回からは名称を「福井コスモスまつり」に改めて現在に至っている。

## ■目的・基本方針

コスモスを中心に四季を通じて花が楽しめる、潤いと活力のある地区づくりを目指すが、基本的には、建物、電柱などはできるだけ目立たぬようにして、農村の自然と緑を大切にしながら、花の郷づくりを推進していきたいと考えている。



## ■開催にあたって考慮している点

- 世界一の焼き芋大会、幸運の花びらさがし大会、ジャンボカボチャの目方当てクイズ大会、世界の珍種コスモスコーナー等、田舎らしさと地域の特色を素材に毎年サブイベントを企画し、マンネリ化にならないよう考慮している。
- より多くの人にイベントを知ってもらうためにホームページを作成。コスモスの写真を掲載し、咲き具合が逐一分かるようにした。

## ■波及効果

- 世代間、集落、団体間の連携が密になり、地域住民の協調性と連帯意識が一層深まった。
- 見物に訪れる都会の人たちとの交流が生まれ、区民に意識の変化が見られるようになった。
- コスモスという共通の話題ができたことで、地域住民の親睦が深まった。



- 本イベントに合わせた野菜栽培等の情報交換を通し、地区内、特に婦人層の交流が深まり、農産品の生産グループも生まれて、地域の活性化につながっている。
- 本イベントが全国的に有名になったことで、子どもたちをはじめ地区民が誇りと郷土愛を持てるようになった。

## ■課題・今後の展望

コスモス栽培を始めてから７年。発足当初のメンバーも50歳から60歳代がほとんどとなっている。今後は後継者の育成を進めながら、地域に合った特産品の開発と行政に頼らない運営資金の捻出方法を模索し、どこにも負けないコスモスの花づくりに全力で取り組んでいきたい。

静岡県長泉町　人口：36,073人

# 長泉わくわく祭り

主催　長泉町、長泉わくわく祭り実行委員会
会場　大いちょう通り、長泉中央通り、コミュニティながいずみ（JR御殿場線　下土狩駅前）

## 内　容

JR御殿場線下土狩駅前の大いちょう通り、長泉中央通りを会場に、本イベントオリジナルのテーマソング「ポケットに勇気を」に合わせて、踊り歩く祭りである。踊りについてもオリジナルのもので、踊り部門、パフォーマンス部門に分かれ、各連（チーム）が「わくわく大賞」を目指す。参加は、10名以上であれば、誰でもできる。平成13年度は5回目となり、55連約2,300名が一斉に踊り歩いた。

また、台車部門もあり、各連色いろに装飾し、見る人の目を楽しませている。その他に子ども向けのコーナー「わくわくキッズランド」では、キャラクターショー、遊具、子ども向け出店、飲食店などがある。

当町では、これまで地域住民が1つになって盛り上がれるような大きな祭り、イベントがなかった。そこで、これまでのイベント等に関わっていた地域住民や職員有志等を募って、当町を象徴するような住民参加型の祭りの創造を検討する「長泉にぎわい創造会議」を設置し、イベント企画の研修や全国の祭り等の情報を収集しながら、2ヵ年にわたっての検討をしてきた。これまで、町行事への参加が少ない若い住民層にも支持される内容に主眼を置いた。





## 目的・基本方針

- 誰もが参加したくなるような雰囲気、仕掛け。
- 当町を象徴するような盛り上がりの創出。
- 町内企業とそこで働く従業員を巻き込む。
- 地名、旧跡にとらわれず、長く陳腐化しない曲、歌詞。

## 開催にあたって考慮している点

- 参加者が子どもや女性層に特化しないよう、広く参加を呼びかけている。
- 踊りだけでなく、幅広い層に参加意欲が湧くような、また、観ている人にとっても、おもしろくなるような賞の設定。
- 会場で撮影した写真によるコンテストを開催し、イベント後にも地域住民の間で盛り上がる話題づくり。
- 会場周辺の交通対策（きめこまかな案内看板の設置、代替駐車場の確保）。
- 賞金や賞品には税金を使わず、企業からの寄付で賄い、町レベルのイベントとしては、多めの額を確保している。

## 波及効果

- 他市町からの参加や見学者が増え、当町の元気度がアピールできている。
- 祭りの後の反省会などにより、町内の飲食店が活気づいている。
- 各種団体が、その存在をアピールする機会となっている。
- 中学生、高校生がクラブやクラス単位で参加があるなど、これまでまちづくり活動において参加の薄かった層にも町に対する関心が広がっている。

## 課題・今後の方針

- 参加者は増加しているが、会場が道路のため限界がある。
- 飲食店の数が少ないとの意見があるが、出店者との調整が難しい。
- 当初、将来的には民間主導型のイベントを目指して始めたが、今後どのように、民間へ移行していくかが課題である。

愛知県西春町　人口：33,006人

# 平盆まつり

主催　平盆まつり実行委員会
会場　西春町文化勤労会館周辺





## ■内　容

平和事業と盆踊りを合体させたイベントである。

(1)プレ・ステージ―アマチュアバンドの演奏12バンドの参加（内８バンドは雨天中止）

(2)平和事業

①平和風船

- 昨年の平和風船メッセージを受け取った人、メッセージを書いた児童、広島の平和の灯の採火に協力した人、平和活動をしている桜丘高校の先生との親睦を深める平和親睦会。
- 平和のメッセージを書いた風船１千個を飛ばす。

②平和の火点火リレー

- 平成５年に広島から運ばれた「平和の火」から、来場者のリレーで会場に設置した火台に点火する。子供会と児童館で作成した105個の灯籠にも点火する。

(3)オープニングステージ―中学校や地域の人の太鼓演奏。

(4)平和横丁―グループ、各種団体等による48店の模擬店（プロの参加なし）。

(5)盆踊り―各踊り関係のクラブの協力により、盆踊りを先導していく。

(6)小型打上花火―乱玉・小型煙火（９箱）。

## ■開催への契機・経緯

以前は商工会が主催で盆踊りだけを行っていたが、商工会だけでは実施出来なくなり、町が主催で行うようになった。毎年お盆の直近の土日にイベントを行っていたため、平和事業も組み入れたイベントとした。

## ■目的・基本方針

当町民の触れ合いと融和を図るとともに、平和への町民の関心を高め、住民の創意工夫、自主性を高めることを目的とする。

すべて町民の手による手づくりのイベントで、全体の企画運営は、住民から集められた「平盆まつり実行委員会」が行う、まさに町民全体でつくりあげる「手づくりの夏まつり」である。

## ■開催にあたって考慮している点

- 多くの人が来場するように、新聞・広報誌・広報板等で周知している。
- 駐車場が数少ないため、回りの施設の駐車場を借用している。路上駐車で交通渋滞をまねかないように、交差点や交通量の多い路線にはカラーコーンやトラサクで防御している。

## ■波及効果

- 平和風船で町内はもちろん町外の人にも平和を訴えることができた。
- 本イベントに出店者として参加する団体が年々増えている。

## ■課題・今後の方針

本イベントも平成13年度で第６回を数え、マンネリ化という声もあがっている。マンネリ化を防ぐため、新たな企画を考えなくてはならない時期にきている。14年度の開催に向けて新たな企画を考案中である。

和歌山県すさみ町　人口：5,918人

# イノブタダービー（イノブータン王国建国祭）

主催　イノブタダービー実行委員会
会場　和歌山県すさみ町、すたみ海水浴場





## ■内　容

「イノブタダービー」とは、1周100mの特設競豚場にて、生後3ケ月のイノブタ（猪と豚のハーフ）を出走豚に仕立てての珍レースであり、6頭のイノブタたちは、障害物を乗り越えて一目散（？）にゴールを目指す。

レースは競馬と同じ要領で、連勝複式の「豚券（トンけん）」を発行し、意外性と娯楽性にあふれたレースを楽しんでもらうものである。

「豚券」は同じ会場で開催の「なんでも朝市」で500円以上購入するか、前日に観光協会加盟宿泊施設に宿泊した場合にプレゼントし、賞品はイノブタグッズと特産の梅加工品である。平成12年度よりネットによる投票「ネット・イノブタダービー」も実施している。

「イノブタダービー」の他にも、「何でも朝市」、魚のつかみ取り、潮干狩り、イノブタうどん早食い競争、クルーザーによる遊覧、イノブータン王国建国式典＆パレードなど、盛り沢山のイベントとなっている。

## ■開催への契機・経緯

本イベントは、過疎化が進み、あまり明るい話題のなかった町に、何か活力を与えようとの考えから、昭和56年5月、町商工会青年部の手により始められた。当初から町の特産品「イノブタ」をテーマに、ということは決まっていたが、具体策では、イノブタサーカス、イノブタ水泳大会などさまざまな意見が続出し、最終的に参加者へのアピール度が高いということから、「イノブタダービー」となった。

## ■目的・基本方針

当町が発祥の地である特産品イノブタを利用して、「遊び心」を基本テーマに、町の知名度アップや特産品の販売促進、さらには訪れた観光客に遊びの場を提供しようとの目的で企画されたものである。

## ■開催にあたって考慮している点

地域に根ざしたテーマを持ち、独自性があり、家族で気軽に参加できるイベントを目指している。PR面では、報道機関へのニュースリリースの配布等、パブリシティの活用を徹底的に行っている。

また、当初は商工会青年部単独での実施だったが、今では町内各種団体の協力を得て実行委員会を組織するなど、全町的な協力体制を心がけている。

## ■波及効果

「遊び」というとともすると否定されがちだが、遊びは“ゆとり”であり、この“ゆとり”があってこそ楽しい発想も生まれるのではないかと考えている。

経済的な成果を活性化とみる考え方を否定するものではないし、実際、町の知名度アップによる観光客の増加等の経済効果もあるが、住民の地域に対する誇り、愛着心や「やる気」醸成の一助になったことのほうが大きい。

## ■課題・今後の展望

本イベントや県畜産試験場見学を除けば、イノブタとふれあえる機会はそう多くなく、イベント開催時以外でもイノブタとふれあえる場づくりが必要となっている。

徳島県勝浦町　人口：6,921人

# ビッグひな祭り

主催　ビッグひな祭り実行委員会、阿波勝浦井戸端塾
会場　勝浦町勤労福祉センター

## ■内　容

家庭で飾らなくなった雛人形を全国から集めて、本イベントを毎年開催している。平成13年で13回継続している。会場中央に高さ５mのピラミッド型ひな壇、周囲に７段飾りを設営し、雛人形１万５千体を華麗に飾るもので、これらの雛人形は、祭り終了後、ひな大使として、また、里親制度によって国内外に移出して、日本人形文化の普及と保存、親善交流に努めている。

関連イベントとして、千葉県勝浦市や愛知県足助町など友好関係を結んでいる市町へ雛人形を数千体送り、ビッグひな祭りを同時開催したり、徳島城博物館へ古代びなを展示したりしている。人形浄瑠璃勝浦座の公演も同会場で期間内に行う等、伝承文化の発展にも寄与している。ひな市も開いて、地域産品の流通にも一役買い、人と物と情報の交流に努めている。

## ■開催への契機・経緯

阿波勝浦井戸端塾を結成して初めて取り組んだのが、本イベントである。当町で昭和初期から各家庭に多く見られる御殿びなに着目し、ちえ袋の会が手がけたひな祭りを３年目に引継ぎ、町内外、さらに全国に発信して、名実ともに日本一といわれるビッグひな祭りに成長させた。

文化性を底流に持ち、文化資源交流、雛人形再活用に役立ち、社会のニーズに応える本イベントの意義は大きく、これを基盤として、さらに知名度を上げ、地場産業の更なる発展、勝浦八景等地域景観の再発見にもつなげていきたい。

## ■目的・基本方針

「グローバル勝浦」を標榜し、当町の知名度を高めよう、全世界に売り出していこうと、地域の活性化活動を多彩に展開することを基本方針とする。この方針を達成するため、当町の再発見、再構築、再発進を目的とする。





## ■開催にあたって考慮している点

１.安全性：絶対安全に留意。飾り段設営、駐車場へのガードマン配置誘導等。２.効率：準備始末の期間、人形保管、里親制度の運用。３.工夫：ひな飾りを華麗に、飾り段、配列、配置。４.文化性：イベントの必須要件、展示関係資料の検討。５.目玉づくり：毎回開催の目玉（テーマ作り）の配慮、継続条件。６.交流：国内外来場者との交流、ボランティア人口の増加。７.経済効果：イベント開催と地域の経済効果に配慮関心。

## ■波及効果

１.開催期間中（毎年２月下旬～３月中旬の15日間）に３万５千人（町人口の５倍）の来場者があり、人と物と情報の交流に役立っている。２.町内外にボランティアの意識が浸透して、雛人形展示や片付けに参加する人が増している。３.町の特産品のPR、販売力が増大し、経済効果があがってきた。４.イベント開催毎に本イベントの主催団体である阿波勝浦井戸端塾の団結が強固になり、NPO認証への気運が高まってきた。

## ■課題・今後の展望

雛人形の常設館を建設し、人形浄瑠璃勝浦座の農村舞台を併設して、定期的公開、資料の展示、修復・保存を行う。また、道の駅、日曜市等との相乗効果を狙う。

愛媛県新居浜市　人口：128,337人

# 全国お手玉遊び大会

主催　日本のお手玉の会・全国お手玉遊び大会実行委員会
会場　リーガロイヤルホテル新居浜



## ■内　容

お手玉の技を競う競技大会である。「小学生の部」と「一般の部」に分れており、個人戦では片手２個ゆり、両手３個ゆり等の種目別に、失敗しない時間の長さを競う。また、団体戦では１チーム５名で、それぞれの担当種目で対戦する。

競技の他にもお手玉技量認定審査やお手玉教室が開催され、「お手玉ミニ博物館」として世界と日本の珍しいお手玉が展示される。また、アトラクションとしてお手玉歌、わらべうたの合唱や肥後ちょんがけごまの名人芸が披露される。

## ■開催への契機・経緯

不況で沈滞していた当市を市民の手で活性化しようと、昭和60年に組織された「新居浜アメニティ倶楽部」が、活動の一つである「お手玉の普及活動」として、本イベントを市内23のボランティア団体の協力を得てスタートさせた。この大会を継続して開催し、日常的にもお手玉の普及活動を続けようと、平成４年９月に日本のお手玉の会が発足し、第１回大会が開催された。



## ■目的・基本方針

大会への参加者は、５歳から80歳を超えるおばあさんまで幅広い。お手玉遊びが持つ大きな魅力であるこのような世代交流と地域交流・国際交流が大きな目的である。また、教育、福祉の面からも、伝承文化の理解だけでなく、世代交流、地域交流の教育的効果という点で期待される。

## ■開催にあたって考慮している点

これまで日本のお手玉の会とボランティア団体による実行委員会で企画運営してきた。今後もこの市民による開催のスタイルを続けていきたい。お手玉の技が上達することも大切ではあるが、それ以上に、世代間、地域間の笑顔の交流を重視する企画を大切にしていく。また、教育、福祉の面での効果をあげるよう配慮する。

この10年間、日本のお手玉の会の本部のある当市で大会を開催してきたが、第11回大会から、全国各地での持ち回り開催とし、お手玉遊びの普及のさらなる飛躍を期す。

## ■波及効果

大会で知り合った遠隔地のお年寄りに、地元の女子中学生が手紙を出すようになるなど、世代交流が促進された。地元の市民が大会を企画運営し、遠来の来訪者と交流することにより、汗を流したことが喜ばれ感動し、感謝する喜びを感じることができるようになった。県外からの参加者が増え、大会会場での地元物産の販売も大きな成果をあげるようになり、まちの活性化に少なからず貢献している。当然「お手玉のまち」として、全国はもとより海外にも知られるようになってきた。

## ■課題・今後の展望

大会の運営資金は、市民と地元の企業、団体の協賛に頼っている。これからは事業化の視点も取り入れ、日常的な活動で資金を確保することが大きな課題である。

活動を開始して10年になる。スタート当初に情熱を燃やして取り組んできた仲間は、それぞれ10歳年を取った。若い協力者も出てきているが、当初のメンバーに較べれば情熱に差がある。若い世代の育成が急がれる。

高知県高知市　人口：325,320人

# よさこい全国大会

主催　よさこい祭振興会
会場　高知市追手筋競演場、帯屋町商店街、中央公園

## ■内　容

よさこい鳴子踊りは、近年全国に広がり発展している。全国各地の「よさこい」は地域に根付き愛されていく文化となり、まちづくり・地域おこしの担い手となってきている。この広がりの中で「よさこい」を通じて全国各地との交流の輪を広げ、ネットワークづくりを進めている。

毎年８月９日～12日に開催されるよさこい祭りのフィナーレを飾る本イベントは“交流と情報発信”を目的として始まった。

平成13年には全国から154チーム、約１万７千人が参加、よさこい祭り本番での受賞チームと競演した。

## ■開催への契機・経緯

よさこい鳴子踊りは全国に波及しており、全国の「よさこい人」がよさこい鳴子踊り発祥の地である高知に集まり、よさこいを通して“交流と情報発信”できる場をつくることを目的に始まった。

## ■目的・基本方針

全国のよさこい人との交流と、高知からの情報発信を目的とする。老若男女を問わず、よさこい鳴子踊りを好きな人が集い、踊りを披露してもらう。

## ■開催にあたって考慮している点

よさこい鳴子踊りは、近年全国へ広がり発展してきた。その中で、平成11年に初めて本イベントを開催し、全国各地の「よさこい人」との交流を深めることができた。この広がりの中で「よさこい」を通じて、さらに全国各地との交流の輪を広げ、ネットワークづくりを進めている。

また、よさこい鳴子踊りの発祥地である高知において、高知らしさをアピールし、全国へよさこい文化を積極的に発信する。

## ■波及効果

平成13年は日程的に日曜日ということもあり、例年にない観客動員となった。また、これに伴う全国のよさこい人の交流・友好関係の拡大が図られた。





大分県緒方町　人口：6,886人

# 小松明(こだい)火祭り～真夏の夜の感動物語～

主催　緒方町、小松明火祭り実行委員会
会場　緒方平野一帯

## ■内　容

毎年８月、小松明（こだい）という竹の棒の先に松明をつけたものを道路や田んぼの畦に一間おきに立てて行き、夜になると花火を合図に緒方平野一帯で点火をする。この行事は、江戸時代の頃、先祖の供養や虫除けのために始まったものである。点火の合図とともに緒方平野は約１万３千本の松明の幻想的な炎に包まれ、満天の星空の下、ゆらゆらと炎がゆれるその様は、多くの人びとを魅了している。近年は、これに合わせ炎の「造形コンテスト」を実施したことにより、城跡や水車など、緒方の景観にあわせた造形美がいっそう雰囲気を盛り立てている。また、道の駅「原尻の滝」では、滝や水車のライトアップ、オカリナやシンセサイザーによる音の競演により、静から動への演出で祭りを盛り立てている。



## ■開催への契機・経緯

江戸時代から始まったこの行事は、町民の一軒一軒が協力し続いてきた伝統的なものである。これに近年では観光施設でもある道の駅「原尻の滝」などの観光資源を合わせ、イベント内容の充実を図る。

## ■目的・基本方針

幻想的で厳かなイメージのもと、人びとの心を魅了してくれる本イベントを一度でいいから見に来て欲しい。きっと心を打つ何かを感じることができる…、この考えを中心にイベントの追加検討を行う。

## ■開催にあたって考慮している点

住民の一軒一軒が参加するため、年々戸数が減っているのをどうカバーしていくのかが大変だが、地元の各グループが積極的に参加協力をしてくれている。伝統的な小松明だけでなく、炎の造形コンテストや道の駅「原尻の滝」でライトアップをし、コンサートを開くなど、緒方の観光資源と組み合わせた演出を毎年検討している。

## ■波及効果

「緒方町」というイメージの植付け、人びとの心の中にふるさと緒方を懐かしく思い出させ、また帰ってくるという気持ちにさせる。リピーターを含め年々観光客が増えている。地域のグループがまちおこしの中心となって参加協力してくれる活動気運の盛り上りができた。

## ■課題・今後の展望

参加戸数（人口）の減少。炎の造形コンテストへの一般公募による参加をもう少し増やしたい。伝統的なものであることから、継続が力となって今後も自然で当たり前のように続いていくことであろう。

沖縄県那覇市　人口：301,254人

# 那覇大綱挽

主催　那覇大綱挽保存会
会場　国際通り、国道58号線（久茂地交差点）

## ■内　容

毎年体育の日の前日に実施される。370年余の歴史をもつ大綱は長さ186m、直径1.5m、重さ40.1tもあり、当市を東西に分け、ドラや鉦、太鼓が鳴り響く中、数万の群衆がひしめき波うち、綱を挽きあう様子はまさに圧巻である。

## ■開催への契機・経緯

本イベントは370年の余の歴史と伝統を有し、琉球王朝時代の国事の慶賀事業として執り行われた。昭和10年以降中断を余儀なくしていたが、復活を望む多くの市民・県民の熱意によって、昭和46年10月10日、当市制施行50周年を記念して復活した。

## ■目的・基本方針

1628年に始まり、古い歴史文化と誇り高い伝統を有する本イベントを実施する事により、市民安寧の高揚、市民相互の融和、並びに観光産業の振興を図り、併せて文化遺産を保護育成することを目的とする。

## ■開催にあたって考慮している点

本イベントは、交通量の多い国道58号線を規制して実施している。当該国道は、当市のみならず沖縄県の幹線道路となっており、交通規制に約4時間をかけて実施するため、それに伴う周辺道路の規制についてもバス会社への協力依頼のほか、一般ドライバーへの交通規制の徹底を図る必要がある。

また、綱の挽き手と観客が当該国道に集中し、歩道にも観客があふれる状態になるため、雑踏警備を強化する必要がある。

## ■波及効果

本イベントは戦中戦後の一時期は諸般の事情により中断していたが、昭和46年の当市制施行50周年を記念して開催されて以来、平成13年で第31回を数える。

このような伝統行事を継承し発展を図ることは大切なことで、これを広く国内外に発信することが、観光振興として貢献できるものと考えている。

波及効果としての正確な数字の把握は難しいところであるが、沖縄の秋の祭りとして、今後観光誘客を図ることができるものと考えている。

## ■課題・今後の展望

課題としては、大綱挽の会場を国道58号線から別の場所へ変更できないか検討すること。国道58号線の交通規制は現在の4時間以上は困難である。大綱挽の余韻をもう少し楽しむためには交通規制の緩やかな場所が必要である。





# 部門別 [2] スポーツ

北海道東藻琴村　人口：2,875人

# ノンキーランドふるさとまつり

主催　ノンキーランドふるさとまつり実行委員会
会場　緑とチーズの里ふれあいパーク

## ■内　容

本イベントでは、牛が食べる牧草を使った「ロール転がしどってん酷ロール北海道大会」を開催している。牧草ロール（男性800kg、女性500kg）を片道40mのコースを往復押してタイムを競う。コースの途中に高さ91cmの障害があり、会場内は熱気に包まれる。

## ■開催への契機・経緯

村おこしとして余剰牛乳の活用によるナチュラルチーズの研究開発を始め、北海道の一村一品として、村自慢の一品に成長した。昭和55年以来「地域に根ざした伝統行事として」本イベントを開催している。

「チーズのふるさとノンキーランドに相応しいビッグなイベント」として、広大な草地に横たわる無数の牧草ロールを使った「ロール転がしどってん酷」が創られ、全道各地からの参加者と地域の協力の輪が広がり、参加者と応援者が一体となってもり上がりを見せている。

## ■目的・基本方針

体力と気力とチームワークを一つにして互いの力と技を競い合い、応援に集まった観衆と一体となったまつりの原点を求める。

## ■開催にあたって考慮している点

ロール転がしに使用するロールは、1個1個手作りのため、同一ではないので作成に苦慮している。

## ■波及効果

- 地域連帯意識の高揚。
- 全道各地から参加者が集まり、村のPRとなった。

## ■課題・今後の展望

本イベントの継続及び財源確保が課題となっている。





茨城県土浦市　人口：134,494人

# かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会

主催　かすみがうらマラソン大会実行委員会
会場　川口運動公園陸上競技場







## ■内　容

障害者と一般ランナーの隔たりをなくし、視覚障害者とともに同じコースを走ることにより、純粋にスポーツに取り組む人たちの交流の場として開催している。

## ■開催への契機・経緯

平成２年、当市制施行50周年を記念し、従来からの10マイルにフルマラソンを加えてグレードアップし、「甦れ、霞ヶ浦　水はスポーツの源」をメインテーマに環境問題を取り上げ、第１回大会を開催した。回を重ねるにつれて参加者も多くなり、第５回の記念大会に新たな企画で福祉面を大きく取り上げ、全国盲人マラソン大会をかすみがうらマラソンと同時開催した。このようなことから、日本盲人マラソン協会と共催し、第12回世界盲人マラソン大会を平成８年４月21日、かすみがうらマラソンと「体験する福祉」「ノーマライゼーションの実践」をテーマに開催した。

## ■目的・基本方針

ボランティアに対する理解を深め、ボランティアの参加が促進される環境を作ると共に、ネットワークの拡大や推進を目的とする。

## ■開催にあたって考慮している点

地域住民に本大会の企画趣旨をできるだけ理解してもらって協力を依頼する、また、選手の参加料の一部を霞ヶ浦水質浄化運動や盲導犬育成事業に使用するなどして、住民、参加者の意識啓蒙を少しでも図ることに努める。

## ■波及効果

盲人選手の伴走者、救護ボランティアランナーと参加者自ら行うボランティアや地元住民等による積極的なボランティアが行われており、多くのボランティアにより開催される大会になった。

## ■課題・今後の展望

交通規制やその他、協力団体とのさらなる調整、また常に新しい企画等を考えていかねばならない。

群馬県安中市、松井田町　　人口：66,453人

# 安政遠足侍マラソン

主催　安政遠足保存会、安中市、松井田町
会場　安中市文化センター（前夜祭）　安中市文化センター～碓氷峠の熊野権現（マラソンコース）






## ■内　容

安政２年（1855年）、第15代安中藩主板倉勝明は、心身の鍛錬のため安中城門から碓氷峠の熊野権現までの約28kmを徒歩競争させた。これが日本における最初のマラソンである。そして、この故事を現代に復活させたものが「安政遠足（侍マラソン）」であり、毎年５月の第２日曜日に開催されている。五月晴れの下、参加者は当時を偲ぶ武者姿や股旅姿などさまざまないでたちで走り、またそれを見ようと、かつての中山道の安中原市杉並木には大勢の人が押し寄せる。

また、前夜祭が安中市文化センターにおいて行われ、小中学生によるミニ遠足や仮装コンテストのほか、コンサートや売店もあり、賑わいを見せる。

## ■開催への契機・経緯

当市には江戸時代末、当時の安中藩主板倉勝明が藩士の心身鍛錬のため、安中城門から碓氷峠の熊野権現までを徒歩競争させたという記録が残されており、この安政遠足は日本におけるマラソンの始まりと言える。このような他に誇れる歴史をもとに、マラソン発祥の地として当市をPRするとともに、地域の活性化を図ろうと毎年安政遠足にちなんだイベントを行うこととなった。

## ■目的・基本方針

マラソンというスポーツを通して、地域間・世代間の交流を図る。また史実を題材としたイベントであるため、当市の歴史・文化に対する理解を深めてもらうことを目的とする。

## ■開催にあたって考慮している点

赤穂47義士に関連して歴史的にゆかりのある新潟県新発田市、福島県いわき市からもイベントに参加してもらい（平成６年度～）、交流を深めている。

## ■波及効果

県外からの参加者や、周辺地域からの観客数が年々増え、市の知名度が上がった。当市内に所在する企業など、さまざまな団体からの参加も定着し、地域に一体感が生まれた。

## ■課題・今後の展望

参加者・参加団体数の維持・増加に努める。当市では安中榛名駅周辺住宅の造成等に伴い、今後転入者の増加が見込まれるが、新しく転入してきた住民と従来からの住民との一つの交流の場となることが望まれる。

福井県美浜町　人口：11,947人

# 美浜町民レガッタ

主催　美浜町、美浜町教育委員会、美浜町体育協会
会場　福井県立久々子湖漕艇場

## ■内　容

本イベントは、三方五湖の１つ久々子湖で開催され、毎年町内各集落、各職場から100クルー（１クルー５人）を超える参加があり、当町の秋の一大スポーツイベントとして定着している。

競技は、ナックルフォアという艇に、舵を取るコックス１人と漕ぎ手４人の計５人が乗り込み、500mのコースで勝敗を争う。

競技種目は、漕手４名の合計年齢によって「ガッツマンの部」「シニアの部」「レディーの部」など６種目に分かれており、老若男女を問わず、誰でも気軽に参加できるようになっている。

優勝クルーは、全国市町村交流レガッタに出場できるとあって、大会２ヵ月前から各クルーとも早朝練習などに励み、大会では迫力あるレース、ユニークなクルー名やカラフルなユニフォーム、熱のこもった応援風景を見ることができる。

## ■開催への契機・経緯

当町は、昭和43年の福井国体においてボート競技が開催された。これを契機に、地元の高校ではボート部が創設され、国体、インターハイに出場するなど、そのレベルは全国的なものとなった。

しかし、ボート競技はマイナーな競技であることから、町民にボートに親しんでもらい（底辺の拡大）、ボート競技により地域住民の連帯意識を深めてもらいたいとの思いから、昭和63年に第１回目を開催することとなった。



## ■目的・基本方針

本イベントは、誰にでも参加できるボート競技の底辺拡大を図り、町民が相集い、交流を深めながら水に親しむ場を設けることを目的としている。

## ■開催にあたって考慮している点

町職員だけで企画運営をするのではなく、各種団体、ボランティアを取り込んで地域全体のイベントとして取り組み、継続イベントでありがちなマンネリ化の解消に努めている。

## ■波及効果

イベント開催により、スポーツ振興と町民の健康づくり、コミュニケーションの育成が図られ、全国市町村交流レガッタの第１回大会を当町で開催するなど、「ボートの町美浜」として全国で脚光を浴びるようになった。



## ■課題・今後の展望

ボートを町の町技として位置付けているため、今後とも町民の協力を得ながら、ボート人口の底辺拡大と地域住民の連帯意識の向上を目的に、積極的に開催していきたい。

長野県小海町　人口：6,182人

# 氷上トライアスロン小海大会

主催　氷上トライアスロン小海大会実行委員会
会場　小海リエックススキバレー　松原湖高原スケートセンター及び周辺道路






## ■内　容

ウィンタースポーツの主役とも言えるスキー、スケートにランニングを組み合わせたトライアスロン競技大会。一年のうちでも一番寒い時期に行うこの大会は、スタート時、マイナス15度。極寒とも言えるこのコンディションの中、スキー３km、ランニング16km、スケート10kmに挑む選手にはかなりの体力と忍耐力が要求される。しかし選手はスタッフの暖かい応援とゴールに用意されている熱いトン汁の味が忘れられなくて毎年参加する選手も多数いる。この組み合わせのトライアスロン大会は、日本では唯一小海だけで行われていて、ファンも多い。

## ■開催への契機・経緯

昭和62年頃、当町にはこれと言った大きなイベントもなく、若者たちが一つの目標に向かって結集するという機会がなかった。町の活性化には、若い人たちの力が必要ということで、若者の団結力を促す手段としてイベント開催の道を選んだ。ちょうどこの頃、スキー場の開発も進んでおり、スケートのメッカとして一世を風靡した松原湖の歴史もあったことから、スキーとスケートを組み合わせたトライアスロンをやったらどうかということで、開催することになった。

## ■目的・基本方針

イベントを計画実行していくプロセスの中で、それに係るスタッフの連携と成し遂げたことの充実感を味わってもらうことを一番の目的とした。また、結果として、参加者との交流、町のイメージアップ等の効果も期待している。

## ■開催にあたって考慮している点

大会当日は、300名ほどのスタッフが必要となるため、町内の企業、団体を始め、多くの町民に理解を求めている。今では小海の冬の風物詩として定着してきている。また、長く継続させるためには実行委員会がマンネリ化しないように、毎年役割分担を変えたり、新人の加入を積極的にすすめている。本イベントの参加者たちが開催するイベントに、当町からも参加する等で、他地域との交流を行っている。

## ■波及効果

当初目的としていた若い人たちの交流により、このイベントのみならず、他のイベントも積極的に企画・実行されるようになった。それにより参加者も本イベントだけでなく、他の大会にも参加してくれるようになり、年に数回、小海を訪れてくれるようになった。また、運営に携る町民のボランティア意識の向上にもつながっている。

## ■課題・今後の展望

一番の課題は長引く不況の影響で協賛金が集まらなくなってきており、運営費の確保が難しくなってきていることである。今後の展望として、夏のトライアスロンがシドニーオリンピックで正式種目になったので、その冬版が正式種目として採用されればおもしろい展開になるのではないかと思う。

滋賀県愛東町　人口：5,679人

# 全日本あいとう4時間耐久三輪車レース

主催　愛東町青年団
会場　愛東町役場駐車場特設サーキット

## ■内　容

車両の規格は、車輪の大きさは30cm以内、前後輪の幅が25cm以上50cm以下、ホイルベース60cm以内とし、変速機がついていないもので、改造部門は、子ども用三輪車をハンドルの交換と各部の補強の改造ができるもの。ノーマル部門は、市販車両のままを使用。

ライダー２人とメカニック１人でチーム編成し、午前中に、コース１周を２人のライダーが１周ずつ走るタイムレースの予選。決勝レースは、改造28チーム、ノーマル５チームが、スタート合図と同時に車両に駆け寄って乗り込むルマン方式である。ライダーは、「根性」「青春」を燃料に、一周約250mの特設サーキットを４時間２人が交代して走り続ける。時間の経過と共にライダーは疲労でへとへとになり、また車両のトラブルが発生すれば、メカニックは必死で修繕し、交代したライダーの疲労回復にマッサージをするなど、チームワークが完走の必須条件である。

午後４時から始まるレースは、午後８時には真っ暗で、ライダー、メカニック、主催スタッフ、観客が一体となり、感動のドラマは終わる。優勝チームは、約200周、50kmを走行していることになる。

## ■開催への契機・経緯

当町青年団は昭和38年に発足して以来、町の青年活動の中心的存在として地域に根ざした活動を展開してきた。しかし、参加する青年の意識





が時代と共に多様化し、組織離れを招き活動の弱体化が進んできた。そうした状況を打破するため、紆余曲折の末、青年自らが楽しみながら自分の意志で活動する組織へと変化していった。

そして昭和60年クリーンキャンペーンとして空き缶を回収し、その売上金でスターを呼ぶという企画を立て活動が展開された。この企画は多くの青年の心をとらえ、大成功を収める。昭和62年、次の看板イベントを模索していた当時の青年の発想で「４時間耐久三輪車レース」が生み出され、そのユニークな発想と青年の情熱が県内外の青年に波及していった。

## ■目的・基本方針

企画から準備・運営まで全て行う中で、仲間づくりや、最後までやり抜く持続力、全国を対象とした広い視点で行動できるチャレンジ精神を養う。また、参加者は正しい規則を守り、互いをいたわりあって、最後までやり抜くチャレンジ精神を培うもので、汗と歓声の４時間は、感動のドラマを生み出そうとするものである。

## ■開催にあたって考慮している点

特設サーキットのコースを、スポンサーの掲示看板などを活用しコース設定しているが、毎年変更することで変化を持たせている。また、スポンサーへの依頼、開催案内（新聞・ラジオ放送）の依頼など青年団員が自ら行うようにしている。

## ■波及効果

人口５千人余りの当町の青年が主催したイベントで、NHKや民放各社の放映によって全国放送され、各地からの参加によって交流が広がり、青年の意識が向上し活性化につながった。このことによって、地域では青年団活動の評価が向上した。

## ■課題・今後の展望

活動の中心的役割を担っているのは25歳の青年たちである。彼らの多くは中学生から三輪車レースに関わってきたが、進学、就職と県外へ転出する者が増え、また、青年個々の意識の多様化により今までのように人が集まらなくなってきた。次の世代がなかなか無く、次年度以降のイベントの開催が危ぶまれている。

和歌山県新宮市　人口：33,259人

# 二県交流綱引き大会

主催　二県交流綱引き大会実行委員会
会場　熊野大橋及び熊野川河川敷（和歌山県側）

## ■内　容

⑴二県交流綱引きの部
（会場：熊野大橋橋上）
全長250m、太さ6cm、重さ450kgの大綱を使い、子供の部（小学4年生から中学3年生の男女）、女性の部（高校生以上の女性）、男性の部（高校生以上の男性）の3部門において、和歌山・三重両県から各部門に各200人（合計1,200人）が参加し、大綱引きを実施。

⑵トーナメント綱引きの部
（会場：熊野川河川敷）
小学生の部（19チーム）、中学生の部（26チーム）、一般の部（35チーム）の3部門において、1チーム8人制のトーナメント綱引き競技を実施。

⑶その他
熊野川河川敷において、地元3団体による太鼓のステージをアトラクションとして実施すると共に、物産展及びフリーマーケットを実施。

## ■開催への契機・経緯

本イベントは、三重県紀宝町商工会青年部が発案し、賛同する団体で組織した実行委員会で企画され、平成11年に、和歌山県で「南紀熊野体験博」、三重県で「東紀州体験フェスタ」という大規模イベントが開催された際、地域イベントとして実施されたものである。その際、参加選手や地域住民から大きな反響を得て、12年以降も地域住民のより一層の交流と親睦を深めるため、3市町村（当市と三重県紀宝町・鵜殿村）の商工会議所及び商工会の青年部が中心となって開催を継続している。

## ■目的・基本方針

和歌山・三重両県の県境になっている熊野大橋（熊野川）上での「大綱引き」を通して、両県並びに地域住民のより一層の交流と親睦を促進し、かつ広く内外に情報発信することにより、県境を越えた同一生活文化圏としての地域活性化に寄与することを目的とする。

## ■開催にあたって考慮している点

県境を越えた地域の交流事業として、住民同士の親睦が深まり地域連携に向けての意識向上が図られるよう企画している。また、実行委員会の主たる運営は民間主導で進められている。

多くの住民参加が求められるイベントであるため、3市町村の住民のほか、近隣市町村の住民、学校、企業などの積極的な参加と協力を求めている。

## ■波及効果

生活文化面において多くの共通点を持ち、日常生活においても同一圏域を形成している3市町村が共同事業を行うことによって、大会関係者はもちろんのこと、住民相互においても県域を越えた親睦と交流が大いに図られた。また、テレビなど報道関係の注目も浴び、全国に向けて情報発信することができた。

## ■課題・今後の展望

熊野大橋の幅員が狭いため、綱引き競技の参加選手のみしか橋上に入れず、観客は河川敷に設置した大型テレビでの応援となっており、選手と観客との一体感をさらに高めていくことが今後の課題である。





島根県美保関町　人口：7,007人

# エビスカップ 全日本海上綱引き選手権大会

主催　美保関町海夏まつり実行委員会
会場　美保関町内



## ■内　容

くにびき神話と綱引き、漁師とロープ、そして広大な海は、当町を十分にイメージさせるものであり、互いに切っても切れない関係にある。その意味で海上綱引き大会は、当町の特徴を全面に打ち出した地域活性化の手段として適している。

試合は、縦幅４m、横幅２mの台船に各チーム５名（女性を１名以上含む）の選手が乗り、綱引きを行う。試合時間は30秒。30秒時点でより引き寄せるか、相手チームを海に引き落とした方の勝ちとする。本部が引き分けと認めた試合に限り、５名によるじゃんけんで勝ちチームを決める。チーム編成は１チーム10名までエントリーとし、試合は５名で行う。

## ■開催への契機・経緯

事代主（エビス様）のお膝元で、「くにびき神話」の壮大なスケールとロマンが息づき、今もなお豊かな自然が残る当町で、「くにびき」という大きな綱引きをコンセプトに、海をテーマにして全国発信できる交流型のイベントとして、海上綱引き大会と交流会を企画・開催した。

## ■目的・基本方針

- イベント実施と地域活性化のための諸方策に一貫性がある。
- 海を利用したイベントには、企画に困らないほどネタがいっぱい。
- 地元住民だけでもイベント集客力が見込める。
- スポーツは万国共通の言葉である。
- 他のモノマネではダメだ。

## ■開催にあたって考慮している点

- 確実に一定の集客力を想定した収益性。
- 運営上、長期的に種切れしない永続性。
- 参加者の好奇心をくすぐるイベントの雰囲気とデザイン性・ファッション性及び娯楽性。
- 子どもから高齢者の参加までも広く考慮した柔軟性。
- 「いかにも美保関町らしい」と誰もが納得する地域性。
- 当町のPRを兼ねた「ジゲ（地元）色」あふれる町外への情報発信性。
- イベントの実施過程で培う地域住民及び各種団体との連帯感とリーダーの育成。

## ■波及効果

平成13年で４回目を迎え、マスコミ等にも大きく取り上げられるようになり観光PRになった。地区全体の協力が必要なため、一体となることにより住民にまとまりがでた。



## ■課題・今後の展望

全日本大会と銘打っているので、今にも増して全国各地からの参加者を募りたい。前夜祭等を開催し、町内の民宿等を利用してもらう。参加者や観光客とのふれあいを通じて情報発信の起爆剤となるよう期待したい。また、競技のメニューも子どもの部、レディースの部、コスチュームの部等を設けるなど工夫したい。

佐賀県中原町　人口：8,825人

# 全日本うちわ選手権大会　ウインドブルドンin中原

主催　中原町
会場　中原町総合センター周辺



## ■内　容

競技は、うちわを使ったユニークな競技を高校生以上の3人1組のチーム戦で実施し、5種目の競技の合計得点で優勝を争う。直径60cmのうちわを1分30秒以内に3人でリレーし、何回あおげるかを競ったり、会場内の展望台から地面のうちわにめがけて投げ、的までの距離を競ったり、長さ1.5mの大うちわを背中につけての3人4脚50m走、得点の書かれたうちわをくじ引きする競技、大うちわにビーチボールを乗せ、障害物のあるコースを3人でリレーする競技を行う。5種目500点満点で総合順位を決め、他にも競技ごとの「レコードホルダー賞」や一人でも参加できる飛び入り参加競技も行う。

風にまつわる催事として、香川県うちわ協同組合連合会の協力により、うちわ製作実演、手作りうちわ体験、うちわ絵コンテスト、丸亀うちわ展示、東京江戸風鈴絵付け体験などを実施する。

## ■開催への契機・経緯

当町は、古くから風の神を祀る「風天山」や綾部神社での「旗上げ神事」等、「風」にゆかりのある歴史のある町で、「風」をテーマにまちおこしを行っている。風まつりの実施や風おどりの創作、ペットボトル風車を川面に設置するなどしてきた。

風にまつわる「うちわ」を使った新しいイベントとして行われたのが本大会で、うちわを使って町おこしの風を起こそうというのがテーマである。

## ■目的・基本方針

「風の町＝中原町」のイメージ定着。参加者全員で作り上げる大会としての親睦融和。「風」にまつわる市町村、地域との交流。地方のオリジナリティを全国へ向けての情報発信。

## ■開催にあたって考慮している点

平成13年からインターネットで参加者を募集したことから、参加者の半数以上は町外参加者となり、対外的に当町をPRすることができた。

香川県丸亀市のうちわ、東京都江戸川区の江戸風鈴など、風にまつわるということで交流範囲が広がり、これに伴い町民の対外的な交流ができた。

今後とも対外交流する機会を作ることで、当町をPRし、地域で作るイベントとして定着を図りたいと考えている。

## ■波及効果

全国的に珍しいイベントとして、報道機関より多数の取材があり、当町のPRができた。本大会も含めて、



町で行っている「風」による町おこしが住民により浸透し、まちづくりに対して理解が得られるようになった。

また香川県丸亀市のお祭りの中で、「うちワングランプリ01」と題して一部大会として実施され、当町からも参加し、地元テレビや新聞に大きく取り上げられた。

## ■課題・今後の展望

「風の町＝中原町」を全国へ向け情報発信していきたい。また「風」にまつわる市町村を開拓し、交流を広げていきたい。

本大会もまだ始まったばかりなので、今後いかに継続し定着させていくかが課題である。

佐賀県七山村　人口：2,815人

# 国際渓流滝登りinななやま

主催　大雨風七山（うーばんぶうななやま）
会場　七山村大字滝川　鳴神の兵運動公園～観音の滝渓谷一円

## ■内　容

本イベントは、当村が誇る観音の滝渓谷を流れる清流と緑の中を、鯉の滝登りならぬ、人の渓流登りをイベント化したもので、150分以内にゴールをしてもらう。イベント名に「国際」と付くように、国際色豊かであり、平成13年は18ケ国130人の参加があり、人口2,800人の村に応援者まで含め国外から300人以上が来村した。

ゴール後は、お国自慢の歌や踊りのパフォーマンス、綱引き大会等で国際交流が行われ、表彰式では賞品として当村の特産品が渡される。

## ■開催への契機・経緯

観音の滝は知っていても、その下流の渓谷は村人でも知らない素晴らしい滝や渕がある。本イベントの実施団体である「大雨風七山（うーばんぶうななやま）」の会員にも、子どもの頃この渓谷を遊び場としていた会員が多かったことから、当村にしかないこの自然を活かした「村おこし」をしようと思いついたものである。

大会のネーミングは、どうせ付けるなら大きくと「国際」を頭に付けたが、当初外国人の確保に苦労した。しかし、本イベントのコンセプトを「自然環境保全」「国際交流」とし、民間主導として村内の中高校生等若者を巻き込んでのイベントとして定着したことから、今では参加者を制限するのに苦労している状態である。

## ■目的・基本方針

本イベントは、当村の自然のPR、清流を次代へ残そうという自然保護の意識の高揚、遊び心を通しての国際交流、そして中高生や若者等が自分たちのイベントとしてボランティアで大会へ参加することにより、郷土愛を養い、失われつつある地域コミュニティの醸成を図ることを目的としている。

## ■開催にあたって考慮している点

本イベントは、渓流といった自然相手のイベントであり、川の状況や当日の天気等、そして事故に対しては十分な配慮が必要であり、救急体制も必要である。

また、外国人の参加については招待ということで無料としているが、言葉、文化、宗教的問題を考慮し、佐世保基地や交流協会と年間を通して継続的な付き合いが必要である。

本イベントの行動部隊であるボランティアについては、自分が主催者で、自分がイベント運営上必要な存在であるという意識づけが大事である。

## ■波及効果

環境保全、国際交流、地域コミュニティーの促進を目的とし、時代に合ったイベントとして、県内外はもとより外国でも紹介されていると聞き、小さな村でのイベントが着実に大きく実を結んでいるようである。

民間主導のイベントであり、中高生や若者等が自分たちのイベントとし村に誇りをもち、卒業（離村）後もボランティアとして参加、その数は200人以上にもなり、目的を達しているようである。

## ■課題・今後の展望

スタッフの確保、資金確保が大きな問題である。特にスタッフについては、当日は200人以上のボランティアはあるものの、それでも不足している。また運営母体である会員の高齢化と会員不足がネックとなり、今後実施組織の再編成が必要となってきている。





鹿児島県瀬戸内町　人口：11,641人

# 奄美シーカヤックマラソンIN加計呂麻大会

主催　奄美シーカヤックマラソンIN加計呂麻大会実行委員会
会場　瀬戸内町（大島海峡一帯）

## 内　容

本大会は、平成５年度にスタート。毎年グレード・規模などを拡大し、シーカヤックの普及に努めるとともにイベント等を開催してきた。

第１回から第３回大会においては、民間企業組織を導入したイベント開催となったが、第４回大会においては独自の運営方式による手作りのイベントを開催した。その後の大会においても、実行委員会を中心とした各種団体・企業・各集落、特に青年団等の多くの若者たちのボランティアに支えられ、町内外ともに予想以上の評価を得ることができた。

平成13年（第９回）から、競技内容を若干見直し、ハーフ部門を新設することにより初心者多数の参加があった。

## 開催への契機・経緯

当町の海の自然特性を活かしたマリンスポーツ競技大会（シーカヤックマラソン大会）を開催することによって、啓発普及活動を実施し、マリンスポーツの定着を図る。これと併せてイベント等を開催し、当町の自然や文化に親しむ機会をつくり、広い視点に立って国内外の多くの人たちとマリンスポーツ体験交流や文化交流を促進するものである。

さらに、これらの事業により多くの町民を参加させることによって、町民の一体感を増進させ、地域づくりへの創造心を醸成し、活力ある地域の形成と若者をはじめ住民の定住促進を図る。

## 目的・基本方針

マリンスポーツのメッカとして加計呂麻島及び大島海峡を位置付け、シーカヤックをはじめマリンスポーツの情報発信基地を目指す。

さらに、当町の海中景観加計呂麻地域における自然特性を全国にアピールすることによって、環境保全に配慮した海洋レジャー関連産業の導入を促進し、地域経済の活性化を図ることを目的とする。

## 開催にあたって考慮している点

本大会は、第１回から町地域婦人会・町連合青年団・商工会・漁協等、各種関係団体の協力のもと、大会当日の監視艇・昼食・エイドステーション等での給水・補助食（おにぎり・バナナ・蜂蜜レモン等）を準備して、「ふれあいを大事に」を合言葉に各選手を接待している。まさしく官民一体となった大会が開催されている。

## 波及効果

平成13年は、郡外からの参加者が222名でその８割程度の人たちが町内の各宿泊施設を利用し、その他の人はキャンプをして大会に臨んでいる（推定１人・２泊３日約１万２千円）。また、大会の経費は総て町内の各事業所にて消費されている。

## 課題・今後の展望

平成14年度は、10年目の記念大会となるため、郷土色を全面に出しさまざまな趣向を凝らして盛り上げて是非、大会を成功させたい。





沖縄県伊平屋村　人口：1,590人

# 伊平屋ムーンライトマラソン

主催　伊平屋ムーンライトマラソン実行委員会
会場　友愛と健康の広場（伊平屋村内）






## ■内　容

満月の月明かりを頼りに、伊平屋島及び野甫島の海岸線沿いの道路を走る。世界でも類を見ないナイトマラソンである。新暦10月の中で月齢が最も満月に近い土曜日に開催する。

コースは、フルマラソンの部とハーフマラソンの部があり、制限時間はフル６時間、ハーフ３時間半で、午後９時に競技を終了する。

スタート後はしばらくは明るい中、沖縄でも少なくなった田園風景の中を走り、島の西海岸沿いのコースを走る頃は、東シナ海に沈むサンセットを眺め、暗くなる頃には東の方から上がる満月の光（ムーンライト）に照らされながら、東海岸沿いのコースをゴールの「友愛と健康の広場」を目指して走る。沿道では、夜の大会ならではのイルミネーションを使った応援メッセージ等もあり、他の大会にはない雰囲気がある。

その後、広場の野外ステージにて表彰式及び懇親パーティーを開催、ランナー、スタッフ、村民との交流を図る。パーティーでは沖縄県出身芸能人によるアトラクションもある。

また、前日の金曜日の午後６時からは、前夜祭も開催している。ステージでは、当村の伝統芸能や子どもたちの創作太鼓等の演舞でランナーを歓迎する。

## ■開催への契機・経緯

平成６年に、当村の地域振興の中心的事業を興そうと模索している時、折からのマラソン大会ブームに乗り実施を決定した。しかし、離島村であるため、他市町村と同様な大会を企画しては、ジョガーは参加してくれないのが目に見えていた。他の大会との差別化を図るためさまざまな検討をしていた時、企画員の雑談の中で「昔は、月明かりで本が読むことができ、離れても人の顔が分かった。最近は人工の光の中で月の明るさを忘れてしまっている。」等の話が出て、それでは月明かりの中でナイトマラソンを開催しようということになった。

## ■目的・基本方針

本イベントは、地域振興の牽引役を担うことを目的に、今後は参加人数を１千名程度におさえ、質の高いアットホームな大会運営を目指す。

## ■開催にあたって考慮している点

離島村である当村には、民間宿泊所が少なく、宿泊可能人数も350名程度である。1千名を超えるランナーや関係者の収容に対応するため、民泊の活用も進めている。ランナー等が泊まることによって、地域住民との交流も図られ、また住民も大会に参加している実感が湧くため大会開催への協力が得られる。また、村全体のムードが盛り上がらないと、大会自体の盛り上がりも悪くなるので地域住民への広報活動にも力を入れている。

## ■波及効果

本イベントを開催するまで、当村は、沖縄県民の中でも知名度が低く、所在位置もほとんど知られていなかった。平成７年度に第１回を開催してからは、徐々に県内外にもムーンライトマラソンの島として、知られるようになり、それに伴い観光客数も着実に増加している。

また、住民もボランティア活動へ積極的に参加するようになり、その他のイベントもこれまでに比べて住民の協力が得やすくなり運営がスムーズに行えるようになった。

## ■課題・今後の展望

現在、募集定員を500名としているが、次大会からは１千名としたい。ただ、離島村であるため、フェリー（定員300名）しか交通手段がなく運行スケジュールの調整が必要。また、来島者の宿泊場所の確保も課題として残る。

# 部門別 [3] 文化・交流

北海道夕張市　人口：15,173人

# ゆうばり国際ファンタスティック映画祭

主催　夕張市、ゆうばりマウンテンシティ実施機構、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭実行委員会
会場　ゆうばり文化スポーツセンター　夕張市民会館大ホール及びシネサロン他

## ■内　容

エンターテイメント性豊かなファンタスティックな作品を対象に上映、招待作品（未封切）をはじめ、ヤングファンタスティックグランプリ部門、オフシアターコンペティション部門等の各部門等、5日間で70～80本の映画を上映。

毎回、ゲストを迎えてトークショー又はフォーラムを開催し、市民及び参加者との交流を図る特別企画を開催。市民企画として、上映会場も含め、市内各所において歓迎パフォーマンスを展開している。市民とゲスト、参加者が5日間楽しんでもらえる市民手作りの屋台や24時間開放の「みんなの家」等のイベントを開催する。国内外のゲスト30人以上が参加。参加者とゲストの垣根がないアットホームな映画祭として市外から延べ2万5千人が参加する。

## ■開催への契機・経緯

夕張は、石炭産業の最盛期に17の炭鉱があり、総人口は12万人を数えたが、昭和40年を境に閉山が続き、人口は激減した。夕張は「炭鉱から観光へ」を合言葉に、55年に「㈱石炭の歴史村」を設立。63年、夕張のまちおこしはハード施設建設型からソフト事業へと路線変更し、「夕張から世界に向けて情報を発信する」ことができないか調査を開始した。

「東京国際映画祭」の協力を得て、平成2年2月から映画祭がスタートした。

本映画祭は、「真冬の夢の映画祭」としてスタート、夕張から世界にはばたく映画人を育てるというコンセプトで1回目からコンペティションを採用、グランプリを設定した。また厳寒の北海道、山に囲まれた銀世界で5日間を映画人と一般客の間に垣根のない映画共和国という交流空間を創造、市民も期間中延べ1千人がボランティアで参加。継続を重ねるうちにボランティア、市民企画は増え充実してきた。




## ■開催にあたって考慮している点

開催前から市民団体に細かく内容を周知し、市民協力の上での歓迎体制を万全にしている。また、宿泊受入のキャパシティが少ないが、一部宿泊施設で相部屋をお願いして、多くの宿泊客に利用してもらえる形をとっている。交通輸送の面では、期間中、会場間に無料シャトルバスを運行しており、夜の市外最終便についても札幌方面に設定している（有料）。

その他、期間中、毎日ボランティアによる「ホットニュース」を発行し、前日の情報や当日以降のスケジュールを各会場や宿泊施設に毎朝届けている。また、ゲストと市民が交流できるよう、ウェルカムパーティ、主婦の手作り料理によるさよならビュッフェ等を開催し、好評を得ている。

## ■波及効果

「映画のある街夕張」として回を重ねて平成13年度で13回を数える。「夕張メロン」と並んで夕張のPRには欠かせないイベントとなっている。本映画祭は観光の目玉であると共に、映画祭で培ったソフト資産と運営ノウハウが、市民パワーとして今後役立つことが期待できる。年間を通じての観光動員に寄与している。ロケ地「幸福のハンカチ広場」や、平成12年から新たな観光名所となった、会場付近の街並みに飾られた映画絵看板の「ゆうばりキネマ街道」など、毎回開催する度に新しい企画と新たなる施設が誕生し、年間を通じて多数の観光客が訪れている。回を重ねるごとに、市民、商店の協力が増え、市民意識の高揚等、協力体制がまとまってきている。

また、本映画祭は、他の地方映画祭の見本となっており、国内はもとより韓国の富川国際映画祭等、夕張を見本として開催している。

## ■課題・今後の展望

本映画祭は、各種補助金と市内外からの企業協賛によって運営されているが、今後協賛金等が大幅にダウンすることが考えられ、イベント全体の効率的運営を検討していかねばならない時期にきている。

# 「わいは！どんぱぢ丸出し！！」外国青年による津軽弁大会

主催　鶴田町
会場　鶴田町保健福祉センター「鶴遊館」









## ■内　容

県内に在住している外国青年が、津軽特有の方言である津軽弁で主張し、体験談や寸劇などを披露する。また、アトラクションとして、津軽弁にこだわり、津軽弁による落語、オペラなども披露する。

大会終了後、交流会を開催し、大会出場者（外国青年）と一般参観者との交流の場を設けている。

## ■開催への契機・経緯

本イベントは、平成７年に来町したオーストラリア出身の国際交流員の発案がきっかけとなって始めた。国際交流員が地域に居住し活動をするためには、地域の人びとと関わっていかなければならない。その上で避けて通れないのが「津軽弁」である。日本人でも理解が難しいといわれる「津軽弁」を外国人が理解するには、相当困難であると想像できる。津軽でのさまざまな体験を通して、津軽弁にまつわる体験談などを、津軽弁を交えたスピーチ等で披露してもらい、地域に密着した国際交流を進めるための企画である。

## ■目的・基本方針

県内に在住する外国青年を対象に、津軽地方特有の方言である「津軽弁」を通じて津軽の文化・風土・習慣等を理解してもらい、地域に密着した交流を推進するとともに、地域住民の国際交流への理解と地域の活性化を図る。

## ■開催にあたって考慮している点

毎年行うイベントについては、どうしてもマンネリ化する傾向があるので、司会者、大会内容等を変えてマンネリ化を防ぐため趣向を凝らしている。

## ■波及効果

報道機関も注目し、大会開催前に当町の国際交流の取り組みや、国際交流員の日常生活風景、大会出場の練習風景などがテレビ放映され、宣伝効果となった。そのため、他市町村からも多数の観客が詰めかけ、国際交流の町として地域住民にアピールするとともに、県内外にもアピールすることができた。

## ■課題・今後の展望

近隣の市町村に居住している外国青年が、一番身近に津軽弁に関わっていると考えられるが、外国人に関する情報が少ない。今までは国際交流員のネットワークに頼っていたが、交流員は２～３年で交代するため、津軽弁との関わりが少ないという理由で出場を断る場合も多い。出場してくれるような外国青年を発掘するのが難しい。

岩手県陸前高田市　人口：26,746人

# 全国太鼓フェスティバル

主催　全国太鼓フェスティバル実行委員会
会場　陸前高田市民体育館

## ■内　容

「いのちは鼓動からはじまる」をテーマに、実行委員すべてが一般公募という市民が一体となって作り上げる全国規模の太鼓イベント。出演した団体から「太鼓の甲子園」と呼ばれ、評価を受けている。

前夜祭は地酒と海・山の幸を前にフェスティバル出演者と観客が交流。本番は全国の名だたる伝統太鼓や創作太鼓の熱演が、2,500人の観客を魅了する。

毎年10団体以上が参加。10回大会は、記念大会として世界4カ国の伝統太鼓を招待した。いままでに3カ国、36都道府県から延べ170団体以上が参加している。

平成13年度は沖縄県や長崎県など九州からの4団体をはじめ全国から8団体、そして地元岩手県の4団体を加え、12団体が出演し、熱演を披露した。

## ■開催への契機・経緯

900年の伝統を誇る、山車と山車をぶつけ合う勇壮なまつり「けんか七夕まつり」。その山車の上で激しく叩かれるのが、「けんか七夕太鼓」。「この太鼓を活用して地域おこしができないか」「全国の太鼓団体を集めたイベントを」と有志の声があがり、イベントが企画された。

テーマは「いのちは鼓動からはじまる」。人は母親の胎内で心臓の鼓動を聞きながらはぐくまれ生まれる。この命の鼓動に通じた太鼓の響きが人びとに深い感銘を与え、進むべき方向を導いてくれるという願いを込めて作られた。






## ■目的・基本方針

「陸前高田市」というまちを全国に売り込み、わがまちのファンを増やす。どこにもまねできない、手作りでイベントを作り上げる。その中で自分のまちに愛着を持ち、まちの良さを次世代に引継いでいき、地域活性化推進の一助とする。

## ■開催にあたって考慮している点

大会の運営は公募で集まった市民が行う。すべて手作りが基本で、会員から出されるアイディアはすべて形にするプラス思考で、地元気仙杉で入場手形を手作りで作成したり、市のシンボルである高田松原の松林のライトアップを企画するなど、わがまちへの思いを大事にしている。

会員は皆「やさしさ」をモットーとして、出演団体に、そして観客に接するよう心がけている。それがもう一つの人気の理由である。

## ■波及効果

全国から観客が訪れ、市を全国にPRできた。衛星放送などで全国放送を行うなど、マスメディアとの連携により、市のイメージアップにも貢献した。観客の6割は市外からで、いままでの夏型観光から「通年型の観光」移行への変革の第一歩であり、他のイベント誘客へも波及、相乗効果でイベントを盛り上げている。郷土芸能の伝承活動や太鼓団体の育成にも影響を与え、後継者育成や青少年の健全育成にも寄与している。イベント関連商品などの開発で、地場産業の振興にも影響を与えている。

## ■課題・今後の展望

本イベントは、今後も地域情報・文化の発信源として、また地域づくりの核として重要な役割を担っている。単なる「イベント開催」にとどまらず、新しい発想とプラス思考で市の活性化と発展のために継続開催をする。「太鼓の里」づくりを提言し、会員が地域づくりに積極的に参画していきたい。

# 平和街道高齢者障害者演劇ネットワーク事業

主催　湯田町社会福祉協議会（北上・和賀広域社協連絡協議会）
会場　ゆだ文化創造館「銀河ホール」他



## ■内　容

岩手県北上市・湯田町・沢内村・秋田県山内村の4市町村から演劇に参加する障害者と65歳以上の高齢者を公募し、概ね2ヶ月間の舞台稽古の後、それぞれ4市町村で舞台公演を行う事業。これまで見る側の立場だった全くの素人の高齢者や障害者が、プロの演出家の演技指導を受けながら、自ら舞台に立ち、いきいきとした演技を大勢の観劇者の前で披露し、自己表現し、さらには地域が異なる人びとと舞台づくりや観劇を通した交流を図る。

## ■開催への契機・経緯

当町は秋田県の県境に接した温泉町で、昔から岩手県と秋田県との交流が盛んな地域であった。また、地域に根ざした劇団「ぶどう座」（結成50周年）があり、演劇専用のイベントホール「銀河ホール」を中心として演劇、文化活動の向上を目指したまちづくりに取り組み、地域振興の一環として地域演劇祭や町民文化祭、全日本演劇フェスティバル、国際チェーホフ演劇祭などを町民総参加で行ってきた。さらには、高齢化率が34%を超え、高齢者や障害者の寝たきり予防、生きがいづくり、生涯学習の充実が求められている。

## ■目的・基本方針

これまでサービス提供を受ける側であった高齢者や障害者自らが舞台演劇の役者を経験することで、生活の質（QOL）を高めながら生きがいのある充実した生活を送る契機となることを目的とし、さらには、演劇公演を通して自己表現する喜びや仲間作り、地域間交流、県際交流の促進をも図る。

## ■開催にあたって考慮している点

この事業は4市町村という広範囲からの高齢者と障害者によって構成されていることから、長期間にわたる稽古や遠距離の通いなど肉体的、精神的な負担が多くかからないように気をつけ、多様なサポートや日々の健康管理等へ配慮するとともに、個々の能力、適正を細やかに把握し、個別的で無理のない指導と仲間づくりを基本として進めている。

また、この事業を通した地域間交流、県際交流の一層の促進も重要な視点である。

## ■波及効果

これまでの取り組みを通して、ハンディをもっていると認識されている高齢者や障害者が舞台に立ち、生き生きと自己表現しながら自己実現することで、まさに人格が変わったかのような積極的な行動や表現が見られ、また共に励まし合い、力強い仲間作りと地域間のネットワークづくりの輪を広げることにつながった。さらに、観劇する側の人びとに、高齢者や障害者の豊かな感性、限りない能力の可能性を指し示すこととなった。

## ■課題・今後の展望

この事業は、財源のほとんどを公的な補助金に依存して実施継続してきたが、補助金が打ち切られた場合、自己資金の確保が大きな負担となってしまう。実施主体者の自己財源にも限度があり、入場協力金等の事業支援にもおのずと限界がみえる。





# 藤沢野焼祭

主催　藤沢野焼祭実行委員会
会場　町立藤沢中学校グラウンド・特設縄文村







## ■内　容

日本の文化の原点は、縄文時代にある。この時代に生きた私たちの先祖は、豊かな自然の幸に恵まれ、自然と共に生活していた。また精神的にも深く、かつ高度な文化をもち、岩や火や木をはじめとする森羅万象全てに宿る神を敬い、自分たちの魂を見つめて生きてきた。これらのことを私たちに端的に教えてくれるのが、世界で最も古く偉大な芸術作品である縄文土器である。有名な火焔土器、水焔土器はもちろん、素朴な文様の土器の中にも、土と炎と風とに神の働きを感じ、土器に祈りと願いを込めていた縄文人の心が伺える。

世界に一つしかない、自分の作品を素朴な釜に入れ、一昼夜かけて焼き上げる。赤々と燃え、夜空を焦がす炎は、私たちが忘れかけている自然への畏怖と祈りが甦ってくる。まさに「縄文の炎・藤沢野焼祭」なのである。

## ■開催への契機・経緯

昭和51年、藤沢焼の窯元が提唱し、土器を創り、露天で焼き上げる最も簡単な手法「野焼」を開催したのが第１回であった。

当初は、窯元や地域住民、商工会青年部等で実行委員会を組織し、実践考古学者の塩野半十郎氏の指導を仰ぎ、窯や縦穴住居を造った。参加者は200名程度で、陶芸に興味のある人たち、特に仙台方面からの参加者が大半だった。

本イベントは今年（平成13年）で第26回を迎えた。当初の参加作品数は300点、現在は５倍の1,500点を超えている。

## ■目的・基本方針

地域文化の創造と発信により、個性ある地域づくりを目的としている。

## ■開催にあたって考慮している点

イベントの開催は、地域の持つ個性を外部に主張し、地域の存在意義をより確かなもの、普遍的なものにすることである。本イベントの個性は、「縄文」にある。祭りに参加するみんなが主役であることを基本とし、自分たちの手でイベントを企画し、協賛金を集め、祭りの準備をし、夏の夜空を焦がす赤々と燃える縄文の炎を焚き続ける。感動をみんなで創っていく、このことが祭りを継続する原動力となっている。

## ■波及効果

イベント開催による効果は、まちづくりのソフト・ハード両面に大きく寄与している。ソフト面では、本イベントに対して全国で大勢の応援団が生まれている。生前の岡本太郎、池田満寿夫両氏も熱心な応援団だった。池田氏は、町民の一体感に感激し、作品の寄贈のほか、各地の講演でも本イベントについて触れられ、岡本氏は、文化会館の命名や緞帳の寄贈をされた。

ハード面では、野焼作品の制作が可能な「陶芸センター」、そして「陶芸創作館」が整備され、年間を通じて陶芸家の指導を受けることができる。宿泊施設も建設され、滞在・体験型の観光も可能となった。当町内では、町のいたるところに作品が飾られ、町並みギャラリーと化している。縄文野焼祭が当町の文化になりつつある。

## ■課題・今後の展望

本イベントの常設会場の建設には賛否両論がある。建設賛成派、反対派の議論はもう少し続きそうである。

縄文土器は世界各地にある。そこで、野焼をしている民族が当町に集う「世界の縄文野焼祭」を開催したい。当面の目標は、本イベントを世界への情報発信、国際色豊かな祭りに成長させることであり、数年前からドイツ、フィジーから陶芸家や研修生を招聘し、試行を続けている。

宮城県大河原町　　人口：22,875人

# おだづもっこ文化祭・NPOフォーラム《NPOいずいッ。》

主催　おだづもっこ文化祭実行委員会（主管）、宮城県地域づくり団体ネットワーク協議会仙南支部、宮城県
会場　宮城県柴田町「槻木文化センター」

## ■内　容

おだづもっこ文化祭の「おだづもっこ」とは、宮城県の方言で「ふざけてひょうきんなことをする幼い子ども」という意味である。そこから、私たちは、地域に元気を与え、周りの人びとを和やかにする人たちを、愛情いっぱいに親しみを込めて「おだづもっこ」と呼んでいる。本イベントは、おだづもっこなNPOが主催する、年に一度のお祭りである。

また、《NPOいずいッ。》の「いずい」とは、宮城県の方言で「目にゴミが入ったような違和感がある」という意味。これには、長年地域づくりをしてきた人たちが、最近になって「NPO」と呼ばれることに対して戸惑いがあったという気持ちを素直に表現したもの。

「NPO」という県民にとってとっつきにくい言葉を理解してもらうため、目で見て分かる芝居小屋感覚のコミカルな時代劇（平均年齢約70歳の福祉劇団「鶴亀」が主役）で、フォーラムを実施した。

## ■開催への契機・経緯

宮城県地域づくり団体ネットワーク協議会仙南支部では、支部内の交流会として会員の活動状況の発表等を行っていたが、平成12年度に、宮城県から、県民向けのNPOフォーラム開催が提案された。地域づくり団体側から「フォーラムの開催は了承。しかし、その形式は自分たちの流儀である『オモシロたのしく』を時代劇で表現する。」と逆提案。宮城県がこれを了承し、開演する運びとなった。

## ■目的・基本方針

おだづもっこを増やし、「人の森」を豊かにしていくこと。そして仙南（県南部２市７町）の「人の森」がNPO活動の水源となり、「NPO花盛りの宮城県」となることを目指す。

## ■開催にあたって考慮している点

１.NPOの自由な（奇想天外な）アイディアを思う存分発揮すること。２.イベントを円滑に進めるため、地元市町と積極的に協働すること。３.要約筆記通訳及び手話通訳ボランティアにより、誰もが普通に参加できるバリアフリーのイベントを行うこと。

## ■波及効果

１.法人格のある団体だけがNPO、というイメージを払拭し、法人格のない地域づくり団体、ボランティア団体等もNPOであると正しく認識してもらえた。そして、NPOを身近に感じてもらえるようになった。２.宮城県地域づくり団体ネットワーク協議会仙南支部の入会団体数が、NPOフォーラム終了後に40団体から101団体に急増した。３.本イベントが、宮城県の「県民サービス向上の星マーク・県民参加部門賞」を受賞した。

## ■課題・今後の展望

大きなイベントのため、その準備が大変である。しかし、この「NPO劇」を観に来てくれる人がいる限り、続けていくつもりである。そして、本イベントを通じて「人の森」を豊かにしていきたい。






山形県三川町　人口：7,928人

# 全国方言大会

主催　三川トピア創造委員会
会場　三川町民体育館

## ■内　容

テーマを決め、そのテーマに沿って、各県からの出場者が寸劇を披露する。大会ゲストのショートトークの他、方言についての解説者を加え、出場者一同での方言についてのパネルディスカッションなどを行う。

## ■開催への契機・経緯

第１回の開催は、15年前にさかのぼる。当時の三川トピア創造委員会のメンバーが、会議の中でのちょっとした一言「三川にあるのは米と方言くらいだ」が、きっかけとなり、全国の方言を聞いてみたいということで、始まった。町の支援のもと、その後も開催され、「天気」「遊び」「衣類」「食」などをテーマに、方言との関連性、地域差を検証しながら続けられてきた。

## ■目的・基本方針

各地の方言に触れる中で、方言に親しんでもらい、地方の文化・風土を見直しながら、方言による地方文化の振興を目指す。

## ■開催にあたって考慮している点

- 方言をどのような切り口で検証していくか。
- 面白い、かつ、ある程度学術的な面も追求。
- いかに、観客に楽しんでもらうか。

## ■波及効果

全国的に方言を再認識し、地方の文化として認められるようになってきた。

## ■課題・今後の展望

イベント自体は恒例のものとなっているので、いかに斬新なテーマ、手法で開催していくか。





# まぼろしの浜街道「新田坂」をゆく

主催　渡辺地区まちづくり推進会
会場　いわき市渡辺町地内





## ■内　容

山中に残る参勤交代の道や宿場町通りをのんびりと辿るウォーキングイベント。当時の服装を着込む者、駕籠を担ぐ者、はたまた馬を曳く者等々あり。と思えば峠に急ごしらえの茶店では新商品のソバだんごや蕎、笠、わらじに甘酒が公募で当選したミス峠の美女らから面白可笑しくふるまわれ、旅人気分になりきった参加者たちは疲れを癒しつつも、暫し時空を越えて江戸時代にタイムスリップといった情景。一方、木洩れ陽の道々では小鳥たちのさえずりが響きわたり、木々にはアケビが今を盛りと熟して、市街地からきた参加者たちを大いに喜ばす「心のイベント」と位置付けたい。当初、渡辺町の一地区の限定コースであったが、４年目の平成13年度は渡辺町を網羅する４コースに拡大。有形無形の地域の誇りを形成していくことにする。名称も「やまなみの路散策会」に変更している。

## ■開催への契機・経緯

当地区には江戸中期から「釜戸の奴行道」と称する大掛かりな伝統行事があったが、再興は困難な状況にある。これに替わるものを模索するなかで、偶然、江戸時代のまちの様子を示した古い絵図面が見つかり、しかも、山中の道が地元住民も知らない参勤交代の道と判明したことから、イベントへと発展した。この間続けた歴史研究の成果を生かす本命の「かぐらばのまほろば『手づくりの村』推進事業」は、平成12年度から始まることとなる。

## ■目的・基本方針

目的としては、他に誇ることのできる地域資源を掘り起こし磨き上げることである。また、基本方針は、オンリーワンになるように知恵を絞り、汗を流し、自分たちで作り上げ、参加者が喜びを共有する。また、交流の輪を広げることである。

## ■開催にあたって考慮している点

初年度の地区限定版がマスコミや参加者に大好評の結果とは裏腹に地域内に不満がくすぶった反省から、機会の均等の必要性を痛感。平成13年度は名称をもあえて変更。あせって目が外へと急ぎすぎないようにも注意している。最近は経済的インカムへの配慮要の声も聞こえ出してきた。対象の多重化も参加者の減少を避ける上で必要である。イベント内容のイメージチェンジにより、新たな層の参加者を見込む。サポートメンバーの負担は現状では大きい。

## ■波及効果

マスコミの盛んな報道により地域



の知名度は飛躍的に向上したように思われる。また、行政による紹介頻度も増え、東京の旅行記者クラブの来訪や某紙の全国ウォーキングの行程に入ったり、市の東京観光物産交流センターがバスで観光客を連れてきたり、JR旅行の季節版に載ったりもし、とても信じられない変化ぶりである。地域全体をみればまだ模様ながめの段階には違いないが、住民の意識の変化は確実にあり、まとまりについても今一歩のところまで来ているものと思われる。

## ■課題・今後の展望

平成12年度にスタートさせた歴史研究の成果を具現化し、「古代の暮らし」を再現する「かぐらばのまほろば『手づくり村』推進事業」に期待している。はたして町の人、都会の人にも共感を持ってもらえるか、勝負の年となる。

# 頑固者賞

主催　取手市、取手市教育委員会、PHP総合研究所
会場　取手市民会館大ホール








## ■内　容

本イベントは、「一筆啓上火の用心　お仙泣かすな　馬肥やせ」という、短く要領を得た手紙で有名であり、当市にゆかりの偉人である本多作左衛門重次（ほんださくざえもんしげつぐ）にスポットを当て、重次を顕彰するとともに、損得を度外視して自己の信念を貫く姿勢で剛直な性格の重次を頑固者として捉えて、当市民をはじめ全国から「物事や仕事や人生観にこだわりの生き方」をしている人からエッセイを募集するものである。

過去２回、11年度は「家族」、12年度は「学校」をテーマに、一般の部・中学高校生の部・小学生の部の三部門で募集を行い、13年度は第３回として「地域」をテーマに募集を行っている。毎回、各部門９編ずつ、計27編を優秀作品として選び、毎年３月に取手市民会館で表彰式と賞の啓発に関するイベント（講演会など）を行っている。

## ■開催への契機・経緯

徳川家康の家臣で、「鬼作左」の異名を持った本多作左衛門重次が、晩年を取手の地で過ごし、墳墓も現存する（茨城県指定史跡）ことをきっかけとして、現代にも通じる重次の精神に学び、自分自身を見つめ直すことで、自らの存在が社会の中でどのように位置付けられているかを考えてもらう場を作るという考えから、頑固者賞を創設した。

## ■目的・基本方針

本イベントは、先にも述べたように、自らの存在が社会の中でどのように位置付けられているかを考えてもらうことを目的としている。当市では、本イベントを「文化によるまちづくり推進」の一環として、当市の21世紀の人づくり・地域づくりを目的とした生涯学習運動として展開していくとともに、当市から日本全国に発信・提言していくものにしたいと考えている。

## ■開催にあたって考慮している点

本イベントは、ただ単なる重次の顕彰とエッセイの募集ではなく、自らの存在が社会の中でどのように位置付けられているかを確認あるいは考えてもらう場の提供である。そのためには、エッセイ募集のほかにもさまざまな分野で関連事業が図られなければならず、しかもこれらが一過性のものではなく継続性のものでなければならない。本イベントの開催にあたっては、以上のことを考慮しながら行っている。

## ■波及効果

第１回頑固者賞のエッセイ募集開始時には、読売・朝日各新聞の社会面を始めとして、各方面のマスコミに取り上げてもらい、全国からかなりの反響があった。そのため、過去２回とも応募総数が海外を含めて全国から２千近くに及んだ。各回ごとに作成した作品集やポスター、チラシも全国の教育委員会や関東の図書館及び関東郵政局管内の普通郵便局に毎回発送しているため、本多作左衛門重次の生き方や精神を学びながら自己を見つめ直すという考えが、当市民はもとより、当市から全国に発信できたものと考えている。

## ■課題・今後の展望

本イベントの目的を、今まで以上にどのように当市民や全国に浸透させていくかが、このイベントの今後の課題であり、展望である。

栃木県岩舟町　人口：19,644人

# 岩船山クリフステージ野外コンサート

主催　岩船山クリフステージ企画委員会
会場　栃木県下都賀郡岩舟町地内 岩舟中腹採石場跡地（クリフステージ）

## ■内　容

岩船山中腹の採石場跡地を利用しての野外コンサートである。砕石場跡地の断崖（Cliff：クリフ）ならではの独特の景観と音響効果の良さを生かし、町ぐるみの恒例行事を創り出そうと企画された。主催団体は、商工会青年部の有志らで組織する岩船山クリフステージ企画委員会のアマチュア集団。木々の伐採・除草作業の会場づくりから出演者の交渉、広報まですべてを行った。初回のコンサートは、日本のジャズメンを代表する菊地雅章（ピアノ）、日野皓正（トランペット）らの６人の出演となった。コンサート当日は、会場内において開演前、餅つき大会・出店なども行われた。夕刻からコンサートが始まり、岩肌にあてられた照明が、クリフならではの独特のライティングデザインを描き出し、一流の音の響きが会場に集まった2,500人の心を魅了した。

## ■開催への契機・経緯

岩船山は、江戸時代から「岩舟石」の採石場所として栄え、また、信仰の山として、町民の暮らしと親密な関係にある山である。長いときを経て採石場跡地となった山の中腹には、偶然にもすばらしい“音響効果”を持ち合わせる空間が生まれた。それがクリフステージ。この断崖を生かし、当町の名称起源となった岩船山の対外的な広報活動・音楽文化の向上・地域の活性化を目指そうと、商工会青年部の有志を中心としたクリフステージ実行委員会が組織された。

## ■目的・基本方針

採石場跡地を利用した野外コンサートを開催し、岩船山の対外的広報活動、音楽文化の向上、地域の活性化を図る。同時に自然環境の再生を考え、祖先が培ってきたこの地域の精神的豊かさと誇りを見直し、次世代の子どもたちに継承する。

## ■開催にあたって考慮している点

断崖の野外ステージから多くの感動を創造することで、町内外の人びとと触れ合い、共に郷土における21世紀への希望を語り合うことを、企画委員会の動機づけとする。メンバーで作業を分担し、地権者との交渉、整地作業等の会場づくり、出演者の交渉、チケットの販売までのすべてをボランティアの支援を得ながら主催者自らの力で行っていく。

## ■波及効果

通常、野外コンサートを行うには困難と思われる採石場跡地を利用した特異な企画、しかも、主催者は地元商工会青年部有志らの素人。しかし、音響効果の良さと青年らの企画への熱き思いが、多くのマスコミ・企業を動かした。このことにより、“岩船山”の地名度、イメージアップが図られた。また、地元町民の意識の中に、郷土愛や誇りといったものを芽生えさせた。これは、当日100名を超すボランティアの支援が得られたことなど、コンサート前から多くの町民がかかわったことに窺うことができる。

## ■課題・今後の展望

天候に左右される野外ステージ。常時人が出入りする土地ではないため、雑草等が繁りやすいなど、ステージ環境づくりが難題である。また、継続させるにあたって、対象者を飽きさせない企画（出演者等）が必要である。





# 草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル

主催　草津町、㈶関信越音楽協会
会場　草津音楽の森国際コンサートホール





## ■内　容

昭和55年から毎年夏（８月中旬～下旬）に開催され、世界的な音楽家とクラシック音楽を志す生徒が高原の清々しい空気のなかに集う。

毎年テーマに沿って音楽の心を伝えあい、併せてコンサートを開催。平成12年までのテーマは一人の作曲家とその影響を探るという設定であったが、22回を迎えるにあたってテーマの設定を少し変えて、都市と音楽・その都市の人びとの生活と音楽について考察を加えながらプログラムづくりを進めている。

## ■開催への契機・経緯

群馬交響楽団の事務局長であった故丸山勝弘氏が楽団レベルアップのためベルリン芸術大学の豊田耕児氏に指導を懇願したことに始まる。世界一流の演奏家を招き、演奏テクニックだけでなく、一流演奏家と寝食を共にしながら優れた音楽性を肌で感じる機会をつくりたいという願いが実り、夏の２週間程度の合宿を行うことになった。開催地としての打診を受けた町は、健康で文化的な温泉保養地を目指していたことからこれを受け入れ、昭和55年、初めての試みとして開催された。

## ■目的・基本方針

本イベントは14日間にわたって草津音楽の森国際コンサートホールで開催される。講師に音楽大学・交響楽団等で活躍する世界第一級の音楽家を招聘し、日本及び近隣諸国の若い音楽生たちにマスタークラスの個人レッスンをもって、最高の技術と豊かな音楽性を学ぶ機会を与える。あわせて招聘した教授陣によりコンサートを開催。音楽文化の普及と振興を通して地域の活性化を図ることを目的とする。



## ■開催にあたって考慮している点

21年の歴史を重ね、幸いに音楽家や聴衆の間から熱心な支持を得て順調に発展している。

回を重ねるごとに、その音楽を背景とした芸術性をさまざまな面から純粋に追求している。

温泉観光地という旧来のイメージが強い当町にあって、単純な観光イベントとして中途半端な事業にしてしまうことなく、リゾート地に定着した文化事業としてさらに大きく発展させたい。

## ■波及効果

「温泉と高原・文化とスポーツの国際温泉リゾート」を目指す町にあって「文化の顔」として定着したアカデミー。世界中から音楽生やプロフェッショナルな音楽家が爽やかな高原温泉都市草津町に集まり、単なるソリストの養成ではなく常に多くの人びとが集まってのアンサンブルが中心になっている。また、毎日行われるコンサートは都会では味わうことのできないコンサートとして聴衆を魅了する。「浴衣の街にクラシック」というミスマッチもすっかり定着している。

## ■課題・今後の展望

本イベントの開催によって、当町の新しいイメージが内外に定着した。

当町はこれをさらに発展させ、文化・スポーツを前面に打ち出したリゾート地づくりを目指している。

# 開館！まちかどミュージアム

主催　㈳川越青年会議所
会場　埼玉県川越市内、西武本川越駅から札の辻までの通りとその周辺



## ■内　容

市民自身の手によって、数多くの市民の情報発信の場を設けた。

- 5月16日の夕方から夜にかけて、老舗料亭の庭園でのジャズライブ、蔵造り店舗での弦楽四重奏ライブ、居酒屋でのクラシックギター、落語のライブ、土蔵造りのライトアップ、大正ロマン風の商店街での初めてのナイトバザール、子どもたちが描く「好きな川越」を4面に貼った灯籠の目抜き通り商店街への飾り付けを実施。
- 5月17日の昼から夕方にかけて、目抜き通りを交通規制にして、吹奏楽団のライブ、煎餅焼き・ハーブ茶ブレンドの体験ブース、街頭で市民の芸術作品の展示、普段は見ることのできない畳職人・植木職人・鳶職人・大工の技を街頭で披露、蔵造りを背景に現代彫刻を展示、スポーツ・芸術・昔の遊び等の体験ブース、街頭でのお茶会両日を通しての写真を募集し、コンクールを開催した。

## ■開催への契機・経緯

歴史と文化の城下町として知られる川越だが、先人たちの残した遺産にばかりに依存するのではなく、川越の新しい付加価値を見出していくことが必要なことから、これからの時代に求められるモノは何か、メンバーや行政、諸団体とさまざまな機会で話し合った。

その結果、①地域商店街の活力不足②夜のまちに活気がない③市民の個性・こだわり・技術を披露する場がない④新旧住宅街の住民同士の接点が薄い⑤蔵造りばかりが目立っている、等の問題点を抽出した。



## ■目的・基本指針

①市民のさまざまな個性の集合がまち自体の個性をつくり、②行政サービスをただ待つのではなく、市民や諸団体が自主的にまちづくり運動をしていくこと、これを実現していく契機として、青年会議所以外の多くの団体と共に事業を実施する。

## ■開催にあたって考慮している点

あくまで発表者である市民が主役であり、青年会議所はそのためのステージを若い感性で演習し、新旧市街地の住民の接点を作ることに徹した。また、その準備段階で、青年会議所と共に運営側に立つ、同じく川越を愛する市民、諸団体と打ち合わせをして、互いが当事者意識を持って刺激しあい、協力して一人では、あるいは一団体ではできないことを成し遂げようとしたこと。その数は39団体、378人に及んだ。

## ■波及効果

旧中心街の商店主たちは、やり方によっては人が集まるというまちの潜在的可能性に驚き、この事業を参考にした自主的なナイトバザールやライブなどが増えてきた。

また、昼間は観光客で溢れているのに夜は非常に寂しい蔵の町は、ライトアップによって新しい川越の夜の顔になり、諸団体、商店、行政が一体となってこれを恒例化した。商工会議所では、商店街の軒先に子どもたちの絵を灯籠に張って展示することを夏まつりの恒例とした。

## ■課題・今後の展望

継続的に事業を発展させていくためには、コストの約半分を青年会議所の予算で賄い、協賛金も青年会議所が集めている状況、及び運営面で当団体が主体で実行委員会を組織している状況を改善する必要がある。この事業の受け皿となる当団体以外の市民主体のシステムづくりが望まれる。

# お絵かきスリッパ展

主催　南河原村商工会
会場　南河原村立南河原小学校体育館



## ■内　容

村に１校の小学校の全児童300人と先生がスリッパに絵を描き、村民祭に展示した。夏休みの宿題としてあらかじめ裁断した甲の部分の布地を子どもたちに渡したところ、マンガやアニメのキャラクター、動物の絵などを思い思いに描いた作品が集まった。それを村のスリッパメーカーが一つひとつスリッパに仕立て、名前を書き、11月３日に毎年開かれる村民祭に合わせて小学校の体育館に展示した。

１年生から６年生までの全校児童の絵がスリッパになって一堂に勢揃いすると、日ごろ商品としてしか見ていなかったスリッパがまるで違ったものとして目に映り、親、子、学校関係者はもとより、訪れた村の人たち全員にとって新鮮で楽しい展示となった。

## ■開催への契機・経緯

当村はかつて日本一を誇ったスリッパ産地であったが、近年、安価な輸入品におされて生産量は激減し、スリッパ製造業者も半減している。以前は村の総世帯の80%が何らかの形でスリッパ生産に携わっていると言われ、多くの家庭にスリッパ用特殊ミシンがあり、熟練した縫製技術をもつ主婦がスリッパ作りをしている光景がごくふつうに見られた。ところが、今ではほとんどの家庭がミシンを処分し、スリッパ製造が村の地場産業であることを知らない子どもたちが増えている。






この催しは、埼玉県工業技術センター南部研究所が行っているスリッパ商品開発事業の中で、購入者が自分で絵を描ける無地のスリッパの商品化を提案し、商工会から小学生に絵を描かせる案が出され、スリッパ製造業者から製作協力の申し出があって実現した。

## ■目的・基本方針

１.昭和20年代に始まったスリッパ作りを、日本一の産地にまで成長させた祖父母や両親の努力について子どもたちが考える機会をつくり、村の地場産業へ関心を抱かせる。
２.新しい販路開拓のための商品開発の一つとして、購入者が自由に絵を描ける無地スリッパを開発する。

## ■開催にあたって考慮している点

村民の交流を目的として年１回開かれる“ふれあい祭り”に合わせて開催し、学校関係者以外にもできるだけ多くの目に触れるようにした。

また、商工会が行っている村おこし事業も考慮して、教育委員会、学校との協働体制を整えた。

## ■波及効果

本イベントは、子どもたちや先生だけでなく、一般の来場者たちにも好評であり、地場産業への関心を高め、小さな村に大きな地場産業があることを改めて知らせる効果があった。また、村の商工団体と教育委員会や学校が一緒にひとつの行事に取り組む事は今までなかったことであり、村の活性化にもつながった。

## ■課題・今後の展望

本イベントは製作にあたるスリッパ製造業者の労力負担が大きく、また展示等をする商工会にも人的ゆとりがないため、１回しか実施していないが、村の子どもたちが小学校に在籍している間に必ず一度は体験できるように、６年に１回は実施したいと考えている。

# ページェント2000「この豊かなる大地の賛歌」Part3

主催　城下町新発田ふるさとまつり開催実行委員会、新発田市
会場　新発田城址公園





## ■内　容

2部構成で実施。第1部は、当市にゆかりのあるアーティスト等によるミニコンサートを実施。その後当市出身の俳優が出演するキャラクターショー。

第2部では、「ふるさと歴史絵巻」を野外劇として実施。新発田藩にまつわる歴史的エピソード、「溝口秀勝候入国絵巻」「塩止め事件」「決闘高田馬場」「忠臣蔵絵巻」「千年紀菖城結婚式」「ボランティア・パレード」「四十年目の仇討」「幼君奪取事件」を上演。その他、市内21業者による物産展の開催。

## ■開催への契機・経緯

当市は、江戸時代から溝口候10万石の城下町として古くから行政、産業、教育、文化における阿賀北地域の中核都市の役割を担っており、平成10年には、新発田藩初代藩主「溝口秀勝候」入封400年の記念の年を迎えた。

この「城下町400年」を絶好の機会と捉え、「城下町新発田400年」の歴史を十分発揮した「新発田の核」となる、新たな観光イベントの創造開発による市民と一体となった「まちづくりイベント」として、平成10年より開催されたものである。

## ■目的・基本方針

市民参加型イベントの実施・定着を図ることにより、「活力と個性豊かな地域経済社会」の構築と、産業の振興、文化の向上、意識の高揚を目指すと共に、新たな観光イベントの創造開発により、市民と一体となった「まちづくりイベント」として育成し、将来に向けての「活力ある観光地」づくりの推進を図ること。

## ■開催にあたって考慮している点

当市は、「恵まれた自然」と「歴史・文化」の観光資源を数多く有していることから、それぞれの拠点特性を活かした特色のある観光開発と整備を図る事や、その「まちの魅力」を十分活用し、地域産業との連携を深めていくことを課題としている。

このため、「城下町新発田」の歴史と文化を活かした「新発田市の核」となる観光イベント事業の実施、そして、マンネリ化させず定着を図ることなどにより、全国ネットで情報発信すること。

## ■波及効果

第一に、共通の目的意識の中で人と人とのふれあいを通じ、より一層の「地域づくり」の活性化が図られた。第二として、「城下町新発田」の地域特性を核とするイベント事業を確立し、育成することで、「新発田市の顔」として情報発信できた。第三には、市街地とその周辺地域の観光誘客を促進し、観光コースを明確にすることにより、より一層の観光振興が図られた。第四には、観光の振興を促進することで、誘客施設等の回遊を図り、商工業振興の活性化の促進を図ることができた。

## ■課題・今後の方針

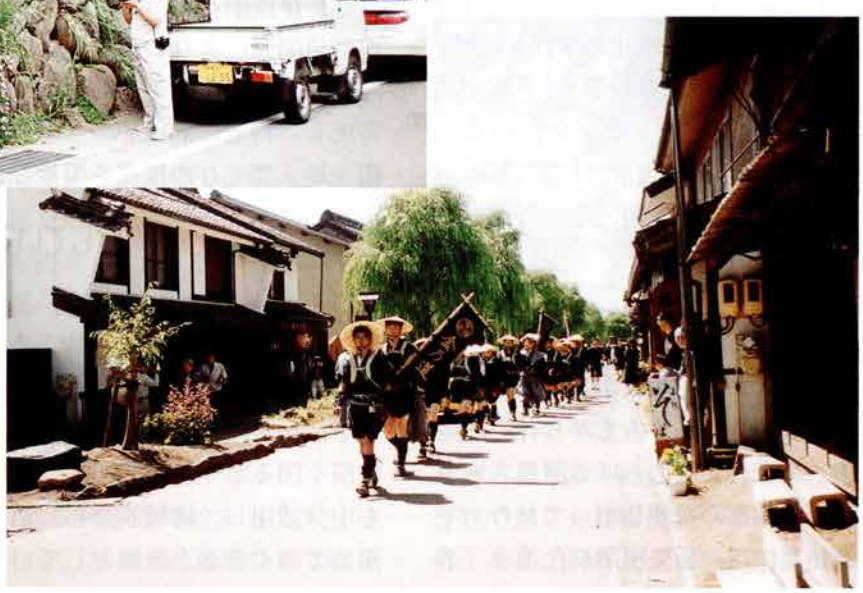
平成12年度までの3年間は、国県補助を受け、行政主導によりプロスタッフの手によって実施された。13年度については、市民有志による実行委員会が組織され、民間組織主導で、内容も一新し、実施した。異業種同志の実行委員会であり、会議の持ち方についても制限があり、また、実行委員会と行政の連携の取り方など改善が必要と思われる。

新潟県相川町　人口：9,662人

# 金の道佐渡から江戸へ

主催　金の道佐渡から江戸へ実行委員会
会場　佐渡から東京までの金を運んだ道





## ■内　容

江戸時代、佐渡金山から採掘された金が、人・馬を使って遠く江戸まで運ばれたという事実に基づき、当時の衣装スタイルで、その道のりを歩いて体験しようというもの。

佐渡から江戸（東京）までの約400kmの道のりを、一日約30km、16日間をかけて歩く。

参加者によって、日程はまちまちだが、リレー形式で行うため、１日のみの参加も可能である。

## ■開催への契機・経緯

平成９年11月、相川の観光関係者からなる「フロント会」の会合で、低迷する佐渡観光について話し合っていた時に出された企画。

さまざまな意見の中、直ぐに取りかかれる歴史をテーマにし、佐渡といえば佐渡金山、それなら佐渡から江戸まで歩くようなイベントなら宣伝効果があるのでは、というのがそもそものきっかけであった。

翌年１月に実行委員会を立ち上げ、出発日を５月27日とし、その間にさまざまな申請を含め、準備を整えた。

## ■目的・基本方針

金銀輸送路を歩くことで、佐渡と沿道の住民との交流や歴史を再発見するとともに、お互いの地域の活性化につなげることである。

## ■開催にあたって考慮している点

衣装は足元まで気を配り、靴ではなく、草鞋で歩く。そのため、人によってはマメができるので、医療品等細部にわたって補っている。

## ■波及効果

街並みに力を入れている町もあり、大変ありがたくもてなされ、その後、佐渡との文化交流など関係が深くなった。

# 越中だいもん凧まつり

主催　越中だいもん凧まつり実行委員会
会場　富山県大門町枇杷地内　大門スカイパーク（庄川左岸河川敷）







## ■内　容

毎年、５月第３土・日曜日に、微風が吹く大門カイトパーク（庄川河川敷）をメイン会場に、自治会、児童クラブ、企業、外国選手、全国から集まった凧愛好者等の、創意をこらした大凧、小凧、連凧が華やかに舞いあがる。

一方、商店街通りでは、町商工会主催の「カイトフェスティバル」が行われ、歩行者天国では、チンドンマンが練り歩き、道の両側には歴代の優秀な凧の展示、各種出店、魚のつかみ取り、婦人会による街流しなど、住民総参加の本イベントが開催される。

会場には、色とりどりのテントが並び、皆が結集して作った大凧（大きなものは50畳）が大空高く舞い上がると、大きな喝采のもと、言いようの無い感動を呼び起こす。

今では、初夏を彩る「まつり」として、県内外に知られるイベントとなった。

## ■開催への契機・経緯

本イベントの始まりは、当初地元自治会や児童クラブの交流事業として実施していたものを、昭和54年５月に国際児童年を契機に、子どものたくましい成長と我が町の活性化を願う町民の熱い思いから、町主催（実行委員会）による「まつり」としたことである。そして、第20回記念大会で「凧で結ぶ国際交流」をテーマにして以来、外国選手やALT（外国人英語教師）も参加するまつりへと発展してきた。

## ■目的・基本方針

さわやかな５月の空に、巧みな手さばきで限りない大空に舞う凧は、見る人びとに大きな感動とロマンを与えてくれる。このすばらしい凧をメインに、風光明媚な庄川河川敷で、富山県内、全国、そして世界から多数の人びとが集い、ふれあい、楽しむ事によって凧を通した交流を図る。

## ■開催にあたって考慮している点

まつりがマンネリ化しないためにも、色々な意見を聞く為に、実行委員会の反省会は、まつり後２週間以内に実施する。

地域の人たち（小学生、中学生も含む）とは「凧まつりを語る会」を設けて、次回のまつりに備える。しかし、これで良い、というまつりにはならない。毎回色々な指摘事項が出る。

いずれの時も、大人も子どもも楽しめるまつりに努めているが、決められた期間、そして時間の中でのプログラムのバランスに考慮している。また、会場のレイアウトにも考慮する。

## ■波及効果

本イベントが行われるようになってから、住民の結束が大変強くなった。2000年とやま国体では、選手、監督の宿泊は、100%一般家庭での民泊で対応した。その間も、住民の心は一つになり、選手に対する温かいもてなしをすることが出来、今でも多くの選手との付き合いがあり、親戚が増えたようだと住民は喜んでいる。

子どもたちも、自分たちの町に誇りを持つようになり、「大門と言えば凧まつり」と、堂々と自分の町を紹介するという。

## ■課題・今後の展望

21世紀に、本イベントが、自然と人とが触れ合うコミュニケーションの場として、さらなる地域間の交流の促進を願い、住民総参加のもと積極的に展開していきたいと考える。

富山県井波町　人口：10,443人

# いなみ国際木彫刻キャンプ

主催　いなみ国際木彫刻キャンプ実行委員会
会場　井波町閑乗寺公園






## ■内　容

平成３年以降、４年ごとに開催している本イベントは、「木彫りを通して世界をつなぐ」をテーマとし、県知事を名誉会長に、県、県芸術文化協会、砺波広域圏内の市町村、報道各社及び関係諸団体で組織された実行委員会が、海外及び国内から木彫刻作家を招請し、ノンコンクール方式で実施している。世界各国、国内作家、地元作家がそれぞれの民族、伝統、文化を表現する木彫刻作品を原木から作品完成に至るまで、野外で公開制作することにより、一般の人びとも含め、お互いのコミュニケーションを図り、国際理解と文化交流を深めるとともに、当町から世界に向け、木彫刻文化の情報の発信地となるための契機としている。また、完成した作品はキャンプ地に３ヶ月間野外展示した後、パブリックアートとして町内各地で展示保存している。

## ■開催への契機・経緯

昭和63年、ハンガリーで開催された木彫刻シンポジウムに、当町から２名の作家が派遣され、日本の木彫刻文化の一端を紹介した。この派遣で、各国の作家と交流を深める中で、世界に目を向けることの重要性を痛感した。当町は人口１万人余りの小さな町であるが、木彫刻師は350人にも達し、木彫刻技術の集積と集団的まとまりは、世界的にも特異な地域である。だからこそ、井波で彫刻シンポジウムを開催すべきとの気運が盛り上がった。

## ■目的・基本方針

完成した作品をコンクールで競うという形ではなく、キャンプ形式をとっており、入場者には作家の制作過程を、付随したイベントとともに鑑賞し、楽しんでもらう。

## ■開催にあたって考慮している点

これまでの実績によって、数々の受賞や海外彫刻シンポジウムへの招待という外部評価の面で大きなメリットを得るとともに、ボランティアスタッフ等の支援体制は、回を重ねるごとに充実してきている。反面、当町民の参加や理解が期待したほど伸びていないと感じられた。そのため、関係者の十分な意見交換会の開催や町民アンケートの実施など、町民の理解や参加への促進に重点を置いている。

## ■波及効果

制作活動やホームステイ等を通じて、言語、宗教、政治信条の違いを乗り越え、互いの民族的アイデンティティを認め合うとともに、伝統技術や芸術に対する考え方を学び、新しい芸術世界の創造の可能性が生まれた。また、数多くのボランティアや町民の参加により草の根的な国際交流の輪が生まれ、町民の誇りとする事業となっている。

また、プライベートな室内展示が通念であった木彫刻をオープンエアーに展示し、さらに町内各所にパブリックアートとして設置することによって、木彫刻の映える町並みづくりが進み、「木彫りの里」にふさわしい個性的な景観が形成されつつある。

## ■課題・今後の展望

各地で開催される木彫刻シンポジウムに毎年地元作家を派遣しており、世界にネットワークが広がりつつある。本イベントを継続して開催することにより、この広がりをより強固なものとし、「木彫り文化」の発信を続け、日本の国際化や異文化理解の推進を図る。

石川県　人口：1,176,601人

# 第14回JAPAN　TENT　－世界留学生交流・いしかわ2001－

主催　JAPAN　TENT開催委員会
会場　石川県内41の全市町村

## ■内　容

県内41の全市町村を対象にしたホームステイをはじめ、市町村独自でもさまざまなプログラムを企画し、実行している。また今回は「石川で知る日本人の心」を基本テーマとし、８日間の大会期間中には、そのテーマに沿った内容のプログラムを実施。

主なものとしては、金沢をテーマにした講演・フォーラム、伝統工芸・伝統文化を体験する金沢職人大学校、ステージイベント、世界の料理屋台などである。

## ■開催への契機・経緯

国際社会の明日を担う世界からの留学生、研修生を、恵まれた自然や伝統文化が息づく当県に招き、県民との交流を通じて日本の文化に触れ、真の日本と日本人を知ってもらう場を「JAPAN　TENT」と名付けた。“交歓と創造と連帯”をメインテーマとして、昭和63年に40カ国370名の留学生が参加し、第１回大会を開催した。

## ■目的・基本方針

日本で学ぶさまざまな国からの留学生、研修生を当県に招き、県全域を大きな交流の場「TENT」として県民との交流を行い、「世界に開かれた国づくり、地域づくり」を人と人との触れ合いを通して推進することが、「ジャパンテント」の大きな目標である。

## ■開催にあたって考慮している点

開催期間中は、ホームステイすることになるので、ボランティアで受け入れしてくれるホストファミリーの確保に苦労している。

また、県内41全市町村で開催するため、各自治体独自のプログラムの作成と市町村の協力体制、地元の大学等を中心とした学生ボランティアの確保と協力体制など、規模が大きいイベントであるため、細部にわたってマニュアルを作成している。

## ■波及効果

昭和63年に第１回大会を開催して以来、「JAPAN　TENT」に参加した留学生は130カ国・地域から、これまで５千人を超えている。留学を終えて帰国した人びとは母国の政治、経済、文化など、さまざまな分野で活躍しており、当県の“地域からの国際化”や日本の“世界に開かれた国づくり”を推進する面においても、多大な貢献をしてきている。

## ■課題・今後の展望

わが国の「留学生10万人受け入れ」体制を支え、豊かな国際交流と実りある国際貢献、そして世界の恒久平和にも寄与していくものと考える。





石川県輪島市　人口：27,754人

# 1999地球環境米・米フォーラムin輪島

主催　地球環境平和財団、1999地球環境米米フォーラムin輪島実行委員会
会場　輪島市、白米千枚田

## ■内　容

**〈春〉植稲祭（田植えフェスティバル）**

高円宮殿下を迎え、各国大使館員や各国ビジネスマン、外国特派員などとその家族、そして地元の人や全国からの参加者で、白米の千枚田で田植えを行った。また夜は、地元の住民との交流を図るため、ホームステイを通じ、食生活や生活習慣をありのままに体験できる場を設けた。

**〈夏〉「とんぼ田んぼシンポジウム」体験学習プログラム**

夏休み期間中、小中学生向け体験ツアーを企画し、千枚田で草刈体験や生き物観察などを行い、町野町曽々木にある体験実習館でわら細工を実習した。

**〈秋〉稲刈祭（稲刈りフェスティバル）**

春に開催した植稲祭の参加者を迎え、千枚田で稲刈りを行い、秋の収穫にまつわる祭りなどの伝統行事にも参加してもらった。

## ■開催への契機・経緯

自然生態系の循環の中で培われてきたエコシステムとしての水田稲作の知恵を、日本人自身が改めて捉え直し、その知恵と技術を世界に提供し、21世紀に美しく平和な地球を築くために「米米フォーラム」を地球環境平和財団が計画する。そして、当市において千枚田は貴重な観光資源であること、棚田が多い中山間地農業が中心であること、イベント性も高く観光都市「輪島」のPRに貢献できること、交流・体験などを通じ、子どもたちが貴重な体験を得られることで、本フォーラムに積極的に協賛することとして当市で開催決定する。





## ■目的・基本方針

主食としての米の潜在能力と、自然生態系の循環の中で培われてきたエコシステムとしての水田稲作の知恵を、日本人自身が改めて捉え直すこと。その知恵と技術を世界に提供し、同時に、稲作文化の根底にある「共に生きる」という精神を世界に訴えることで21世紀に美しく平和な地球を築くための大きな原動力となることを目指す。

## ■開催にあたって考慮している点

各国の大使館員が集まるということで言葉の問題、そして、夜は地元の人の家にホームステイすることで、習慣や食べ物、宗教等を事前に把握する必要があった。また、会場には一般観光客もおり、参加者とのトラブルが起こらないよう留意した。

## ■波及効果

数千枚もある棚田に参加者が、苗を植え、草を取り、稲を刈ることにより「いのち・水・土・森」そして「かけがえのない地球」を見つめ直すことができたと思う。世界人口の半分の人が口にする米を、作り手の立場に立つことで、1粒の米の大切さを感じ取ってくれたと思う。また、本イベントを通じ「輪島白米の千枚田」を全国、世界に発信することができた。

## ■課題・今後の展望

今後は、全国各地で継続して開催されるが、本イベントを通じ米の大切さ、また、人間は自然と共存し、かけがえのない地球を守っていかなければならないことを再認識する人が少しでも増えていってほしい。

福井県大野市　人口：39,920人

# 越前大野感性はがき展

主催　越前大野感性はがき展実行委員会、大野市、大野市教育委員会
会場　大野市内

## ■内　容

一枚の葉を、一枚の葉書（メッセージ）に置き換え、一人ひとりの小さなメッセージを集め、それを大きなメッセージにしていこうと考え、「小さなはがきに込められた大きなこころ…越前大野感性はがき展」を開催する。平成13年の概要は次の通り。

- テーマ「空」：空への思いを一枚のはがきに込めて
- 部　門：一般の部、中高生の部、小学生以下の部
- 参加費：無料
- サイズ：官製はがきサイズ（10×15cm）
- ジャンル：絵画、写真、書、切り絵、版画、文章（100字以内）、絵葉書など「空」を題材にするものなら何でも可
- 応募資格：不問（年齢、国籍など一切不問）
- 表彰：最優秀賞１点　賞状と副賞（賞金10万円と大野特産品）など
- 審査員：当市民10名、福井県立美術館長、詩人、女優、映画監督
- その他：優秀作品を当市内に掲示する。優秀作品約500点が掲載された作品集を出版する。

## ■開催への契機・経緯

越前大野感性はがき展実行委員会は、市の地域リーダー育成事業「越前大野平成塾」に参加した第２期の塾生が主体となって発足した会である。

平成塾では、「知ろう、見よう、考えよう、やってみよう」のスローガンのもと、２年間にわたり市の現状などについて勉強会を開いた。３年目は、北陸の小京都と呼ばれる城下町という歴史のある雰囲気を活かし、老若男女を問わずさまざまな人が参加できることを条件に、事業を実施することを検討した。その結果、196haの広さのブナ林を購入して環境保全に取り組んでいる当市から、自然をテーマにしてメッセージを全国に発信したいと考えて企画したのがこの事業である。



## ■目的・基本方針

全国から、当市及び環境に関わる芸術作品を募集し、展示することを通して、市民の芸術文化に対する理解を深めると共に、環境保全の気運を高め、当市からその文化を全国に発信することを目的とする。

## ■開催にあたって考慮している点

作品募集のお知らせについて、ポスターやパンフレットなどの送付先について、どのようなところがポスターを掲示してくれるか、また情報を発信してくれるかを話し合い、試行錯誤しながら送付している。



このほか、地元の人たちに、この取り組みを認知してもらえるようにさまざまな形でPRに努めている。

## ■波及効果

平成13年度で３回目の実施となるが、第１回展は5,008点、第２回展は6,412点の応募があり、応募者が増加してきた。少しずつだが、当市からのメッセージが全国に伝わっており、当市の情報が確実に受け止められPRできていると思う。

## ■課題・今後の展望

事業を運営していく上で、パンフレットの発送や作品の整理にかなりの作業量が必要だが、実行委員会でそれを担う人が大体決まってしまい、一部の人に負担が集中してしまう形となっている。

また、この事業は、市の委託事業として実施されているが、市の財政状態が厳しい中で、費用対効果について追求されるようになると、事業の効果が分かりにくい当事業の予算削減が考えられる。

このような課題をどう克服していくかが今後の事業の継続のカギとなるように思う。

福井県大野市　人口：39,920人

# 平成大野屋まつり

主催　平成大野屋本店（大野市）
会場　大野市まちなか観光拠点施設「平成大野屋」「平蔵」「中庭」






## ■内　容

- 丁稚どんコンテスト：平成大野屋のキャラクター「丁稚どん」が着けている前掛けにならって、小学生以下の子どもたちがさまざまな前掛けを着用し、コンテストを行う。
- 平成大野屋なべ：全国に委嘱されている平成大野屋支店主から地元の鍋食材を調達して、大鍋で煮込み、市民に無料配布する。
- みんなでつくる木：来場者をインスタントカメラで撮影し、その写真を葉っぱに見立て１つの木を造る。
- まんじゅうまき：屋根から菓子やまんじゅうを投げ、市民に拾ってもらう。大野のお祝いごとで見られる伝統風習をイベントに取り込んだもの。
- 方言当て大会：全国の平成大野屋支店主（大野さん）の地元で使われている方言を披露してもらい、来場者にその方言の意味を当ててもらうゲーム。支店主と市民とが会話形式で進める。

## ■開催への契機・経緯

平成大野屋事業は、幕末の大野藩が藩店「大野屋」を設立し、藩の財政を救ったという史実にならい、平成８年度から実施されている。全国の大野姓の方を平成大野屋支店主に委嘱し、当市からさまざまな情報を発信することにより市のイメージアップを図るとともに、イベントなどに招待して市民との交流を図っている。

しかし、当初、本事業の市民への浸透度が少なかったため、事業への理解、市民と平成大野屋支店主との交流の拡大、まちなか観光拠点施設「平成大野屋」の利用促進を図るため、市民と平成大野屋支店主が参画できる本イベントを計画した。

## ■目的・基本方針

市民ボランティアなど多くの市民の参画を得ながら、全国の平成大野屋支店主とともにまつりを運営し、市民同士が交流できる場を提供する。また、まつりを通して、本事業をPRし、当市のイメージアップを図る。

## ■開催にあたって考慮している点

本事業は、人と人との交流やまちなかの活性化を趣旨に事業展開している。よって、本イベントは、企画から運営までを多くの市民や店がボランティアで協力し、まつりを通して町が元気になるように努力している。

また、全国の平成大野屋支店主（大野さん）をまつりに招待し、当市民と交流ができるように、毎年イベントに趣向を凝らしている。

そのほか、イベントは、平成11年度に市がまちなか観光拠点施設として整備した「平成大野屋」を会場としており、まつりを開催することで当施設のPRも兼ねている。

## ■波及効果

- まちなか観光拠点施設「平成大野屋」の施設を周知することができている。
- ボランティアで携わった市民と平成大野屋支店主が、まつりの運営などを通してふれあうことができ、その後の継続的な交流につながっている。
- 本事業を理解してもらうとともに、約150年前の大野藩の歴史を知ってもらう機会になっている。特に、まつりにボランティアで協力してもらった小学生たちが、自分たちの町の歴史を知るきっかけになっており、社会の授業などでも取り上げている。

## ■課題・今後の展望

市外からも注目されるようなイベントや多くの市民が参画できるイベントの創出を図る。

福井県丸岡町　人口：31,697人

# 一筆啓上賞

主催　丸岡町、㈶丸岡町文化振興事業団
会場　－

## ■内　容

「一筆啓上　火の用心　お仙泣かすな　馬肥やせ」とは、陣中から妻に宛てた手紙で、日本一短い手紙として有名である。簡潔明瞭の精神を見事に表現した手紙として、手紙文の手本になっている。文中の「お仙」とは、初代丸岡藩主の本多成重の幼名であり、この手紙を書いたのはその父、本多作左衛門重次という徳川家康の忠臣であり、鬼作左と呼ばれた人物である。当町のシンボル丸岡城は、日本一古い城として有名であり、日本一短い手紙の石碑もこの丸岡城に建っている。当町では「一筆啓上賞」日本一短い手紙と題して、毎回テーマを設けて25文字～35文字の手紙文を募集している。平成５年度から始まり、９回目を迎えた13年のテーマは「いのち」である。

## ■開催への契機・経緯

当町では、平成元年度から史跡による町づくり事業を推進している。「越まほろば物語」「中野重治記念文学奨励賞・全国高校生詩のコンクール」「振媛文学賞」など、当町の史跡をテーマとした各種イベントを展開してきた。そうした中、５年度より日本一古い丸岡城に日本一短い手紙の石碑があることから、全国に日本一短い手紙を募集することになった。これが本イベントの始まりである。また、海外でも注目され、アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド市を拠点に、７年度から英語版一筆啓上賞も創設された。

## ■目的・基本方針

手紙という古来からの伝達手段が薄れた今、もう一度手紙の温かさを見直し、手紙文化の復権を目指すとともに、ふるさとを愛する心を養うことを目的とする。そして、25文字～35文字の手紙文を封書のみで応募できるとしている。

## ■開催にあたって考慮している点

入賞作品を毎回、作品集として出版することもあり、プライバシーに関わることは特に考慮している。また、毎回全国の教育機関（特に中学校・高等学校）に応募用紙を送り、学校単位で取り組むようお願いしている。そして、近年海外でも着目されたこともあり、各国の大使館にもポスター・応募用紙を送っている。

## ■波及効果

丸岡城を訪れる観光客が増え、町内の商店が活気付いた。そして、一筆啓上酒・一筆啓上米・一筆啓上しおり（越前織り）などの一筆啓上グッズができ、地場産業の振興にもつながった。

また、手紙を通しての歴史文化に対する意識高揚や、ふるさとへの愛着心高揚にも効果があった。

## ■課題・今後の展望

当初より、10回（10年間）まで継続するという計画で、平成14年度が10回目となる。10回を終えて、集まった約80万通の手紙を保管・展示・閲覧するための手紙博物館（仮称）建設が大きな課題となっている。





# ネイチャリングフェスタ「自然と遊ぼうin松本」

主催　ネイチャリングフェスタ実行委員会
会場　アルプス公園



## ■内　容

「自然と遊ぶ」楽しさがフィールドいっぱいに展開される３日間のイベント。キャンピングやさまざまなネイチャーゲーム、小動物とのふれあい、など自然の中で、自然と過ごす元気な真夏のわんぱく村である。

１．キャンプ村：アルプス公園内に100サイトのキャンプ村を設営し、日本全国から１泊２日、または２泊３日の完全予約制により、キャンプ体験やキャンプ技術の指導を実施。

２．自然体験プログラム：前年好評だった、ナチュラリスト村、チャレンジ村、ふれあい動物村、クラフト村、熱気球搭乗体験に加え、新鮮まるかじりレストラン、昆虫ドーム、フリーマーケットを加え、気軽に参加して楽しめるプログラムを満載。

３．ストリートパフォーマンス：ピエロや足長クラウンなどの大道芸人がアルプス公園の通路や木陰でパフォーマンス。

その他、フェスティバルステージで、ファミリーコンサート・キャラクターショー・昆虫クイズ、アルプス山岳館では、３D立体アニメーションを映写。

## ■開催への契機・経緯

めまぐるしい時代の進展・コンピュータが世界を動かす情報化社会の中で、今あらためて自然の尊さ、愛しさが見直され、「人と自然の調和」「保護・共生・再生」が語られている。

こうした時代背景の中、21世紀を迎えるにふさわしいミレニアム記念イベントを模索した結果、21世紀の子どもたちが自然とふれあう機会、自然のいとなみに感動する機会を与えるネイチャリングフェスタの開催にたどりついたものである。

## ■目的・基本方針

基本テーマは、「人と自然、ふれあいと感動」。21世紀の自然、21世紀の都市と自然、未来を担う子どもたちの心の育成、そして新たなふれあいと交流などを目的とし、ミレニアムを記念して始まったイベントで、平成13年は「真夏のわんぱく村」をサブテーマとし実施したものである。

## ■開催にあたって考慮している点

１．ボランティア組織主体による企画と運営。
２．テーマに沿った企画・内容の選択。
３．駐車場確保が困難なことから、シャトルバスによる輸送体制の確立と交通規制の実施。
４．野外イベントによるための事故防止対策。

## ■波及効果

自然とふれあう子どもたちののびのびとした姿、生き生きとした目の輝き、来年もやるの？と問いかけてくる子どもたちの声が何よりの財産ではないだろうか。

県内外からのキャンプ参加者からは、来年もぜひ参加したいという多くの声が寄せられている。自然環境都市を目指す当市のイメージアップの一翼を担えたのではないかと思う。

## ■課題・今後の展望

平成13年度で２回目となったが、前年の内容を取捨選択し、アルプス公園一会場による開催となった。財源確保、イベントの定着化、内容の新鮮さ等が今後の課題となる。





# ストリートフェスティバル・イン・シズオカ

主催　ストリートフェスティバル・イン・シズオカ実行委員会、㈶静岡市文化振興財団
会場　静岡市青葉シンボルロード






## ■内　容

最近盛り上がりを見せている、ストリートで活動するミュージシャンやデザイン、ファッションなどの若手アーティストを青葉シンボルロードに一堂に集め、自由に音楽を演奏したり、アート作品を創作・発表することによって、街の中に芸術の一角を創出した。

ミュージック部門では、各ブロックに設けられたポイントで、静岡県内だけでなく、東京・名古屋等から集まったミュージシャン総勢14組が演奏し、観客と一体となったステージを繰り広げた。

アート部門では、県内外で活躍している若いクリエイターがジャンルを問わず作品を自由な方法で表現できる「アートステージ」、１枚の布を、糸を使わずにピンワークというディスプレイ方法のみで洋服を作り上げてしまう「ARTの達人」、他に、スプレーや塗料を利用してボードに絵を描くグラフィティアートのコーナー、また、来場者の参加コーナーとして、１人１つの紙片に“喜び”と“怒り”を思いのまま表現してもらい、50人分貼り合わせて作品を創ったり、クリスマスリース制作体験のコーナーを設けた。

## ■開催への契機・経緯

ストリート文化は、文化に直に触れることが出来るものである。今までの「舞台の上からの芸術」ではなく、見る者と見られる者の融合が存在するものだからこそ、活力ある文化の推進となる。

また、静岡市役所の前から市街地を横切るようにしてのびる青葉シンボルロードは、休日などにはさまざまなパフォーマンスが気軽に行われ、市民の目を楽しませている。市街地の中心に、広々としたパフォーマンス空間があるのは全国でも珍しく、地域文化の発信地点としてこれほど適切な場所はないであろうと思われた。

中心市街地での新たな文化イベントの創造を模索していた中、このような点に着目し、本イベントの開催に至った。

## ■目的・基本方針

若者の芸術文化の振興を高めるとともに街に賑わいを与え、活性化を図る。また、『ゴミを出さない』をイベントのポリシーとしているため「その日限りのものにならない」「無駄をなくす」ということを、企画を考える段階から取り入れている。

## ■開催にあたって考慮している点

音楽等がイベントに伴うため、騒音対策及び周辺対策を徹底しなければならない。周辺町内会・商店街の理解を得ることが重要である。路上で行う演奏活動及びパフォーマンス等については、警察との事前協議も必要である。

## ■波及効果

静岡で活躍しているミュージシャンやアーティストに多くの市民が関心を寄せていた。今回のイベントの感想も96.4%もの人が「面白かった」と答えていたことから（アンケート結果）、当初の目的どおり若者の芸術文化の振興を高められたと思う。また、偏見の目で見られがちであったグラフィティーアートの芸術性とモラル面をアピールすることができた。

## ■課題・今後の展望

「大人の文化祭」的な手作りの良さは残しつつ、今後はジャンルや参加者の年齢層にも広がりを持たせたいと考えている。

愛知県平和町　人口：13,331人

# HEIWAの手づくり絵ハガキコンテスト

主催　平和町、平和町教育委員会
会場　平和町総務部企画課

## ■内　容

誰もが心の中にある平和のイメージをさまざまな手法により絵ハガキに表現することで平和の大切さ、平和の尊さを考えてもらう。作品は、0歳以上の子どもから応募が可能で1人あたりの応募点数に制限はない。作品には「HEIWA／JAPAN」「平和」「PEACE」の表示、平和を伝える文章やメッセージを絵に添えることもできる。

募集要項には、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル語の5ヶ国語を用意している。

入賞作品で作品集と絵ハガキセットを作成。作品に込められた平和の願いを広く伝えるため、国内公共施設や世界各地のユネスコ協会などに平和の使者として送付している。また、パネル化した過去の優秀作品の貸し出し事業も行っている。

作品の募集と同時にユネスコ協会の世界寺小屋運動に参加し、書き損じハガキの回収を行い、ユネスコ協会に寄付している。

## ■開催の契機・経緯

明治39年、「未来永劫にわたり争いのない地域社会になるように」と当時の人びとの願いの込められた平和という名。全国唯一平和の名のつく当町で、名前にふさわしい活動はできないものかと町の将来像を住民が一緒になって考える「住民会議」の場で提案された住民の声がきっかけである。

## ■目的・基本方針

全国で唯一平和の名を持つ自治体として、20世紀に築かれた平和の価値観を21世紀に伝えていこうという目的で開催。継続的に平和について関心を持つ機会を提供することで、平和な地域社会の創生に貢献していくことを方針としている。

## ■開催にあたって考慮している点

応募された平和のメッセージを多くの人びとに見てもらい、また多くの人の平和のイメージを知ってもらう場として、全応募作品展を開催。ボーダレスな交流ステージの創出に努めている。

ボランティアスタッフ「ぴーぼーたー」が、広報活動、審査作業補助、応募全作品展の準備等を行い、コンテストとは別の角度からコンテストの趣旨の普及を図っている。

## ■波及効果

過去5回にわたり、コンテストを実施したことにより、町の知名度が上がった。また、応募者には、自覚的に平和を考えてもらえる機会を提供できた。さらに、学校を中心に全国的にコンテストが定着しつつある。

## ■課題・今後の展望

今後は、ホームページ等を通じ、「平和の市場」を日本から世界に広げ、さらに多くの人に平和について考えてもらう場を提供していきたい。

また、ボランティアスタッフをもっと活用して、住民が前面に出る、住民主導型のコンテストに転換していきたい。





# 源氏ろまん　宇治大田楽まつり

主催　宇治大田楽まつり実行委員会
会場　京都府立宇治公園（中の島）雨天時：宇治市文化センター大ホール






写真（左右ともに）：平成12年度宇治大田楽復活祭

## ■内　容

田楽は、ビンザサラなど特殊な楽器を奏しながらシンメトリックな隊列でダイナミックに躍る平安時代の代表的な芸能で、宇治の白川を拠点とした本座田楽というプロの集団が、宇治離宮祭をはじめ各地で活躍していた。ところが、現在当市では、歴史と文化のまちとしては珍しく、伝承された芸能がなかった。

こうした中で、平成10年度、総合芸術家である野村万之丞氏の作・演出の「楽劇大田楽」を、氏を中心とするACT.JTの指導・協力により、市民から出演者を募集し、『大田楽復活祭』として開催した。13年度で4回目の開催となる。特に、13年度は当市制施行50周年事業として取り組み、より多数の市民が出演し、市民のまつりへと広めていくため『大田楽復活祭』から『宇治大田楽まつり』と名称を改め、オリジナルな躍りの「宇治田楽」の公演も併せて行った。

## ■開催への契機・経緯

当市は、ふるさと創生事業として紫式部文学賞及び同市民文化賞を平成3年度に創設し、両賞の贈呈式を中心にイベント「源氏ろまん」を開催するとともに、「源氏物語のまちづくり」に取り組み、その集大成として、10年度に源氏物語ミュージアムを開館した。それまでの本イベントは、観賞型で市民が直接関わりをもち市民参加のイベントとしての要素は希薄であった。そこで、10年11月に宇治青年会議所が主体となり市民参加の準備実行委員会を結成し、宇治を発祥の地とする伝統芸能、郷土芸能的な田楽をテーマに「宇治大田楽復活祭」を開催した。

## ■目的・基本方針

市民の芸能への関心を盛り上げ、それを背景に田楽をテーマとした芸能の再生・復活を果たし、市民と行政のパートナシップにより「市民のまつり」を創造するとともに「源氏物語のまちづくり」を芸能の分野からも充実させ、21世紀の当市の文化振興を図ることを目的とする。

## ■波及効果

「宇治大田楽復活祭」開催後は、市民の高い評価を得るだけでなく継続の積極的な要望も強く、平成11年度に市民参画型の30数名の実行委員会へと発展し、行政からも実行委員の構成メンバーとして1名を派遣し、市長が名誉会長に、市議会議長が顧問に就任する組織形態とした。また、13年度からは出演者の半数近くが「宇治田楽座」を自主的に結成し一週間に一回の自主練習を始め、学校、各種サークルなどへの指導にあたり市民のまつりの礎が構築されてきている。

12年度までの「楽劇大田楽」は、著作権等の関係から、市民がいつでもどこでも自由に演じることが出来ない制約があった。13年度に創作したオリジナルな「宇治田楽」は、著作権等を実行委員会に帰属させ、小・中学校の運動会や文化祭での発表のための指導、保育所・町内会の秋まつりや他市町でのイベント出演など、当市内外に情報発信し、出演者、実行委員会の大きな力となっている。

## ■課題・今後の展望

「楽劇大田楽」の公演に要する経費が高額にのぼり、日本芸術文化振興会（文化のまちづくり事業）の補助金及び当市からの分担金により賄うのが精一杯であり、「宇治田楽」の調査及び制作の委嘱並びに衣装、楽器等の調達に係る経費が大きく課題となっている。

# 「孝行まつり」とちょっと照れくさい孝行のメッセージ

主催　市原村おこし委員会
会場　市原公会堂








## ■内　容

平成８年から毎年５月４日に「孝行のまつり」を実施して、集落住民63戸270人が参加している。

同年から「ちょっと照れくさい孝行のメッセージ」の全国公募が実施しており、全国47都道府県及び海外からも作品が集まっている。

平成10年4,663通、11年2,760通、12年1,839通も集まり、集落では毎年この中から孝行にちなんで55（こうこう）点の作品を選び、これを手づくりの冊子にして配付している。

この他に、「小春米」「孝行のTシャツ」もつくり、「孝行」を集落の顔として売り出している。

## ■開催への契機・経緯

市原集落（63戸）では、村おこしのテーマとして「孝行」を選択した。

経緯としては、大正時代に全国の「孝行節婦」３人のうちの１人に選ばれた故森安小春の不屈の精神と徳を伝えようと「孝行の里づくり」を町が推進した村づくりの核と位置づけて、平成８年から毎年５月４日に「孝行まつり」、また「ちょっと照れくさい孝行のメッセージ」の全国公募を展開している（故森安小春は、市原に４歳の時養女に来て以来、市原に住んでいた。町内には旧居跡と碑文を有する小春公園がある）。

## ■目的・基本方針

「孝行」という、現代社会の中で、ややもすると忘れられようとしている徳の精神をはっきりと打ち出すことによって、青少年育成及び村づくりの中での協調精神の醸成を基本方針としている。

## ■開催にあたって考慮している点

補助金がほとんど無い単独事業のため、開催経費の捻出に苦慮している。全国公募の賞金だけで10万円、手づくりの冊子（２千部）が20万円かかるため、いかに経費を少なくするかに一番苦慮している（印刷等はすべて手づくりで、製本のみ業者委託）。

集落の住民270人のうち、一人でも多くの参加を得るため、実施日を気候のよい５月４日にしている。

## ■波及効果

「孝行」と言うと、なんとなく照れくさい感じがするが、そんな中で、５年間継続的に実施することにより、住民の誰もが堂々と「孝行の村づくり」をしている市原と胸を張って言うようになった。次第に本当の「孝行」にも結びついてきたのではないかと自負している。

## ■課題・今後の展望

集落の会計の１割程度を占める経費の捻出が、いつまで継続できるかが一番の課題である。

# 岡山弁はええもんじゃ～ことばの祭り・建部～

主催　岡山弁はええもんじゃ実行委員会、建部町、建部町文化センター
会場　建部町文化センター









## ■内　容

大ホールで開催される第１部では、岡山弁による町長の開会挨拶に始まり、阿波村や笠岡市真鍋島からの出演者による「わしらの地域の自慢ばなし」や岡山弁による再現劇、若者たちが話す岡山弁などが披露される。青山融氏による大爆笑の「岡山弁入門講座」のほか、岡山弁クイズ、岡山弁カラオケなども催された。会場はまさに岡山弁に埋め尽くされ、岡山弁を通して町の過去と現在が浮かび上がった。

小ホールで開催される第２部は交流会として、参加者たちによる岡山弁の詩の朗読、岡山弁川柳の展示等が行われた。

## ■開催への経緯・契機

お国言葉というものは、日常的に何気なく使っているだけに、次第に失われ、時とともに共通語の方向へ、どんどん変容していく。大切な郷土の文化遺産であるお国言葉「岡山弁」を消さないために私たちに出来ることは、再発見、再認識、再確認し、自覚しながら積極的に使うことである。

当町は、かつて備前と美作の国が交差する宿場町で、古くから河川、陸上両交通の要所であった。ことばにより文化が行き交う地であり、岡山弁のいわば「へそ」に当る。この地で、町に在住する岡山弁研究家や岡山弁の語り部たちを中心に、住民によるお国言葉の大会を開催した。

## ■目的・基本方針

IT時代、あらゆることが便利になった反面、生のくらしの言葉を直接交わすことが少なくなった。この生の言葉を映像、音、冊子等にして次世代へ伝える。また、大会を機に、県内各地から言葉の情報を収集し、発信する。毎年継続して実施することにより、「お国言葉文化」の交流基地となる。

## ■開催にあたって考慮している点

くらしの中で使われている「うちらのことば」をテーマに楽しむことを主眼にした。これは、地域の住民の発意により、意志を同じくする人びとが実行委員会を組織して立ち上げたものである。そして本イベントを通して町民から発信したものが波及し、人びとが集い、世代を超えた情報交換を行う場となり、県内外へ広く継続的に交流発展することをねらった。

## ■波及効果

大会を契機に、町が岡山弁を守り伝える「岡山弁の町・宣言」に至った。公募により県内外から924通に及ぶ岡山弁が集まり、また、公的行事の挨拶、説明、案内板にも積極的に使われるようになった。岡山弁を通して人びとに気安さ、温かさが生まれ、住民から生まれた大会が、関心を呼び、町まで動かして、「うちらのことば」を大切にしようという機運が高まった。

## ■課題・今後の展望

生の岡山弁を聴いて、見て、認める機会を広げ、積極的に岡山弁を残していきたい。また、情報交換の中心的な場として、気楽な普段着で付き合える町、「行ってみゅう、住んでみてぇ、温ったけぇ町」になることを目指したい。

# 月見の宴

主催　土器川ロマンの会
会場　土器川親水護岸



## ■内　容

毎年、仲秋の名月の日の夕方５時50分から９時にかけて、一級河川土器川の親水護岸で開催される。讃岐富士（飯野山）にかかる名月を眺めながら秋の一夜を楽しむもので、篝を焚いた“月の道”、ボンボリの明かりの“月見橋”、対岸の堤への火文字など讃岐富士のシルエットを借景に火と月明かりによる幻想的な光景が見られる。芋と旬の野菜、肉、うどんを入れて煮た京極鍋を囲み、太古からはぐくまれたなつかしい秋の風物詩を体験するイベントである。

お茶席コーナーや天体観測、花火、アメゴの塩焼、讃岐牛、鶏の串焼き、うどん、すし等各種バザーもある。北海道京極町との交流による名水の提供、とうもろこしの販売も行っている。

## ■開催への契機・経緯

昭和61年秋、「讃岐富士から昇る満月を眺め、想い出を語り、土器川にロマンを求める」会として、土器川ロマンの会が発足しており、本イベントが当会のメインイベントである。

土器川という水の少ない川の中で、周囲の明かりも少なく、飯野山（讃岐富士）を河川敷から見る景観、太古から変わらないなつかしい“ふんいき”を資源として、いつまでも大切にすることを考えて開催している。

また、ボンボリ等のイベントグッズはほとんどが手作り（竹製）であり、地域の技法（人的資源）を開示してもらい、地域の人と共にイベントを開催している。

## ■目的・基本方針

ふるさと土器川と讃岐富士というすばらしい空間を利用して、人と人の出会いを大切にし、交流を深めることを目的にしている。基本方針として、手作りと自己資本で運営することにしており、継続することも重要であるが、少しずつ変化を持たせている。

## ■開催にあたって考慮している点

駐車場や交通問題の解決のため、コミュニティ・バス“ぐるっと”を臨時に走らせるなど、周辺（地域）に迷惑をかけず、協力してもらえるよう、清掃等についても気をつけている。

イベントが毎年開催のため、少しずつ内容を変えていくように努めているが、新しい企画の開発も重要だと考えている。

## ■波及効果

１.当市と関係の深い北海道京極町の物産を紹介することにより、京極町との交流を深めることに役立った。
２.土器川の周辺地域に住む人びとの交流の場とすることにより、土器川の自然と環境を大切にするという気運が盛り上がった。

## ■課題・今後の展望

イベント参加者にガスコンロや鍋を持参して参加してもらっているが、今後は企画・運営・設営・片付けにも参加してもらえるような参加型イベントにしていきたい。





# 夕焼けプラットホームコンサート

主催　夕焼けプラットホームコンサート運営委員会
会場　JR下灘駅





## ■内　容

日本一海に近い駅「JR下灘駅」のプラットホームを舞台に、プロをはじめ、4組のミュージシャンが演奏を披露する。夕日の織りなす光の芸術と、若者が醸し出す旋律が来場者の胸を熱く打つ。

コンサートは年々盛況となり、プロの間でも出場希望者が増えている。このため、このコンサートに先立ち、8月中旬に「夕焼け音楽祭FUTAMIミュージックフェスティバル」を開催し、グランプリ獲得者に出場権を与えるようになった。

開放的な下灘駅は、眼下に瀬戸内海を一望し、日本一美しいと言われる夕日との組み合わせは、えも言われぬ美と感動を与える。最近は、コンサートの盛り上がる頃にトロッコ列車も到着するようになり、一層の盛り上がりを見せている。

## ■開催への契機・経緯

昭和61年、予讃本線内山線の開通により、海岸線の下灘駅が無人化され、将来の廃線の危機も感じられるようになった。これに対して、さまざまな存続運動が展開された。本イベントもその一つである。

愛着のある駅のプラットホームでコンサートを行うことで、町の文化を高め、鉄道に関心を呼び戻そうと考えた町の若者たちが寄付を募り、手作りのコンサートを行うようになった。

## ■目的・基本方針

日本で一番海に近い下灘駅を会場に、夕日をバックにした音楽を通して駅と路線を守り、町内外に駅と双海のすばらしさをアピールするとともに、「夢・希望・やさしさ・底力」を胸に、町の若者が自ら、交流のまちづくりの一端を積極的に担っていく。

## ■開催にあたって考慮している点

本イベントは「しずむ夕日をバックに、観客の心に響く音楽を提供すること」に存在価値があると考えている。

真に人を感動させるには、会場の演出や出演者もさることながら、町の若者が自ら考え、汗してコンサートを作り上げなければならない。そうしないと人の心には届かない。このことを忘れずに、小さいけれど、日本一の感動を与えるコンサートを続けていきたい。

## ■波及効果

本イベント開催前は、過疎化の進展によって町の人びとは皆、自信を失いかけていた。一緒にコンサートに取り組むことにより、年齢・職業の異なる青年がお互いに顔見知りになり、意見を交わすことで信頼感が醸成され、結束力・責任感が増すようになった。町外からのミュージシャンや観客との交流によって新しい感性が芽生えるようになった。マスコミにも高く評価されるコンサートによって、町のイメージアップが図られ、町の人たちに「生まれ育った町に対する」自信・愛着・誇りが醸成されるようになった。



## ■課題・今後の展望

すでに16回を数えたコンサートは、町内外の人びとにすっかり定着してきたが、マンネリ傾向も見られる。これからは、回ごとにテーマを定め、より多くのミュージシャンと交流しながら、双海生まれの曲を発信し、コンサートに新しい風を吹きこんでいきたいと思う。

# 「結婚宣言」エッセイ全国コンテスト

主催　瀬戸町イベント実行委員会
会場　瀬戸町三机（須賀公園）







## ■内　容

全国から「二人の出会い」、結婚をテーマにしたエッセイを募集し、最優秀１組のカップルに手づくり結婚式をプレゼントする。「『結婚宣言』エッセイ全国コンテスト」はサブタイトルで、本イベント名は「瀬戸の花嫁まつり」である。この花嫁まつりのオープニングセレモニーとして、最優秀で選ばれた２人が中心となりイベントを盛り上げる。

結婚式は夕方に行われ、昼間は地元青年団による相撲大会や、地元の黒和牛「高茂牛」を使ったバーベキューを楽しむ。会場はアマチュアバンド演奏、水上大運動会、ゲームなどで賑わう。夕方から地区の中心部で結婚式の出発セレモニーを行い、人力車で町中をパレードしながら結婚式場（八幡神社）へ向かう。

神前結婚式を終え、樹齢1,200年を越すビャクシンの前で二人の愛を誓う。そして、披露宴では地元特産の海鮮料理を楽しみながら、花火大会が２人を祝福する。

## ■開催への契機・経緯

三机地区では古くから和霊祭という行事があったが、参加者・内容共に小さく廃れてきたため、まちおこしの一つとして和霊祭を核に、さらに数多くの事業内容を盛り込み、町の活性化・PRを目指して、名称も新たに「瀬戸の花嫁まつり」として昭和61年度にスタートした。

このイベントも、第５回目頃から事業内容のマンネリ化等により参加者が年々減少し、イベントの盛り上がりも今ひとつとなっていった。なんとかイベントを盛り上げようと、イベント名にふさわしい事業内容を検討し、全国を対象に当町をPRすることを目指して、第12回から新たに発想したのが「『結婚宣言』エッセイ全国コンテスト」である。参加者には当町を第二の故郷として愛してもらい、その横の繋がりによって町の活性化へと結びつけようとするものである。

## ■目的・基本方針

本イベントを通しての町民の「心の活性化」、また、町が元気になる起爆剤、そして新たな発想の展開など、町民の心を引き寄せ、町の活性化につなげることを目的とする。

## ■開催にあたって考慮している点

①イベント実行委員会のまとまり。②各種団体との連携。③イベントを通し、姉妹町（岡山県瀬戸町）との交流事業。④町の活性化に結びつく事業内容。⑤町民が心待ちにするイベント。「心の活性化」。⑥当町のPR。⑦当町ならではのイベント。

## ■波及効果

①当町の知名度アップ。②町内の各地区でも、地域の若者たちによる町の活性化を目的としたイベントが開催されるようになった。③町外からの参加者が増加傾向にある。④結婚式を挙げた二人が在住地区で当町をPRしてくれる。⑤テレビ・ラジオでも取り上げられ、問い合わせが増加した。

## ■課題・今後の展望

①イベント開催にあたり、準備、打ち合わせ等に何日も時間を費やし、負担が大きくなっている（当地域では若者が少ないため、他の役とも重複している委員が多い）。②人材育成（リーダーシップが発揮できる人材）。③お金をかけないイベントづくり。

# 筑後吉井のおひなさまめぐり

主催　筑後吉井おひなさまめぐり実行委員会
会場　白壁通り、蔵しっく通りを中心に町内24ヶ所



## ■内　容

町内の旧家が所蔵する、江戸時代から平成までの、豪華なものから珍しいものまで数多くのお雛様を毎年２月15日から４月３日まで、旧家や商店、公共施設など約24ヶ所、その他個人の家などを合わせると100軒ほどで展示している。

「江戸時代から平成のおひな様とおしゃべりしてみませんか」をキャッチフレーズに、来訪者に白壁土蔵の町並みを散策しながらおひな様を観賞してもらう。

休日には、中学生の観光ボランティアガイドとともに、吉井の魅力を訪ねてほしい。また、物産販売のしらかべ市と、人力車を引く会による散策も行われる。

## ■開催への契機・経緯

第１回の本イベントが行われた平成５年の前年、日田の豆田のひな祭りを取材したあるテレビ局のプロデューサーが、その帰りにふらりと町内の和菓子屋に立ち寄った。

「白壁土蔵の歴史ある町ですから、さぞかしいいおひな様があることでしょうな」とプロデューサー。骨董好きでおきあげびななどをコレクションしていた店の主人は、その言葉に触発されて、吉井もおひなさま祭りをやろうじゃないか、と骨董仲間に呼びかけ、早速準備に取りかかった。

各人のコレクションを店先にさりげなく飾るといったスタイルであったが、テレビの力は絶大で、たくさんの女性たちがどっと当町のおひな様を見に押しかけてきた。

この反響に驚いた町の人びとはお宝さがしに一念発起する。当時まだ数多く残っていた旧家の蔵の奥は、何が出てくるかわからない玉手箱状態だったという。

こうして、展示会場だけでなく、自分たちが住む家やショーウィンドーを自分たちの手で飾り、訪れた人びとに町をめぐりながら見てもらうという、吉井ならではのスタイルができあがり、「おひなさまめぐり」は今年（平成13年）で９回を数えるまでになった。

## ■目的・基本方針

白壁土蔵の町並みに似合い、宿場町の面影を残す心温かい庶民派のままの本イベントを通して、出会いを大切にしている町の人びとの心づくしを大切に育てていく。

## ■開催にあたって考慮している点

特に休日における駐車場のスムーズな運用には気を配っている。開催地が主に国道沿線や交通量の多い生活道路に面しているため、来訪者の安全な通行を図っている。

## ■波及効果

春を告げる風物詩となった本イベントで、町の知名度が格段にアップした。

## ■課題・今後の展望

平成13年で既に９回を数え、さらに開催期間が長期にわたるため、記念行事のようなインパクトのある催しを立案する必要がでてきている。





# 12Xおらんだ

主催　12Xおらんだ実行委員会
会場　平戸港交流広場、学校他








## ■内　容

本イベントでは、さまざまな分野で活躍するオランダ人芸術家・専門家の中から選抜した人たちが1ヶ月間平戸に滞在し、ワークショップ、コンサート、学校訪問、共同製作、展覧会等の幅広い活動を市民と共に行った。また、オランダ人は書道、茶道などの日本の伝統文化を学び、市民活動に参加した。

本イベントは、平戸オランダ商館の復元とその活用を視野に入れ、現代の平戸を舞台としてオランダ人との出会いと交流が始まることを意図している。平戸市文化協会の所属団体を中心に受入態勢を整えたが、言葉の問題などもあり苦労も多かったが、多くのボランティアの参加を得て、家族を含めて多様な活動を行うことができた。平成13年度は平戸の代表団がオランダを訪問し、参加者との交流を行った。

## ■開催への契機・経緯

日蘭の市民レベルで、400年前平戸で展開されていた日蘭交流の現代版を実施することが提案され、平成12年度は日蘭交流400周年記念事業の一つとして実施されることになった。

オランダ国内で参加者募集を行ったところ150名の応募があり、その中から12名を人選した。平戸では各参加者にそれぞれ受入団体を設け、ワークショップや学校訪問の調整に当たると共に、平戸滞在中生活面での世話を行った。

## ■目的・基本方針

17世紀初頭にはオランダ商館が平戸に設置され、平戸市民との間に比較的自由な交流が行われていた。本イベントはこのような交流の歴史を踏まえ、平戸オランダ商館の復元を視野に入れ、当時のような交流を再現するものである。

## ■開催にあたって考慮している点

事業の実施にあたっては、参加者とのコミュニケーションが重要であり、事前の日程調整、来日後の日程の変更に対する対応等、受入団体の役割が重要で、十分な体制を整える必要がある。

また、ワークショップや学校での活動にあたっては、十分な事前協議が必要となり、通訳の配置を考慮しなければならない。言葉の問題は重要であるが、受入団体との人間関係によりうまくいく部分もあった。

## ■波及効果

受入団体を中心に、コンサート、展覧会、講演会、ワークショップなど多様な活動が企画され、幼稚園児から高齢者まで多数の参加者があった。この事業は現代のオランダ文化を理解するうえで、大きな役割を果たすと共に、日本の伝統文化にも直接触れることができた。平戸での経験をもとにした絵本や絵画集の出版も計画されており、日本文化をオランダで理解してもらう上でも大きな役割を果たすものと期待される。

また、オランダの高度な芸術文化に直接触れることにより、地域振興を考える上で新たな展開が期待できる。

## ■課題・今後の展望

今後も継続して実施し、復元商館での永続的な交流を目指したい。その場合、メンバーの人選、平戸での受入組織体制、活動内容などについて再検討する必要もある。

熊本県波野村　人口：1,861人

# 神楽フェスティバル

主催　波野村神楽フェスティバル実行委員会
会場　道の駅「なみの」神楽苑

## ■内　容

村内外13団体の神楽共演が行われる。遠くは島根県や大分県からの参加もあり、その地域に伝承されているさまざまな流派の神楽の舞を楽しめる。

当村からは、260年の歴史をもつ中江岩戸神楽保存会、起源は同じながら違う流派である横堀岩田神楽保存会、中学生を中心とした、波野太鼓子供部会が参加する。

平成13年は第10回という節目であり、例年より１時間延長して神楽フェスティバルは開催された。

## ■開催への契機・経緯

当村は「神楽舞うすずらんの里」をキャッチフレーズにしており、地域文化の象徴である神楽で村おこしを進めてきた。そんな中、伝統芸能継承、当村の観光・農林業・商業の活性化、交流人口の拡大を図るため、本イベントが開催されるようになった。

## ■目的・基本方針

他町村との親睦を深め、当村のＰＲを行い、特産品販売による経済活性化を目的とする。

## ■開催にあたって考慮している点

参加団体市町村の特産品販売を行うので、それぞれの団体市町村のＰＲ活動も行われる。それにより村外交流、地域振興等に考慮している。本イベントをきっかけに当村と参加団体市町村との交流を深めたい。

## ■波及効果

近年では、本イベント期間中に２万人の入場者があり、全国的にも「神楽フェスティバル」の名が知られ始めている。ますますの充実化を図り、経済効果もあがるよう、特産品やそばの販売促進を促したい。

## ■課題・今後の展望

屋外会場であるため、雨が降ると観客が濡れてしまう。会場の雨天対策が必要である。また今後は若年層の観光客獲得を狙う。





大分県九重町　人口：12,086人

# 九重氷の祭典

主催　九州ウインターフェスティバル九重氷の祭典実行委員会
会場　九重町飯田高原、長者原



## ■内　容

地域の活性化を目指して、日本最南端での氷の祭典は、冬の厳しい寒さを利用したイベントである。イベントでは、50基を超える氷像や雪像を作成、郷土芸能の披露、特産品販売等のバザーコーナー設置のほか、氷の彫刻コンテストなど数多くの催し物を実施している。

## ■開催への契機・経緯

当町の飯田高原の冬の寒さは厳しく、春・夏・秋は九州本土の最高峰である「くじゅう山」への登山や雄大な自然景観と各地に噴出する温泉群を求めて、多くの観光客が訪れているが、そんな冬の厳しさを逆手にとり、九重の冬の自然のすばらしさを多くの人びとに知ってもらい、当町の地域の活性化を図ろうと、元気がある有志の取り組みからスタートした。

## ■目的・基本方針

地元の有志の発案と地域の活性化を目指して始まった本イベントは、今日では一大イベントに定着したが、この間、実行委員の努力は大変なものがあった。そのおかげで、実行委員のみならず、地域の住民の結束力が強化され、イベントの成功以外に、地域の発展のための各種の取り組みに効果が生まれた。これからも、地域の融和と連帯感の強化を大事にしたい。

## ■開催にあたって考慮している点

町内の多くの団体が氷像づくりに



取り組むほか、地元住民はイベント期間中に寒い中、率先して駐車場係等を引き受け、バザーコーナーの担当になるなど自主的な取り組みが定着しているが、さらなる地域の連帯によるイベントの開催を呼びかけている。

本イベントは気象条件との闘いでもある。開催までには数日に及ぶ徹夜で、雪づくりや氷づくりの作業をするなど、大変な努力が必要である。

これまで雪の確保のために、大型トラック20台で広島県芸北町から雪を運んだり、一度作った雪が暖冬で解けてしまったりと苦労の連続でもあった。また都市のドライバーは、雪道の運転が不慣れなため、除雪作業の徹底による交通安全対策に注意をしているほか、渋滞が発生するため、駐車場の確保に苦労している。

## ■波及効果

平成14年の冬で14回を迎え、年々内容を充実してきた結果、今日では訪れる観光客も３日間で５万人を超え、旅行エージェントのツアーが組まれるなど、九州内外に知られる冬の一大イベントに定着した。

また、実行委員会では、雪づくりの技術を活かして、法人を設立し、スキー場経営を始め、九州・沖縄等の修学旅行等、年間６万人近いスキー客を受け入れるまでになった。地域の観光業や商工業などに大きく貢献するようになり、地域活性化の効果は多大なものがある。

さらに、雪の確保を通じて、広島県芸北町とは民間レベルでの交流が生まれたほか、地元住民の連帯意識が強まり、地域の活性化に大きく貢献している。

## ■課題・今後の展望

実行委員の結束と地元住民や多くの団体の取り組みの強化を図りながら、イベントの継承と発展を図っていきたい。駐車場の確保が課題であるため、行政等との調整を図る必要がある。

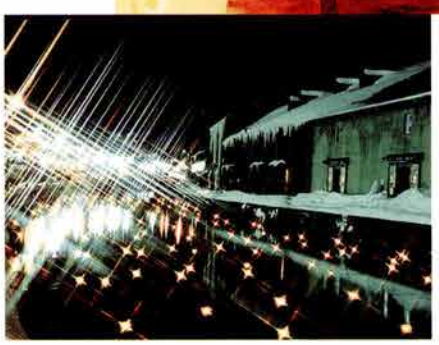
# 部門別［4］産業・観光

# 小樽雪あかりの路

主催　小樽雪あかりの路実行委員会、小樽観光誘致促進協議会
会場　小樽市（運河会場、旧手宮線、他12ヶ所）







## ■内　容

当市には、小樽運河や日本銀行小樽支店などの歴史的建造物が多く残されている。小樽運河会場では、水面に浮かべた浮き玉キャンドル、散策路に設置するスノーキャンドルやオブジェ、運河沿いレストランからの窓灯りなどにより新しい情景を演出する。また、スノーキャンドルのほのかな灯りは街の通りを幻想的に演出する。

市内飲食店が参加する「湯気のおもてなし」では、心も体も温まる湯気の立つメニューで市内外からの来場者をもてなす。

## ■開催への契機・経緯

本イベントは、市民が小樽の将来について熱心な議論や創意工夫を通じて生まれたイベントであり、実行委員会は、地元企業や商店街などの有志によって構成されている。

平成11年２月に第１回目を開催し、13年に「新しい冬の風物詩の創造と発信による冬の小樽の活性化」をテーマとして、第３回を実施している。

## ■目的・基本方針

小樽観光では、冬季は観光客の少ない閑散期となっているが、歴史的建造物を数多く有する当市の街並みを上手く利用し、市内全体を会場とする本イベントを開催することによって、冬季における観光客の増加を図り、ひいては当市経済を活性させること等を目的としている。

## ■開催にあたって考慮している点

１．第３回まで交付されてきた北海道市町村振興協会助成金（400万円）がなくなったため、財政的に厳しい状況にある。２．ボランティアスタッフの参加が不足している。３．寒さの厳しい２月に開催するため、運河に氷が張ることにより浮き玉キャンドルが浮かべられない、などの問題が生じることがあり、自然条件に大きく影響を受ける。

## ■波及効果

本イベントは平成11年２月から開催しており、第１回目18万人、第２回目30万５千人、第３回目は13年２月９日から18日において開催し、39万６千人の来場者数を数えており、小樽観光のボトルネックである冬期間の観光客が増加した。

予告チラシによる旅行代理店への開催概要の事前告知により、関東や東北、関西など全国のツアーが組まれたことに加え、台湾や韓国からの外国人観光客の来場があり、道外からの観光客が増加した。

「雪」と「あかり」のイメージコンテストの効果もあり、市民参加の輪が着実に広がりを見せている。

## ■課題・今後の展望

本イベントは、第３回において39万６千人の来場者があったこともあり、冬期間の小樽観光の発展に資するものと期待されている。予算における収入の減少やスタッフの不足などいくつかの課題を抱えているが、今後も小樽観光の閑散期である冬季に市外からの観光客を集客することによる経済効果や、来訪した人びとの小樽に対するイメージアップが期待されており、冬期間における市民参加型イベントとして一層の充実を図ることが必要であると考えている。

# ひまわりまつり

主催　三本木町観光物産協会
会場　三本木町斉田「ひまわりの丘」

## ■内　容

42万本のひまわりが咲く丘が会場。主なイベントとしては、花とモデルの撮影会及び写真コンテスト、写生会、ひまわり料理講習会、サイドカー付き大型バイクの乗車会（交通安全の啓蒙も兼ねる）、ポニーの乗車会及びふれあい広場の開設等、老若男女が楽しめるよう工夫をしている。

## ■開催への契機・経緯

当町は、「健康づくり」を行政の柱として推進しており、昭和58年にひまわりに含まれている成分（リノール酸・ビタミンE）に着目し、食用ひまわりの栽培を開始した。

59年から①健康作り②転作作物（当時の農林省に働きかけ、ひまわりを転作作物として認められる）③特産品の開発④環境美化の一石四鳥を狙い「一戸１アール自給運動」を展開し、食用ひまわりの栽培を本格的に開始した。

62年に、水田農業確立対策事業により大幅な減反政策が打ち出され、これに危機感をもった町内斉田地区の農家が「米に替わる作物を」を合言葉に、転作作物として「ひまわり」を選定し集団転作地「ひまわりの丘」が誕生した。この頃から、一団地で６haものひまわりを栽培しているところがなく、観光資源として一躍脚光を浴びるようになった。

63年に三本木町観光物産協会が設立され、第１回の「ひまわりまつり」を開催し現在まで延べ58万人が来場した。

まつり開催当初は、花の観賞が主で一部ひまわり製品の販売や地元の農家が生産した野菜等を販売していたが、年々来場者が増加してきたことによりさまざまなイベントを行うようになった。

## ■目的・基本方針

ひまわりは転作作物にとどまらず、現在は当町になくてはならない作物であるとともに当町の代名詞にもなっており、町のイメージアップに多大な貢献をしている（町のキャッチフレーズ…輝く緑・光る川・花薫る町・さんぽんぎ）。

## ■開催にあたって考慮している点

来場者の安全対策を第一義に考え、交通指導隊、交通誘導員、駐車場の整理員等の配置や、施設の総点検を実施し事故防止について万全を期している。また、誰でも参加できるようなイベントを心がけている。

## ■波及効果

町内菓子店の協力によりひまわり特産品が開発され、産業として大きく発展し、地域の活性化に大きく貢献している。

平成元年より、ひまわりが取り持つ縁で横浜市港南区（区の花がひまわり）と友好交流事業を実施している。平成元年から10年まで小学生のホームステイ事業、２年から８年まで港南区老人会が来町し、ひまわりゲートボール大会、２年から継続して港南区民祭に参加し当町のPR、特産品の紹介及び販売を行っている。11年からは消費者団体友好交流を実施している。

## ■課題・今後の展望

当町のひまわりは、町のイメージアップに欠かせないものになっており、今後も継続して実施したい。





# 関城の祭典「どすこいペア」

主催　どすこいペア実行委員会
会場　関城町役場敷地内





## ■内　容

本イベントも12回目の開催となり、平成13年の「どすこいペア2001」は、国際友好に目を向け、テーマを「Hello　你好　こんにちは」と題し、国際色豊かな各種イベントを実施し、約３万５千人の来場者で賑わった。

前夜祭は、納涼盆踊りや常陸之国ふるさと太鼓の豪快な演奏で幕が開かれた。イベント当日には、古くから行われていた伝統行事「梨相撲」から始まった相撲大会（第６回ちびっこ相撲をはじめ、第５回古代相撲、第８回レディース相撲）が行われた。また、当町出身の若東龍関のサイン会、ちゃんこ鍋配布、タイやフィリピン、中国の人たちによる芸能披露で盛り上がった。スタンプラリーや梨狩り体験、そして２日間に渡り青空市が開催され、さまざまな国の郷土料理の店も出店された。梨狩りツアーは３回目になるが、人数を増やし、リピーターも増えた。関城の梨もツアーの内容も大好評だった。最後は神輿で会場内に威勢のよい声がこだましながら、盛り上がりの中、幕を閉じた。



## ■開催への契機・経緯

平成２年に、ふるさと創生事業の一環として始まった本イベント。当町の特産である「梨」と、古くから行われていた伝統行事の「梨相撲」（相撲自体は平安時代から始まり、江戸時代には豊作を祈願して子どもたちに相撲をとらせ勝者に梨を与えた）を結びつけ、町民総参加の祭典として、各種相撲大会を中心として町民自らが企画運営し、町を盛り上げていこうと始まった。

## ■目的・基本方針

町民自らが企画運営し、新たな色彩を持った地域文化、まつり文化の創造と、町民一人ひとりが地域とのつながりを実感できる、参画・連携・交流のまちづくりを目指して実施する。

## ■開催にあたって考慮している点

「自分たちのまちを自分たちの手で良くしよう」と町民自ら団結して、町の活性化が図れるよう行われているイベントである。当町の特産である梨をより多くの人に知ってもらおう、交流を広めようと平成11年よりさらに遠くに目を向け、都心の在住者を対象に梨狩りツアーを企画してきた。また、テーマにもなっているがフィリピンへ古着を送るなど国際交流にも力を入れ、さらに視野が広がってきている。

## ■波及効果

梨狩りツアーには２コース（一般対象、独身女性対象）あるが、どちらのコースも盛況で、当町のアピール、かつ、これからの視野を広げた交流に結びついている。今度は当町の男性が東京へ出向き、交流をさらに深める予定だ。

## ■課題・今後の展望

マンネリ化しないような魅力あるイベントづくり。当町の伝統的行事など歴史を取り入れたイベントづくり。温故知新を交えて企画する。みんなが協力し団結する場として、また、当町のさらなる発展に導くイベントとしてこれからも計画していきたい。

国際的な交流は今までにない試みで、今後の課題としてあがってきそうだ。

群馬県前橋市　　人口：282,906人

# 遊びの庭ー楽市・楽座ー

主催　前橋中心市街地まちづくりネットワーク
会場　前橋市中心市街地



## ■内　容

大道芸人や神輿、だんべえ踊りなどを披露する「芸人づくし」、手作り作品や無農薬野菜などエコロジーをテーマとしたフリーマーケット「エコバザール」などを中心市街地を舞台として繰り広げた。また、昔の前橋の中心市街地を思い起こさせる自主制作ビデオ「時の景」の野外上映や昔懐かしのカレーの味や定刻を刻む鐘の音などを再現し、古き前橋の「まち」を楽しむ企画も盛り込まれた。その他、郊外駐車場と中心部を結んだパーク＆ライドによる都市交通システムの検証や、同日開催の県庁前「上州の夏祭り」とのリアルタイム映像配信事業など、都市問題の検証や地域づくりにも着眼したイベント内容となった。





## ■開催への契機・経緯

各種まちづくり事業を検討するなかで、より多くの市民や市民活動団体が中心市街地を舞台に、自由に参加し、パフォーマンスやコミュニケーションを楽しむことができる市民本位の「祭り」を通して、人と人との出会いから市民活動のネットワーク化を進めることが重要と考え、市民が街で集う新しい形の「祭り」を開催するに至ったものである。

## ■目的・基本方針

中心性の喪失が危惧される中心市街地において、市民参加型の「祭り」を市民手作りで作り上げることにより、中心街を市民共有の場所として実感することのできる仕掛けや新しい出会いを街に創り出し、活性化、まちづくり、人づくりへと継続的に繋げていくものである。

## ■開催にあたって考慮している点

イベントの開催にあたっては、多くの市民や市民活動団体に中心市街地を再び魅力ある場所として認識してもらえるよう、市民の自主性を尊重した自由な参加形態でパフォーマンスやコミュニケーションが楽しめるシステム作り並びにイベント運営に留意している。また、多くの団体との協調開催が人的ネットワークの拡充に繋がるとの認識に立ち、事業実施に取り組んでいる。

## ■波及効果

イベントの波及効果としては、中心市街地を舞台として新しい市民の「祭り」を実施することにより、街に賑わいを創り出すだけでなく、街を訪れた市民一人ひとりが中心市街地の意義を再確認する機会となり、「祭り」のもつ求心性を通して新しい市民のネットワーク化に貢献できた点である。また、県庁前広場で開催された「上州の夏祭り」との連携により、県内全域へ向けて当会の活動PRや各種団体との新しいネットワークを構築した点もイベント開催の効果である。

## ■課題・今後の展望

今後は、各種市民活動団体や商店街団体との連携強化による事業実施体制の整備を行い、事業としての継続性や事業内容の充実、自主財源確保などの課題に取り組むと共に、市民の手作りによる市民本位の新しい活性化イベントとして引き続き展開を図っていくものである。

山梨県甲府市　人口：195,849人

# 甲府ウイーク

主催　甲府市、甲府ウイーク総合推進会議、各イベント実行委員会
会場　舞鶴城公園、中心商店街ほか






## ■内　容

平成12年の本イベントは、特例市指定を祝うとともに、甲府城が完成してから400年目にもあたったため、「甲府城築城400年記念　甲府ウイーク2000」として、15事業を市内各所の会場で、市制施行111周年記念日を挟み、10月７日から約２週間開催した。

特に、２日間にわたり実施した「甲府大好きまつり」は、サンバ調の曲にあわせた踊りのビートtoビート等や、築城400年記念にふさわしい時代行列・みこしパレードを実施した。さらに、「輝きの祭典」においては、宝飾品などの地場製品の展示販売、実演等をはじめ、甲府城跡出土品特別展や江戸の食文化紹介、花火コンサートなどを行い、甲府大好きまつりと一体化を図った。他の13事業についても、趣向を凝らして、楽しく知性を磨ける歴史・文化のイベントを加え、21世紀の懸け橋となる記念すべき甲府ウイークとして開催した。

## ■開催への契機・経緯

当市では、「回復・交流・育成…そして未来へ」を基本理念として、平成９年に新甲府市総合計画をスタートさせ、この基本理念である「交流」は、地方分権の時代にあっては、各都市がそれぞれの地域の持つ特性を基本にまちづくりを行い、都市と都市が文化や感性を競い連携し、人、モノ、情報の交流をすることで、さらなる発展に資することを意味するものであり、文化、歴史、地場産業など、当市の持つ「資産」を最大限に利用した、特色あるまちづくりを目指している。

## ■目的・基本方針

「甲府ウイーク」とは、秋の甲府のまつり、イベントの総称であり、宝飾産業をはじめとする地場産業や商業、文化、歴史などの各種イベントや、「甲府大好きまつり」のおまつりを市制施行記念日中心に集中して行い、産業の振興やまちなかの活性化、甲府のイメージアップ、観光客の誘致を図る。

## ■開催にあたって考慮している点

平成10年、本イベントが名実ともに市民全体のイベントとなるためには、多くの市民の協力と盛り上がりを必要と考え、その推進母体として、関係機関、公共的団体、市内各種団体の代表者等58名で構成した甲府ウイーク総合推進会議を設置した。この推進会議は、事業計画の決定、推進及び本イベントの普及に努めている。

## ■波及効果

事前のPR（具体的には、広報誌、のぼり旗、バス等への掲出等を使ったPRや、県外向けには、駅、高速道路サービスエリア等へのポスター掲示、電車中吊広告、テレビ等のスポットなど）を行う中、甲府の秋のお祭りとして認知されはじめ、県外においても甲府のイメージアップに貢献してきている。

費用対効果は、集中して祭りを開催しているため、限られた予算の中で、最小の経費で最大の効果が得られたと感じる。また、経済効果を数字に出すことは難しいが、集客面からみるとかなりの効果があったと思われる。

## ■課題・今後の展望

過去３回、開催期間を16日としてきたが、密度を濃くするために、平成13年度は９日に短縮し、コンパクトにして実施する。また、期間中13～15のイベントを実施してきたが、毎年６つほどのイベントは変わらないが、その他は毎年変わっている。今後は、期間やイベントの定着化を図る中、より一層県外にもアピールできるようにしていきたい。

# 美濃焼窯場めぐり

主催　飛騨美濃体験博美濃焼窯場めぐり実行委員会
会場　市之倉運動公園、笠原町中央公民館前、下石陶磁器工業協同組合、セラテクノ土岐ほか



## ■内　容

当市市之倉、土岐市下石・駄知、笠原の４陶産地が、同日開催でシャトルバスを運行することで連携を図りながらイベントを実施している。各産地がその特長を活かしながら陶器の廉売市を核として種々のイベントを実施しており、盃の生産日本一の市之倉は、「陶の里フェスティバルin市之倉」の名称で窯元巡りや蔵出し市など、徳利の生産で知られる下石は、「下石どえらあええ陶器祭り」の名称で窯前で結婚式をあげる窯前ウエディングなど、どんぶりの生産で有名な駄知は、「駄知どんぶり祭り」の名称で窯元蔵出しめぐりなど、タイルやご飯茶碗で知られる笠原は、「かさはら窯ぐれ祭り」の名称でタイルや茶碗であそぶイベントなどを行い、それぞれが特色を見せている。

## ■開催への契機・経緯

窯元はこれまで消費者と直接的に接する機会が少なかったことから、消費者より生の声を聞き、直にふれあう機会をもうけるため、平成９年に市之倉と下石でそれぞれ独立して陶磁器の廉売市等が開催した。こうしたことをきっかけとして市之倉、下石、駄知、笠原の４陶産地が、同日開催でシャトルバスを運行することで連携を図ってイベントを実施することとなった。

## ■目的・基本方針

美濃焼の４産地が連携し、消費者と生産者が直接ふれあい、美濃焼に親しんでもらうとともに、知名度を向上させることを目的とする。

## ■開催にあたって考慮している点

商品のみが消費地に出荷される、従来の流通形態から、消費者が自ら産地を訪れ生産に携る人間と会話をしながら購入する、いわゆる「顔が見える」商売をすることで産業観光の一環を担っていく。さらに産地連携することにより相乗効果を生み出し、単体のイベントでは得られない成果を収めていく。

## ■波及効果

これまでは、商社を中心とした陶器市が存在し、市街地や商業団地内で開催されていたものの、実際に産地にまで足を踏み込んでもらえることはなかった。本イベントを実施することで、消費者が直に訪れるため、知名度が向上し、リピーターが定着するとともに、そのときに会話を交わすことで商品開発の上でも参考となった。

## ■課題・今後の展望

産地の連携を継承しながらさらなる産地の知名度の向上に努めるとともに、マンネリ化しないよう各産地が新しいイベントを積極的に取り入れる。





# 円空さんに挑戦

主催　ふるさと体験ツアーの会
会場　やすらぎの郷







## ■内　容

江戸時代の遊行僧、円空上人がナタで円空像を彫られたように、ナタ・ノミなどを使って、高さ1.5m、直径30～50cmの杉を材料にした「大径木の部」と、高さ約40cmのヒノキを材料にした「小径木の部」それぞれの部門で円空像を彫刻するコンテスト。

イベント会場内のキャンプ場や、その他の宿泊施設（ふれあいの館）に宿泊し、２日間かけて作品を完成させる。終了後、審査員による審査の結果、優秀な作品には賞状等が渡される。参加者の作品は、イベント会場内(やすらぎの郷)に展示される。

## ■開催への契機・経緯

当村の資源を活用し、広くPRするとともに、都市と農村の交流と地域の活性化を図ることを目的に開催することとなった。

平成８年度から、「ふるさと体験ツアー」としてスタートしたイベントで、歴史・文化部会「円空さんに挑戦」、農林部会「土まみれ汗まみれ泥んこ体験」、自然部会「作ろうヘルシー食品」、青年部会「秋のちょっといい体験IN かみのほ」の４つのイベントを村の職員、また村の青年団で運営している。

## ■目的・基本方針

当村の資源を活用した。４つのイベントのうち、本イベントは、歴史・文化部会として、円空ゆかりの地としての円空仏（尼僧像）を広くPRしている。

## ■開催にあたって考慮している点

平成11年度までは、直径約30cm、高さ約２m程の「大径木の部」のみ設けていた。しかし、この材料では初心者や女性には抵抗があったため、12年度（第７回）より、高さ約40cmの「小径木の部」を設けることとした。その結果、参加者が80名を超えるほどのイベントとなり、村のイベントとして定着してきている。

## ■波及効果

平成13年度で、第８回目となる本イベントには、村内はもとより遠くは神奈川県からも参加者があり、13年度は41名が参加した。また、会場周辺林道沿いには、今までの全作品が立ち並び「円空街道」としての特異性を表しており、参加者、近隣施設の利用者の目をひきつけ、イベント参加者や円空仏ファンが家族や友人と共にその場所を訪れ、当村のPRと地域の活性化に大きく貢献している。

## ■課題・今後の展望

毎年参加者が増加傾向にあり、主催者にとって喜ばしいことだが、毎回の作品の展示場所に困っている。現在イベント開催場所である、やすらぎの郷に全作品を展示してあるが、毎年40から50の作品をこれからどこに展示していくかが課題である。

# 日本チェンソーアート競技大会

主催　東栄町、東栄・まちづくり実行委員会
会場　東栄町野球場及び東栄ドーム



## ■内　容

チェンソーアートとは、チェンソー（エンジン式ノコギリ）だけを使用した木彫刻のこと。そのチェンソーアートの技術やデザイン性及びスピードと販売金額を競技対象とした大会を、日本ではじめて企画。競技と同時に作品の販売、オークションを行う。

また､付随して技術講習会も企画。ゲストにチェンソーアート世界チャンピオン、ブライアンJルース氏をはじめ、数名のアメリカ人が来日。パフォーマンス、技術講師、審査員などをつとめる。東栄見本市（地元資源・生産、加工技術展示即売会）も同時開催。

## ■開催への契機・経緯

三遠南信自動車道東栄IC周辺整備構想にある木のまちづくりという理念にちなみ、2000年記念イベントを開催。ゲストで招聘したチェンソーアート世界チャンピオンから技術を学び、それを活かしたまちづくりを展開することになった。林業の不況を背景にその活性化と、町内外の官民連携による新規事業としての取り組みが期待される。

## ■目的・基本方針

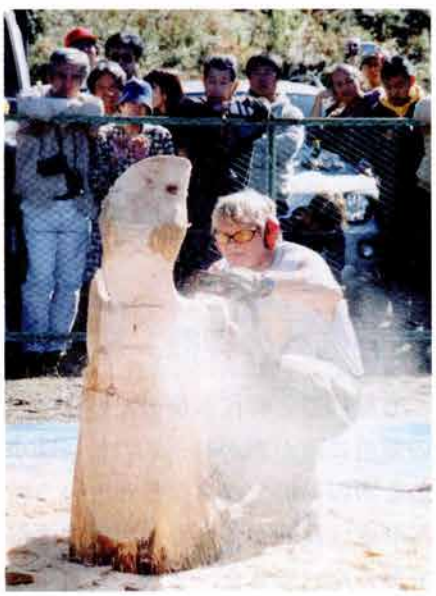
継続できる事業としての仕掛けづくりを念頭に、地域資源の有効活用による経済循環の活性化。また、技術者育成とそれに伴う木材及び産業機器等の新規需要拡大。新しい業界の形成。

## ■開催にあたって考慮している点

全ての関係者、参加者が満足できる中身と演出が一番。そのバックにある考慮点として、地元の住民に具体的メリット（金銭的等）があるように、なるべく地元業者を活用。地元の資源を活用するように努めてもいる。また、地域外から来訪される参加者を多く確保し、楽しんでもらい当町をPRすると同時に、お金を地域で使ってもらえるよう努力している。

## ■波及効果

技術者団体（チェンソーアートクラブMASTERS OF THE CHAINS AW TOEI）設立、会員数が地元・周辺都市部あわせて60名以上になった。その報道により多くの人びとが当町をチェンソーアートのまちとして認識しはじめた。さらに、高齢参加者も多く、高齢者対策への思わぬ波及効果がでている。また、チェンソーメーカーの協力も期待され、同時に地域外からの声もかかり、町内だけに収まらない全国的な波及効果が出始めている。



## ■課題・今後の展望

継続できるシステム構築が必要である。そのために、この動きを当町発全国区に及ばせ、全国に支部活動を普及させる。１県あたり10名以上の技術者を育成し、その取りまとめを行うための組織を新規事業としてとらえ、当町で法人化する。

# 二五八祭

主催　二五八祭実行委員会（事務局　㈳八日市青年会議所）
会場　八日市市役所前道路一帯



## ■内　容

開催当初から続くコンセプトとして　商・想・童の３つのテーマを設定している。

商は、フリーマーケットとして、道路を通行止めにして200店を超える出店があり、市内だけではなく、大阪、名古屋といった遠方からの出店も増えており、祭りのメインになっているといえる。想は、八日市青年会議所が時流に合ったテーマを設定し、環境問題や市町村合併を取り上げている。童は、大道芸、駄菓子屋、昔の遊び（竹馬を作る、めんこ、わら細工）等の子どもを対象に遊びの広場を設けている。

## ■開催への契機・経緯

八風街道と御代参街道という交通の要所に市が開かれ、八の日に開かれた市の発展と共に八日市という町が形成、発展してきたが、その面影も薄くなってきた。また、八日市には歴史はあるがふるさととしての顔が無い、個性の無いまちという印象が市民に浸透しているという認識に基づき、八日市の顔を探り、創造することによって、個性のあるまち、独自の文化のあるまちをつくるため、より多くの市民自らがまちづくりを行う場として本イベントが開催された。

## ■目的・基本方針

八日市の明るい豊かな未来を目指して、文化と個性あるまちとしてより一層発展するために、市民一体となり継続的なまちづくりの気運を高める推進母体とする。

## ■開催にあたって考慮している点

現在のフリーマーケットブームに乗り、来場者も出店希望者も年々増加していることは主催者としては喜ぶべきことではあるが、本来のより良いまちづくりを目指すためのイベントとしての想いを伝えることが難しくなっている。また、車での来場者が多く迷惑駐車が問題となっているが、地域性や公共交通機関が少ない、駐車場が確保できないなど解決策が見つからずにいる。

## ■波及効果

本イベントの企画運営を経験した人材が、さまざまな分野で八日市のまちづくりの中核を担い、積極的に活動している。

## ■課題・今後の展望

＜二五八祭＝フリーマーケット＞というイメージを受け入れるのではなく、明るい豊かなまちづくりのために、この祭において何をすべきなのか議論を重ね、検討する必要がある。





京都府舞鶴市　人口：93,822人

# 旧軍港四市グルメ市民交流会

主催　まいづる肉じゃがまつり実行委員会
会場　市政記念館周辺



## ■内　容

例年開催している「赤れんがフェスタin舞鶴99」の一環の企画イベント。当市と広島県呉市が肉じゃが発祥の地論争を展開していることをきっかけに、同様にカレー、ハンバーガーの発祥を宣言する神奈川県横須賀市と長崎県佐世保市を加え、旧軍港四市で食べ物によるイベントを開催。

それぞれの発祥食を販売し、発祥地や観光名所を売り込むなどPRするとともに、旧軍港四市が食文化や観光開発で手を取り合うことを宣言した共同アピールを披露した。





## ■開催への契機・経緯

NHKのふるさとデータブックに当市が「肉じゃが」発祥の地と記載されていたことから、その真偽について調査を始めた。海上自衛隊舞鶴地方総監部内で旧海軍時代のレシピを発見、その中に「肉じゃが」調理法が掲載されており、「舞鶴海軍鎮守府初代司令長官『東郷平八郎』が、英国留学中に食べたシチューを再現するよう指示し、日本の調味料で味つけしたものが『肉じゃが』のルーツであり、その発祥地は舞鶴である」というストーリーに基づき、平成7年6月、市民の有志約30名が実行委員会を結成、「まいづる肉じゃがまつり」を開催し、全国に向け、高らかに「発祥の地」を宣言した。特に、9年に呉市が「肉じゃがのふるさとは呉？」とチャレンジして来たので、バトル時代にマスコミの面白いネタとして「肉じゃが発祥地元祖・本家争い」として新聞・テレビ・ラジオの取材が相次ぎ、全国に情報発信することとなった。

また10年11月には「'98くれ・食の祭典」に「元祖舞鶴肉じゃが殴り込み大作戦」とマイクロバスに大書きして友情参加。呉市の肉じゃがとの味くらべを行うなど、呉市との交流も積極的に推し進めた。

そこで、食文化を観光に役立てることを計画し、同じ旧軍港市である横須賀、佐世保、呉に呼びかけ、このイベントが開催された。

## ■目的・基本方針

軍港設置を契機に発展した当市の歴史と「食」を中心に、この歴史を振り返るイベントを開催することで、当市の歴史を市内外の多くの人びとに知ってもらう。また、当市ならではの観光資源として捉え市内外に広くPRすることにより観光客の誘致を図る。

## ■波及効果

本イベントの主催者である「まいづる肉じゃがまつり実行委員会」の取り組みは、市民のまちづくり意識、ふるさと意識の醸成に寄与している。料理をテーマにした、女性を巻き込んだ活動は、女性のまちづくりへの参画を促す大きな機会にもなっている。

## ■課題・今後の展望

まいづる肉じゃがまつり実行委員会の活動がきっかけとなって始まった「味の発祥の地」運動は、呉、横須賀、佐世保へと広がり、そのことが相乗効果としてマスコミにも取り上げられ、全国的にPRすることに成功している。

このネットワークの広がりは、さらに広がりを見せ始めている。平成12年8月に横須賀市で行われた「カレーフェスタ」には、再び旧軍港4市の市民が集結するのに加え、「ジャガイモ」が縁で、舞鶴の「肉じゃが」と交流を持ち始めた、北海道の上富良野町の市民も参加した。このようなそれぞれの都市の市民の「まちづくり」への思いを、「つなげ」、さらに大きな「環」となっていくことを、肉じゃがまつり実行委員会は目指している。

最終的には、この取り組みが旧軍港四市のみならず、他の都市間、市民間のネットワークが知恵を生み、相乗効果をもたらし、舞鶴のみならず、関係した都市が発展することを期待している。

兵庫県温泉町　　人口：7,620人

# 全日本かくれんぼ大会

主催　全日本かくれんぼ協会
会場　兵庫県湯村温泉街



## ■内　容

スタッフ100名（地元町民）が「隠れ人」となって湯村温泉街に隠れ、それを参加者が「おに」となって見つけ出すゲーム。「隠れ人」は、造型物を作ってその中に隠れる者、通行人や観光客になりすます者、まじめに隠れる者とさまざまである。「おに」は、「隠れ人」を見つけ出したら、一緒に記念写真をとり、奉行所から賞品の引き換えカードをもらう。中にはペナルティーカードもあり、ペナルティーゲーム（但馬ビーフ、豆腐の早食い等のグルメペナルテイ）をやってもらう。賞品はその場では分からないようにしておき、海外旅行、旅館宿泊券、但馬ビーフ、当町特産品などの賞品を閉会式会場にて発表する。また、「隠れ人」「おに」ともに仮装し、大会の雰囲気を盛り上げる。

## ■開催への契機・経緯

平成11年まではマラソン大会を開催してきたが、参加者の減少とマンネリ化がみられるため、話題性を重視したイベントを検討するなかで、「かくれんぼ大会」を採用した。

## ■目的・基本方針

あくまでも誰でも参加できるイベント（お年寄りから子どもまで）であり、参加者とスタッフ（地元住民）が一緒に楽しめるものにする。

話題性を重視し、マスコミ等に取り上げられることで、湯村温泉のPRをはかる。

## ■開催にあたって考慮している点

まず、地元住民にも企画段階から参画してもらい、地元のムードを高める。民家等に入り込まないよう周知するとともに、川沿いなどの危険な箇所に監視員を配置して、安全対策には万全を期する。

## ■波及効果

思いがけなく多くのマスコミ取材と多数の若者の参加があり、今までにない華やいだ湯村温泉の雰囲気が醸し出された。

## ■課題・今後の展望

エリアが限定されるため、隠れる内容に毎年工夫が必要になる。住民の手づくり運営を目指しており、今後スタッフとしての運営意識の浸透を図りたい。





奈良県奈良市　人口：364,914人

# なら燈花会

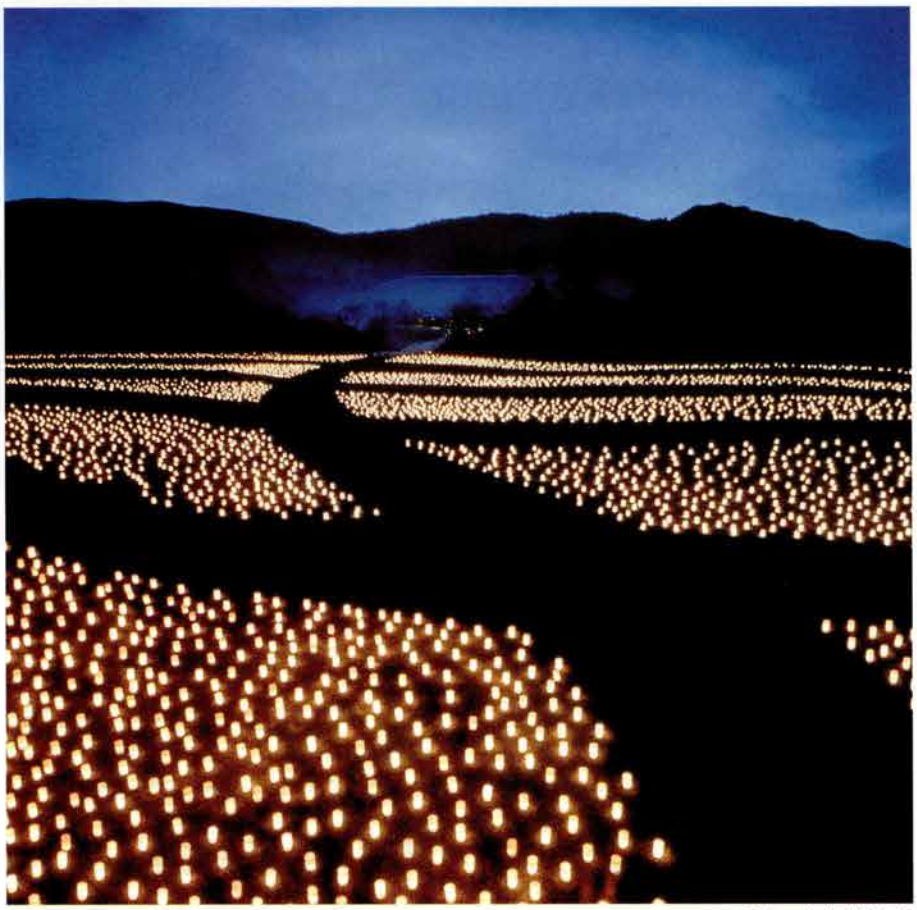
主催　なら夏のイベント推進委員会
会場　奈良公園内（浮雲園地、浮見堂と鷺池、浅茅ヶ原、猿沢池の五十二段）

## ■内　容

奈良公園の４つのエリアを、ろうそくを主とした灯りで演出し、歴史的建造物等のライトアップも含めた、広大な規模の古都奈良の幻想的な風景をめぐる、夏の10日間だけの灯りの祭典である。

〈灯りで彩られる４つのエリア〉

A.　猿沢池と五十二段エリア
B.　浮見堂と鷺池エリア
C.　浅茅ヶ原エリア
D.　浮雲園地エリア



写真：奈良市観光課

## ■開催への契機・経緯

古都奈良は、広大な緑を背景に人びとの営みと自然が美しく調和し、古代日本の雄大な美しさを今も残している。そんな奈良にふさわしいのは、日本人なら誰でも懐かしく感じ、どこか心をいやしてくれるやさしい灯りである。

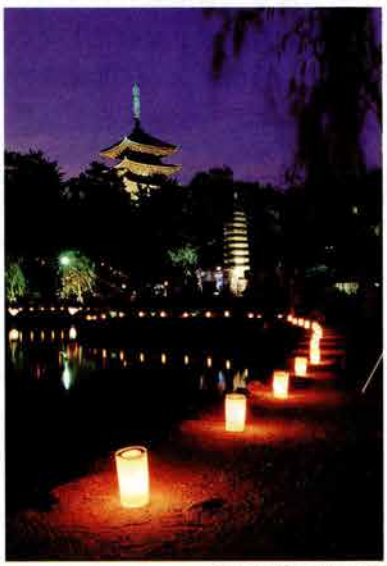
本イベントは、ろうそくの灯り一つに幸せを見る日本的な美しさで、世界遺産の地・奈良に集う人びとの祈りを照らし出すイベントとして考案された。

## ■目的・基本方針

世界遺産に登録された東大寺や春日大社の、夏を彩る伝統行事や幻想的な風景をつくるライトアップ等とタイアップしたイベント。

## ■開催にあたって考慮している点

来訪者に満足してもらえるよう、会場や周辺施設（飲食、宿泊等）などの情報、まわりの声、今回までの反省点等を認識し、「また来たい」と思ってもらえるようなイベントを実施することに心を配っている。



写真：奈良市観光課

## ■波及効果

来訪者数、宿泊施設利用、飲食施設利用、公共交通機関等への調査を実施したところ、各施設等において利用者数等がアップしていた（平成12年度）。今年（13年）も同様の調査を実施した。

## ■課題・今後の展望

来訪者数の増加に伴う交通対策、安全確保、エリアの調整等が必要である。また、他行事（各寺院の伝統行事等）との調整・協力等も必要である。

奈良県大和郡山市　人口：94,875人

# 全国金魚すくい選手権大会

主催　全国金魚すくい競技連盟、大和郡山市
会場　大和郡山市総合公園、多目的体育館






## ■内　容

全国から金魚すくいの腕自慢たち約２千人が、「金魚すくいの聖地」である当市に集結し、「金魚すくい日本一」をめざし、「小中学生の部」、「一般の部」、３人１チームの「団体の部」に分かれ、３分間に１枚のポイ（すくい網）で何匹すくえるかを競う。なお、優勝者にはハワイ旅行がプレゼントされる。また、団体の部ではユニークな金魚コスチュームで出場のチームなどもあり、会場は大変盛り上がる。大会終了後には、観客も含め希望者に金魚のお持ち帰りを無料で行う。

## ■開催への契機・経緯

当市は、全国の６割を誇る金魚の産地であるが、金魚養殖業界も後継者不足や熱帯魚ブーム等により、全盛期の勢いを失いつつある。そこで、金魚養殖業界の発展とまちおこしの起爆剤となるイベントとして、本大会が開催されるようになった。

## ■目的・基本方針

本大会は金魚養殖業界の発展とまちおこしを目的として開催しているが、参加希望者が多く、毎年少しずつ定員を増やして対応している。

## ■開催にあたって考慮している点

本大会の人気を保つためにはPRが重要であると考えており、JRや近鉄の駅、水族館、大学、高校等へポスターの掲示依頼をしている。マスコミにも積極的にPRすることによって大会の知名度、さらには当市の知名度アップに役立てている。また、金魚すくいの普及と金魚の販路拡大を目的とし、「金魚すくい競技デリバリー」（金魚すくい道具の無料貸出）も実施している。

## ■波及効果

少しずつだが地元で金魚すくい大会を開催したいという団体も増え続けており、金魚の販路拡大につながってきている。また、本大会の予選大会を開催する団体も10ヵ所以上あり、大会と当市の知名度が確実にアップしている。マスコミも興味をもって取り上げており、金魚すくいだけでなく、当市の観光PRも効果的にできている。

## ■課題・今後の展望

本大会の人気は年々上昇しているが、その人気を経済効果へと結び付けていくことが今後の課題である。

# うれしのほほん着物園遊会「和」大茶会

主催　うれしのほほん着物園遊会「和」大茶会実行委員会
会場　嬉野町市街地（本通り）



## ■内　容

ウォークラリー参加者を中心に、町内に茶席を設けて野点を自由に楽しんでもらう。それに合わせ、町中を巻きこむイベントを開催し、嬉野の町を着物一色の情緒溢れる町に演出する。

○ウォークラリー
○メインステージ　着物の似合う人コンテスト、日舞、前結び着付けショー、歌謡ショー、福引き大会
○うれしのほほんストリート占いコーナー、琴演奏、街角カメラマンによる撮影サービス、嬉野の歴史あゆみ展、懐かしゲーム、お茶シャンプーの展示販売、大生け花展の実施、ぜんざい・お茶・地酒・温泉湯豆腐振る舞いによる地場産品PR、肥前吉田焼焼き物展示即売、絵付けコーナー

## ■開催への契機・経緯

現在旅の主役である「女性」を中心に、日頃着ることの少ない「着物」着用を参加条件とし、日本情緒豊かな各種イベントの実施により「非日常空間」の演出を行い、参加特典、サービスの充実により当町への動員を図る。

観光地・嬉野の原点となる、着物姿の女将さんや仲居さんの、もてなしの心の象徴「着物」にスポットライトをあてたイベントを開催し、新たな地域イメージを発信する。

## ■目的・基本方針

お茶と温泉と焼き物の町・嬉野特有の地域資源を活用したオリジナル






なイベントを実施することにより、日本中に広く嬉野をPRしイメージアップを図る。また、地域住民総参加により運営し、求心力を高め、一丸となった地域活性化を推進する。

## ■開催にあたって考慮している点

当町の特色であるお茶・温泉・焼き物のもつ共通のコンセプトとして「和」を代表する着物に着目し、着物の種類にとらわれない、気軽に誰でも参加できるイベントにしたい。

町外参加者と一般町民とのもてなし等によるふれあいの場の創設と、イベント実施による観光地嬉野の魅力を再発見してもらえるよう考えている。

着物着用を呼びかけているため、呉服店、美容店のお客さんへの参加勧誘や、着付け、お茶、日本舞踊の教室へ参加している生徒への呼びかけを行っている。

## ■波及効果

「着物」を通して、日本文化の「和」の素晴らしさが再認識でき、東京の呉服問屋から協賛後援の申し出があるほど広がりをみせた。

イベントを町全体がひとつになって取り組むことにより、町民の連携の強化とまちづくりの意識高揚が図られた。町のイベントの核として成長し、またすっかり定着したことにより、当町のファン（リピーター）の拡大ができた。

当町の「歓楽街の町」のイメージから、「日本情緒の似合う町」へのイメージ転換が図れた。

## ■課題・今後の展望

呉服販売業者や旅館などにセール、展示会などを実施する着物ウィークなどの開催を呼びかけることで、底辺の拡大を図りたい。現在九州地区の応募者を全国規模に発展させるためにも、全国の着物イベントとの交流を考えていきたい。

長崎県佐世保市　人口：242,290人

# きらきらフェスティバル

主催　きらきらフェスティバル実行委員会
会場　島瀬公園、佐世保公園他

## ■内　容

佐世保の街全体がイルミネーション輝く、光の街へと変貌する佐世保の冬の風物詩である本イベントも平成13年度で６回目を迎えた。メイン会場となるのが、当市の中心部にある島瀬（しまのせ）公園。この公園に隣接しているビル全面をキャンパスとした巨大壁画イルミネーションをはじめ、市内のあらゆる場所にイルミネーションが施され、街はクリスマスムード一色になる。イルミネーションに加えて、１kmにも及ぶ日本一長いアーケードで行われる「きらきらチャリティー大パーティー」では、市民及び観光客約５千人が参加するなどさまざまな参加イベントも開催される。

## ■開催への契機・経緯

当初は、中央商店街の活性化のためにその店主たちが中心となって実行委員会が結成され、近年問題となっている買物客のドーナツ化現象を食い止めるためのイベントとして始まった。しかし、年を経るごとにイルミネーションは中央商店街だけでなく、その周辺へと広がりを見せ、公園や道路、また各家庭にまでもイルミネーションが施されるようになった。

さらに、最近では観光イベントとしても人気を集めており、中央商店街の活性化イベントにとどまらず、今では佐世保のまちづくりイベントとして認知されている。



## ■目的・基本方針

市民並びに観光客に感動と歓び、楽しさと憩いの場を提供することで、観光シーズンとして閑散期にあたる冬季にイベントを開催し、観光振興及び商店街振興、ひいては当市の活性化を図る。

## ■開催にあたって考慮している点

イルミネーションが輝いているだけのイベントは、他の地域でも多く開催されているので、佐世保らしいイベント色を出すよう心がけている。具体的には、期間中に開催される「参加型イベント」の実施である。誰もが気軽に参加して楽しめるイベントを意識して企画している。

## ■波及効果

具体的に定量的な効果は計測していないが、クリスマス時期になると街の話題として必ずマスコミ等へ取り上げられ、佐世保が広く注目を集め、街のイメージアップに貢献している。

また、前述にもあげたように今では佐世保の冬の風物詩的イベントであり、その影響が各家庭にまでも及んでいる。



## ■課題・今後の展望

今後、さらにイルミネーションの輪に広がりをもたせ、多くの観光客が「見たい」「行ってみたい」「参加したい」と思うようなイベントに成長することを期待する。

また、佐世保の街が活気にあふれ、すべての人が歓ぶことができるようなイベントを目指したい。

# 部門別［5］ミレニアム

茨城県ひたちなか市　　人口：153,280人

# 世界一大きな「でっけ絵年賀状」

主催　ひたちなかビッグイベント実行委員会
会場　ひたちなか市総合運動公園陸上競技場





## ■内　容

10万人のメッセージ入り色紙を並べて、世界最大の年賀状を作成し、新世紀の幕開けを記念して、愛と平和のメッセージを全世界に向けて発信する。

年賀状の大きさは、縦72m、横126m。30cm四方の色紙に、21世紀への夢や、家族への愛、世界平和へのメッセージなどを絵や言葉で書いて（描いて）もらい、その色紙10万枚を組み合わせて並べ、1枚の壮大な大きさの絵(年賀状)を作りあげる。

今回は､恐竜の両親が見守るなか、産声を上げた赤ちゃん恐竜の図柄で、「誕生と希望。家族の愛」をイメージしている。

メッセージは、市内幼稚園、保育所、小中学校、一般市民、事業所のみならず、茨城県にも協力してもらい、県内各地の小中学校、高校にも参加を募るとともに、インターネットでもメッセージを受け付け、21世紀への夢と期待がつづられた一大絵巻物となった。

## ■開催への契機・経緯

当市は平成6年に勝田市と那珂湊市が合併して誕生した市である。合併以前の勝田市の「かつた祭り」においては、多くの市民が気軽に楽しく祭りに参加できるように、「ビッグイベント」と名打ち、日本一の長さの海苔巻（昭和59年)、ジャンボジグソーペインティング（60年)、世界一大きな象さんの絵（61年)、10万本の風車で作ったキリンの絵(62年)、4万5千個の風船で作ったかたつむりの絵（63年)、だまし絵ピラミッド（平成元年)、史上最大の楽器(2年)など、毎年内外の話題をさらったイベントが行われてきた。

21世紀を迎えるにあたり、往時のイベント関係者を中心に、最高の市民参加イベントを実現しようとして取り組まれた。

## ■目的・基本方針

- 誰でも参加できる。(世界中から)
- 人間の美しい気持ちを集結する。
- 誰も作った事のないイベントに参加して、誇り高い思い出としてもらう。
- 当市を愛してもらう。

## ■開催にあたって考慮している点

基本方針を踏まえ、特に「当日だれでも気軽に参加できる」ことに配意している。排他的な仲間内や組織に所属している者だけが参加できるイベントにしないよう、より多くの人たちが、いままで経験した事のない創造的な作業の一員になれるよう、運営とPRなどに力を注いでいる。

また、事前の準備段階でボランティアスタッフを募り、大変な作業量をこなしてもらうことになってしまうのではあるが、なんとか笑いと根性で連帯感をかもし出して乗り切り、この結果、人生で二度とないような達成感を味わってもらえていると確信している。

## ■波及効果

いい意味で「とても変わった市である」という評価を得ている。国内のみならず外国でもトピックスとして新聞やテレビ等で報道された年も多かったので、創造的なことにチャレンジする、明るく、面白い、活気あふれる市民という市のイメージをもたれ、市のイメージアップにつながると共に市民の自信につながっている。

千葉県銚子市　人口：79,500人

# 世紀越えイベントin銚子

主催　銚子市世紀越え事業実行委員会
会場　君ケ浜しおさい公園

## ■内　容

本イベントは、2000年12月31日午後8時から2001年1月1日午前9時頃まで、絶好の初日の出スポットである犬吠崎灯台下の「君ヶ浜しおさい公園」で開催。

ブラスバンドによる演奏をオープニングに、ミュージシャンのコンサート、まつり太鼓・津軽三味線の演奏のほか、新世紀の幕開けを祝う花火の導火線として約2千人の参加者の協力のもとに「光のカウントダウン」を行うなど、さまざまなイベントを実施。

会場内には、飲食・雑貨など90ものブースが並んだ屋台村、ペットボトルの手作りランタン1万本による「光のオブジェ」などもあり、百年に一度の瞬間を多くの人びととともに体験し、そして祝うことができた。

## ■開催への契機・経緯

「日本一早い初日の出のまち」として展開している世紀越え事業の基本方針の一つに「大世紀越え（2000年）と21世紀のスタート（2001年）を市民が祝う。（参加する）」を掲げており、文字どおりの世紀越えとなる2000年のイベントは、テーマを「新世紀の鼓動を感じよう！そして、はじまりを祝おう！」とし、20世紀から21世紀に移りゆく瞬間と日本一早い21世紀の夜明け（初日の出）を、市民をはじめ多くの人びとと祝いたいと計画、開催した。

## ■目的・基本方針

日本で最も早く21世紀の初日の出を迎えることができる地の利を活かして、市の活性化を促進することを目的として、21世紀のスタート（2001年）を市民が参加し、祝うこと、「日本で一番早い初日の出のまち銚子」を全国に情報発信し、人、もの、情報を呼び込み、交流を促進することを方針とした。

## ■開催にあたって考慮している点

初日の出を見にくる人びとに対し、市民総出の「おもてなし」ができる絶好の機会として、官民一体となりイベントを計画、開催した。

当日は、高校生をはじめ多くの市民がイベント会場の運営や交通整理などに参加したが、真冬の屋外で、しかも時間が遅いため参加できない幼稚園児や小学生たちには、「光のオブジェ」というイベントを企画し、事前にペットボトルへメッセージや絵を描いてもらった。



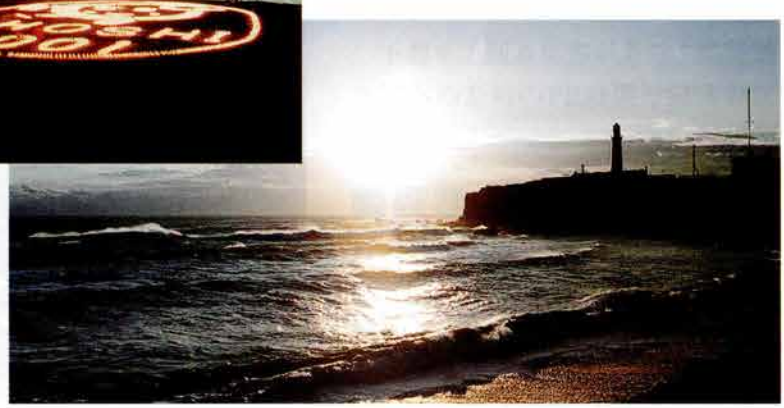
## ■波及効果

「市民企画委員会」というゆるやかなネットワークの組織をつくり、銚子を活性化させようと意欲ある市民を集め、企画・立案の段階からまさに官民一体となってイベントを成功させたことで、自分たちが創り上げたイベントであるという思いが市民の中に生まれたと思う。

また、「日本で一番早い初日の出のまち銚子」をアピールし情報発信をしてきたことにより、全国的に認知されたものと自負している。それによって、「来年もまた銚子へ初日の出を見に行こう」というリピーターが増え、交流が促進されることが期待される。

## ■課題・今後の展望

銚子という袋小路性から、来訪客が集中するとどうしても交通渋滞が発生する。今回、シャトルバスや銚子電鉄の利用を促すなど、イベント会場近くまで車を近づけないよう努力した。また、これだけ大規模なイベントになると、トイレの充実（数、清潔さ）は欠かせないと思う。



徳島県　　人口：831,241人

# とくしま夢あかり

主催　とくしま夢あかり実行委員会
会場　藍場浜公園

## ■内　容

冬まつりとして位置づけ、クリスマスにあわせて開催する。

多くの人びとが楽しめるよう、「新町川河畔ひかりプロムナード」やあかりのまちの将来イメージを表現した光の空間として会場を構成し、会場内には、あかりモニュメント、シンボルツリー、イベントステージ、模擬店等を設置し、より集客性を高めるため、コンサートやダンス、展示、体験等のさまざまなイベントや飲食の提供を行う。

## ■開催への契機・経緯

徳島らしい特徴的な景観の一つである新町川の水面や河畔の美しさ、楽しさをより演出するため、「水」と「緑」と「光、あかり」を活かした連続散策路の整備「新町川河畔ひかりプロムナード」の整備を機に、「徳島21世紀記念事業」の一つとして、県民とともに21世紀の幕開けを祝うために、本イベントを平成12年度に実施したところ、地域等での盛り上がりがあることから、「協働」を拡げていくためのシンボル的事業、新たな冬のイベントとして、継続して開催することとした（「新町川河畔ひかりプロムナード」整備事業：ワークショップの開催など「協働」の視点での先導的な事業）。

## ■目的・基本方針

「協働によるまちづくり」を主題に、県民、住民が主体となり、行政や企業との協働による県づくり、地域づくりにつながるよう、「あかりと花とまちづくり」をイベントのテーマに、住民主体のまちづくり活動として、参加型イベントとする。

## ■開催にあたって考慮している点

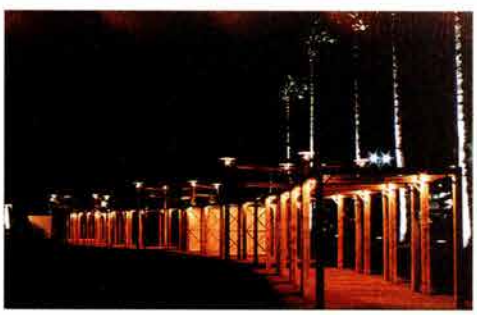
「協働によるまちづくり」を主題に進めているハード整備「新町川河畔ひかりプロムナード」整備事業のソフト部門と位置づけ、参加型のイベントとする。

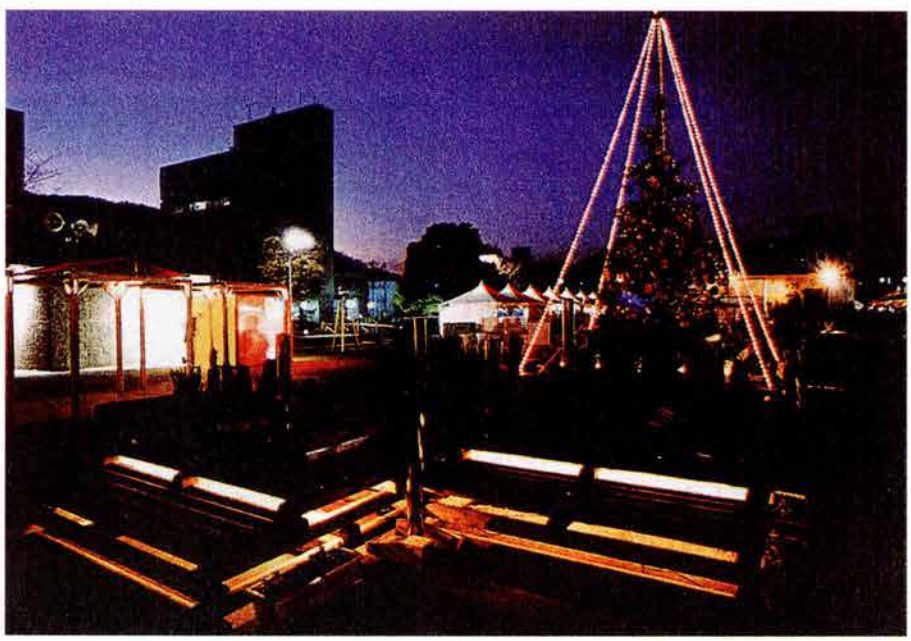
## ■波及効果

行政と住民等とのパートナーシップの具体的な取り組みを進めることにより、「協働によるまちづくり」に対する機運が高まっている。

## ■課題・今後の展望

夏のイベント「青野川フェスティバル」等とタイアップし、冬のイベントとして定着させ、「協働」による県づくり、地域づくりを推進する。



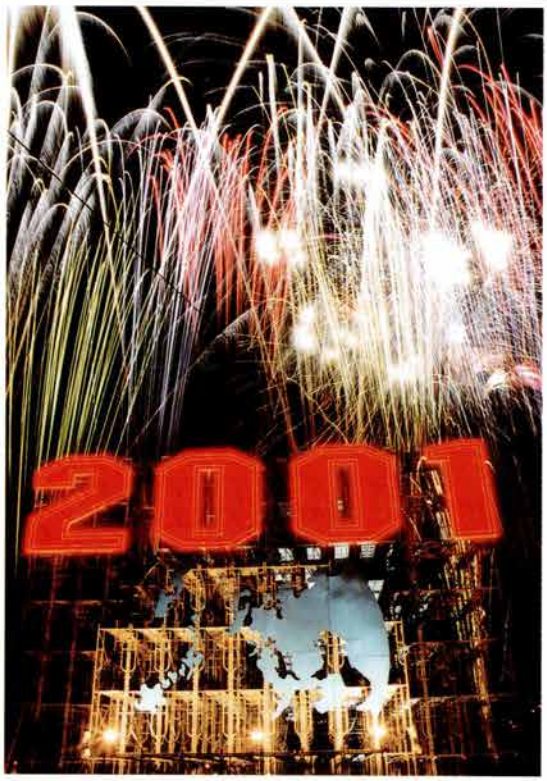


人口：1,527,398人

# ながさき阿蘭陀年「21世紀へのカウントダウン」

主催　ながさき阿蘭陀年推進協会

会場　長崎市（常盤「にちらん広場」、出島ワーフ前特設会場、その他長崎港周辺）






## ■内　容

長崎から平和を祈る「誓いの火」、島原から復興を願う「平成新山の火」、平戸から交流を願う「交流の火」の３つの火を市民ランナーにより搬送し、21世紀を迎える「希望の灯」として点灯式を実施。さらに大型モニターによるふるさとの歴史や自然、暮らしなど長崎のメッセージビデオの放映、100人の和太鼓演奏と創作神楽の演舞、第九交響曲の市民大合唱、会場全員によるカウントダウンにより2001灯りのオブジェ点灯と長崎港内の船舶の一斉汽笛、そして2001発の花火など、盛り沢山のイベントが実施された。

## ■開催への契機・経緯

西暦2000年は日蘭交流400周年の記念すべき年であり、当県では「ながさき阿蘭陀年」として、2000年１月から2001年３月にかけて、「『未来へ向けた400年』～出会いはいまも長崎から～」をテーマに、さまざまな記念事業を実施することとした。

記念事業は、地域の魅力や伝統文化の県内外への情報発信や郷土の魅力を再発見できる機会を創るとともに、交流人口の増大を図り、新たな国際交流の進展や魅力あふれる地域づくりにつなげ、当県観光の振興と地域の活性化につなげるよう開催しているものである。

本イベントは、その一環として、先人たちの歴史を顧み、自省し、英知に学ぶ「温故知新」の精神をもって来るべき世紀を迎えたいとの思いで、21世紀のふるさと創生をテーマに計画されたものである。

## ■目的・基本方針

日蘭交流400周年記念事業で多彩なイベントを実施している中、20世紀から21世紀へと変わる記念すべき特別の瞬間を、県民・市民と共有し、感動を分かち合える場、新しい時代を担い創造していく自覚の場を創り出すことを目的とした。

## ■開催にあたって考慮している点

多くの県民・市民が参加できるよう、地域で活動している太鼓グループや合唱団、ジョギングクラブ、ボランティアなど幅広く参加を呼びかけ、住民が主体となったイベントとなるよう留意した。

長崎の歴史や文化、自然など地域の魅力を見直し、ふるさとに対する愛着を深める機会となるよう考慮した。

## ■波及効果

イベントに参加した県下各地の太鼓グループの交流により、人的ネットワークができた。イベントの運営に多数のボランティアの協力が得られ、今後のまちの活性化を考えるうえで参考となった。

予想を上回る集客があり、県外観光客への長崎のPR効果や経済効果があった。

## ■課題・今後の展望

ミレニアムイベントということで、ながさき阿蘭陀年で特別に実施したが、今後の体制が整っていない。

# 優良イベント事例データ編


## ～祭り～

北海道　函館市
はこだてクリスマスファンタジー　186

秋田県　大曲市
新作花火コレクション　186

福島県　檜枝岐村
真夏の雪まつり　187

千葉県　佐倉市
佐倉・時代まつり　187

神奈川県　平塚市
湘南ひらつか囲碁まつり　188

富山県　富山市
全日本チンドンコンクール　188

石川県　七尾市
七尾・祭りの國フェスティバル（能登キリコフェスティバル）　189

石川県　川北町
川北まつり（手取の火まつり）　189

石川県　内灘町
世界の凧の祭典　190

福井県　福井市
福井コスモスまつり　190

静岡県　長泉町
長泉わくわく祭り　191

愛知県　西春町
平盆まつり　191

和歌山県　すさみ町
イノブタダービー（イノブータン王国建国祭）　192

徳島県　勝浦町
ビッグひな祭り　192

愛媛県　新居浜市
全国お手玉遊び大会　193

高知県　高知市
よさこい全国大会　193

大分県　緒方町
小松明（こだい）火祭り～真夏の夜の感動物語～　194

沖縄県　那覇市
那覇大綱挽　194

## ～スポーツ～

北海道　東藻琴村
ノンキーランドふるさとまつり　195

茨城県　土浦市他
かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会　195

群馬県　安中市、松井田町
安政遠足侍マラソン　196

福井県　美浜町
美浜町民レガッタ　196

長野県　小海町
氷上トライアスロン小海大会　197

滋賀県　愛東町
全日本あいとう4時間耐久三輪車レース　197

和歌山県　新宮市
二県交流綱引き大会　198

島根県　美保関町
エビスカップ 全日本海上綱引き選手権大会　198

佐賀県　中原町
全日本うちわ選手権大会ウインドブルドンin中原　199

佐賀県　七山村
国際渓流滝登りinななやま　199

鹿児島県　瀬戸内町
奄美シーカヤックマラソンIN加計呂麻大会　200

沖縄県　伊平屋村
伊平屋ムーンライトマラソン　200

## ～文化・交流～

北海道　夕張市
ゆうばり国際ファンタスティック映画祭　201

青森県　鶴田町
「わいは！どんぱぢ丸出し！！」外国青年による津軽弁大会　201

岩手県　陸前高田市
全国太鼓フェスティバル　202

岩手県　湯田町
平和街道高齢者障害者演劇ネットワーク事業　202

岩手県　藤沢町
藤沢野焼祭　203

宮城県　大河原町
おだづもっこ文化祭・NPOフォーラム　（NPOいずいッ。）　203

山形県　三川町
全国方言大会　204

福島県　いわき市
まぼろしの浜街道「新田坂」をゆく　204

茨城県　取手市
頑固者賞　205

栃木県　岩舟町
岩船山クリフステージ野外コンサート　205

群馬県　草津町
草津夏期国際音楽アカデミー＆フェスティバル　206

埼玉県　川越市
開館！まちかどミュージアム　206

埼玉県　南河原村
お絵かきスリッパ展　207

新潟県　新発田市
ベージェント2000「この豊かなる大地の賛歌」Part3　207

新潟県　相川町
金の道佐渡から江戸へ　208

富山県　大門町
越中だいもん凧まつり　208

富山県　井波町
いなみ国際木彫刻キャンプ　209

石川県
第14回JAPAN TENT－世界留学生交流・いしかわ2001－　209

石川県　輪島市
1999地球環境米・米フォーラムin輪島　210

福井県　大野市
越前大野感性はがき展　210

福井県　大野市
平成大野屋まつり　211

福井県　丸岡町
一筆啓上賞　211

長野県　松本市
ネイチャリングフェスタ「自然と遊ぼうin松本」　212

静岡県　静岡市
ストリートフェスティバル・イン・シズオカ　212

愛知県　平和町
HEIWAの手づくり絵ハガキコンテスト　213

京都府　宇治市
源氏ろまん　宇治大田楽まつり　213

兵庫県　加美町
「孝行まつり」とちょっと照れくさい孝行のメッセージ　214

岡山県　建部町
岡山弁はええもんじゃ～ことばの祭り・建部～　214

香川県　丸亀市
月見の宴　215

愛媛県　双海町
夕焼けプラットホームコンサート　215

愛媛県　瀬戸町
「結婚宣言」エッセイ全国コンテスト　216

福岡県　吉井町
筑後吉井のおひなさまめぐり　216

長崎県　平戸市
12Xおらんだ　217

熊本県　波野村
神楽フェスティバル　217

大分県　九重町
九重氷の祭典　218

## ～産業・観光～

北海道　小樽市
小樽雪あかりの路　219

宮城県　三本木町
ひまわりまつり　219

茨城県　関城町
関城の祭典「どすこいベア」　220

群馬県　前橋市
遊びの庭　一楽市・楽座一　220

山梨県　甲府市
甲府ウィーク　221

岐阜県　多治見市他
美濃焼窯場めぐり　221

岐阜県　上之保村
円空さんに挑戦　222

愛知県　東栄町
日本チェンソーアート競技大会　222

滋賀県　八日市市
二五八祭　223

京都府　舞鶴市
旧軍港四市グルメ市民交流会　223

兵庫県　温泉町
全日本かくれんぼ大会　224

奈良県　奈良市
なら燈花会　224

奈良県　大和郡山市
全国金魚すくい選手権大会　225

佐賀県　嬉野町
うれしのほほん着物園遊会「和」大茶会　225

長崎県　佐世保市
きらきらフェスティバル　226

## ～ミレニアム～

茨城県　ひたちなか市
世界一大きな「でっけ絵年賀状」　227

千葉県　銚子市
世紀越えイベントin銚子　227

徳島県
とくしま夢あかり　228

長崎県
ながさき阿蘭陀年「21世紀へのカウントダウン」　228

## 北海道・函館市

### はこだてクリスマスファンタジー　　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 12月1日～12月25日　25日間 |
| 回数 | 第4回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | はこだてクリスマスファンタジー実行委員会 |
| 会場 | 赤レンガ倉庫群周辺ほか市内一円 |
| 共催・後援等 | 特に無し |
| 主な対象 | 特に設定していない |
| 参加人数 | 入場者数　40万人 |
| | 目標入場者数　50万人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　42,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　15,000千円 |
| | ・協賛金　12,500千円 |
| | ・事業収入（物販収入）　14,400千円 |
| | ・その他（利息・繰越金等）　100千円 |
| 問い合わせ | 団体・部署：函館市商工観光部観光室観光課 |
| | 電話番号：0138-21-3323 |

## 秋田県・大曲市

### 新作花火コレクション　　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | 平成13年3月24日　1日間 |
| 回数 | 第10回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 新作花火コレクション実行委員会（大曲花火倶楽部） |
| 会場 | 大曲ファミリースキー場 |
| 共催・後援等 | 共　催／㈳日本煙火協会青年部 |
| | 後　援／大曲市、神岡町、六郷町、大曲商工会議所、㈳日本煙火協会、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、秋田魁新報社、秋田民報社、エフエム秋田、㈳大曲青年会議所 |
| 主な対象 | 特になし |
| 参加人数 | 入場者数　20,000人 |
| | 目標入場者数　20,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　10,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・広告料収入　10,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：大曲花火倶楽部 |
| | 電話番号：0187-62-6887 |

## 福島県・檜枝岐村

### 真夏の雪まつり　　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月4日～8月5日　2日間 |
| 回数 | 第9回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 檜枝岐村 |
| 会場 | 尾瀬檜枝岐温泉スキー場 |
| 共催・後援等 | 尾瀬檜枝岐温泉観光協会、東北経済産業局、福島民報社、福島民友新聞社 |
| 主な対象 | |
| 参加人数 | 入場者数　4,000人 |
| | 目標入場者数　4,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　5,829千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般会計　1,350千円 |
| | ・補助金　2,800千円 |
| | ・事業収入　1,645千円 |
| | ・協賛金　1,299千円 |
| | ・寄付金　35千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：尾瀬檜枝岐温泉観光協会 |
| | 電話番号：0241-75-2432 |
| | URL：http://www.vill.hinoemata.fukushima.jp/~oze/ |

## 千葉県・佐倉市

### 佐倉・時代まつり　　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 4月22日　1日間 |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 佐倉・時代まつり実行委員会 |
| 会場 | 旧堀田邸（旧佐倉藩主邸）から旧城下町通り |
| 共催・後援等 | 佐倉地区商店会連合会、㈳佐倉市観光協会、佐倉商工会議所 |
| 主な対象 | 時代行列（武者・大名）参加者、小学生高学年以上 |
| 参加人数 | 入場者数　行事参加者総勢438人（うち時代行列106人）、入場者数50,000人 |
| | 目標入場者数　50,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　6,608千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　5,000千円 |
| | ・協賛金　1,566千円 |
| | ・雑収入　42千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：佐倉・時代まつり実行委員会　事務局：佐倉商工会議所 |
| | 電話番号：043-486-2331 |

## 神奈川県・平塚市

### 湘南ひらつか囲碁まつり

部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 9月18日～11月25日　69日間 |
| 回数 | 第5回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 平塚市、㈶平塚市文化財団、湘南ひらつか囲碁文化振興事業実行委員会 |
| 会場 | 中心商店街他 市内会場 |
| 共催・後援等 | ㈶日本棋院、木谷門下会 |
| 主な対象 | 市民、全国の囲碁ファン |
| 参加人数 | 入場者数　5,200人 |
| | 目標入場者数　5,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　9,691千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・委託料　6,345千円 |
| | ・事業収入　1,471千円 |
| | ・協賛金　1,875千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：平塚市市民部文化行政推進室　㈶平塚市文化財団　事業課 |
| | 電話番号：0463-32-2237 |
| | URL：http://www.hiratsuka-bunka.or.jp |

## 富山県・富山市

### 全日本チンドンコンクール

部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 4月6日～4月8日　3日間 |
| 回数 | 第47回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 富山市、富山商工会議所 |
| 会場 | 富山城址公園及びその周辺 |
| 共催・後援等 | 富山市自治振興連絡協議会、㈱北日本新聞社、富山新聞社、NHK富山放送局、北日本放送㈱、富山テレビ放送㈱、㈱チューリップテレビ、㈱ケーブルテレビ富山、富山エフエム放送㈱、富山シティエフエム㈱ |
| 主な対象 | 「懐かしい」といっていただける高齢者、ヤングファミリー、カップルにも人気です。 |
| 参加人数 | 入場者数　230,000人 |
| | 目標入場者数　220,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　28,500千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・委託金　17,800千円 |
| | ・負担金　5,280千円 |
| | ・協賛金　860千円 |
| | ・広告料　3,440千円 |
| | ・事業収入　700千円 |
| | ・前期繰越　420千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：富山市商工労働部　観光振興課 |
| | 電話番号：076-443-2072 |
| | URL：http://www.city.toyama.toyama.jp/ |

## 石川県・七尾市

### 七尾・祭りの國フェスティバル（能登キリコフェスティバル）　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 6月2日～6月3日　2日間 |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 七尾市 |
| 会場 | わくわくプラザ（石川県七尾市和倉町） |
| 共催・後援等 | 共　催／能登キリコ祭り振興協議会 |
| | 後　援／七尾市観光協会、和倉温泉観光協会 |
| 主な対象 | 和倉温泉宿泊客、一般観光客 |
| 参加人数 | 入場者数　35,000人 |
| | 目標入場者数　32,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　30,250千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般　8,000千円 |
| | ・経済産業省補助金　14,250千円 |
| | ・団体負担金　8,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：七尾市産業部　商工観光課 |
| | 電話番号：0767-53-8424 |
| | URL：http://www.city.nanao.ishikawa.jp/ |

## 石川県・川北町

### 川北まつり（手取の火まつり）　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月4日　1日間 |
| 回数 | 第16回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 川北まつり実行委員会 |
| 会場 | 手取川簡易グラウンド |
| 共催・後援等 | 共　催／北國新聞社 |
| | 後　援／川北町議会、川北町区長会、川北町商工会、川北町各種諸団体、テレビ金沢、エフエム石川 |
| | 協　賛／松下電器産業㈱ディスプレイデバイス社LCD事業グループ |
| 主な対象 | 町民及び県内外の方 |
| 参加人数 | 入場者数　新聞発表　観衆26万人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　33,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・町一般財源　27,000千円 |
| | ・協賛金等　6,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：川北町役場　産業経済課 |
| | 電話番号：076-277-1111 |
| | URL：http://www.town.kawakita.ishikawa.jp |

## 石川県・内灘町

### 世界の凧の祭典

部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 5月3日～5月4日　2日間 |
| 回数 | 第13回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 内灘町世界の凧の祭典実行委員会、日本の凧の会、石川テレビ放送 |
| 会場 | 内灘海水浴場特設会場 |
| 共催・後援等 | 石川県 |
| 主な対象 | 凧の会会員 |
| 参加人数 | 入場者数　2,000人（競技者のみ） |
| | 目標入場者数　100,000人（観客含む） |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　14,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・町補助金　11,000千円 |
| | ・負担金　3,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：内灘町教育委員会　生涯学習課 |
| | 電話番号：076-286-6716 |
| | URL：http://www.nsknet.or.jp/uchinada/ |

## 福井県・福井市

### 福井コスモスまつり

部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 9月23日（日）　1日間 |
| 回数 | 第7回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 宮ノ下花の郷づくり実行委員会 |
| 会場 | 宮ノ下コスモス広苑 |
| 共催・後援等 | 共　催／宮ノ下地区自治会連合会、宮ノ下公民館、地区各種団体 |
| | 後　援／福井市、福井市教育委員会、JA福井市、福井農林総合事務所、福井新聞社、NHK福井放送局、FBC福井放送、福井テレビ |
| 主な対象 | 一般 |
| 参加人数 | 入場者数　110,000人 |
| | 目標入場者数　40,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　690千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・事業収入　640千円 |
| | ・寄付金　50千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：宮ノ下公民館 |
| | 電話番号：0776-59-1150 |

静岡県・長泉町

## 長泉わくわく祭り

部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月4日　1日間 |
| 回数 | 第5回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 長泉町、長泉わくわく祭り実行委員会 |
| 会場 | 大いちょう通り、長泉中央通り、コミュニティながいずみ（JR御殿場線　下土狩駅前） |
| 共催・後援等 | 静岡新聞社・SBS静岡放送、K－MIX、ボイス・キュー |
| 主な対象 | 若者 |
| 参加人数 | 入場者数　12,000人 |
| | 目標入場者数　18,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　20,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・町委託料　16,500千円 |
| | ・協賛金　2,500千円 |
| | ・事業収入等　1,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：長泉わくわく祭り実行委員会事務局（長泉町産業環境課） |
| | 電話番号：055-989-5516 |
| | URL：http://japan.nagaizumi.org |

愛知県・西春町

## 平盆まつり

部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月11日　1日間（12日も予定していたが、雨天のため中止） |
| 回数 | 第6回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 平盆まつり実行委員会 |
| 会場 | 西春町文化勤労会館周辺 |
| 共催・後援等 | ― |
| 主な対象 | 子どもからお年寄りまで |
| 参加人数 | 入場者数　10,000人 |
| | 目標入場者数　20,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　3,200千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・町一般会計　3,200千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：西春町　行政部　企画・生涯学習グループ |
| | 電話番号：0568-22-1111 |
| | URL：http://www.town.nishiharu.aichi.jp/ |

## 和歌山県・すさみ町

### イノブタダービー（イノブータン王国建国祭）　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 5月5日　1日間 |
| 回数 | 第21回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | イノブタダービー実行委員会 |
| 会場 | 和歌山県すさみ町、すたみ海水浴場 |
| 共催・後援等 | すさみ町、町観光協会、町商工会、町青年団、町商工会青年部、町商工会女性部、和歌山県畜産試験場、ヤマト運輸㈱、近畿大学水産研究所、周参見郵便局、JR周参見駅、串本高校吹奏学部 |
| 主な対象 | |
| 参加人数 | 入場者数　24,000人 |
| | 目標入場者数　20,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　3,702千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金等　2,900千円 |
| | ・寄付金　300千円 |
| | ・事業収入　502千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：すさみ町商工会 |
| | 電 話 番 号：0739-55-2293 |
| | U　R　L：http://www.susami.org |

## 徳島県・勝浦町

### ビッグひな祭り　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | 平成13年2月25日～平成13年3月11日　15日間 |
| 回数 | 第13回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | ビッグひな祭り実行委員会、阿波勝浦井戸端塾 |
| 会場 | 勝浦町勤労福祉センター |
| 共催・後援等 | 勝浦町、勝浦町教育委員会、勝浦町チャレンジ徳島推進協議会、勝浦町商工会、勝浦町婦人会、勝浦中央商店街、星谷ちゃらんぽらんかい、グループかりん |
| 主な対象 | 町内外・国内外の一般 |
| 参加人数 | 入場者数　35,000人 |
| | 目標入場者数　50,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　5,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　1,000千円 |
| | ・寄付金　3,500千円 |
| | ・事業収入　500千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：阿波勝浦井戸端塾 |
| | 電 話 番 号：08854-2-2361 |

## 愛媛県・新居浜市

### 全国お手玉遊び大会　　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月31日～9月1日　2日間 |
| 回数 | 第10回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 日本のお手玉の会、全国お手玉遊び大会実行委員会 |
| 会場 | リーガロイヤルホテル新居浜 |
| 共催・後援等 | 共　催／新居浜市、新居浜市教育委員会、愛媛新聞社、新居浜市観光協会、新居浜アメニティ倶楽部 |
| | 後　援／総務省、文部科学省、愛媛県、愛媛県レクリエーション大会、愛媛経済同友会、新居浜青年会議所、住友生命保険相互会社、国際ソロプチミスト新居浜、国際ソロプチミスト新居浜みなみ、株式会社リーガロイヤルホテル新居浜、マスコミ各社ほか |
| 主な対象 | 5歳から80歳過ぎまで（男女の比率3：7／小学生の部、一般の部） |
| 参加人数 | 入場者数　8,000人 |
| | 目標入場者数　8,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　3,900千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・協賛金　2,400千円　・会費　320千円 |
| | ・補助金　500千円　・雑収入　180千円 |
| | ・事業収入　300千円　・日本のお手玉の会から　200千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：日本のお手玉の会　事務局 |
| | 電話番号：0897-36-0600　URL：http://www.shikoku.ne.jp/otedama |

## 高知県・高知市

### よさこい全国大会　　部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月12日　1日間 |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 主催：よさこい祭り振興会　主管：㈳高知市観光協会 |
| 会場 | 高知市追手筋競演場、帯屋町商店街、中央公園 |
| 共催・後援等 | ― |
| 主な対象 | 老若男女問わず |
| 参加人数 | 入場者数　300,000人 |
| | 目標入場者数　400,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　22,900千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・委託料　15,000千円 |
| | ・県補助金　3,500千円 |
| | ・事業収入　2,500千円 |
| | ・その他　1,900千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：㈳高知市観光協会　担当部署：高知市産業振興部　観光課 |
| | 電話番号：088-823-9457 |
| | URL：http://www.city.kochi.kochi.jp/joho/top/index.htm |

## 大分県・緒方町

### 小松明(こだい)火祭り～真夏の夜の感動物語～

部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月14日　1日間 |
| 回数 | 約250年ほど前より始まる。（実施回数は不明） |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 緒方町、小松明火祭り実行委員会 |
| 会場 | 緒方平野一帯 |
| 共催・後援等 | 共　催／緒方町観光振興公社、緒方町観光協会 |
| | 後　援／大分合同新聞社 |
| 主な対象 | 全国及び帰省客 |
| 参加人数 | 入場者数　1,300人（小松明の実施）、15,000人（観光客） |
| | 目標入場者数　15,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　1,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般会計　900千円 |
| | ・協会負担金　100千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：緒方町役場　産業振興課 |
| | 電 話 番 号：0974-42-2111 |
| | U　R　L：http://www.oec-net.or.jp/soleil/shien/ogata2/main.html |

## 沖縄県・那覇市

### 那覇大綱挽

部門：祭り

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月7日　1日間 |
| 回数 | 第31回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 那覇大綱挽保存会 |
| 会場 | 国際通り、国道58号線（久茂地交差点） |
| 共催・後援等 | 沖縄総合事務局、沖縄県、那覇青年会議所、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県青年団協議会、那覇市婦人連合会、日本航空、全日空、日本エアシステム、日本トランスオーシャン航空、エアーニッポン、県内マスコミ各社（順不同） |
| 主な対象 | 特になし |
| 参加人数 | 入場者数　280,000人 |
| | 目標入場者数　280,000人前後 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　32,042千円（平成12年度） |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　19,000千円 |
| | ・負担金　1,000千円 |
| | ・寄附金　9,176千円 |
| | ・借入金　630千円 |
| | ・前期繰越金　68千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：那覇市経済環境部　観光課 |
| | 電 話 番 号：098-862-3276 |
| | U　R　L：http://www.city.naha.okinawa.jp/ |

**北海道・東藻琴村**

## ノンキーランドふるさとまつり

部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月26日　1日間 |
| 回数 | 第22回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | ノンキーランドふるさとまつり実行委員会 |
| 会場 | 緑とチーズの里ふれあいパーク |
| 共催・後援等 | 北海道、北海道観光連盟、その他地元各団体 |
| 主な対象 | 特定の対象なし |
| 参加人数 | 入場者数　4,000人 |
| | 目標入場者数　6,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　4,364千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・寄付金　3,220千円 |
| | ・事業収入　1,144千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：東藻琴村産業課　商工観光係 |
| | 電 話 番 号：0152-66-2131 |

**茨城県・土浦市**

## かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会

部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 4月15日　1日間 |
| 回数 | 第11回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | かすみがうらマラソン大会実行委員会、土浦市、霞ヶ浦町、日本障害者スポーツ協会、日本盲人マラソン協会、茨城陸上競技協会、土浦市社会福祉協議会、毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社 |
| 会場 | 川口運動公園陸上競技場 |
| 共催・後援等 | 後　援／国際盲人スポーツ協会他　協力団体／土浦警察署他　特別協賛／ほのぼのレイク |
| | 協賛団体／中川ヒューム管工業㈱、㈱ジョイフル本田、川鉄商事㈱、筑波病院、茨城セキスイハイム㈱、ミズノ㈱、東京電力㈱土浦営業所、積水ハウス㈱、日立グループ、常陽銀行、関東銀行、NTT土浦支店、大塚製薬㈱、東日本旅客鉄道㈱、日本自動車振興会、JTB団体旅行東京中央支店、土浦郵便局他南地域の郵便局 |
| 主な対象 | 高校生以上の健康な人 |
| 参加人数 | 入場者数　12,000人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　95,060千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・参加料　33,350千円 |
| | ・協賛金、広告料　38,900千円 |
| | ・補助金　18,300千円 |
| | ・負担金　500千円 |
| | ・雑入、繰越　4,010千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：土浦市教育委員会　かすみがうらマラソン大会事務局 |
| | 電 話 番 号：0298-26-3457 |

## 群馬県・安中市、松井田町

### 安政遠足侍マラソン　　部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 5月12日～5月13日　2日間 |
| 回数 | 第27回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 安政遠足保存会、安中市、松井田町 |
| 会場 | 安中市文化センター（前夜祭）<br>安中市文化センター～碓氷峠の熊野権現（マラソンコース） |
| 共催・後援等 | 後　援／安中市観光協会、松井田町観光協会、安中市体育協会、松井田町体育協会、安中青年会議所、安中市商工会、松井田町商工会、東京新聞、上毛新聞社、碓氷関所保存会 |
| | 協　賛／信越化学工業㈱、NTT東日本㈱、NTTコミュニケーションズ㈱、㈱NTT－ME、㈱NTTファシリティーズ、東京電力㈱、東邦亜鉛㈱、サンケイ工業㈱ |
| 主な対象 | 一般 |
| 参加人数 | 入場者数　1,400人 |
| | 目標入場者数　1,400人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　4,500千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般　4,500千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：安中市企画財政部企画課 |
| | 電 話 番 号：027-382-1111 |
| | U　R　L：http://www.kouhou@city.annaka.gunma.jp |

## 福井県・美浜町

### 美浜町民レガッタ　　部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月21日（日）　1日間 |
| 回数 | 第14回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 美浜町、美浜町教育委員会、美浜町体育協会 |
| 会場 | 福井県立久々子湖漕艇場 |
| 共催・後援等 | 福井県ボート協会、福井新聞社 |
| 主な対象 | 美浜町内に居住もしくは勤務する人 |
| 参加人数 | 入場者数　平成13年度参加クルー　100クルー（参加者約700人） |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　3,183千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・市補助金　1,000千円 |
| | ・市委託料　89千円 |
| | ・参加料、その他　2,094千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：美浜町教育委員会 |
| | 電 話 番 号：0770-32-1111 |

**長野県・小海町**

## 氷上トライアスロン小海大会

部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 1月26日～1月27日　2日間 |
| 回数 | 第13回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 氷上トライアスロン小海大会実行委員会 |
| 会場 | 小海リエックススキーバレー、松原湖高原スケートセンター及び周辺道路 |
| 共催・後援等 | 共　催／小海町、長野放送 |
| | 後　援／長野県トライアスロン協会、小海郵便局、JA長野八ヶ岳、南佐久中部森林組合、㈳佐久青年会議所、信濃毎日新聞社、産経新聞社、読売新聞社、朝日新聞長野支局、毎日新聞社、FM長野 |
| 主な対象 | トライアスロン愛好家 |
| 参加人数 | 入場者数　200人 |
| | 目標入場者数　200人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　8,400千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・町補助金　2,700千円 |
| | ・参加費　2,200千円 |
| | ・協賛金　3,500千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：小海町役場　産業建設課　氷上トライアスロン小海大会事務局 |
| | 電 話 番 号：0267-92-2525 |
| | U　R　L：http://www.avis.ne.jp/~koumi/ |

**滋賀県・愛東町**

## 全日本あいとう4時間耐久三輪車レース

部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月21日　1日間 |
| 回数 | 第15回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 愛東町青年団 |
| | 運営主管／全日本あいとう4時間耐久三輪車レース実行委員会 |
| 会場 | 愛東町役場駐車場特設サーキット |
| 共催・後援等 | 愛東町、愛東町教育委員会 |
| 主な対象 | 三輪車に乗った経験のある高校生以上　性別問わず |
| 参加人数 | 入場者数　240人 |
| | 目標入場者数　400人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　1,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・町補助金　400千円 |
| | ・寄付金（広告料）　300千円 |
| | ・参加料　300千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：愛東町青年団（夜間のみ）　愛東町役場　総務企画課 |
| | 電 話 番 号：0749-46-0217　0749-46-0211 |
| | U　R　L：　http://www.town.aito.shiga.jp |

## 和歌山県・新宮市

### 二県交流綱引き大会　　部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 5月13日　1日間 |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 二県交流綱引き大会実行委員会（構成団体：三重県紀宝町商工会青年部、三重県鵜殿村商工会青年部、和歌山県新宮商工会議所青年部、紀宝町、鵜殿村、新宮市） |
| 会場 | 熊野大橋及び熊野川河川敷（和歌山県側） |
| 共催・後援等 | 後　援／三重県、和歌山県、吉野熊野地域振興協議会、国土交通省近畿地方整備局、国土交通省中部地方整備局、マスコミ各社 |
| | 協　力／三重県綱引連盟、和歌山県綱引連盟 |
| 主な対象 | 和歌山県新宮市、三重県紀宝町、鵜殿村を中心とする周辺住民 |
| 参加人数 | 入場者数　10,000人（参加選手：2,000人／観客：8,000人） |
| | 目標入場者数　8,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　7,244千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金・負担金　4,000千円 |
| | ・協賛金　2,984千円 |
| | ・参加料　260千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：新宮市役所　商工観光課 |
| | 電話番号：0735-23-3333 |
| | URL：http://www.city.shingu.wakayama.jp |

## 島根県・美保関町

### エビスカップ 全日本海上綱引き選手権大会　　部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月5日　1日間 |
| 回数 | 第4回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 美保関町海夏まつり実行委員会 |
| 会場 | 美保関町内 |
| 共催・後援等 | 美保関町、美保関町教育委員会、美保関町観光協会、美保関町体育協会、美保関町商工会、美保関町漁業協同組合、JAくにびき |
| 主な対象 | 町民及び海を求めて来町する町外住民 |
| 参加人数 | 入場者数　500人 |
| | 目標入場者数　1,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　920千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　300千円 |
| | ・助成金　100千円 |
| | ・参加料　220千円 |
| | ・協賛金　300千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：美保関町　地域振興課 |
| | 電話番号：0852-72-2116 |
| | URL：http://www.web-sanin.co.jp/local/mihonoseki/ |

佐賀県・中原町

## 全日本うちわ選手権大会　ウインドブルドンin中原

部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月11日　1日間 |
| 回数 | 第2回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 中原町 |
| 会場 | 中原町総合センター周辺 |
| 共催・後援等 | 香川県丸亀市、香川県うちわ協同組合連合会、佐賀県東部地域観光振興協議会、中原町風祭り実行委員会 |
| 主な対象 | 高校生以上、性別住所不問（青年層） |
| 参加人数 | 入場者数　参加者191人、入場者数4,000人 |
| | 目標入場者数　5,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　5,611千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・事業収入　110千円 |
| | ・佐賀県叅博地域活性化事業補助金　4,400千円 |
| | ・一般財源　1,101千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：中原町役場　企画課 |
| | 電話番号：0942-94-5482 |
| | URL：http://www.saganet.ne.jp/nakabaru/ |

佐賀県・七山村

## 国際渓流滝登りinななやま

部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月19日　1日間 |
| 回数 | 第14回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 大雨風七山（うーばんぶうななやま） |
| 会場 | 七山村大字滝川　鳴神の丘運動公園～観音の滝渓谷一円 |
| 共催・後援等 | 後　援／七山村、佐賀県国際交流協会、佐賀新聞、RKB毎日放送、STSサガテレビ |
| 主な対象 | 国内：アウトドアー思考で、家族や職場等グループでの参加（全国） |
| | 国外：佐賀県内留学生、ALT、佐世保米海軍基地米兵 |
| 参加人数 | 入場者数　1,000人 |
| | 目標入場者数　1,083人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　4,668千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・参加料　2,877千円 |
| | ・村補助金　1,000千円 |
| | ・協賛金　791千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：大雨風七山　代表　阿部睦文 |
| | 電話番号：0955-58-2405 |

## 鹿児島県・瀬戸内町

### 奄美シーカヤックマラソンIN加計呂麻　　部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 6月30日～7月1日　2日間 |
| 回数 | 第9回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 奄美シーカヤックマラソンIN加計呂麻大会実行委員会 |
| 会場 | 瀬戸内町（大島海峡一帯） |
| 共催・後援等 | 共　催／奄美群島広域事務組合　　後　援／奄美群島観光連盟他24団体 |
| 主な対象 | 老若男女問わない（シーカヤッカー） |
| 参加人数 | 参加人数　421人 |
| | 目標入場者数　約1,500人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　15,880千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・町委託料　11,560千円 |
| | ・参加費　3,360千円 |
| | ・補助金　210千円 |
| | ・協賛金　750千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：瀬戸内町　商工観光課 |
| | 電 話 番 号：09977-2-1111 |
| | U　R　L：http://www.minc.ne.jp/setouchi/ |

## 沖縄県・伊平屋村

### 伊平屋ムーンライトマラソン　　部門：スポーツ

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月26日～10月27日　2日間 |
| 回数 | 第7回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 伊平屋ムーンライトマラソン実行委員会 |
| 会場 | 伊平屋村内（メイン会場：友愛と健康の広場） |
| 共催・後援等 | 共　催／琉球新報社 |
| | 後　援／沖縄県、㈶沖縄観光コンベンションビューロー、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ、ラジオ沖縄、FM沖縄 |
| 主な対象 | 県内外のジョガー |
| 参加人数 | 入場者数　1,000人 |
| | 目標入場者数　500人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　19,327千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・参加料　2,000千円 |
| | ・補助金　14,000千円 |
| | ・寄付金　1,450千円 |
| | ・繰越金　477千円 |
| | ・協賛金　1,400千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：伊平屋ムーンライトマラソン実行委員会又は伊平屋村役場　企画財政課 |
| | 電 話 番 号：0980-46-2867 |
| | U　R　L：http://www.cosmos.ne.jp/~moon |

北海道・夕張市

## ゆうばり国際ファンタスティック映画祭

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 2月14日～2月18日　5日間 |
| 回数 | 第13回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 夕張市、ゆうばりマウンテンシティ実施機構、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭実行委員会 |
| 会場 | ゆうばり文化スポーツセンター、夕張市民会館大ホール及びシネサロン、ゆうばりホテルシューパロ、清水沢健康会館 |
| 共催・後援等 | 後　援／外務省、経済産業省、国土交通省、総務省、文化庁、北海道、他40団体 |
| | 協　力／夕張市教育委員会、連合北海道夕張地区連合会、夕張商工会議所、夕張市農業協同組合、夕張観光協会、夕張青年会議所、夕張青年団体連絡会議、夕張市文化協会、夕張市芸能協会、夕張映画鑑賞会、夕張市各町内会 |
| | 運営協力／北海道旅客鉄道㈱（JR北海道）、全日本空輸㈱(ANA)、東日本電信電話㈱（NTT東日本）、ロイヤルパインズ㈱、㈱石炭の歴史村観光、夕張観光開発㈱、夕張鉄道㈱ |
| | 企画協力／東京国際ファンタスティック映画祭、ジェラルメ国際ファンタスティカ映画祭、㈱ニッポン放送、㈱東急レクリエーション、ビデオ＆DVDでーた、㈱アートポート |
| | 助成団体／国際交流基金 |
| | 特別協賛／MAX　FACTOR |
| | 協　賛／各企業等 |
| 主な対象 | 10代後半～40代まで幅広い映画ファンを対象 |
| 参加人数 | 入場者数　一人 |
| | 目標入場者数　25,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　都合により公開せず |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：ゆうばりマウンテンシティ実施機構内　ゆうばり国際ファンタスティック映画祭実行委員会 |
| | 電 話 番 号：01235-2-1365 |
| | E - m a i l：MCP1365@ruby.ocn.ne.jp |

青森県・鶴田町

## 「わいは！どんぱぢ丸出し！！」外国青年による津軽弁大会

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 6月16日　1日間 |
| 回数 | 第5回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 鶴田町 |
| 会場 | 鶴田町保健福祉センター「鶴遊館」 |
| 共催・後援等 | 青森県、㈶青森県国際交流協会、NHK青森放送局、RAB青森放送、ATV青森テレビ、ABA青森朝日放送、東奥日報社、陸奥新報社、河北新報社青森総局、朝日新聞社青森支局、読売新聞社青森支局、毎日新聞社青森支局、産経新聞社青森支局 |
| 主な対象 | 町民全般 |
| 参加人数 | 入場者数　252人 |
| | 目標入場者数　300人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　1,116千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般財源　1,044千円 |
| | ・事業収入等　72千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：鶴田町役場　企画課　広報国際係 |
| | 電 話 番 号：0173-22-2111（内線263,264） |

岩手県・陸前高田市

## 全国太鼓フェスティバル

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月20日～10月21日　2日間 |
| 回数 | 第13回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 全国太鼓フェスティバル実行委員会 |
| 会場 | 陸前高田市民体育館 |
| 共催・後援等 | 協　賛／㈶日本太鼓連盟、岩手県太鼓連盟、大船渡地方振興局、陸前高田市（以下「市」）、市観光協会、気仙町けんか七夕保存会、氷上共鳴会、長安寺太鼓保存会、東北電力㈱大船渡営業所 |
| | 後　援／岩手県、岩手県教育委員会、㈶岩手県観光協会、陸中海岸国立公園協会、市教育委員会、市内各種団体、県内マスコミ各社 |
| 主な対象 | 全国からの来場希望者（年齢・地域等問わず） |
| 参加人数 | 入場者数　参加人数　3,011人　参加団体　12団体　150人　実行委員　121人 |
| | 目標入場者数　3,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　17,062千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・市からの補助金　3,800千円 |
| | ・広告協賛　2,520千円 |
| | ・関連事業収入他　2,675千円 |
| | ・チケット収入　8,367千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：全国太鼓フェスティバル実行委員会（陸前高田市役所　産業振興部　商工観光課内） |
| | 電 話 番 号：0192-54-2111（内148） |
| | U　R　L：市のホームページhttp://www.city.rikuzentakata.iwate.jp |
| | 全国太鼓フェスティバル実行委員会ホームページhttp://www.kesen.org/taiko/ |

岩手県・湯田町

## 平和街道高齢者障害者演劇ネットワーク事業

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月10日～11月16日　25日間 |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 湯田町社会福祉協議会（北上・和賀広域社協連絡協議会） |
| 会場 | ゆだ文化創造館「銀河ホール」他 |
| 共催・後援等 | 北上市、湯田町、沢内村、秋田県山内村、北上市社会福祉協議会、沢内村社会福祉協議会、広域市町村の老人クラブ連合会、身体障害者協議会、手をつなぐ育成会、精神障害者家族会、民生児童委員協議会 |
| 主な対象 | 障害者（身体障害・知的障害・精神障害）及び65歳以上の高齢者 |
| 参加人数 | 入場者数　1,340人（平成12年度実績） |
| | 目標入場者数　1,200人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　1,680千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　1,120千円 |
| | ・自己資金　200千円 |
| | ・入場協力金　360千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：湯田町社会福祉協議会 |
| | 電 話 番 号：0197-84-2161 |

## 岩手県・藤沢町

### 藤沢野焼祭

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月11日～8月12日　2日間 |
| 回数 | 第26回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 藤沢野焼祭実行委員会 |
| 会場 | 町立藤沢中学校グラウンド・特設縄文村 |
| 共催・後援等 | 共　催／藤沢町、藤沢町教育委員会、藤沢町商工会、いわい東農業協同組合、藤沢町観光協会、藤沢町自治会協議会、藤沢町芸術文化協会、藤沢町体育協会、藤沢町女性組織連絡会議、藤沢町老人クラブ連合会、藤沢町商工会女性部、藤沢町商工会青年部、藤沢町工業倶楽部、藤沢町国際交流協会、町内保育園・幼稚園、町内小・中・高等学校、藤沢町PTA連合会、保育施設等父母の会連絡協議会、ふじの実学園、藤沢焼を支援する会、藤沢粉香木窯、たかぼく陶芸愛好会、藤沢・岩手ライオンズクラブ、藤沢町食生活改善推進員連絡協議会、二日町祭神太鼓 |
| | 後　援／岩手県、岩手県教育委員会、岩手県内マスコミ各社 |
| 主な対象 | 町内外の幼児から高齢者まで |
| 参加人数 | 入場者数　12,000人 |
| | 目標入場者数　10,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　12,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・負担金　2,180千円 |
| | ・協賛金　8,000千円 |
| | ・事業収入等　1,820千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：藤沢町文化交流センター・文化振興課 |
| | 電話番号：0191-63-5515 |
| | URL：http://www.town.fujisawa.iwate.jp |

## 宮城県・大河原町

### おだづもっこ文化祭NPOフォーラム≪NPOいずいッ。≫

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | 平成12年11月12日　1日間 |
| 回数 | 第1回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | おだづもっこ文化祭実行委員会（主管）、宮城県地域づくり団体ネットワーク協議会仙南支部、宮城県 |
| 会場 | 宮城県柴田町「槻木文化センター」 |
| 共催・後援等 | — |
| 主な対象 | NPO活動の経験のない一般県民 |
| 参加人数 | 入場者数　310人 |
| | 目標入場者数　100人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　299千円 |
| | ○財源内訳　299千円（宮城県との共同実施・県のNPOフォーラム開催経費） |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：おだづもっこ文化祭実行委員会事務局　佐藤（宮城県大河原地方県事務所　地域振興班内） |
| | 電話番号：0224-53-3112 |
| | URL：http://www.pref.miyagi.jp/ok-tihoukn/ |

## 山形県・三川町

### 全国方言大会

部門：文化・交流

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月23日　1日間 | | | | |
| 回数 | 第15回目 | | | | |
| 開催形式 | 毎年 | | | | |
| 主催団体 | 三川トピア創造委員会 | | | | |
| 会場 | 三川町民体育館 | | | | |
| 共催・後援等 | 三川町、三川町教育委員会 | | | | |
| 主な対象 | 方言を愛する人びと、一般の方全員 | | | | |
| 参加人数 | 入場者数 | 500人 | | | |
| | 目標入場者数 | 500人 | | | |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費 | 6,500千円（H.12を例に） | | | |
| | ○財源内訳 | | | | |
| | ・補助金 | 4,500千円 | | | |
| | ・チケット売上 | 500千円 | | | |
| | ・広告料 | 1,500千円 | | | |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：三川トピア創造委員会事務局（三川町役場　企画課内） | | | | |
| | 電 話 番 号：0235-66-3111 | | | | |

## 福島県・いわき市

### まぼろしの浜街道「新田坂」をゆく

部門：文化・交流

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月23日　1日間　「かぐらばのまほろば『手づくり村』推進事業」平成13年12月～平成14年3月 | | | | |
| 回数 | 第4回目 | | | | |
| 開催形式 | 毎年 | | | | |
| 主催団体 | 渡辺地区町づくり推進会 | | | | |
| 会場 | いわき市渡辺町地内 | | | | |
| | ・山中に発見した江戸時代の参勤交代の道と新田宿場 | | | | |
| | ・歴史に彩られた「かぐらばの里」渡辺町清水地区 | | | | |
| 共催・後援等 | 共　催／わたなべ昔むかし塾 | | | | |
| | 後　援／福島県いわき地方振興局、いわき市 以上初年度　以降は単独開催 | | | | |
| 主な対象 | 地域住民と地域出身者及び一般市民 | | | | |
| 参加人数 | | 平成10年度 | 平成11年度 | 平成12年度 | 平成13年度 |
| | 入場者数 | 1,300人 | 300人 | 300人 | 一人 |
| | 目標入場者数 | 200人 | 300人 | 300人 | 500人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費 | 1,900千円 | 200千円 | 650千円 | 1,700千円 |
| | ○財源内訳 | | | | |
| | ・補助金 | 1,700千円 | 0千円 | 300千円 | 1,300千円 |
| | ・一般 | 100千円 | 100千円 | 250千円 | 300千円 |
| | ・事業収入 | 100千円 | 100千円 | 100千円 | 100千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：わたなべ昔むかし塾　遠藤靖 | | | | |
| | 電 話 番 号：0246-56-4761 | | | | |
| | E - m a i l：mukashi2-juku@nyc.odn.ne.jp | | | | |

## 茨城県・取手市

### 頑固者賞

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 7月1日～10月31日の123日間でエッセイを募集<br>平成14年3月2日に受賞者の表彰式及びイベントを開催 |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 取手市、取手市教育委員会、PHP総合研究所 |
| 会場 | 表彰式及びイベントは、取手市民会館大ホールで開催 |
| 共催・後援等 | 関東郵政局 |
| 主な対象 | テーマについてこだわりや信念を持って生活している日本全国の小学生、中学生、高校生及び一般人のみなさん。 |
| 参加人数 | エッセイ応募人数　2,000人 |
| | 表彰式入場者数　1,000人（いずれも目標値） |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　8,394千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般財源　8,394千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：取手市教育委員会　文化振興課 |
| | 電話番号：0297-74-2141（内線445） |
| | URL：http://www.city.toride.ibaraki.jp/ |

## 栃木県・岩舟町

### 岩船山クリフステージ野外コンサート

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月20日　1日間 |
| 回数 | 第2回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 岩船山クリフステージ企画委員会 |
| 会場 | 栃木県下都賀郡岩舟町地内　岩船山中腹採石場跡地（クリフステージ） |
| 共催・後援等 | 後　援／岩舟町、岩舟町教育委員会、岩舟町商工会、JA岩舟町、下野新聞社、栃木放送、エフエム栃木、とちぎテレビ、スィングジャーナル、ポリドール、タワーレコード |
| | 特別協賛／NTT東日本栃木営業所、ブルミエ |
| 主な対象 | 町内外の一般の方 |
| 参加人数 | 入場者数　2,420人 |
| | 目標入場者数　2,500人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　19,249千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・入場料収入　12,199千円 |
| | ・町補助金　1,000千円 |
| | ・広告収入　1,700千円 |
| | ・その他の収入　2,350千円 |
| | ・寄付金　2,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：岩船山クリフステージ企画委員会　〒329-4301　栃木県下都賀郡岩舟町大字鷲巣54 |
| | 電話番号：0282-55-6988 |
| | URL：http://www.0282.net/~cliff/ |
| | E-mail：taki@0282.net |

**群馬県・草津町**

## 草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月17日～8月30日　14日間 |
| 回数 | 第22回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 草津町、㈶関信越音楽協会 |
| 会場 | 草津音楽の森国際コンサートホール |
| 共催・後援等 | 後　　援／文化庁、群馬県、群馬県教育委員会、草津温泉観光協会、草津アカデミー友の会 |
| 主な対象 | 全国、県内及び町民全般（コンサート） |
| 参加人数 | 入場者数　8,035人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　113,182千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・事業収入　40,853千円 |
| | ・補助金　47,300千円 |
| | ・寄付金　23,900千円 |
| | ・その他　1,954千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：草津音楽の森国際コンサートホール |
| | 電 話 番 号：0279-88-8686 |

**埼玉県・川越市**

## 開館！まちかどミュージアム

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 平成13年度（2001年度）は未実施 |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 平成10年度～12年度実施 |
| 主催団体 | ㈳川越青年会議所 |
| 会場 | 埼玉県川越市内、西武本川越駅から札の辻までの通りとその周辺 |
| 共催・後援等 | 共　　催／小江戸川越観光推進協議会 |
| | 後　　援／川越市、川越市教育委員会、川越商工会議所、川越市観光協会、川越市自治会連合会 |
| 主な対象 | 青年層を中心に川越を愛する全ての人びと |
| 参加人数 | 入場者数　平成10年5月16日（土）　8,000人　　17日（日）15,000人（共に警察発表） |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　4,884千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・㈳川越青年会議所予算内　特別事業費　2,000千円 |
| | ・寄付金収入（小江戸川越観光推進協議会、商工会議所ほか）　1,906千円 |
| | ・事業収入（ライブチケットの収入）　902千円 |
| | ・雑収入（ライブの飲み物代等）　76千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：㈳川越青年会議所（事務局）〒350-8510川越市仲町1-12 |
| | 電 話 番 号：049-229-1810 |
| | U　R　L：http://www.kawagoe-or.jp |

## 埼玉県・南河原村

### お絵かきスリッパ展

部門：文化・交流

| | | |
|---|---|---|
| 開催（平成11年度） | 平成11年11月３日　１日間 | |
| 回数 | 第１回目 | |
| 開催形式 | ほぼ６年に１回 | |
| 主催団体 | 南河原村商工会 | |
| 会場 | 南河原村立南河原小学校体育館 | |
| 共催・後援等 | 南河原村、埼玉スリッパ商工業協同組合 | |
| 主な対象 | 村民すべて | |
| 参加人数 | 入場者数 | 2,000人 |
| | 目標入場者数 | 4,400人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費 | 400千円 |
| | ○財源内訳 | |
| | ・一般 | 300千円 |
| | ・補助金 | 100千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：南河原村商工会 | |
| | 電 話 番 号：048-557-0742 | |

## 新潟県・新発田市

### ページェント2000「この豊かなる大地の賛歌」Part３

部門：文化・交流

| | | |
|---|---|---|
| 開催（平成12年度） | 平成12年８月19日　１日間 | |
| 回数 | 第３回目 | |
| 開催形式 | 毎年 | |
| 主催団体 | 城下町新発田ふるさとまつり開催実行委員会、新発田市 | |
| 会場 | 新発田城址公園 | |
| 共催・後援等 | なし | |
| 主な対象 | 市民及び近隣市町村住民 | |
| 参加人数 | 入場者数 | 11,500人 |
| | 目標入場者数 | 10,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費 | 58,671千円 |
| | ○財源内訳 | |
| | ・一般財源 | 35,620千円 |
| | ・国県補助金 | 19,250千円 |
| | ・事業収入 | 127千円 |
| | ・その他 | 3,672千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：新発田市　産業振興部　商工観光課 | |
| | 電 話 番 号：0254-22-3101 | |
| | U　R　L：http://www.city.shibata.niigata.jp/ | |

新潟県・相川町

## 金の道佐渡から江戸へ

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 5月12日～5月27日　16日間 |
| 回数 | 第4回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 金の道佐渡から江戸へ実行委員会 |
| 会場 | 佐渡から東京までの金を運んだ道 |
| 共催・後援等 | 新潟県、新潟県観光協会、佐渡市町村会、佐渡観光協会 |
| 主な対象 | 歴史に興味があり、歩くことが好きな人 |
| 参加人数 | 入場者数　300人 |
| | 目標入場者数　300人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　8,500千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・負担金　4,000千円 |
| | ・補助金　1,000千円 |
| | ・協賛金　1,500千円 |
| | ・参加料　1,530千円 |
| | ・繰越金　450千円 |
| | ・雑入　20千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：金の道佐渡から江戸へ事務局 |
| | 電話番号：0259-74-2220 |
| | URL：http://www4.ocn.ne.jp/~aikawa.k |

富山県・大門町

## 越中だいもん凧まつり

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 5月19日～5月20日　2日間 |
| 回数 | 第23回目 |
| 開催形式 | 毎年　5月第3土・日曜日 |
| 主催団体 | 越中だいもん凧まつり実行委員会 |
| 会場 | 富山県大門町枇杷首地内、大門カイトパーク（庄川左岸河川敷） |
| 共催・後援等 | 大門町、越中大門凧の会、日本の凧の会、大門町自治連合会、大門町商工会、小杉地区交通安全協会、大門町消防団、大門町連合婦人会、大門漁業協同組合、大門町児童クラブ連合会、大門町母親クラブ連合会、射水広域圏事務組合、富山県西部地方拠点都市地域整備推進協議会、国土交通省北陸地方整備局富山工事事務所、㈳富山県観光連盟、いきいき富山観光キャンペーン実施協議会 |
| 主な対象 | 老若男女規制はありません |
| 参加人数 | 入場者数　70,000人 |
| | 目標入場者数　100,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　17,148千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般会計　16,918千円 |
| | ・補助金　230千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：大門町役場　産業課 |
| | 電話番号：0766-52-6961 |
| | URL：http://www.town.daimon.toyama.jp/ |

## 富山県・井波町

### いなみ国際木彫刻キャンプ　　部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成11年度） | 平成11年７月24日～平成11年８月８日　16日間 |
| 回数 | 第３回目 |
| 開催形式 | ４年ごと |
| 主催団体 | いなみ国際木彫刻キャンプ実行委員会 |
| 会場 | 井波町関乗寺公園 |
| 共催・後援等 | 富山県、富山県教育委員会、文化庁、日本万国博覧会記念協会、㈶松翁記念財団、㈶とやま国際センター、㈶富山コンベンションビューロー |
| 主な対象 | 特定の対象なし |
| 参加人数 | 入場者数　　海外作家14名、国内作家６名、地元作家167名　ボランティア1,207名（延べ）入場者約40,000人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　　74,028千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般財源　　50,000千円 |
| | ・県補助金　　13,000千円 |
| | ・助成金　　6,300千円 |
| | ・寄付金　　4,699千円 |
| | ・その他　　29千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：井波町教育委員会　生涯教育課 |
| | 電 話 番 号：0763-82-5885 |
| | U　R　L：http://www.town.inami.toyama.jp/bunka |

## 石川県

### 第14回JAPAN　TENT－世界留学生交流・いしかわ2001－　　部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ７月27日～８月３日　８日間 |
| 回数 | 第14回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | JAPAN　TENT開催委員会 |
| 会場 | 石川県内41の全市町村 |
| 共催・後援等 | 内閣府、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、総務省、以下経済団体、国際協力事業団、石川県、県内全市町村、石川県教育委員会など |
| 主な対象 | 日本全国で学ぶ世界からの留学生、研修生 |
| 参加人数 | 入場者数　参加留学生350名、学生ボランティア140名、その他ボランティア5,000名、ホストファミリー約1,000名<br>一般入場者約5,000名、元留学生30名 |
| | 目標入場者数　　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　　82,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・中央国際交流団体等助成　4,500千円　・県内7市補助金　5,000千円 |
| | ・石川県補助金　11,000千円　・協賛金、寄付金　26,000千円 |
| | ・金沢市補助金　3,500千円　・北國新聞社負担金　32,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：石川県県民文化局　国際課 |
| | 電 話 番 号：076-223-9108 |
| | U　R　L：http://www.japantent.com |

## 石川県・輪島市

### 1999地球環境米・米フォーラムin輪島

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 5月12日、13日田植えフェスティバル　8月とんぼ田んぼシンポジウム　9月22、23日稲刈りフェスティバル　12月種もみ引き渡し式<br>※開催日、回数は「2001地球環境米・米フォーラムin北びわこ」のもの |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 地球環境平和財団、1999地球環境米米フォーラムin輪島実行委員会 |
| 会場 | 輪島市、白米千枚田 |
| 共催・後援等 | 共　　催／輪島市 |
| | 後 援 等／国連環境計画、農林水産省、自治省（当時）、環境庁（当時）、外務省、国土庁（当時）、石川県他 |
| 主な対象 | 外国大使館関係者（44ヵ国）、県内外の一般市民・輪島市民等 |
| 参加人数 | 入場者数　1,000人 |
| | 目標入場者数　1,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　70,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・財団　60,000千円（参加者負担、協賛金等） |
| | ・石川県　5,000千円 |
| | ・輪島市　5,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：輪島市　総務部企画課 |
| | 電 話 番 号：0768-23-1113 |

## 福井県・大野市

### 越前大野感性はがき展

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 6月1日～9月30日（作品募集）<br>12月9日（市民審査）<br>1月（ゲスト審査）<br>2月（入賞者発表）<br>3月（表彰式、作品展示） |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 隔年 |
| 主催団体 | 越前大野感性はがき展実行委員会、大野市、大野市教育委員会 |
| 会場 | 大野市内 |
| 共催・後援等 | 後　　援／国土交通省近畿地方整備局、北陸郵政局、福井県、財地域活性化センター |
| 主な対象 | 全国の環境に関心があり、感性をはがきサイズに表現したい方 |
| 参加人数 | 応募作品数　6,412通（前回実績） |
| | 目標応募作品数　10,000通 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　2,800千円（作品集出版費用は除く） |
| | ○財源内訳 |
| | ・市からの委託金　2,800千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：大野市教育委員会　社会教育課 |
| | 電 話 番 号：0779-66-1111（内線542） |

## 福井県・大野市

### 平成大野屋まつり

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月７日　１日間 |
| 回数 | 第４回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 平成大野屋本店（大野市） |
| 会場 | 大野市まちなか観光拠点施設「平成大野屋」「平蔵」「中庭」 |
| 共催・後援等 | ㈱平成大野屋 |
| 主な対象 | 大野市民、平成大野屋支店主（全国の大野さん） |
| 参加人数 | 入場者数　2,000人 |
| | 目標入場者数　3,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　2,984千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・委託料　2,984千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：①大野市総務部　総合政策課　②㈱平成大野屋 |
| | 電 話 番 号：0779-66-1111　0779-69-9200 |
| | U　R　L：http://www.mitene.or.jp/~ono/　http://www.h-onoya.co.jp/ |

## 福井県・丸岡町

### 一筆啓上賞

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ４月５日～９月30日（募集期間） |
| 回数 | 第９回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 丸岡町、㈶丸岡町文化振興事業団 |
| 会場 | ― |
| 共催・後援等 | 共　催／郵政事業庁後援～住友グループ広報委員会 |
| 主な対象 | 特になし |
| 参加人数 | 平成12年度応募総数　日本語　121,724通 |
| | 英語　8,751通 |
| 総経費・財源内訳 | 総経費　41,000千円 |
| | 財源内訳 |
| | ・事業収入　3,000千円 |
| | ・補助金　12,000千円 |
| | ・寄付金　26,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：㈶丸岡町文化振興事業団 |
| | 電 話 番 号：0776-67-5100 |
| | U　R　L：http://www.town.maruoka.fukui.jp |

**長野県・松本市**

## ネイチャリングフェスタ「自然と遊ぼうin松本」

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月11日～8月13日　3日間 |
| 回数 | 第2回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | ネイチャリングフェスタ実行委員会 |
| 会場 | アルプス公園 |
| 共催・後援等 | 松本市、松本市教育委員会、街を花いっぱいにする会、松本市教育文化振興財団、松本商工会議所、松本市観光協会、松本市交通安全市民運動推進会議、松本ハイランド農業協同組合、松本市小中学校校長会、松本市PTA連合会、松本市子ども会育成連合会、松本市町会連合会、ボーイスカウト長野県連盟、松本市保育園保護者会、松本商店街連盟、松本市私立幼稚園協会、松本市内旅館組合連合会、松本市緑化推進委員協議会、信濃毎日新聞社、信越放送 |
| 主な対象 | 保育園・幼稚園児、小中学生、家族づれ |
| 参加人数 | 入場者数　15,212人 |
| | 目標入場者数　15,000～20,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　39,500千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・負担金（松本市、信濃毎日新聞、信越放送）　32,000千円 |
| | ・協賛金　6,000千円 |
| | ・繰越金　1,500千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：松本市公園緑地課 |
| | 電話番号：0263-34-3254 |

**静岡県・静岡市**

## ストリートフェスティバル・イン・シズオカ

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月17日～11月18日　2日間 |
| 回数 | 第2回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | ストリートフェスティバル・イン・シズオカ実行委員会、㈶静岡市文化振興財団 |
| 会場 | 静岡市青葉シンボルロード |
| 後援 | 静岡市 |
| 主な対象 | 若年層 |
| 参加人数 | 入場者数　約30,000人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　2,986千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・協賛金　500千円 |
| | ・主催負担金　2,300千円 |
| | ・事業収入　186千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：㈶静岡市文化振興財団　総務課内　ストリートフェスティバル・イン・シズオカ実行委員会事務局 |
| | 電話番号：054-255-4746 |

愛知県・平和町

## HEIWAの手づくり絵ハガキコンテスト

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 平成13年12月10日～平成14年２月28日　81日間 |
| 回数 | 第６回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 平和町、平和町教育委員会 |
| 会場 | 平和町総務部企画課 |
| 共催・後援等 | 文部科学省、郵政事業庁、社団法人日本ユネスコ協会連盟、愛知県、愛知県教育委員会、社団法人日本経営協会 |
| 主な対象 | 一般 |
| 参加人数 | 参加人数　（前回実績）　35,048人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　8,244千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般会計　8,244千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：平和町役場　総務部　企画課 |
| | 電 話 番 号：0567-46-1111 |
| | U　R　L：http://www.town.heiwa.aichi.jp |

京都府・宇治市

## 源氏ろまん　宇治大田楽まつり

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月３日　１日間 |
| 回数 | 第４回 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 宇治大田楽まつり実行委員会 |
| 会場 | 京都府立宇治公園（中の島）　雨天時：宇治市文化センター大ホール |
| 共催・後援等 | 共　催／宇治市、宇治市教育委員会、㈳宇治青年会議所、紫式部文学賞イベント実行委員会 |
| | 後　援／京都府、他35団体 |
| 主な対象 | |
| 参加人数 | 入場者数　1,500人　（雨天のため。平成12年度は5,500人） |
| | 目標入場者数　6,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　16,540千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・日本芸術文化振興会（補助金）　5,000千円 |
| | ・宇治市分担金（補助金）　8,000千円 |
| | ・協賛金等（寄付金）　3,000千円 |
| | ・実行委員会会費（会費）　240千円 |
| | ・出演者運営協力金（協力金）　300千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：宇治大田楽まつり実行委員会 |
| | 電 話 番 号：0774-22-5557 |

兵庫県・加美町

## 「孝行まつり」とちょっと照れくさい孝行のメッセージ

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 5月4日　1日間 |
| 回数 | 第6回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 市原村おこし委員会 |
| 会場 | 市原公会堂 |
| 共催・後援等 | 加美町、杉原谷郵便局 |
| 主な対象 | 「孝行まつり」集落の住民全員が対象 |
| 参加人数 | 入場者数　200人 |
| | 目標入場者数　270人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　300千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・部落会計　190千円 |
| | ・郵便局補助金　10千円 |
| | ・農会補助金　100千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：兵庫県多可郡加美町市原区　代表　安田昇司 |
| | 電話番号：0795-36-1114 |

岡山県・建部町

## 岡山弁はええもんじゃ～ことばの祭り・建部～

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月21日　1日間 |
| 回数 | 第2回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 岡山弁はええもんじゃ実行委員会、建部町、建部町文化センター |
| 会場 | 建部町文化センター |
| 共催・後援等 | 岡山県、岡山県教育委員会、岡山県芸術祭実行委員会、NHK岡山放送局、山陽新聞社、建部町教育委員会 |
| 主な対象 | 県内一般住民 |
| 参加人数 | 入場者数　352人 |
| | 目標入場者数　450人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　1,200千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般　927千円 |
| | ・補助金　273千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：建部町文化センター　自主企画担当 |
| | 電話番号：0867-22-9111 |
| | URL：http://ww9.tiki.ne.jp/~takebe-cul/ |

香川県・丸亀市

## 月見の宴

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月1日　1日間 |
| 回数 | 第16回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 土器川ロマンの会 |
| 会場 | 土器川親水護岸 |
| 共催・後援等 | 国土交通省、四国の川を考える会 |
| 主な対象 | 一般 |
| 参加人数 | 入場者数　2,000人 |
| | 目標入場者数　3,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　3,500千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・参加費　3,500千円（21,000円×約180席） |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：丸亀市役所　商工観光課 |
| | 電 話 番 号：0877-24-8816 |
| | U　R　L：http://www.city.marugame.kagawa.jp |

愛媛県・双海町

## 夕焼けプラットホームコンサート

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 9月1日　1日間 |
| 回数 | 第16回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 夕焼けプラットホームコンサート運営委員会 |
| 会場 | JR下灘駅 |
| 共催・後援等 | 双海町観光協会 |
| 主な対象 | 青少年 |
| 参加人数 | 入場者数　1,500人 |
| | 目標入場者数　1,500人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　1,150千円 |
| | ○財源内訳　1,150千円（双海町からの補助金900千円）<br>（双海町観光協会からの助成金250千円） |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：双海町役場　地域振興課 |
| | 電 話 番 号：089-986-1111 |
| | U　R　L：http://www.shikoku.ne.jp/futami/ |

愛媛県・瀬戸町

## 「結婚宣言」エッセイ全国コンテスト

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月5日　1日間 |
| 回数 | 第16回目（「結婚宣言」エッセイ全国コンテストは第5回目） |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 瀬戸町イベント実行委員会 |
| 会場 | 瀬戸町三机（須賀公園） |
| 共催・後援等 | 貸衣装八大、コジマ写真館、大和ハウス工業㈱ |
| 主な対象 | 瀬戸町民及び近隣市町村 |
| 参加人数 | 入場者数　800人 |
| | 目標入場者数　1,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　5,700千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・町補助金　3,000千円 |
| | ・寄付金　1,000千円 |
| | ・事業収入　1,700千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：瀬戸町　企画課 |
| | 電話番号：0894-52-0111 |
| | URL：http://www4.ocn.ne.jp/~setotyou/ |

福岡県・吉井町

## 筑後吉井のおひなさまめぐり

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | 平成13年2月15日～平成13年4月3日　48日間 |
| 回数 | 第9回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 筑後吉井おひなさまめぐり実行委員会 |
| 会場 | 白壁通り、蔵しっく通りを中心に町内24ヶ所 |
| 共催・後援等 | 吉井町、町教育委員会、町文化連合会、町郷土史会、町観光協会　等 |
| 主な対象 | 一般 |
| 参加人数 | 入場者数　250,000人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　1,295千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・町補助金　500千円 |
| | ・協賛金　480千円 |
| | ・広告料　260千円 |
| | ・繰越金　55千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：吉井町観光協会 |
| | 電話番号：09437-6-3980 |

## 長崎県・平戸市

### 12Xおらんだ

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 9月1日～11月3日　64日間 |
| 回数 | 第2回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 12Xおらんだ実行委員会 |
| 会場 | 平戸港交流広場、学校他 |
| 共催・後援等 | |
| 主な対象 | 小中学校児童・生徒、市民グループ |
| 参加人数 | 参加人数　4人（参加オランダ人） |
| | 目標入場者数　1,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　4,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般　2,000千円 |
| | ・県補助金　2,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：平戸市教育委員会　文化交流課 |
| | 電話番号：0950-22-4111 |

## 熊本県・波野村

### 神楽フェスティバル

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月6日～10月7日　2日間 |
| 回数 | 第10回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 波野村神楽フェスティバル実行委員会 |
| 会場 | 道の駅「なみの」神楽苑 |
| 共催・後援等 | 共　催／村内各種団体他 |
| | 後　援／熊本県他 |
| 主な対象 | 全般（中高年多数） |
| 参加人数 | 入場者数　10,000人 |
| | 目標入場者数　20,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　8,180千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・村補助金　6,000千円 |
| | ・入場料　2,100千円 |
| | ・雑入　80千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：波野村役場　企画観光課 |
| | 電話番号：0967-24-2804 |
| | URL：http://www.aso.ne.jp/~namino/ |

大分県・九重町

## 九重氷の祭典

部門：文化・交流

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ２月９日～２月11日　３日間 |
| 回数 | 第14回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 九州ウインターフェスティバル九重氷の祭典実行委員会 |
| 会場 | 九重町飯田高原、長者原 |
| 共催・後援等 | 後　援／大分県、九重町、日田玖珠広域市町村圏事務組合 |
| | 協　賛／九重町観光協会、筋湯温泉観光協会、飯田高原観光協会、湯坪民宿組合、筌の口観光協会、JR九州、カメラのヨシヒロ、八鹿酒造株式会社 |
| | 協　力／陸上自衛隊玖珠駐屯地 |
| 主な対象 | 観光客 |
| 参加人数 | 入場者数　50,000人 |
| | 目標入場者数　55,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　20,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・協賛金　2,000千円 |
| | ・事業収入　17,000千円 |
| | ・一般　1,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：九重町　商工観光課 |
| | 電 話 番 号：09737-6-3150 |
| | U　R　L：http://www.coara.or.jp/~kokonoe |

## 北海道・小樽市

### 小樽雪あかりの路　　部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 2月8日～2月17日　10日間 |
| 回数 | 第4回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 小樽雪あかりの路実行委員会、小樽観光誘致促進協議会 |
| 会場 | 小樽市（運河会場、旧手宮線、他12ヶ所） |
| 共催・後援等 | 北海道後志支庁、小樽市、小樽市教育委員会他 |
| 主な対象 | 市民だけではなく、道内他市町村及び道外の観光客にも幅広く参加いただきたい。<br>特に雪の降らない国からの外国人観光客には楽しんで頂いております。 |
| 参加人数 | 入場者数　39万6千人（観光客、第3回実績）約140名程度（実行委員会80名程度、ボランティア60名程度） |
| | 目標入場者数　約40万人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　19,982千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・小樽市補助金　3,200千円 |
| | ・小樽観光誘致促進協議会負担金　2,000千円 |
| | ・協賛金　12,200千円 |
| | ・物販販売収入等　2,582千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：小樽雪あかりの路実行委員会（小樽市経済部観光振興室内） |
| | 電話番号：0134-32-4111（内線267） |
| | URL：http://www.otaru.gr.jp/ |

## 宮城県・三本木町

### ひまわりまつり　　部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月1日～8月19日　19日間 |
| 回数 | 第14回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 三本木町観光物産協会 |
| 会場 | 三本木町斉田「ひまわりの丘」 |
| 共催・後援等 | |
| 主な対象 | 一般 |
| 参加人数 | 入場者数　77,800人 |
| | 目標入場者数　70,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　5,800千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　4,000千円 |
| | ・事業収入　1,800千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：三本木町　産業経済課 |
| | 電話番号：0229-52-5836 |
| | URL：http://www3.ic-net.or.jp/~sanbongi/ |

茨城県・関城町

## 関城の祭典「どすこいペア」

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月24日～8月25日　2日間 |
| 回数 | 第12回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | どすこいペア実行委員会 |
| 会場 | 関城町役場敷地内 |
| 共催・後援等 | 協　賛／関城町、関城町商工会、JAつくば関城中央支店 |
| | 協　力／関城町建設業親和クラブ、茨城県西農業共済組合筑西支所、関城町金融団 |
| 主な対象 | 地域住民 |
| 参加人数 | 入場者数　前夜祭　5,000人 |
| | 当　日　30,000人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　10,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　10,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：関城町役場　企画課企画グループ　〒308-0194　真壁郡関城町大字舟生1040番地 |
| | 電話番号：0296-37-6111（内線324）　FAX：0296-37-3456 |
| | URL：http://www.intersky.ne.jp/~dosukoi/ |

群馬県・前橋市

## 遊びの庭ー楽市・楽座ー

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | 平成12年8月13日　1日間 |
| 回数 | 第1回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 前橋中心市街地まちづくりネットワーク |
| 会場 | 前橋中心市街地 |
| 共催・後援等 | なし |
| 主な対象 | 一般市民 |
| 参加人数 | 入場者数　5,000人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　2,322千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　2,000千円 |
| | ・商店街負担金　322千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：前橋中心市街地まちづくりネットワーク |
| | 電話番号：027-260-6547 |
| | URL：http://www.comnetQ.com |

## 山梨県・甲府市

### 甲府ウィーク

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月13日～10月21日　9日間 |
| 回数 | 第4回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 甲府市、甲府ウィーク総合推進会議、各イベント実行委員会 |
| 会場 | 舞鶴城公園、中心商店街ほか |
| 共催・後援等 | 各イベントで異なる |
| 主な対象 | 特に、特定な対象はない。県内外の皆様。 |
| 参加人数 | 入場者数　延38万人 |
| | 目標入場者数　延35万人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　約82,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般　約82,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：甲府市役所　産業振興労政部 |
| | 電話番号：055-237-1161 |
| | URL：http://www.city.kofu.yamanashi.jp/ |

## 岐阜県・多治見市他

### 美濃焼窯場めぐり

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月3日～11月4日　2日間 |
| 回数 | 第5回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 飛騨美濃体験博美濃焼窯場めぐり実行委員会 |
| 会場 | 市之倉運動公園、笠原町中央公民館前、下石陶磁器工業協同組合、セラテクノ土岐ほか |
| 共催・後援等 | 岐阜県、多治見市、土岐市、笠原町ほか |
| 主な対象 | 一般市民（消費者） |
| 参加人数 | 入場者数　200,000人 |
| | 目標入場者数　140,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費（平成12年度予算）　30,200千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・県補助金　10,000千円 |
| | ・多治見市補助金　2,025千円 |
| | ・土岐市補助金　4,000千円 |
| | ・笠原町補助金　4,500千円 |
| | ・各組合負担　9,475千円 |
| | ・事業収入　200千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：多治見市役所　農林商工課　市之倉陶磁器工業協同組合 |
| | 電話番号：0572-22-1111　0572-22-3719 |

## 岐阜県・上之保村

### 円空さんに挑戦

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 7月14日～7月15日　2日間 |
| 回数 | 第8回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | ふるさと体験ツアーの会 |
| 会場 | やすらぎの郷 |
| 共催・後援等 | 上之保村 |
| 主な対象 | 村外 |
| 参加人数 | 入場者数　100人 |
| | 目標入場者数　150人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　1,500千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般財源　1,285千円 |
| | ・参加料　215千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：上之保村役場　企画開発振興課 |
| | 電話番号：0575-47-2001 |
| | URL：http://www.ccom.or.jp/kaminoho |

## 愛知県・東栄町

### 日本チェンソーアート競技大会

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月4日　1日間 |
| 回数 | 第1回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 東栄町及び東栄・まちづくり実行委員会 |
| 会場 | 東栄町野球場及び東栄ドーム |
| 共催・後援等 | 多数 |
| 主な対象 | 東栄町民、参加者（チェンソーアーティスト）、作品の購入希望者 |
| 参加人数 | 入場者数　3,500人 |
| | 目標入場者数　5,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　16,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　8,000千円 |
| | ・町費　8,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：東栄町役場　経済課 |
| | 電話番号：05367-6-0501（内線36） |
| | URL：http://www.himika.co.jp/toei |

## 滋賀県・八日市市

### 二五八祭　　部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月３日　１日間 |
| 回数 | 第25回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 二五八祭実行委員会　（事務局　㈳八日市青年会議所） |
| 会場 | 八日市市役所前道路一帯 |
| 共催・後援等 | 後　　援／八日市市、八日市秋まつり実行委員会 |
| | 協　　賛／地元企業　約200社 |
| 主な対象 | 一般市民 |
| 参加人数 | 入場者数　　6万人 |
| | 目標入場者数　　20万人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　　3,500千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　　550千円 |
| | ・協賛金　　1,700千円 |
| | ・出店参加協力金　　460千円 |
| | ・一般　　790千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：㈳八日市青年会議所 |
| | 電 話 番 号：0748-23-3153 |
| | U　R　L：http://www.biwa.or.jp/~yo258-jc/ |

## 京都府・舞鶴市

### 旧軍港四市グルメ市民交流会　　部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | ９月30日　１日間 |
| 回数 | 第３回目（米国同時多発テロの影響で米軍基地のある佐世保市は中止とした） |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 旧軍港四市持ち回り |
| | 99年　旧軍港四市グルメ市民交流会：まいづる肉じゃがまつり実行委員会 |
| | 00年　「横須賀カレーフェスティバル」：横須賀市 |
| | 01年　「させぼ99ごちそうフェスタ」：佐世保市（中止） |
| | 02年　「くれ・食の祭典」：呉市（予定） |
| 会場 | 市政記念館周辺 |
| 共催・後援等 | |
| 主な対象 | 市民、観光客 |
| 参加人数 | 入場者数　　20,000人 |
| | 目標入場者数　　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　　550千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・一般　　550千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：まいづる肉じゃがまつり実行委員会 |
| | 電 話 番 号：0773-62-1711 |

兵庫県・温泉町

## 全日本かくれんぼ大会

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 10月28日　1日間 |
| 回数 | 第2回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 全日本かくれんぼ大会運営委員会（平成12年度） |
| | 全日本かくれんぼ協会（平成13年度） |
| 会場 | 兵庫県湯村温泉街 |
| 共催・後援等 | (財)地域活性化センター（平成12年度） |
| 主な対象 | 子どもからお年寄りまで（町の観光客が狙い） |
| 参加人数 | 入場者数　430人 |
| | 目標入場者数　400人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　2,628千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・委託金（町）　1,300千円 |
| | ・助成金（地域活性化センター）　650千円 |
| | ・協賛金　325千円 |
| | ・参加費　353千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：全日本かくれんぼ協会事務局（温泉町役場　企画観光課内） |
| | 電話番号：0796-92-1131 |
| | E-mail：yukemuri@onsencho.Com |

奈良県・奈良市

## なら燈花会

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月6日～8月15日　10日間 |
| 回数 | 第3回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | なら夏のイベント推進委員会 |
| 会場 | 奈良公園内（浮雲園地、浮見堂と鷺池、浅茅ヶ原、猿沢池の五十二段） |
| 共催・後援等 | 運営・実施団体／なら燈花会の会 |
| 主な対象 | 観光客等の誘致 |
| 参加人数 | 入場者数　13年　280,000人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費 | ○総経費　31,600千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：奈良市役所　観光課 |
| | 電話番号：0742-34-1111(代) |

奈良県・大和郡山市

## 全国金魚すくい選手権大会

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 8月19日　1日間 |
| 回数 | 第7回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | 全国金魚すくい競技連盟、大和郡山市 |
| 会場 | 大和郡山市総合公園、多目的体育館 |
| 共催・後援等 | 後　援／奈良県、NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、奈良新聞社、奈良日日新聞社、朝日新聞奈良支局、産経新聞奈良支局、毎日新聞奈良支局、読売新聞奈良支局、日本経済新聞奈良支局 |
| 主な対象 | 小学生以上の金魚すくいが好きな人 |
| 参加人数 | 入場者数　9,500人 |
| | 目標入場者数　9,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　15,612千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　15,512千円 |
| | ・協賛金等　100千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：大和郡山市役所　商工観光課 |
| | 電話番号：0743-53-1151（内線563）　FAX：0743-55-4911 |
| | URL：http://www.kcn.ne.jp/~ymkorisi.kingyo/ |
| | E-mail：ykkingyo@kcn.ne.jp |

佐賀県・嬉野町

## うれしのほほん着物園遊会「和」大茶会

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月3日　1日間 |
| 回数 | 第4回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | うれしのほほんきもの園遊会「和」大茶会実行委員会 |
| 会場 | 嬉野町市街地（本通り）（平成13年度は嬉野町公会堂で実施） |
| 共催・後援等 | 嬉野町商工会、嬉野温泉観光協会、嬉野温泉旅館組合 |
| 主な対象 | 着物着用の全世代男女 |
| 参加人数 | 入場者数　850人（ウォークラリー（着物着用条件）申込者）、3,000人（見学者） |
| | 目標入場者数　700人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　4,507千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・補助金　1,000千円　㈶地域社会振興財団 |
| | ・負担金　2,500千円　町 |
| | ・負担金　450千円　嬉野町商工会、嬉野温泉観光協会、嬉野温泉旅館組合 |
| | ・その他　557千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：嬉野町役場　まちづくり課 |
| | 電話番号：0954-42-3900 |
| | URL：http://www.saganet.ne.jp/ureshino |

長崎県・佐世保市

## きらきらフェスティバル

部門：産業・観光

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 11月17日～12月25日　39日間 |
| 回数 | 第6回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | きらきらフェスティバル実行委員会 |
| 会場 | 島瀬公園、佐世保公園他 |
| 共催・後援等 | 佐世保市、佐世保市教育委員会、㈳佐世保観光協会他 |
| 主な対象 | 市民及び観光客 |
| 参加人数 | 入場者数　一人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　31,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・県補助金　5,000千円 |
| | ・市補助金　6,500千円 |
| | ・協賛金　5,500千円 |
| | ・一般財源　9,700千円 |
| | ・事業収入　4,300千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：きらきらフェスティバル実行委員会 |
| | 電話番号：0956-24-4411 |

## 茨城県・ひたちなか市

### 世界一大きな「でっけ絵年賀状」

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 平成13年12月31日～平成14年１月３日　４日間 |
| 回数 | 第１回目 |
| 開催形式 | 単発（世紀越え） |
| 主催団体 | ひたちなかビッグイベント実行委員会（市民団体） |
| 会場 | ひたちなか市総合運動公園陸上競技場 |
| 共催・後援等 | 援　後／ひたちなか市、ひたちなか市教育委員会、茨城県、茨城県教育委員会、ひたちなか青年会議所、ひたちなかユネスコ協会、ひたちなか市内郵便局、勝田グリーンライオンズクラブ、ひたちなか塗装工業組合 |
| 主な対象 | 乳児を除く全年齢層（主に、小中学生及び保護者） |
| 参加人数 | 入場者数　12,000人（製作参加者100,000人） |
| | 目標入場者数　15,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　4,422千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・協賛金収入　2,242千円 |
| | ・市補助金　2,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：ひたちなか市企画調整課 |
| | 電 話 番 号：029-273-0111 |

## 千葉県・銚子市

### 世紀越えイベントin銚子

部門：ミレニアム

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | 平成12年12月31日～平成13年１月１日　２日間 |
| 回数 | 第１回目 |
| 開催形式 | 単発（世紀越え） |
| 主催団体 | 銚子市世紀越え事業実行委員会 |
| 会場 | 君ヶ浜しおさい公園 |
| 共催・後援等 | なし |
| 主な対象 | 初日の出客等 |
| 参加人数 | 参加人数　150,000人 |
| | 目標入場者数　一人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　39,363千円（世紀越えイベント） |
| | ○財源内訳 |
| | ・銚子市負担金 |
| | ・協賛金、ほか |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：銚子市世紀越え事業実行委員会（事務局　企画財政課） |
| | 電 話 番 号：0479-24-8181 |
| | U　R　L：http://www.city.choshi.chiba.jp |

## 徳島県

### とくしま夢あかり　　部門：ミレニアム

| | |
|---|---|
| 開催（平成13年度） | 12月22日～12月25日　4日間 |
| 回数 | 第2回目 |
| 開催形式 | 毎年 |
| 主催団体 | とくしま夢あかり実行委員会 |
| 会場 | 藍場浜公園 |
| 共催・後援等 | |
| 主な対象 | 一般 |
| 参加人数 | 入場者数　40,000人 |
| | 目標入場者数　40,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　18,000千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・委託金　13,000千円 |
| | ・協賛金　5,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：徳島県県民環境部　県民環境政策課　県民との協働事業推進チーム |
| | 電話番号：088-621-2255 |

## 長崎県

### ながさき阿蘭陀年「21世紀へのカウントダウン」　　部門：ミレニアム

| | |
|---|---|
| 開催（平成12年度） | 平成12年12月31日～平成13年1月1日　2日間 |
| 回数 | 第1回目 |
| 開催形式 | 単発（ミレニアム・世紀超えイベント） |
| 主催団体 | ながさき阿蘭陀年推進協会 |
| 会場 | 長崎市（常磐「にちらん広場」、出島ワーフ前特設会場、その他長崎港周辺） |
| 共催・後援等 | ― |
| 主な対象 | ― |
| 参加人数 | 入場者数　65,000人 |
| | 目標入場者数　50,000人 |
| 総経費・財源内訳 | ○総経費　33,013千円 |
| | ○財源内訳 |
| | ・県負担金　23,013千円 |
| | ・市負担金　10,000千円 |
| 問い合わせ先 | 団体・部署：長崎県政策調整局企画調整課 |
| | 電話番号：095-826-6067 |

# ふるさとイベント大賞
# 優良イベント事例集

平成14年3月発行
編集・発行
財団法人 地域活性化センター
〒103-0027　東京都中央区日本橋2-3-4
日本橋プラザビル13階
TEL.03-5202-6131　FAX.03-5202-0755
印刷＝JTB印刷株式会社



財団法人 地域活性化センター